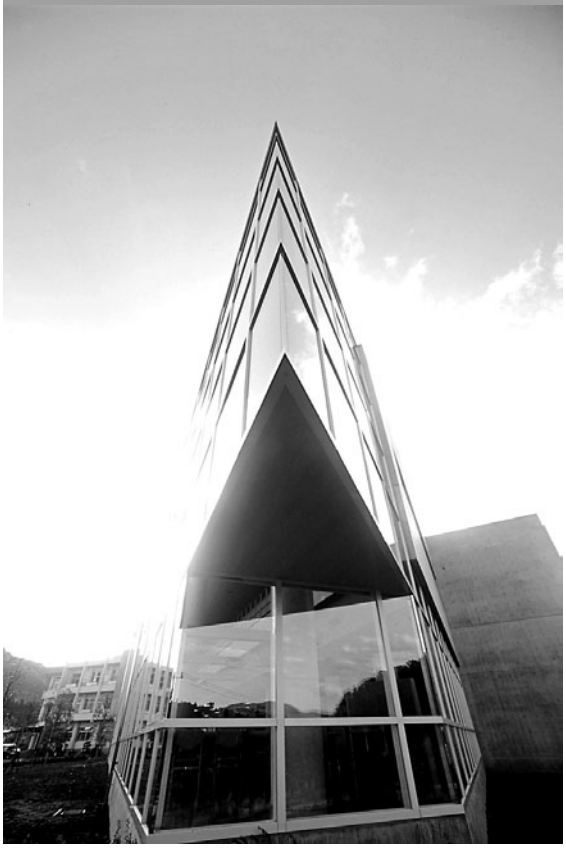
JIN-AI UNIVERSITY
2016 SYLLABUS

平成28年度

人間学部
シラバス



仁愛大学
JIN-AI UNIVERSITY

目　　次

Ⅰ．１年生

＜学部共通科目＞

仏教の人間観……都路　惠子……1
生命の倫理……都路　惠子……3
人間の教育……高野　秀晴……5
芸術の世界……中野　研也……7
人間と環境Ａ……鳴瀬　　碧……8
人間と環境Ｃ……秦　美香子……10
スポーツと健康……野田　政弘……12
スポーツＡ……山村　恵子……14
スポーツB……山村　恵子……16
英語Ⅰａ……ハウカ・バトラー・フッド・スプリチャル・山口・矢橋……18
英語Ⅰｂ……ハウカ・バトラー・フッド・スプリチャル・山口・矢橋……20
フランス語Ⅰａ……大竹口麻里……22
フランス語Ⅰｂ……大竹口麻里……23
ドイツ語Ⅰａ……橋本　武志……24
ドイツ語Ⅰｂ……橋本　武志……26
中国語Ⅰａ……ショウ　ロ……28
中国語Ⅰｂ……ショウ　ロ……30
情報リテラシーａ……宮川　祐一・森本　文人・佐々木裕子……32
情報リテラシーｂ……宮川　祐一・森本　文人・佐々木裕子……34
情報活用ａ……宮川　祐一・佐々木裕子……36
情報活用ｂ……宮川　祐一・佐々木裕子……38
基礎演習……久保・山本・森本・水上・片畑・竹村……40
基礎演習……安彦・織田・加藤・升田・矢橋・山中……42
日本語文章表現……大河　晴美・杣谷　英紀……44
キャリア・デザインⅠ……植月　百枝……46
フィールドワーク演習（ボランティア）……金田　明彦・谷　　雅徳……48
フィールドワーク演習（国際交流）……ＭＬ スプリチャル……49

＜心理学科専門科目＞

心理学概論Ⅰ……大森　慈子……51
心理学概論Ⅱ……大森　慈子……53
心理学研究法Ⅰ……杉島　一郎……55
心理学研究法Ⅱ……杉島　一郎……57

心理統計Ⅰ……森本　文人・大森　慈子……59
心理統計Ⅱ……水田　敏郎・森本　文人……61
性格心理学……森　　俊之……63
精神分析論……西村　則昭……65
学習心理学……杉島　一郎……67

＜コミュニケーション学科専門科目＞

人間関係論……橋本　武志……69
コミュニケーション概論……山中　千恵……71
異文化理解ａ……加藤　優子……73
異文化理解ｂ……加藤　優子……75
日本語概論……天野　義廣……77
日本語口頭表現……植月　百枝……79
情報メディア……安彦　智史……81
デジタル・デザイン……金田　明彦……83
オーラル・コミュニケーションⅠａ……ＭＬ スプリチャル……84
オーラル・コミュニケーションⅠｂ……ＭＬ スプリチャル……86
企画開発基礎演習……冨永　良史……88
地域研究概論……島岡　　哉……90
社会学入門……島岡　　哉……92
共生社会論……島岡　　哉……94
社会言語学……加藤　和夫……96
英語学Ⅰ……矢橋　知枝……98
英語音声学……矢橋　知枝……99

Ⅱ．２年生

＜学部共通科目＞

人間と宗教……都路　惠子……100
仏教の思想……西本　祐攝……102
哲学の世界観……橋本　武志……104
文学の世界……杣谷　英紀……106
歴史と地域文化……久保　智康……108
人権と法……早川　秋子……110
日本国憲法……早川　秋子……111
人間と環境Ｂ……前田　桝夫……113
ふくい総合学……金田　明彦……114
スポーツC……野田　政弘……116

英語Ⅱａ……加藤・スプリチャル・ハウカ・紺渡・バトラー・山口……117
英語Ⅱｂ……加藤・スプリチャル・ハウカ・紺渡・バトラー・山口……119
フランス語Ⅱａ……大竹口麻里……121
フランス語Ⅱｂ……大竹口麻里……122
ドイツ語Ⅱａ……橋本　武志……123
ドイツ語Ⅱｂ……橋本　武志……125
中国語Ⅱａ……ショウ　ロ……127
中国語Ⅱｂ……ショウ　ロ……129
海外語学研修……ＭＬ スプリチャル……131
情報活用ａ……宮川　祐一・佐々木裕子……133
情報活用ｂ……宮川　祐一・佐々木裕子……135
情報処理演習ａ……宮川　祐一……137
情報処理演習ｂ……宮川　祐一……139
キャリア・デザインⅡ……升田　法継……141
フィールドワーク演習（ボランティア）……金田　明彦・谷　　雅徳……143
フィールドワーク演習（国際交流）……ＭＬ スプリチャル……144

＜心理学科専門科目＞

心理学基礎実験Ⅰ……山本・水上・森本・青井・島田……146
心理学基礎実験Ⅱ……大森・水田・青井・伏田……148
心理検査法Ⅰ……森　　俊之・吉水ちひろ・青井　利哉……150
心理調査法……早川　清一……152
心理面接法……片畑真由美・水上喜美子・久保　陽子……154
臨床心理学Ⅰ……片畑真由美……156
臨床心理学Ⅱ……佐藤　至子……157
生涯発達心理学Ⅰ……竹村　明子……158
生涯発達心理学Ⅱ……竹村　明子……160
認知心理学……杉島　一郎……162
生理心理学……水田　敏郎……164
産業・組織心理学Ⅰ……早川　清一……166
産業・組織心理学Ⅱ……早川　清一……167
社会心理学Ⅰ……山本　雅代……168
社会心理学Ⅱ……山本　雅代……170
心理学特別講義……複数で担当……172

＜コミュニケーション学科専門科目＞

言語コミュニケーション論……矢橋　知枝……174

非言語コミュニケーション論 …… 山本　雅代 …… 175
パーソナル･コミュニケーション論ａ …… 谷　　雅徳 …… 177
プレゼンテーション技法ａ …… 高橋　知世 …… 179
プレゼンテーション技法ｂ …… 本多　幸子 …… 181
地域経済論 …… 安彦　智史 …… 183
地域社会論 …… 島岡　　哉 …… 185
デザイン文化論 …… 佐野　　寛 …… 187
時事問題研究ａ …… 升田　法継 …… 189
時事問題研究ｂ …… 四戸　友也 …… 191
日本語文法論 …… 笹原　幸子 …… 193
英文講読ａ …… 紺渡　弘幸 …… 195
英文講読ｂ …… 紺渡　弘幸 …… 197
ＬＬ演習ａ …… 加藤　優子 …… 199
ＬＬ演習ｂ …… 加藤　優子 …… 201
企画開発論 …… 冨永　良史 …… 202
企画開発演習 …… 金田　明彦 …… 204
コミュニケーション技法Ｉａ …… 四戸　友也 …… 205
コミュニケーション技法Ｉｂ …… 植月　百枝 …… 207
マス・コミュニケーション論ａ …… 土山彌一郎 …… 209
マス・コミュニケーション論ｂ …… 四戸　友也 …… 211
ビジュアル･コミュニケーション論ａ …… 橋本　洋子 …… 213
ビジュアル･コミュニケーション論ｂ …… 金田　明彦 …… 215
デジタル・デザインａ …… 金田　明彦 …… 217
デジタル・デザインｂ …… 金田　明彦 …… 219
英語音声学 …… フッド晴美 …… 221
英作文演習ａ …… フッド晴美 …… 223
英作文演習ｂ …… フッド晴美 …… 225
オーラル・コミュニケーションⅡａ …… ＭＥハウカ …… 227
オーラル・コミュニケーションⅡｂ …… ME ハウカ …… 229
英米文化論 …… ＭＬ スプリチャル …… 231
家族の人間関係 …… 織田　暁子 …… 233
社会の人間関係 …… 山本　雅代 …… 235
社会学概論ａ …… 島岡　　哉 …… 237
社会学概論ｂ …… 島岡　　哉 …… 239
社会調査法Ｉ …… 島岡　　哉 …… 241
社会調査法Ⅱ …… 織田　暁子 …… 243
現代社会研究Ｉ …… 山中　千恵 …… 245

社会調査方法論 …… 織田　暁子 …… 247
社会統計学 …… 織田　暁子 …… 249
データ解析法ａ …… 山中　千恵 …… 251
日本の言語文化ａ …… 大河　晴美 …… 252
日本の言語文化ｂ …… 大河　晴美 …… 254

Ⅲ．３年生

＜学部共通科目＞

英語Ⅲａ …… ME ハウカ …… 256
英語Ⅲｂ …… ME ハウカ …… 258
海外語学研修 …… ＭＬ スプリチャル …… 260
情報処理演習ａ …… 宮川　祐一 …… 262
情報処理演習ｂ …… 宮川　祐一 …… 264
フィールドワーク演習（インターンシップ）…… 升田　法継・水田　敏郎 …… 266
フィールドワーク演習（ボランティア）…… 金田　明彦・谷　　雅徳 …… 268
フィールドワーク演習（国際交流）…… ＭＬ スプリチャル …… 269

＜心理学科専門科目＞

心理検査法Ⅱ …… 水上喜美子・吉水ちひろ・青井　利哉 …… 271
精神医学Ⅰ …… 三脇　康生 …… 273
精神医学Ⅱ …… 三脇　康生 …… 275
教育心理学 …… 竹村　明子 …… 277
家族心理学 …… 竹村　明子 …… 279
スポーツ心理学 …… 野田　政弘 …… 281
心理療法論Ⅰ …… 森　　俊之 …… 282
心理療法論Ⅱ …… 久保　陽子 …… 284
アイデンティティ心理学 …… 西村　則昭 …… 285
犯罪心理学 …… 廣井　亮一 …… 287
臨床心理演習 …… 森　　俊之・片畑真由美・久保　陽子 …… 289
比較心理学 …… 氏田　麻美 …… 291
神経心理学 …… 森本　文人 …… 293
心理学特殊実験Ⅰ …… 水田　敏郎・大森　慈子 …… 295
心理学特殊実験Ⅱ …… 森本　文人・氏田　麻美 …… 297
高齢者心理学 …… 水上喜美子 …… 299
消費者心理学 …… 山本　雅代 …… 301
対人心理学 …… 大森　慈子 …… 303
多変量解析演習 …… 早川　清一 …… 305

産業カウンセリングⅠ……久保　陽子……306
産業カウンセリングⅡ……吉水ちひろ……308
心理学特別演習Ⅰ……複数で担当……309

＜コミュニケーション学科専門科目＞

ビジネスコミュニケーション研究……升田　法継……310
日本文化論……大河　晴美……312
企画開発研究ａ……野尻　昌明……314
企画開発研究ｂ……金田　明彦……316
コミュニケーション技法Ⅱａ……植月　百枝……317
コミュニケーション技法Ⅱｂ……谷　雅徳……319
地域メディア論……升田　法継……321
メディア･コミュニケーション論……升田　法継……323
メディア制作ａ……金田　明彦……325
メディア制作ｂ……野尻　昌明……326
ビジュアル･コミュニケーション演習ａ……橋本　洋子……328
ビジュアル･コミュニケーション演習ｂ……金田　明彦……329
ビジネス能力論……吉田　史朗……330
ビジネス能力研究……吉田　史朗……331
英語学研究Ⅰ……矢橋　知枝……332
英語文章表現法ａ……紺渡　弘幸……333
英語文章表現法ｂ……紺渡　弘幸……335
メディア英語研究ａ……矢橋　知枝……337
メディア英語研究ｂ……矢橋　知枝……338
英米文学研究ａ……原口　治……339
英語コミュニケーションａ……ＭＬ スプリチャル……341
英語コミュニケーションｂ……ＭＬ スプリチャル……343
英語聴解技法ａ……矢橋　知枝……345
英語聴解技法ｂ……矢橋　知枝……346
ビジネス英語研究ａ……澤崎　敏文……347
英語プレゼンテーション技法ａ……フッド晴美……349
英語プレゼンテーション技法ｂ……フッド晴美……351
現代社会研究Ⅱ……安彦　智史……353
臨床社会学……宝月　誠……355
データ解析法ｂ……織田　暁子……356
社会調査演習ａ……織田　暁子・山中　千恵……358
社会調査演習ｂ……織田　暁子・山中　千恵……360

現代文化研究……山中　千恵……362
比較文化研究……山中　千恵……364
言語心理学……杉島　一郎……366
コミュニケーション特別演習Ⅰa……複数で担当……368
コミュニケーション特別演習Ⅰb……複数で担当……369

Ⅳ．４年生

＜学部共通科目＞

海外語学研修……ＭＬ スプリチャル……370
フィールドワーク演習（ボランティア）……金田　明彦・谷　　雅徳……372
フィールドワーク演習（国際交流）……ＭＬ スプリチャル……373

＜心理学科専門科目＞

学校臨床心理学……廣澤　愛子……375
障害者心理学……水田　敏郎……376
社会福祉概論……元村　妙子……378
心理学特別演習Ⅱ……複数で担当……380
卒業研究……複数で担当……381

＜コミュニケーション学科専門科目＞

デザイン運用論……金田　明彦……382
英語学研究Ⅰ……矢橋　知枝……384
英米文学研究ｂ……原口　　治……385
ビジネス英語研究ｂ……澤崎　敏文……387
現代社会特論Ⅰ……安彦　智史……389
現代社会特論Ⅱ……安彦　智史……391
コミュニケーション特別演習Ⅱａ……複数で担当……393
コミュニケーション特別演習Ⅱｂ……複数で担当……394
卒業研究……複数で担当……395

Ⅴ．特設科目

＜教職に関する専門科目＞

教職論……高野　秀晴……396
教育原理……高野　秀晴……398
教育心理学……杉島　一郎……400
教育経営論……奥谷　　崇……402
教育課程・特別活動論……高野　秀晴……404

英語科教育法Ⅰ……フッド晴美……406
英語科教育法Ⅱ……フッド晴美……408
英語科教育法Ⅲ……紺渡　弘幸……410
英語科教育法Ⅳ……紺渡　弘幸……412
道徳教育の理論と方法……高野　秀晴……414
教育の方法と技術……宮川　祐一……416
生徒・進路指導論……杉田　和一……418
教育相談……佐々木雅代……420
事前・事後指導……紺渡　弘幸・フッド晴美……421
教育実習Ⅰ……紺渡　弘幸……423
教育実習Ⅱ……紺渡　弘幸……424
教職実践演習……紺渡　弘幸・フッド晴美・奥谷　　崇……425

＜日本語教員養成に関する専門科目＞

日本語教授法ａ……大河　晴美……427
日本語教授法ｂ……大河　晴美……428
日本語教育課程論……笹原　幸子……429
日本語指導技法ａ……笹原　幸子……431
日本語指導技法ｂ……笹原　幸子……433

仏教の人間観 (Views on the Humanity of Buddhism)			担当教員	都路　恵子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−1111	2単位	1年後期	講義	必修

<科目区分>　人間学部学部共通科目　全学共通科目

求める学習成果(教育目標)

建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　■計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

この授業では、2500年前インドに生まれたブッダ（釈尊）の悟りの内容を、日々の生活の中で活用・実践できる形で紹介します。通常外に向いている私たちの目を、逆に私たちの内側に向け、自分自身の心と対話するスタイルで、授業は進みます。自分をより明確に知る。それが、本授業の大きなテーマです。
又、毎回授業の最後に書いて頂く「感想文」から次回の授業テーマを決める、（学生と教員との）キャッチボール形式で授業を進めます。

授業の到達目標

・仏教の智慧を自分の生活の中で、活用実践できるようになる。
・自分自身の「心の声」に気づき、その内容を具体的に言語化する。又、身（行動）・口（言葉）・意（思い・考え）の三業を一致させて現実化する仕組みを理解する。

授　業　の　計　画

第１回：イントロ（１）自己紹介スピーチ、新興宗教と伝統仏教の違い
第２回：イントロ（２）悩みの構造、「人の目」の正体
第３回：ブッダ（１）身（行動）・口（言葉）・意（思い・考え）の三業が現実を作る：いのちのつながり､生の誕生
第４回：ブッダ（２）身（行動）・口（言葉）・意（思い・考え）の三業が現実を作る：生と死
第５回：ブッダ（３）身（行動）・口（言葉）・意（思い・考え）の三業が現実を作る：豊かさとは？幸せとは？
第６回：ブッダ（４）身（行動）・口（言葉）・意（思い・考え）の三業が現実を作る：夢のコラージュで知る自分の「色」
第７回：ブッダ（５）初転法輪：悟りの内容は、人から人へ
第８回：聖徳太子（１）十七条の憲法①
第９回：聖徳太子（２）十七条の憲法②
第10回：聖徳太子（３）十七条の憲法③
第11回：親鸞　自らの心の声を灯とした生き方：親鸞と恵信尼の結婚・在家仏教の誕生
第12回：生き方としての仏教（１）自らの自灯明に気づこう
第13回：生き方としての仏教（２）仁愛大学の仏教モニュメント紹介
第14回：まとめ、スピーチ大会のリハーサル
第15回：最終スピーチ大会「自らの心の声を灯とした生き方について」
　　―いのちのつながりの中で、世界に一つだけの花を咲かせあう―
第16回：学期末テスト

授業外の学習方法

・図書館２階にある指定図書コーナー（授業中に紹介する）にある書籍など、興味のある本をどんどん読んでみること。
・魅力的だと感じる人の生き方・働き方についての本やDVDなどを見ることで、自分の人生を具体的にイメージすること。こうしたいと思ったことは、身・口・意の三業を一致させ続けて、現実化する感覚をつかむこと。

成　績　評　価　方　法

レポート（10%）、毎回の感想文の内容（20%）、最終スピーチ大会内容（20%）、平常点（20%）、学期末テスト（30%）　平常点は、講義の聞き方、グループワークなどへの参加態度等で総合的に判断します。

成　績　評　価　基　準
・仏教に対して、正しい理解ができているか。 ・仏教の智慧を自分の人生に活用実践できるよう、自分の中で深く解釈しているか。 ・自分自身と誠実に向き合い、どのように生きていきたいかという問いに対する答えを自分の中から導き出し、それを具体的に言語化できているか。
テキスト、参考図書
福井仁愛学園『和』、『礼讃抄』、プリントを使用。
その他（受講上の注意）
担当者による15回の授業以外に福井仁愛学園の理念及び本学の開設の趣旨を理解し、仁愛大学生としての自覚を深めることを目的として禿了滉学園長講演（２回）を実施する。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

生命の倫理 (Bioethics)			担当教員	都路　恵子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−1122	2単位	1年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　人間学関連科目

求める学習成果(教育目標)

建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　■計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

池田晶子著「14歳からの哲学―考えるための教科書」を、自らが考える手がかりとし、受講生が考えたい様々なテーマについて、共に考え、グループディスカッションを通して、互いに考えを深める授業形式を取ります。「自分の問いに、自分で考え、自分にとっての答えを導き出せる思考力」を身につけることが、本授業のテーマです。その中で、自分自身にとってのQOL（Quality of Life）の高い生き方とはどのように生きることなのか？を具体的に見出すことを目標とします。

授 業 の 到 達 目 標

・自分の問いに、自分で考え、自分自身が納得できる答えを導き出せる論理的思考力を身につけること。
・ディスカッションの中で、自分自身の考えを表現し、クラスメイトとの語り合いの中で、新たな考えを導き出すこと。
・自分自身にとってのQOL（Quality of Life）の高い生き方とはどのように生きることなのかを明確に言語化すること。

授　業　の　計　画

第１回：イントロ（１）初回スピーチ：この授業を通して、何を学び、どのような成長がしたいのか？
第２回：イントロ（２）「生命」についてのShow&Tellスピーチ
第３回：生の誕生（１）
第４回：生の誕生（２）
第５回：生きることの意味（１）
第６回：生きることの意味（２）
第７回：死の受容・ホスピス（１）
第８回：死の受容・ホスピス（２）
第９回：命の受け渡し（１）
第10回：命の受け渡し（２）
第11回：QOL（Quality of Life）とは？（１）
第12回：QOL（Quality of Life）とは？（２）
第13回：まとめ（１）レポート提出
第14回：まとめ（２）ラストディスカッション、スピーチ大会リハーサル
第15回：まとめ（３）スピーチ大会

授 業 外 の 学 習 方 法

・図書館２階にある指定図書コーナー（授業中に紹介する）にある書籍など、興味のある本をどんどん読んでみること。
・毎回宿題となるテキストの章を何度も読み、自分なりの考えを言葉にしてくること。

成　績　評　価　方　法

レポート（50%）、毎回のディスカッション・感想文の内容（30%）、平常点（20%）
平常点は、講義の聞き方、テキストの理解度、スピーチ内容等で総合的に判断します。

成　績　評　価　基　準

・テキストの内容について理解し、その事柄について、自分の考えを論理的に記述できること。
・ディスカッションの中で、自分自身の考えを表現できるかどうか。クラスメイトとの語り合いの中で、新たな考えを導き出すことができるかどうか。
・QOLの高い生き方について、自分にも他人にも具体的に伝えることができるかどうか。

テキスト、参考図書
池田晶子「14歳からの哲学―考えるための教科書」(トランスビュー)、及びプリントを使用。
その他(受講上の注意)
・15回無遅刻・無欠席の学生には、皆勤賞を差し上げます。(原則として全出席を求め、遅刻は認めません。毎回テキスト課題についてのディスカッションで次につなげていく、連続する授業スタイルの為。) ・初回のガイダンスには、必ず出席のこと。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

人間の教育 (Human Education)			担当教員	高野　秀晴
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−1123	2単位	1年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　人間学関連科目

求める学習成果(教育目標)

建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　□コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

ヒトが人になるためには教育が必要だと言われる。こうして私たちも教育を受けてきたわけだが、私たちがこれまで学んできたことは、そもそも一体何だったのだろうか？　そして、今、大学で学んでいることには一体何の意味があるのか？　これからの人生にいかに寄与するのか？　しないのか？　この授業では、有史以来の人間の教育の様々なあり方を通観することを通じて、上記の問いを考察していく。

授 業 の 到 達 目 標

「教育によって形成されてきた／されつつある自己」の成り立ちとゆくえについて理解を深め、自ら考察する力を身につけること。これがこの授業の到達目標である。したがって、この授業では下記の成果が求められる。
・自らがこれまで受けてきた教育の意味について説明することができる。
・現代における教育の社会的役割を分析することができる。
・自らの今後のあり方を、教育の観点から展望することができる。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション
第2回：生きることと教育
第3回：食べることと教育
第4回：よく生きることと教育
第5回：人は何のために成長するのか
第6回：老いと死と教育
第7回：価値の伝達・贈与と教育
第8回：生涯教育について
第9回：「できない」ということ
第10回：はたらくことと教育
第11回：日本型企業中心社会と教育
第12回：キャリア教育について
第13回：子どもの面倒は誰が見るのか
第14回：家族の歴史的変遷と教育
第15回：愛について
第16回：定期試験

授 業 外 の 学 習 方 法

授業では幅広いトピックを取り上げるため、トピックの概要しか述べることができない。したがって、授業時に紹介される参考文献や配布資料を参照しながら、各トピックについて、各自でノートにまとめ直す作業が必要となる。

成　績　評　価　方　法

定期試験(70%)　授業時の課題(30%)

成　績　評　価　基　準

現代における教育の社会的役割を分析的に記述することができるか。
教育に関する諸問題を自己と関連付けながら記述することができるか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

必要に応じて、プリントを配布する。

その他（受講上の注意）
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

芸術の世界 (The World of Art)			担当教員	中野　研也
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−1121	2単位	1年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　人間学関連科目

求める学習成果(教育目標)

建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　□コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　■選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

さまざまな音楽や美術作品の魅力と特徴を探り、それぞれが生まれた背景を知る。

授業の到達目標

音楽・美術に関する通論および通史的な知識を身に付け、自分なりの考えを持つことができる。

授　業　の　計　画

第1回：音と音楽、さまざまな種類の音楽について
第2回：音階とメロディー、拍子(ビート)とリズム、和声(ハーモニー)
第3回：西洋の音楽1　(バッハからストラヴィンスキーまで)
第4回：西洋の音楽2　(現代音楽と私達)
第5回：西洋の音楽3　(新たな潮流)
第6回：音楽鑑賞・視聴1　～器楽作品(予定)　鑑賞レポート
第7回：美術・デザイン1　～美術は如何にして生まれ、どのように発達したか
第8回：美術・デザイン2　～音楽と美術との関係を探る
第9回：世界の民族音楽と日本の伝統音楽
第10回：ジャズ1
第11回：ジャズ2
第12回：ロック、ポピュラー音楽1
第13回：ロック、ポピュラー音楽2
第14回：音楽を制作する・音楽を記録する
第15回：音楽鑑賞・視聴2　～ミュージカル作品(予定)　鑑賞レポート
第16回：定期試験

授業外の学習方法

授業で配布した資料と、授業で話した内容のメモを見返して下さい。

成　績　評　価　方　法

2度のレポート(20%)、定期試験(50%)、授業への参加状況(30%)で評価する。

成　績　評　価　基　準

音楽や美術に関しての通論および通史的な知識が身につき、かつ自分なりの考えを持つことができたか。

テキスト、参考図書

特定のテキストは使用しない。授業ごとに資料(プリント)を配布する。

その他(受講上の注意)

試験問題は、授業で話した事と配布資料(プリント)から出すので、配布物と自分でメモをとったものは試験まで無くさずに持っておくこと。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

人間と環境A (Human Beings and the Environment A)			担当教員	鳴瀬　碧
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−1131	2単位	1年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　環境・健康科目

求める学習成果(教育目標)

建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　■選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

ヒトの健康の保持・増進における食・栄養の重要性を理解し、私たちを取り巻く生活環境や様々な情報、そして食生活の変化が、人体の持つ特性(恒常性)を妨げ、私たちの健康維持にどのような影響を与えているかについて学習する。
これらのことを通して、食品、サプリメント、薬等、普段私たちの身近にあるものに関して、その必要性や効果を正しく理解し、情報に惑わされることなく自らの判断で必要な情報や商品を選択・活用し、個々の健康な生活に役立てることができる。

授業の到達目標

・健康についての基本的な概念や制度、健康の維持・増進のために重要な事項、問題点等について説明できる。
・世界と日本の食文化や現在の食糧事情について説明ができる。
・食生活について栄養の重要性や食品の安全性、運動との関わり等ついて理解し、説明ができる。

授　業　の　計　画

第1回：はじめに：私たちを取り巻く食物および環境
第2回：食の歴史
第3回：健康に関する社会制度
第4回：世界と日本の食
第5回：栄養面からみた食生活①(炭水化物と食物繊維)
第6回：栄養面からみた食生活②(タンパク質とアミノ酸)
第7回：栄養面からみた食生活③(脂質の種類と役割)
第8回：栄養面からみた食生活④(ビタミン・ミネラルの役割と機能)
第9回：栄養と運動
第10回：安全面から見た食生活①(食品の安全性と健康被害)
第11回：安全面から見た食生活②(食品添加物)
第12回：安全面から見た食生活③(食品の品質)
第13回：安全面から見た食生活④(サプリメント～情報に惑わされないために～)
第14回：食品と医薬品との相互作用(飲み合わせ)
第15回：大麻･麻薬･覚せい剤の基礎知識と乱用防止、まとめ
第16回：定期試験

授業外の学習方法

・予習は特に要求しない。
・新聞・ニュース等で報じられる食糧事情、食を取り巻く環境、健康の維持・増進に関する項目について日頃から興味を持つように努めること。
・各回の講義内容についてよく復習し、各自が書籍や新聞などから積極的に情報を収集し、自己学習すること。
・授業中の不明な点は、授業の前後に教員に質問するなどして理解を深めること。

「自身の健康とは何か」「心身ともに健康に生きていくために重要なこと」等についてよく考えてください。

成　績　評　価　方　法

定期試験(70%)、課題レポート(20%)、平常点(10%)
(平常点は、授業への参加状況・受講態度等を総合して判断する)

成　績　評　価　基　準
・健康の概念、健康の維持・増進について理解できているか。 ・食の歴史や文化、日本の食糧事情や食を取り巻く環境について理解できているか。 ・栄養素の機能、食品の安全性、栄養と運動の関わりについて理解できているか。 ・食品、サプリメント、医薬品、麻薬・覚せい剤について正しく理解できているか。
テキスト、参考図書
吉田勉監修　『私たちの食と健康―食生活の諸相―』　三共出版　2011年 必要に応じて、講義用資料を出席者に配布する。
その他（受講上の注意）
・授業中の私語や携帯電話など、他の学習の妨げとなる場合には退室させるので留意すること。 ・課題レポートなどは、提出期限を必ず守ること。提出遅延は減点の対象となる。また、提出期限後は受領しない場合があるので注意すること。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

人間と環境C (Human Beings and the Environment C)			担当教員	秦　美香子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−1132	2単位	1年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　環境・健康科目

求める学習成果(教育目標)

建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

この授業では、現在のさまざまな文化的事象に対する学問的な考察に触れることを通して、わたしたちを取り巻く社会のあり方を考えます。自分自身が経験していることや、メディアを通して見聞きしていることが例として出てきますので、授業内容を通して社会に対する問題意識を深めていってほしいと思います。

授業の到達目標

1．現在の社会で起こっている問題や、日常的な文化的事象を学術的な視点から理解する。
2．学術的な情報にアクセスしながら各自の問題意識を深め、自身の考察を論理的に記述できるようになる。

授　業　の　計　画

第1回：授業の進め方の説明、全体的な内容の紹介
第2回：都市文化としての現代文化
第3回：消費文化としての現代文化
第4回：情報文化としての現代文化
第5回：グローバル文化としての現代文化
第6回：文化と権力
第7回：メディアの変容 —— 若者のケータイ・スマホ文化とキャラ的コミュニケーション
第8回：映像文化の三つの位相 —— 見ること、撮ること、撮られること
第9回：ポピュラー音楽の社会学
第10回：〈少年-マンガ-雑誌〉という文化
第11回：メガ・スポーツイベントの力学 —— オリンピックと都市東京
第12回：ファッションという制度
第13回：観光と文化 —— 真正性（オーセンティシティ）をめぐって
第14回：愛と性の文化
第15回：文化現象としての「支援」—— 人助けは誰のためのものか

授業外の学習方法

指定したテキストは宿題のために使用します。具体的な方法は授業内で指定しますが、宿題を行うことが授業外時間に求められます。

成　績　評　価　方　法

期末レポート（20%）　宿題（50%）　コメントペーパー（30%）

成　績　評　価　基　準

1. 現在の社会で起こっている問題や、日常的な文化的事象を学術的な視点から理解できているか。（期末レポート、コメントペーパー）
2. 学術的な情報にアクセスしながら各自の問題意識を深め、自身の考察を論理的に記述できるようになっているか。（宿題）

テキスト、参考図書

参考図書　井上俊編、2014『全訂新版　現代文化を学ぶ人のために』世界思想社
テキスト　ジグムント・バウマン、2014『リキッド・モダニティを読みとく』ちくま学芸文庫

その他(受講上の注意)

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

スポーツと健康 (Sports and Health)			担当教員	野田　政弘
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−1133	2単位	1年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　環境・健康科目

求める学習成果(教育目標)

建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　□コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　■計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

現代社会においてスポーツや運動など日常生活におけるさまざまな身体活動は、人々が健康な生活を送るうえで重要な役割を果たしている。スポーツや運動にみられる身体現象を運動生理学やスポーツ心理学、スポーツ社会学などの観点から科学的に探求し理解を深める。

授業の到達目標

健康、生活習慣病、体力、運動のしくみなどに関する理論について理解できる。スポーツや運動などの身体活動が人の心身に及ぼす影響について理解できる。

授　業　の　計　画

第1回：健康の捉え方と獲得するためのポイント
第2回：生活習慣病と関連する要因
第3回：体力とは何か①
第4回：体力とは何か②
第5回：運動のしくみ①
第6回：運動のしくみ②
第7回：トレーニング理論とトレーニング方法
第8回：健康を維持・増進するための運動、ダイエット計画
第9回：運動と水分補給、熱中症
第10回：ウォーミングアップとクーリングダウン
第11回：応急手当
第12回：スポーツと心理のかかわり
第13回：今日の学校保健の問題
第14回：欲求、ストレスと疲労への対処法
第15回：地域とスポーツのかかわり、社会におけるスポーツの役割
第16回：定期試験

授業外の学習方法

各回の講義の前にテキストを読んで概要を把握し、疑問点を整理しておく。講義を受けた後は、講義ノートや配布資料を見直して復習し、自身の日常生活におけるスポーツ・運動や健康について理解や関心を深める。

成　績　評　価　方　法

定期試験(80%)、平常点(20%)。平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断します。

成　績　評　価　基　準

健康、生活習慣病、体力、運動のしくみなどに関する理論について理解できている。スポーツや運動などの身体活動が人の心身に及ぼす影響について理解できている。

テキスト、参考図書

出村慎一編著、「健康・スポーツ科学講義　第2版」、杏林書院　2012

その他(受講上の注意)

講義で学んだ知識を日常の生活や身体運動に活用できるように。

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

スポーツA (Sports A)			担当教員	山村　恵子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−1134	1単位	1年前期	実技	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　環境・健康科目

求める学習成果（教育目標）

建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　■計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

生涯スポーツ、テニスを楽しむことを目指し、健康維持増進、体力の向上をねらいとする。

授業の到達目標

硬式テニスと軟式テニスとの違いを知り、ラケットの扱いやボールコントロール・サーブが出来るようになり、シングルス・ダブルスのゲームが出来ることを目標とする。
自他理解能力、コミュニケーション能力、計画をたて実行出来る能力を養成する。

授　業　の　計　画

第1回：ガイダンス、硬式テニス競技の日本における歴史と変遷。個人基本技の説明。
第2回：準備体操（ストレッチ）フットワーク（以後毎週行う。）
　　個人技の習得（グリッピング・素振り・ボール慣れ）
第3回：個人技の習得（ストローク・バック・ボレー）
第4回：基本技（毎週行う）／サーブ　シングル反面ゲーム／攻撃、防御の動きについてメンバーの特質を理解する。／ゲーム管理・運営を学習する／基本技のスキルテスト①
第5回：基本技（毎週行う）／サーブ　シングル反面ゲーム／攻撃、防御の動きについてメンバーの特質を理解する。／ゲーム管理・運営を学習する／基本技のスキルテスト②
第6回：基本技（毎週行う）／サーブ　シングル反面ゲーム／攻撃、防御の動きについてメンバーの特質を理解する。／ゲーム管理・運営を学習する／基本技のスキルテスト③
第7回：基本技（毎週行う）／サーブ　シングル反面ゲーム／攻撃、防御の動きについてメンバーの特質を理解する。／ゲーム管理・運営を学習する／基本技のスキルテスト④
第8回：基本技（毎週実施）ダブルスゲーム／体力・技術等メンバー構成に等質性を考慮する。／作戦･戦略について・審判法を学習する。①
第9回：基本技（毎週実施）ダブルスゲーム／体力・技術等メンバー構成に等質性を考慮する。／作戦･戦略について・審判法を学習する。②
第10回：基本技（毎週実施）ダブルスゲーム／体力・技術等メンバー構成に等質性を考慮する。／作戦･戦略について・審判法を学習する。③
第11回：基本技（毎週実施）ダブルスゲーム／団体リーグ戦／体力・技術等メンバー構成に等質性を考慮する。①
第12回：基本技（毎週実施）ダブルスゲーム／団体リーグ戦／体力・技術等メンバー構成に等質性を考慮する。②
第13回：基本技（毎週実施）ダブルスゲーム／団体リーグ戦／体力・技術等メンバー構成に等質性を考慮する。③
第14回：作戦・戦略について学習する。
第15回：まとめ

授業外の学習方法

各回の講義（実技）を受けた後、地域、クラブで実践する。
個人技の向上に努力する。

成　績　評　価　方　法

技術の習得（70％）、平常点（30％）。平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断します。

成　績　評　価　基　準

軟式テニスと硬式テニスの違いを理解できているか。
ラケットの扱いやボールコントロール・サーブができるか。
シングル・ダブルスのゲームができるか。

テキスト、参考図書
必要に応じて授業内で配付する。
その他（受講上の注意）
原則として全出席を求め、遅刻、早退は認めない。 トレーニングウエアー着用のこと。原則として見学の場合もトレーニングウエアー着用のこと。 春先、外気温が上がるため、水分補給に注意する。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

スポーツB (Sports B)			担当教員	山村　恵子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−1135	1単位	1年後期	実技	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　環境・健康科目

求める学習成果（教育目標）

建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　■計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

バスケットボールを楽しむことを目指し、健康維持増進、体力の向上をねらいとする。

授業の到達目標

自他の理解能力、コミュニケーション能力、計画をたて実行できる能力を養成する。
バスケットボールのスピードあるボールコントロール・フォーメーションプレーなどがスムーズにできることを目標とする。

授　業　の　計　画

第1回：ガイダンス、バスケットボールの歴史と変遷・個人基本技の説明
第2回：準備体操（ストレッチ）毎回行う　ボディーコントロール　フットワーク／ボールコントロール　パス・ドリブル・シュート／個人技の習得　1対1　2対2／①
第3回：準備体操（ストレッチ）毎回行う　ボディーコントロール　フットワーク／ボールコントロール　パス・ドリブル・シュート／個人技の習得　1対1　2対2／②
第4回：準備体操（ストレッチ）毎回行う　ボディーコントロール　フットワーク／ボールコントロール　パス・ドリブル・シュート／個人技の習得　1対1　2対2／③
第5回：基本技（毎週実施）／ オフェンス　コンビネーションプレー（パス＆ゴー・スクリーンプレー）／3対3　基本的フォーメーション（タイミング・スペーシング）／ 個人技能評価・ゴール下ジャンプショット・ジグザグドリブル／体力・技能等メンバー構成に特質性を考慮する（5分間ゲーム）①
第6回：基本技（毎週実施）／ オフェンス　コンビネーションプレー（パス＆ゴー・スクリーンプレー）／3対3　基本的フォーメーション（タイミング・スペーシング）／ 個人技能評価・ゴール下ジャンプショット・ジグザグドリブル／体力・技能等メンバー構成に特質性を考慮する（5分間ゲーム）②
第7回：基本技（毎週実施）／ オフェンス　コンビネーションプレー（パス＆ゴー・スクリーンプレー）／3対3　基本的フォーメーション（タイミング・スペーシング）／ 個人技能評価・ゴール下ジャンプショット・ジグザグドリブル／体力・技能等メンバー構成に特質性を考慮する（5分間ゲーム）③
第8回：基本技（毎週実施）／ オフェンス　コンビネーションプレー（パス＆ゴー・スクリーンプレー）／3対3　基本的フォーメーション（タイミング・スペーシング）／ 個人技能評価・ゴール下ジャンプショット・ジグザグドリブル／体力・技能等メンバー構成に特質性を考慮する（5分間ゲーム）④
第9回：基本技（毎週実施）／ オフェンス　コンビネーションプレー（パス＆ゴー・スクリーンプレー）／3対3　基本的フォーメーション（タイミング・スペーシング）／ 個人技能評価・ゴール下ジャンプショット・ジグザグドリブル／体力・技能等メンバー構成に特質性を考慮する（5分間ゲーム）⑤
第10回：基本的スキルテスト／基本技（毎週実施）／ 5対5　防衛インフォメーション／全面での攻防（5分間ゲーム）／ 作戦・戦略・審判法について学習する①
第11回：基本的スキルテスト／基本技（毎週実施）／ 5対5　防衛インフォメーション／全面での攻防（5分間ゲーム）／ 作戦・戦略・審判法について学習する②
第12回：基本的スキルテスト／基本技（毎週実施）／ 5対5　防衛インフォメーション／全面での攻防（5分間ゲーム）／ 作戦・戦略・審判法について学習する③
第13回：基本的スキルテスト／基本技（毎週実施）／ 5対5　防衛インフォメーション／全面での攻防（5分間ゲーム）／ 作戦・戦略・審判法について学習する④
第14回：基本的スキルテスト／基本技（毎週実施）／ 5対5　防衛インフォメーション／全面での攻防（5分間ゲーム）／ 作戦・戦略・審判法について学習する⑤
第15回：ゲームまとめ

授業外の学習方法
各回の講義（実技）を受けた後、個人技の向上に努力する。
成績評価方法
技術の習得（70%）、平常点（30%）。平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断します。
成績評価基準
スピードのあるるボールコントロール・フォーメーションプレーなどがスムーズにできるか。
テキスト、参考図書
必要に応じて授業内で配付する
その他（受講上の注意）
原則として全出席を求め、遅刻、早退は認めない。 トレーニングウェア着用のこと。 原則として見学の場合もトレーニングウェア着用のこと。 授業中の水分補給は各自行う。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英語Ⅰa (English Ⅰa)			担当教員	ME　ハウカ、バトラー田中　ポール、フッド　晴美、ＭＬ　スプリチャル、山口　和代、矢橋　知枝
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS-1141	1単位	1年前期	演習	必修

<科目区分>　人間学部学部共通科目　外国語科目

求める学習成果(教育目標)

建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

Following a 'Warm-up' activity to introduce the theme of the unit, students will be introduced to the relevant grammar and vocabulary through a series of listening and speaking exercises. Reading and writing exercises will follow to reinforce their knowledge of the material.

授業の到達目標

Upon finishing the course, students will be able to express themselves freely in general conversation through exchanging personal information and talking about their daily lives, as well as be able to listen for key words and specific information in a variety of situations. The ability to scan for general information and read for specific information will be enhanced as well as the ability to write short letters, descriptions, and articles on a variety of subjects.

授　業　の　計　画

第1回：Class Introduction
第2回：Unit 1 Introductions①
第3回：Unit 1 Introductions②
第4回：Unit 2 What a life!①
第5回：Unit 2 What a life!②
第6回：Unit 3 Free Time①
第7回：Unit 3 Free Time②
第8回：Review
第9回：Unit 4 Places①
第10回：Unit 4 Places②
第11回：Unit 5 Getting Around①
第12回：Unit 5 Getting Around②
第13回：Unit 6 Shopping①
第14回：Unit 6 Shopping②
第15回：Review
第16回：Examination

授業外の学習方法

Before starting each unit, students are to familiarize themselves with the class material by reviewing the 'Grammar reference' pages for each unit and completing the exercises on those pages. Students must also complete homework assignments as instructed by their teachers; such as the writing assignments suggested in the textbook, and/or accessing the online 'Digibook' (listening activities & video worksheets) to reinforce their in-class studies, as well as other assignments. Furthermore, students will be tasked with self-study activities in preparation for the TOEIC through the use of NetAcademy 2 software.

成　績　評　価　方　法

Outside-class Activities (i.e., 'Grammar reference' pages, homework assignments, 'Digibook' activities, NetAcademy 2 usage, etc.) - 20%
Proactive In-class Participation - 20%
Examination - 60%

成　績　評　価　基　準
Students' ability to understand and participate in general conversation on everyday topics will be evaluated, as well the ability to read and comprehend short, written passages.
テキスト、参考図書
Breakthrough Plus 1. Miles Craven. Macmillan Education. 2013. ISBN 978- 0 -230-43813.
その他（受講上の注意）
Prior to the beginning of the semester, a mandatory general English pre-evaluation test will be administered. Also, during the semester, a number of classes will be held in the Computer Assisted Language Learning laboratory （E-303） for the purpose of familiarizing students with the use of NetAcademy 2 software.
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英語Ⅰb (English Ⅰb)			担当教員	ME　ハウカ、バトラー田中　ポール、フッド　晴美、ＭＬ　スプリチャル、山口　和代、矢橋　知枝
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS-1142	1単位	1年後期	演習	必修

<科目区分>　人間学部学部共通科目　外国語科目

求める学習成果(教育目標)

建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

Following a 'Warm up' activity to introduce the theme of the unit, students will be introduced to the relevant grammar and vocabulary through a series of listening and speaking exercises. Reading and writing exercises will follow to reinforce their knowledge of the material.

授業の到達目標

Upon finishing the course students will be able to express themselves freely in general conversation through exchanging personal information and talking about their daily lives, as well as be able to listen for key words and specific information in a variety of situations. The ability to scan for general information and read for specific information will be enhanced as well as the ability to write short letters, descriptions, and articles on a variety of subjects.

授　業　の　計　画

第1回：Class Introduction
第2回：Unit 1 Introductions①
第3回：Unit 1 Introductions②
第4回：Unit 2 What a life!①
第5回：Unit 2 What a life!②
第6回：Unit 3 Free Time①
第7回：Unit 3 Free Time②
第8回：Review
第9回：Unit 4 Places①
第10回：Unit 4 Places②
第11回：Unit 5 Getting Around①
第12回：Unit 5 Getting Around②
第13回：Unit 6 Shopping①
第14回：Unit 6 Shopping②
第15回：Review
第16回：Examination

授業外の学習方法

Before each unit students are to familiarize themselves with the class material by reviewing the 'Grammar reference' pages for each unit and completing the exercises on those pages. Students must also complete homework assignments as instructed by their teachers; such as the writing assignments suggested in the textbook, and accessing the online 'Digibook' (listening activities & video worksheets) to reinforce their in-class studies, as well as other assignments. Furthermore, students will be tasked with self-study activities in preparation for the TOEIC through the use of NetAcademy 2 software.

成　績　評　価　方　法

Outside-class Activities ('Grammar reference' pages, homework assignments, 'Digibook' activities, NetAcademy 2 usage) - 30%
Proactive In-class Participation - 30%
Examination - 40%

成　績　評　価　基　準
Students' ability to understand and participate in general conversation on everyday topics will be evaluated as well the ability to read and comprehend short, written passages.
テキスト、参考図書
Breakthrough Plus 1 - Miles Craven - 2013 - Macmillan Education - ISBN 978- 0 -230-43813
その他（受講上の注意）
During the semester a number of classes will be held in the Computer Assisted Language Learning laboratory （E-303） for the purpose of familiarizing students with the 'Digibook' activities and to familiarize students with the use of NetAcademy 2 software.
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

フランス語Ⅰａ (French Ⅰa)			担当教員	大竹口　麻里
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−1143	1単位	1年前期	演習	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　外国語科目

求める学習成果(教育目標)

建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　■計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

「フランス語技能検定試験(仏検)」の4級程度の、フランス語の発音と単語及び文の構造を学ぶ。

授業の到達目標

1)綴り字と発音の関係を学び、早い段階で臆することなくフランス語を発音できる。
2)初級文法を学び簡単な会話文が読み書くことができる。

授　業　の　計　画

第1回：フランス語について．ABCの発音．あいさつ
第2回：第1課　綴り字の読み方・自己紹介
第3回：第1課　元気かどうか聞く
第4回：第2課　職業を言う
第5回：第2課　自己紹介をする
第6回：第3課　住んでいるところを言う
第7回：第3課　国籍・話せる言語を言う
第8回：第4課　身の回りのもの・～を持っていますか？
第9回：第4課　兄弟はいますか・何歳ですか？
第10回：フランス映画鑑賞
第11回：第5課　この人は誰ですか？
第12回：第5課　彼はどんな人ですか？
第13回：第6課　これは何ですか？
第14回：第6課　～はどこですか？
第15回：練習問題
第16回：定期試験

授業外の学習方法

毎回の授業のあとで板書したノートとテキストでよく復習すること。

成　績　評　価　方　法

定期試60％、平常点40％(平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙等の提出状況等を総合して判断します。)

成　績　評　価　基　準

1)綴り字と発音の関係を理解し、早い段階で臆することなくフランス語を発音できるか。
2)初級文法及び簡単な会話文が読み書きができるか。

テキスト、参考図書

ニコラ・ガイヤール、加藤豊子、中川高行著『新装　カフェ・フランセ』 朝日出版社 2016

その他(受講上の注意)

仏和辞書を毎回持ってくること。辞書については初回の授業で説明します。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

フランス語Ｉｂ (French Ｉb)			担当教員	大竹口　麻里
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−1144	１単位	１年後期	演習	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　外国語科目

求める学習成果（教育目標）

建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

□自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　■計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

「フランス語技能検定試験（仏検）」の４級程度の、フランス語の発音と単語及び文の構造を学ぶ。

授業の到達目標

１）テキストの内容について滑らかにフランス語を発音できるようになること。
２）テキストの内容や自分自身について質問されたことについてフランス語で書くことができるようになること。

授　業　の　計　画

第１回：第７課　私は～が好きです
第２回：第７課　～があります
第３回：第８課　AはBより～です
第４回：第８課　何を着ていますか？よい天気です
第５回：第９課　私はサッカーをします
第６回：第９課　朝食に～を食べます
第７回：フランス映画鑑賞
第８回：第10課　～へ行きましょう
第９回：第10課　どのくらい時間がかかりますか？
第10回：第11課　私は～時に起きます
第11回：第11課　～時から～時まで授業があります
第12回：第12課　彼女を知っていますか？
第13回：第12課　アルバイトしていますか？
第14回：第13課　食事を注文する
第15回：第13課　おいしかったです
第16回：定期試験

授業外の学習方法

毎授業後早い段階で板書したノートとテキストで復習すること。

成　績　評　価　方　法

定期試験60％　平常点40％（平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙等の提出状況等を総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

１）フランス語の滑らかな発音ができるか。
２）簡単な質問に対してフランス語で回答できるか。

テキスト、参考図書

新装　カフェ・フランセ　朝日出版社　2016年

その他（受講上の注意）

辞書は毎回持ってくること。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

ドイツ語Ⅰa (German Ⅰa)			担当教員	橋本　武志
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−1145	1単位	1年前期	演習	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　外国語科目

求める学習成果(教育目標)

建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

ドイツ語の発音と単語、文の構造を学ぶ。

授業の到達目標

ドイツ語のアルファベートの発音、単語の読み方、規則的な動詞変化(現在形)、定冠詞・不定冠詞の格変化を習得し、簡単なドイツ語のあいさつや、ドイツ語の単文をある程度読み、書き、発音することができるようになることを目的とする。

授　業　の　計　画

第1回：Lektion 1　ドイツ語という言語の説明・アルファベート
第2回：Lektion 1　いろいろな単語を発音してみよう。
第3回：Lektion 1　単語と簡単なあいさつをしてみよう。
第4回：小テスト1　およびこれまでの復習
第5回：Lektion 2　動詞の人称変化・定動詞第2位の法則
第6回：Lektion 4　動詞の不規則な人称変化
第7回：Lektion 3　名詞の性
第8回：Lektion 3　定冠詞の格変化
第9回：Lektion 3　不定冠詞の格変化
第10回：小テスト2　およびこれまでの復習
第11回：映像によってドイツ文化を知る1
第12回：Lektion 4　名詞の複数形
第13回：Lektion 4　複数名詞の定冠詞・不定冠詞変化
第14回：映像資料によってドイツ文化を知る2
第15回：これまでのまとめ
第16回：定期試験

授業外の学習方法

毎回プリントによる練習問題を宿題として出すので、必ずやってきてから授業に臨むこと。毎回の授業は宿題の答え合わせから始める。間違った問題は、必ず復習しておくこと。

成　績　評　価　方　法

定期試験(70%)、平常点(30%)
(平常点は、授業への参加状況、受講態度、小テストへの取り組みを総合して判断します)

成　績　評　価　基　準

・ドイツ語の発音の規則を理解し、知らない単語にも応用することができるか。
・動詞変化の基本的規則を理解し、自分で動詞を変化させることができるか。
・英語にはない動詞の「性および格」について理解し、冠詞変化規則を応用することができるか。

テキスト、参考図書

(1)西村祐子　ルドルフ・ペトリック　『新・行ってみたいなドイツ』　郁文堂　2013年
(2)在間　進　『新キャンパス独和辞典』　郁文堂 2011年
初学者には電子辞書は不向きなので、書籍版を購入すること。すでに書籍版の辞書を持っている人は、自分の持っている辞書でもよい。辞書の種類や使い方については初回の授業で説明します。

その他（受講上の注意）
語学の授業は、出席しないことには身につかない。できるかぎり出席すること。また、私語が多い場合には、その回は欠席扱いにすることがある。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

ドイツ語Ｉｂ (German Ｉb)			担当教員	橋本　武志
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−1146	１単位	１年後期	演習	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　外国語科目

求める学習成果（教育目標）

建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

ドイツ語Ｉaにつづいて、ドイツ語のやや高次な初級文法について学ぶ。

授業の到達目標

ドイツ語の定冠詞・不定冠詞類の格変化、前置詞、助動詞を習得し、英語とは異なるドイツ語独自の「ワク構造」について理解する。

授　業　の　計　画

第１回：ドイツ語Ｉaの復習
第２回：Lektion５　定冠詞類・不定冠詞類１
第３回：Lektion５　定冠詞類・不定冠詞類２
第４回：Lektion３　人称代名詞
第５回：小テスト１
第６回：Lektion６　前置詞１
第７回：Lektion６　前置詞２
第８回：Lektion６　前置詞３
第９回：Lektion７　話法の助動詞とワク構造
第10回：小テスト２
第11回：Lektion10　動詞の３基本形と過去形
第12回：Lektion11　現在完了形とワク構造１
第13回：Lektion11　現在完了形とワク構造２
第14回：小テスト３
第15回：これまでのまとめ
第16回：定期試験

授業外の学習方法

毎回プリントによる練習問題を宿題として出すので、必ずやってきてから授業に臨むこと。毎回の授業は宿題の答え合わせから始める。間違った問題は、必ず復習しておくこと。

成　績　評　価　方　法

定期試験（70%）、平常点（30%）
（平常点は、授業への参加状況、受講態度、小テストへの取り組みを総合して判断します）

成　績　評　価　基　準

・冠詞類、動詞の不規則変化、前置詞、話法の助動詞、過去形について理解し、ある程度応用できるか。

テキスト、参考図書

（１）西村祐子　ルドルフ・ペトリック　『新・行ってみたいなドイツ』　郁文堂 2013年
（２）在間　進　『新キャンパス独和辞典』　郁文堂 2011年
初学者には電子辞書は不向きなので、書籍版を購入すること。すでに書籍版の辞書を持っている人は、自分の持っている辞書でもよい。辞書の種類や使い方については初回の授業で説明します。

その他（受講上の注意）

語学の授業は、出席しないことには身につかない。できるかぎり出席すること。また、私語が多い場合には、その回は欠席扱いにすることがある。

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

中国語Ⅰa (Chinese Ⅰa)			担当教員	ショウ　ロ
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−1147	1単位	1年前期	演習	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　外国語科目

求める学習成果(教育目標)

建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

10分・発音練習、60分・演習と解説、20分・まとめと質疑応答。中国語の学習を進めていく上で基礎知識を学習し、中国語の検定試験準4級のレベルをめざす。

授業の到達目標

1. 中国語の発音に関して、表音ローマ字の読み方と綴り方を取得する。
2. 中国語の簡略字を正しく読み取れる。
3. 基礎単語300語程度を覚える。
4. 簡単な日常あいさつ用語30語程度を聞き取れる、応答ができる。
5. 簡単な基本文型20語程度を取得し、基本的な事項の確認や、自分の意思を伝えられる。
6. 演習会話を通してコミュニケーション能力を高めることを目標とする。

授　業　の　計　画

第1回：中国の国土、民族など。中国語の表記法、文字、普通話、方言など。
第2回：声調(四声)。母音。子音。
第3回：その他の発音上の注意事項。
第4回：人称代名詞。判断動詞“是”。
第5回：疑問を表わす“?”。
第6回：中国語の基本的な語順。
第7回：省略疑問文“?”。
第8回：否定を表わす副詞“不”。
第9回：疑問詞疑問文。
第10回：動詞“在”。
第11回：所有を表わす“有”。
第12回：連動文。
第13回：形容詞述語文。
第14回：語気助詞“?”。
第15回：学習成果の確認。第1回～第14回の復習とまとめ。
第16回：定期試験。

授業外の学習方法

各回講義の後、要点まとめの資料及び練習用プリントを配る、これを見直しながら復習し次の講義に臨むこと。

成　績　評　価　方　法

定期試験(50%)　課題練習の成績(30%)　平常点(20%)
(平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します)

成　績　評　価　基　準

1. 表音のローマ字の読みと綴りをすることができるか。
2. 常用簡略字が読み取れるか。
3. 基礎単語300語程度が話せるか。
4. 簡単日常あいさつ語を聞き、応答できるか。
5. 簡単な言葉で事項の確認や自分の意思を伝えられるか。

テキスト、参考図書
佐藤晴彦 監修　　徐　送迎 著　『たのしくできる　Ｗｅ　Ｃａｎ！　中国語（初級）』　朝日出版社
その他（受講上の注意）
積極的に授業に参加すること。授業中に大声で発声すること。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

中国語Ⅰb (Chinese Ⅰb)			担当教員	ショウ　ロ
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−1148	1単位	1年後期	演習	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　外国語科目

求める学習成果(教育目標)

建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

10分・発音練習、60分・演習と解説、20分・まとめと質疑応答。中国語を読むこと、話すことを重点において学習し、中国語の検定試験準4級合格をめざす。

授業の到達目標

1. 中国語表音ローマ字による発音ができる。
2. 基礎単語500語程度を使って、簡単な中国語の日本語訳と日本語の中国語訳ができる。
3. 日常あいさつ用語50語程度を聞き取れる、応答ができる。
4. 簡単な基本文型50語程度を利用し、基本的な事項の確認や、自分の意思を自然に伝えられる。
5. 演習会話を通してコミュニケーション能力を高めることを目標とする。

授　業　の　計　画

第1回：中国語Ⅰaの重要事項の確認、復習。
第2回：存在を表わす“有”。
第3回：数量詞の位置。所有・所属関係を示す“的”。
第4回：指示代名詞。
第5回：名詞述語文。
第6回：語気助詞“了”。
第7回：比較文“A比B～”。
第8回：介詞“在～”。
第9回：反復疑問文。
第10回：動態助詞“了”。
第11回：否定を表わす副詞“没(有)”。
第12回：助動詞“想”。
第13回：動詞の重ね型。
第14回：主述述語文。場所を表わす代名詞。
第15回：第1回～第14回の復習。中国語Ⅰabの学習成果の確認とまとめ。
第16回：定期試験。

授業外の学習方法

各回講義の後、要点まとめの資料及び練習用プリントを配る。これを見直しながら復習し次の講義に臨むこと。

成　績　評　価　方　法

定期試験(50%)　課題練習の成績(30%)　平常点(20%)
(平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します)

成　績　評　価　基　準

1、表音のローマ字による発音ができるか。
2、簡単な中国語と日本語の訳ができるか。
3、簡単日常あいさつ語を聞き、応答できるか。
4、簡単な言葉で事項の確認や自分の意思を伝えられるか。

テキスト、参考図書

佐藤晴彦 監修、　徐　送迎 著　『たのしくできる　Ｗｅ　Ｃａｎ！　中国語(初級)』 朝日出版社

その他（受講上の注意）
積極的に授業に参加すること。授業中に大声で発声すること。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

情報リテラシーa (Information Literacy a)			担当教員	宮川　祐一、森本　文人、佐々木　裕子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−1151	2単位	1年前期	演習	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　情報科目

求める学習成果(教育目標)

建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

大学(および一般社会)において、学習や研究を進めるうえで必要となるコンピュータの基本的知識及び操作法を身につける。
特に、キーボードを見ずにキー入力ができるタッチタイピング技能、および日本語文書作成能力を身に付けることを主眼とする。

授業の到達目標

パソコンに関する基礎的な知識と学内ネットワークの利用、インターネットなどの基本的な使い方を理解する。
文書作成ソフトWordを使い、基本的な日本語文書作成ができる。
タッチタイピングができる。
10分間で300文字以上の日本語文章を入力する能力を身に付けている。

授　業　の　計　画

第1回：学内ネットワーク利用、Windows 8の基礎1、タッチタイピンク1
第2回：各種設定、Windows 8の基礎2、タッチタイピング2
第3回：文書の作成 p.105〜121、タッチタイピング3
第4回：編集機能 p.128〜142、タッチタイピング4
第5回：文章入力問題、画像やテキストボックス p.143〜159
第6回：Wordの活用1　p.160〜175
第7回：Wordの活用2　p.176〜191
第8回：Wordの応用　p.192〜205
第9回：Wordの応用　グラフ p.206〜219
第10回：プレゼンテーション p.220〜236
第11回：パワーポイントによるプレゼンテーション
第12回：Word活用1(ビジネス文書作成1)
第13回：Word活用2(ビジネス文書作成2)
第14回：Word活用3(ビジネス文書作成3)
第15回：Word活用4(ビジネス文書作成4)・まとめ
第16回：定期試験

授業外の学習方法

予習：次の授業に向けて、教科書を参照しながら基本的な操作を確認しておく。
復習：授業内に指示した課題は、次回の授業までに完成させておくこと。(提出の指示がある場合には、提出)
　また、やむを得ず欠席した場合には、休んだ回の例題や課題は次の授業までにすべて完成させて臨むこと。
タッチタイピング：練習ソフトウェア「Type Quick Professional USB版」を用いた練習に取り組むこと。15〜30時間の練習が必要。

成　績　評　価　方　法

定期試験(約70%)　タイピング練習(約10%)　提出課題(約10%)　平常点(約10%)
(平常点は、授業への参加状況・受講態度等)

成　績　評　価　基　準
ワープロソフトWordの基本的な操作ができるか。 基本的なビジネス文書の作成・編集ができるか。 タッチタイピングができるか。 タイピング練習を10時間以上したか。 10分間で300文字以上の日本語文章を入力する能力があるか。 （能力がないと判断した場合は、単位認定をしない）
テキスト、参考図書
『30時間でマスター　Word2013』　実教出版　2014 教材：『Type Quick Professional USB版』　日本データパシフィック
その他（受講上の注意）
この授業は、Word初心者を対象とした内容であるので、経験を有する者は情報活用aを受講すること。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

情報リテラシーb (Information Literacy b)			担当教員	宮川　祐一、森本　文人、佐々木　裕子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−1152	2単位	1年後期	演習	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　情報科目

求める学習成果(教育目標)

建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

大学(および一般社会)において、学習や研究を進めるうえで必要となるコンピュータの基本的知識及び操作法を身につける。
特に、表計算ソフトの基本的な使用法を習得して、データの集計処理や活用法を身に付けることを主眼とする。
併せて、タッチタイピング技能の向上を目指す。

授業の到達目標

表計算ソフトを使い、基本的な表やグラフの作成ができる。
基本的な関数の使い方が理解できる。
表計算ソフトとワープロソフトの連携処理ができる。
タッチタイピングができる。
10分間で350文字以上の日本語文章を入力する能力を身に付けている。

授　業　の　計　画

第1回：文章入力問題、Excel 1(データ入力、集計、印刷)　p.33まで
第2回：Excel 2(グラフ作成、表の編集)p.55まで
第3回：Excel 3(平均、表示形式)p.66まで
第4回：Excel 4(罫線、ワークシートの活用)p.79まで
第5回：Excel 5(いろいろな関数)p.97まで
第6回：Excel 6(条件付き書式、グラフ1)p.112まで
第7回：Excel 7(グラフ2)p.137まで
第8回：Excel 8(グラフ3、データベース機能)p.155まで
第9回：Excel 9(データの並べ替え、集計)p.179まで
第10回：Excel 10(関数の活用1)p.201まで
第11回：Excel 11(関数の活用2)p.215まで
第12回：Excel 12(3D集計、WordとExcelの連携)p.229まで
第13回：Excel & Word復習問題1
第14回：Excel & Word復習問題2
第15回：Excel & Word復習問題3
第16回：定期試験

授業外の学習方法

予習：次の授業に向けて、教科書を参照しながら基本的な操作を確認しておく。
復習：授業内に指示した課題は、次回の授業までに完成させておくこと。(提出の指示がある場合には、提出)
また、やむを得ず欠席した場合には、休んだ回の例題や課題は次の授業までにすべて完成させて臨むこと。
タッチタイピング：練習ソフトウェア「Type Quick Professional USB版」を用いた練習に取り組むこと。

成績評価方法

定期試験(約80%)　提出課題(約10%)　平常点(約10%)
(平常点は、授業への参加状況・受講態度等)

成　績　評　価　基　準
表計算ソフトを使い、基本的な表やグラフの作成ができるか。 基本的な関数の使い方を理解しているか。 表計算ソフトとワープロソフトの連携処理ができるか。 タッチタイピングができるか。 10分間で350文字以上の日本語文章を入力する能力を身に付けているか。 （能力がないと判断した場合は、単位認定をしない）
テキスト、参考図書
『30時間でマスター　Excel 2013』　実教出版　2014年 教材：『Type Quick Professional USB版』　日本データパシフィック
その他（受講上の注意）
この授業は、Excel初心者を対象とした内容であるので、経験を有する者は情報活用bを受講すること。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

情報活用 a (Exercises in Information Literacy a)			担当教員	宮川　祐一、佐々木　裕子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−1153	2 単位	1 年前期	演習	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　情報科目

求める学習成果(教育目標)

建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

オフィスソフトの１つであるWordを採り上げる。例題を基に、その機能や操作方法を理解し、大学生活やビジネス場面においても難なく活用できる能力を獲得することを目指す。

授 業 の 到 達 目 標

オフィスソフトWordに関する知識とその機能を深く理解し、一般社会においても十分な情報活用能力を発揮できるようにマイクロソフト社のOffice Specialist試験（Word2013）や、日本商工会議所の日商PC検定試験２級（文書作成）に合格できる能力レベルを目標としている。

文書作成ソフトを使い、基本的な文書を速やかに作成できる。
さらに、複雑な作表や図などを取り込んだビジネス文書を難なく作成できる。
既存の文書に対しては、書式の変更や形式変換などの編集・加工ができる。

授　業　の　計　画

第１回：文書処理に関する資格や検定試験概要、授業の進め方、実力診断用練習問題
第２回：文書の作成、書式設定 p.1～43
第３回：文章のオプション、印刷、保存 p.44～88
第４回：文字列、段落 p.89～135
第５回：文字列段落の並び替え、表とリスト p.136～186
第６回：参考資料の適用 p.187～209
第７回：オブジェクトの挿入と書式設定 p.211～248
第８回：総合練習問題１
第９回：総合練習問題２
第10回：総合練習問題３
第11回：総合練習問題４
第12回：総合練習問題５
第13回：総合練習問題６
第14回：総合練習問題７
第15回：復習問題（特に、不得意なスキルについて）
第16回：定期試験

授 業 外 の 学 習 方 法

予習　授業の計画に示すテキスト範囲について、例題を一通り事前に試行する。
　　その際、不明点・疑問点については、授業時間中に解決できるように努める。
復習　特に、新たに得られた知識について、習熟できるように例題を再度確認する。
　　テキスト付録の練習問題に取り組むこと。（これによって、着実にスキルは向上します）

成　績　評　価　方　法

定期試験（70%）　課題（20%）平常点（10%）
（平常点は、授業への参加状況・受講態度等）

成　績　評　価　基　準
限定した時間内（50分）で、文書作成ソフトウェアWordを使って下記のような処理などができるか。 関連する検定試験（日商PC検定　MOS試験）の合格者については、定期試験の合格と同等以上とする。 文書作成ソフトを使い、基本的な文書を速やかに作成できるか。 複雑な作表や図などを取り込んだビジネス文書を難なく作成できるか。 既存の文書に対しては、書式の変更や形式変換などの編集・加工ができるか。
テ キ ス ト 、 参 考 図 書
『MOS攻略問題集 Word 2013　第２版』　日経BP　2015年
その他（受講上の注意）
情報リテラシーa　の受講を終えていることを前提とします。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

情報活用ｂ (Exercises in Information Literacy b)			担当教員	宮川　祐一、佐々木　裕子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−1154	２単位	１年後期	演習	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　情報科目

求める学習成果（教育目標）

建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

□自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

オフィスソフトの１つであるExcelを採り上げる。例題を基に、その機能や操作方法を理解し、大学生活やビジネス場面においても難なく活用できる能力を獲得することを目指す。

授業の到達目標

オフィスソフトExcelに関する知識とその機能を深く理解し、一般社会においても十分な情報活用能力を発揮できるようにマイクロソフト社のOffice Specialist試験（Excel2013）や、日本商工会議所の日商PC検定試験２級（データ活用）に合格できる能力レベルを目標としている。

表計算ソフトを使い、基本的な表やグラフを速やかに作成できる。
既存の表やグラフに対しては、書式の変更や形式変換などの編集・加工ができる。
さらに、複雑な作表や図などを取り込んだビジネス文書への展開ができる。

授　業　の　計　画

第１回：実力診断用練習問題（日商PC検定試験問題）
第２回：ワークシートやブックの作成、書式設定 p.1～52
第３回：ワークシートやブックのオプション、印刷・保存 p.53～105
第４回：セルやセル範囲の作成、書式設定 p.107～143
第５回：テーブルの作成 p.144～194
第６回：数式や関数の適用 p.195～236
第７回：グラフやオブジェクトの作成 p.237～267、模擬テストについて
第８回：総合練習問題１
第９回：総合練習問題２
第10回：総合練習問題３
第11回：総合練習問題４
第12回：総合練習問題５
第13回：総合練習問題６
第14回：総合練習問題７
第15回：復習問題（特に、不得意なスキルについて）
第16回：定期試験

授業外の学習方法

予習　授業の計画に示すテキスト範囲について、例題を一通り事前に試行する。
　　その際、不明点・疑問点については、授業時間中に解決できるように努める。
復習　特に、新たに得られた知識について、習熟できるように例題を再度確認する。
　　テキスト付録の練習問題に取り組むこと。（これによって、着実にスキルは向上します）

成　績　評　価　方　法

定期試験（70%）　提出課題（20%）平常点（10%）
（平常点は、授業への参加状況・受講態度等）

成　績　評　価　基　準
限定した時間内（50分）で、表計算ソフトウェアExcelを使って下記のような処理などができるか。 関連する検定試験（日商PC検定　MOS試験）の合格者については、定期試験の合格と同等以上とする。 表計算ソフトを使い、基本的な表やグラフを速やかに作成できるか。 既存の表やグラフに対しては、書式の変更や形式変換などの編集・加工ができるか。 複雑な作表や図などを取り込んだビジネス文書への展開ができるか。
テキスト、参考図書
『MOS攻略問題集 Excel 2013　第２版』　日経BP　2015年
その他（受講上の注意）
情報リテラシーb　の受講を終えていることを前提とします。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

基礎演習 (Basic Seminar)			担当教員	久保　陽子、山本　雅代、森本　文人、 水上　喜美子、片畑　真由美、 竹村　明子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS-1161	2単位	1年	演習	必修

<科目区分>　人間学部学部共通科目　修学基礎・キャリア形成科目

求める学習成果(教育目標)

建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　■計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

大学生としての最初の1年は、4年間にわたる学修をスムーズに開始できるための重要な期間として位置づけられる。このため、まず学科の教育目標および教育課程を理解するとともに、主体的な学びを軸とする大学での修学や将来のための基盤づくりに重点を置き、授業を展開する。

授業の到達目標

■本授業の内容や達成すべき目標について理解する。
■学科の教育課程や教育制度、授業形態について説明を受け理解する。
■履修に関する担当教員の助言・指導を受け、自己の学習計画・履修計画を作成できるようにする。
■大学での学び方を知るための講座、専門分野の基礎的な事柄についての演習を通して、
　自主学習を中心とした学習スタイルを確立し、学習に対する積極的な態度を身につける。
■附属図書館において図書館利用に関するセミナーを受講し、文献の検索方法等を理解し、
　学習や研究に必要な図書館利用法を身につける。

授　業　の　計　画

第1回：履修に関する担当教員の助言・指導を受け、自己の学習計画・履修計画を作成
第2回：専門分野の基礎学習
第3回：学生生活についての担当教員による個人面談を行い、学習状況などを確認
第4回：学修や研究に必要な文献検索方法(附属図書館利用法)
第5回：専門分野の基礎学習
第6回：専門分野の基礎学習
第7回：専門分野の基礎学習
第8回：専門分野の基礎学習
第9回：専門分野の基礎学習
第10回：専門分野の基礎学習
第11回：学生生活についての担当教員による個人面談を行い、学習状況などを確認
第12回：地域学習
第13回：専門分野の基礎学習
第14回：専門分野の基礎学習
第15回：専門分野の基礎学習
第16回：専門分野の基礎学習

授業外の学習方法

予習として、次週に学ぶべき内容について関連する書籍等を読み予備知識を得ておくこと。
復習として、授業時に配布された資料を見直す、または授業で取り上げられた事項を再考する等、理解したうえで次週の授業に臨むこと。

成　績　評　価　方　法

レポートまたはプレゼンテーション(50%)　平常点(50%)
(平常点は、授業への参加状況と態度、課題への取り組み姿勢などを総合して判断します。)

成　績　評　価　基　準

基礎的なアカデミック・スキル(学習に対する積極的な態度・技術、レジュメの作成・報告、討論方法)が修得できているか。

テキスト、参考図書
テキストは使用しない
その他（受講上の注意）
■学生10名程度を１グループとして１名の担当教員を置く （この担当教員は、２年間の指導教員として、本授業終了後も引き続き指導や助言を行う） ■授業は、原則としてグループ単位で行う。 ■授業の実施は、前期８回、後期８回を予定している
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

基礎演習 (Basic Seminar)			担当教員	安彦　智史、織田　暁子、加藤　優子、 升田　法継、矢橋　知枝、山中　千恵
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−1161	2単位	1年	演習	必修

<科目区分>　人間学部学部共通科目　修学基礎・キャリア形成科目

求める学習成果(教育目標)

建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　■計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

大学生としての最初の1年は、4年間にわたる学修をスムーズに開始できるための重要な期間として位置づけられる。このため、まず学科の教育目標および教育課程を理解するとともに、主体的な学びを軸とする大学での修学や将来のための基盤づくりに重点を置き、授業を展開する。

授業の到達目標

■本授業の内容や達成すべき目標について理解する。
■学科の教育課程や教育制度、授業形態について説明を受け理解する。
■履修に関する担当教員の助言・指導を受け、自己の学習計画・履修計画を作成できるようにする。
■大学での学び方を知るための講座、専門分野の基礎的な事柄についての演習を通して、
　自主学習を中心とした学習スタイルを確立し、学習に対する積極的な態度を身につける。
■附属図書館において図書館利用に関するセミナーを受講し、文献の検索方法等を理解し、
　学習や研究に必要な図書館利用法を身につける。

授　業　の　計　画

第1回：履修に関する担当教員の助言・指導を受け、自己の学習計画・履修計画を作成
第2回：専門分野の基礎学習
第3回：学生生活についての担当教員による個人面談を行い、学修状況などを確認
第4回：学修や研究に必要な文献検索方法(附属図書館利用法)
第5回：専門分野の基礎学習
第6回：専門分野の基礎学習
第7回：専門分野の基礎学習
第8回：専門分野の基礎学習
第9回：専門分野の基礎学習
第10回：専門分野の基礎学習
第11回：学生生活についての担当教員による個人面談を行い、学習状況などを確認
第12回：地域学習
第13回：専門分野の基礎学習
第14回：専門分野の基礎学習
第15回：専門分野の基礎学習
第16回：専門分野の基礎学習

授業外の学習方法

予習として、次週に学ぶべき内容について関連する書籍等を読み予備知識を得ておくこと。
復習として、授業時に配布された資料を見直す、または授業で取り上げられた事項を再考する等、理解したうえで次週の授業に臨むこと。

成　績　評　価　方　法

レポートまたはプレゼンテーション(50%)　平常点(50%)
(平常点は、授業への参加状況と態度、課題への取り組み姿勢などを総合して判断します。)

成　績　評　価　基　準

基礎的なアカデミック・スキル(学習に対する積極的な態度・技術、レジュメの作成・報告、討論方法)が修得できているか。

テキスト、参考図書
田中共子編『よくわかる学びの技法　第二版』ミネルヴァ書房　2200円
その他（受講上の注意）
■学生10名程度を１グループとして１名の担当教員を置く。 （この担当教員は、２年間の指導教員として、本授業終了後も引き続き指導や助言を行う） ■授業は、原則としてグループ単位で行う。 ■授業の実施は、前期８回、後期８回を予定している。 ■授業計画が変更になることもある。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

日本語文章表現 (Japanese Sentence Expression)			担当教員	大河　晴美、杣谷　英紀
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−1162	1単位	1年前期･後期	演習	必修

<科目区分>　人間学部学部共通科目　修学基礎・キャリア形成科目

求める学習成果(教育目標)

建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

毎回、なんらかの文書を書くことを実践する。具体的には、文章作成の基本的ルール、文章構成、誤用文と推敲の方法、手紙などの形式、時事や日本文化についての小論文など。また、随筆の課題として、「ふくい風花随筆文学賞」への応募を考えている。

授業の到達目標

・与えられた課題に対して、自分の意見を組み立てた上で文章で表現し、相手を説得することができる。
・さまざまな形式の表現に触れ、自分の考えを伝えるための作法や修辞法を会得する。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション
第2回：ノートの取り方
第3回：文章の構成とアウトライン（1）
第4回：文章の構成とアウトライン（2）
第5回：意見文を書く（1）
第6回：意見文を書く（2）
第7回：誤用文と推敲
第8回：修辞法と慣用句
第9回：随筆を書く（1）
第10回：随筆を書く（2）
第11回：手紙の書き方
第12回：レポートの作法（引用と注）
第13回：小論文を書く（1）
第14回：小論文を書く（2）
第15回：まとめ

授業外の学習方法

返却した原稿をきちんと見直すこと。

成　績　評　価　方　法

随筆、小論文など課題作文（40%）、小テスト（20%）、毎回の提出物（20%）、平常点（20%）
（平常点は、授業への参加状況、受講態度、コメント用紙の提出状況などを総合して判断する。）

成　績　評　価　基　準

作文は、構成や表記などの形式をまず重視し、加えて内容の充実度などを評価する。
文章表現のための基礎的な知識や作法を身につけているかを評価する。

テキスト、参考図書

西尾宣明編著『新版　日本語表現法-「書く」「話す」「伝える」ための技法-』・樹村房・2013年

その他(受講上の注意)

文章表現は、実際に書くことによってのみ上達する。出席しても何も書かなければ上達はないことを、肝に銘じておくように。

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

キャリア・デザインⅠ （Career Design Ⅰ）			担当教員	植月　百枝
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−1163	2単位	1年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　修学基礎・キャリア形成科目

求める学習成果（教育目標）

建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

変化の厳しい時代、これが正しいというキャリアモデルはありません。知人・友人などのネットワークや、自ら考え学び自分は将来どのような仕事をしたいのか、どうありたいのかを常に探求していくことが重要です。
この授業では、キャリア形成と仕事へのアプローチのために必要なことは何かを自ら考え、挨拶・電話対応・ビジネス文書作成などの実践と、グループワークを通してビジネス社会での基本マナーとルールを身につけていきます。

授業の到達目標

・自分自身のキャリア形成のため必要な意識と知識を修得する。
・社会人のマナーやルールを理解する。
・他者に敬意をはらい、円滑なコミュニケーションを修得する。

授　業　の　計　画

第１回：キャリアと仕事へのアプローチ
第２回：仕事の基本となる８つの意識
第３回：コミュニケーションとビジネスマナーの基本
第４回：話し方ときき方のポイント
第５回：指示の受け方と、報告・連絡・相談
第６回：訪問と来客応対の基本マナー
第７回：ビジネス文書の基本と書き方
第８回：電話応対の基本と重要性
第９回：情報収集と効果的な活用法
第10回：会社を取り巻く環境と経済の基本
第11回：データの読み方、まとめ方
第12回：ビジネスマナー実践　＊挨拶（お辞儀）、電話応対、面接対応、敬語、報告・連絡など①
第13回：ビジネスマナー実践　＊挨拶（お辞儀）、電話応対、面接対応、敬語、報告・連絡など②
第14回：ビジネスマナー実践　＊挨拶（お辞儀）、電話応対、面接対応、敬語、報告・連絡など③
第15回：「自分のキャリア」をデザインする
第16回：定期試験

授業外の学習方法

予習として、テキストを熟読し、日頃から自分の成長を思い描き、キャリア形成について考えること。
復習として、授業で学んだ挨拶、お辞儀の仕方、敬語などの言葉づかいなどを実生活で実践すること。

成　績　評　価　方　法

定期試験（50％）、演習（25％）、平常点（25％）
＊平常点は授業への出席状況、グループワークへの参加態度、実践への取り組みなどを総合して判断する。

成　績　評　価　基　準

・自分自身のキャリア形成のため必要な意識と知識を修得しているか。
・社会人のマナーやルールを理解しているか。
・他者に敬意をはらい、円滑なコミュニケーションをとることができるか。

テキスト、参考図書

『2016年版ビジネス能力検定ジョブパス３級公式テキスト』日本能率協会マネジメントセンター

その他（受講上の注意）
グループごとの発表が多いので、積極的に発言し協力してまとめること。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

フィールドワーク演習（ボランティア） （Fieldwork Practice（Volunteer））			担当教員	金田　明彦、谷　雅徳
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−1164	２単位	１年～４年	演習	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　修学基礎・キャリア形成科目

求める学習成果（教育目標）

建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■自他の理解能力■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　■計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

本プログラムには、学内外でのボランティア活動体験、社会的イベント・コンペティションなどへの参画体験が含まれる。教室や研究室で学習や研究をするのではなく、実際に社会での直接的体験を通して、優れた社会人となるための自己認識、自己啓発の機会とすることを目的とする。担当教員や活動支援団体による説明会への参加をもとに受講の意思を明らかにし、プログラムへの参加とする。

授業の到達目標

それぞれが今後学ぶ、または学んでいることの社会的意義を見いだすことができる。学生間はもとより地域社会で仕事や生活をしている社会人とのコミュニケーションが円滑に行える。

授　業　の　計　画

地域社会からのニーズを元にプログラムを立てるため、その解決すべき課題を元に授業計画を設定する。

４～７月　　事前ガイダンスの実施と計画の提示
８～９月　　現地にて研修
10～11月　　事後報告として、レポート・プレゼンテーション等の実施

授業外の学習方法

課題に関連する情報の収集

成　績　評　価　方　法

プログラムへの取組み（50%）　レポート（20%）　プレゼンテーション（30%）

成　績　評　価　基　準

課題について、的確な視点を持ち、その解決に向けて自身の考察による提案ができるか。

テキスト、参考図書

使用しない。

その他（受講上の注意）

本科目の履修登録については、それぞれの担当教員がガイダンスなどを実施し、各プログラムの参加者をもって受講者とするため、通常の受講登録手続きを要しない。

※個人参加のボランティア活動体験、社会的イベント・コンペティションなどへの参画体験等も対象とする場合があるので、受講希望者は、事前に科目担当者へ問い合わせること。

※単位認定については、参加するボランティア活動体験、社会的イベント・コンペティションのプログラム終了後、担当教員より課される課題等を全て提出し、単位認定するにあたり適当であると認めた場合のみとする。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

フィールドワーク演習（国際交流） （Fieldwork Practice（International Exchange））			担当教員	ＭＬ　スプリチャル
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−1165	２単位	１年～４年	演習	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　修学基礎・キャリア形成科目

求める学習成果（教育目標）

建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　■計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

本プログラムは、原則として、カリフォルニア州立大学フラトン校における「仁愛大学海外短期研修プログラム（２週間）」の参加者を受講者として実施する。受講者への事前授業を10回程度行い、夏期休暇中に約２週間の短期留学を実施する。現地学校での英会話クラス受講、現地学生との交流、観光などの研修を実施し、以後の学修・研究のための動機付けを得ることを目指す。

授業の到達目標

学外における自主的な活動や体験をとおして、通常の講義や演習で得られない視点や考察点を体得する。
本科目では、原則として、「仁愛大学海外短期研修プログラム（２週間）」への参画体験演習を行い、以後の学修・研究のための動機付けを得ること、異文化理解を深めることを目的とする。

授　業　の　計　画

第１回：全体説明会
第２回：事前授業（提出物、課題指示等）①
第３回：事前授業（提出物、課題指示等）②
第４回：事前授業（現地活動の企画等）①
第５回：事前授業（現地活動の企画等）②
第６回：事前授業（現地活動の準備等）①
第７回：事前授業（現地活動の準備等）②
第８回：事前授業（現地活動の準備等）③
第９回：事前授業（航空券、その他書類配付等）
第10回：事前授業（出発前の最終確認）

＜研修参加（９月）＞

第11回：事後授業（研修の報告および反省）
第12回：事後授業（レポート課題指示）
第13回：事後授業（プレゼン課題指示）
第14回：事後授業（プレゼン練習）
第15回：次年度プログラム説明会でプレゼンテーション（３月）

授業外の学習方法

準備期間においては、渡航先の国の文化や基本的情報について学ぶこと。さらに、英語教育センター等で英会話の練習を積むこと。

成　績　評　価　方　法

事前授業の取り組み（30%）、現地評価（50%）、事後授業の取り組み、およびレポート課題（20%）を総合評価する。

成　績　評　価　基　準

学外における自主的な活動や体験をとおして、通常の講義や演習で得られない視点や考察点を体得できたか。
学修・研究のための動機付けを得て、優れた社会人となるための自己認識を深めることができたか。

テキスト、参考図書

特になし

その他（受講上の注意）
仁愛大学海外短期研修の最小催行人数は原則として６名とする。よって受講生が少ない場合、非開講とすることがある。本科目の履修登録については、担当教員等が行うガイダンスと、本プログラムの参加をもって履修登録とするため、通常の履修登録手続きを要しない。 ※個人参加の海外語学研修および国内における外国人との国際交流などの企画体験等も対象とする場合があるので、事前（海外語学研修は渡航の２ヶ月前）に担当教員または英語教育センターに問い合わせること。また、個人で参加する海外語学研修の期間については、夏期休暇期間または春期休暇期間とし、単位認定時期については、夏期休暇期間の場合は当該年度の後期に、春期休暇期間の場合は翌年度の前期に単位認定する。したがって、卒業年次生による個人参加の海外語学研修は、夏季休暇中での開始・実施のみ単位認定する。 ※単位認定については、参加する海外語学研修・国際交流等のプログラム終了後、担当教員より課される課題等を全て提出し、単位認定するにあたり適当であると認めた場合のみとする。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

心理学概論Ⅰ (Introduction to Psychology Ⅰ)			担当教員	大森　慈子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS-F-2101	2単位	1年前期	講義	必修

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　基幹科目　心理学基礎

求める学習成果(教育目標)

心理学の研究方法や基礎的知識を習得する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

心とは何か、心はどこにあるのか、という疑問からはじめ、人がどのように感じ、何を考え、どのように行動するのかを捉えることで、心の働きやシステムについて学ぶ。心理学の歴史を紹介し、心理学における主要なテーマといえる知覚や学習といった基礎的分野を理解する。

授業の到達目標

■心の働きやシステムについて理解する
■心理学の歴史や主要な人物および研究成果に関する知識を得る
■心理学の基礎的分野における基本的な用語や内容の説明ができる

授　業　の　計　画

第1回：心理学とは
第2回：心理学の領域
第3回：心理学の歴史
第4回：感覚と知覚（1）
第5回：感覚と知覚（2）
第6回：生得的行動
第7回：初期経験
第8回：学習（1）
第9回：学習（2）
第10回：学習（3）
第11回：学習理論と行動療法
第12回：パーソナリティ（1）
第13回：パーソナリティ（2）
第14回：パーソナリティ（3）
第15回：まとめ
第16回：定期試験

授業外の学習方法

予習として、教科書の各回に関連する部分を読み、あらかじめ疑問点などをまとめておく。
復習として、授業時の板書や講義内容に基づいて各自が書き加えたノートを見直し、日常的な現象にあてはめて考え、理解を深める。

成　績　評　価　方　法

定期試験(90%)　平常点(10%)
(平常点は、授業への参加状況、質問紙の提出状況などを総合して判断します)

成　績　評　価　基　準

■心の働きやシステムについて理解しているか
■心理学の歴史や主要な人物および研究成果を知っているか
■心理学の基礎的分野における基本的な用語や内容の説明ができるか

テキスト、参考図書

テキスト：『心理学の基礎』　今田寛・宮田洋・賀集寛共編　培風館
参考図書については適宜紹介する

その他（受講上の注意）
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

心理学概論Ⅱ (Introduction to Psychology Ⅱ)			担当教員	大森　慈子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS-F-2102	2単位	1年後期	講義	必修

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　基幹科目　心理学基礎

求める学習成果(教育目標)

心理学の研究方法や基礎的知識を習得する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

心とは何か、心はどこにあるのか、という疑問に対し、人がどのように感じ、何を考え、どのように行動するのかを捉えることで、心の働きやシステムについて学ぶ。記憶や動機づけなど、心理学における主要なテーマに加え、ストレスや感情、さらに脳の働きを理解する。

授業の到達目標

■心の働きやシステムについて理解を深める
■心理学の研究における主要な人物および成果に関する知識を高める
■心理学の基礎的または応用的分野における基本的な用語や内容の説明ができる

授　業　の　計　画

第1回：記憶と忘却(1)
第2回：記憶と忘却(2)
第3回：記憶と忘却(3)
第4回：動機づけ
第5回：欲求不満とストレス(1)
第6回：欲求不満とストレス(2)
第7回：欲求不満とストレス(3)
第8回：感情と情動(1)
第9回：感情と情動(2)
第10回：脳と心(1)
第11回：脳と心(2)
第12回：睡眠と覚醒(1)
第13回：睡眠と覚醒(2)
第14回：睡眠と覚醒(3)
第15回：まとめ
第16回：定期試験

授業外の学習方法

予習として、教科書の各回に関連する部分を読み、あらかじめ疑問点などをまとめておく。
復習として、授業時の板書や講義内容に基づいて各自が書き加えてノートを見直し、日常的な現象にあてはめて考え、理解を深める。

成　績　評　価　方　法

定期試験(90%)　平常点(10%)
(平常点は、授業への参加状況、質問紙の提出状況などを総合して判断します)

成　績　評　価　基　準

■心の働きやシステムについて深く理解しているか
■心理学の研究における主要な人物および成果を詳しく知っているか
■心理学の基礎的または応用的分野における基本的な用語や内容の説明ができるか

テキスト、参考図書

テキスト:『心理学の基礎』　今田寛・宮田洋・賀集寛共編　培風館
参考図書については適宜紹介する

その他（受講上の注意）
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

心理学研究法Ⅰ (Research Methods in Psychology Ⅰ)			担当教員	杉島　一郎
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS-F-2103	2単位	1年前期	講義	必修

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　基幹科目　心理学基礎

求める学習成果(教育目標)

心理学の研究方法や基礎的知識を習得する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　■計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

様々な主観的で直観的な心理現象を、量的データとして客観的に分析する量的研究法の基礎的側面を概説する。主に実験的方法と観察法を主として講義を進める。

授業の到達目標

・心理学研究法の質的研究と量的研究の違いが理解できる。
・行動(behavior)を数量化する方法を身につける。
・基本的な心理学的実験法が理解できる。

授　業　の　計　画

第1回：科学的心理学とは
第2回：心理学研究の歴史
第3回：量的研究と質的研究について
第4回：主観的な現象を客観的に測定・分析する
第5回：行動観察法I
第6回：行動観察法II
第7回：実験的手法と実験計画
第8回：精神物理学
第9回：動物実験の手法
第10回：認知心理学における研究法
第11回：生理心理学における研究法
第12回：発達心理学における研究法
第13回：社会心理学における研究法
第14回：臨床心理学の研究法
第15回：質的研究法の実際
第16回：定期試験

授業外の学習方法

適宜参考図書や論文を紹介するので、自主学習を行うこと。また、授業中に課題を出すので、指定された期日までに完成させること。

成　績　評　価　方　法

毎回授業時に提出するブリーフレポート(20%)と数回行う課題(30%)および期末テスト(50%)。

成　績　評　価　基　準

・心理学研究法の質的研究と量的研究の違いが理解できたか。
・行動(behavior)を数量化する方法を身につけたか。
・基本的な心理学的実験法が理解できたか。

テキスト、参考図書

テキストは使用しなくて、その都度資料等を配布する。
参考図書は適宜紹介する。

その他(受講上の注意)

出席は毎回行うブリーフレポートをもとにとるので、授業中に課された内容を必ず書いて提出すること。

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

心理学研究法Ⅱ （Research Methods in Psychology Ⅱ）			担当教員	杉島　一郎
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS−F−2104	2単位	1年後期	講義	必修

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　基幹科目　心理学基礎

求める学習成果（教育目標）

心理学の研究方法や基礎的知識を習得する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　■計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

心理検査や質問紙などの調査的手法を中心とした心理学研究法を概観し、尺度構成や測定法、データの信頼性などの基本的知識を習得する。また簡単な質問紙の作成を通して、調査の実際を知る。

授業の到達目標

・心理学調査における、主観的な心理現象を客観的に測定する方法を身につける。
・質問紙法などの心理検査の成り立ちを理解する。
・尺度構成について理解し活用できるようにする。
・データの信頼性について理解する。
・心理検査や知能テストを測定の観点から理解する。

授　業　の　計　画

第1回：心理学における調査的手法
第2回：性格検査の成り立ちⅠ
第3回：性格検査の成り立ちⅡ
第4回：心理検査と測定法
第5回：尺度構成Ⅰ
第6回：尺度構成Ⅱ
第7回：質問紙の作成法
第8回：質問紙の分析法Ⅰ
第9回：質問紙の分析法Ⅱ
第10回：データの信頼性と妥当性Ⅰ
第11回：データの信頼性と妥当性Ⅱ
第12回：サーストン法による演習Ⅰ
第13回：サーストン法による演習Ⅱ
第14回：調査法の実際と問題点
第15回：まとめ
第16回：定期試験

授業外の学習方法

適宜参考図書や論文を紹介するので、自主学習を行うこと。また、授業中に課題を出すので、指定された期日までに完成させること。

成　績　評　価　方　法

毎回授業時に提出するブリーフレポート（20%）と数回行う課題（30%）および期末テスト（50%）。

成　績　評　価　基　準

・心理学調査における、主観的な心理現象を客観的に測定する方法を身につけたか。
・質問紙法などの心理検査の成り立ちを理解したか。
・尺度構成について理解したか。
・データの信頼性について理解したか。
・心理検査や知能テストを測定の観点から理解したか。

テキスト、参考図書

テキストは特に使用しない。適宜参考図書などを紹介する。

その他（受講上の注意）
出席は毎回行うブリーフレポートをもとにとるので、授業中に課された内容を必ず書いて提出すること。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

心理統計Ⅰ (Statistics for Psychology Ⅰ)			担当教員	森本　文人、大森　慈子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS-F-2107	2単位	1年前期	演習	必修

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　基幹科目　心理学基礎

求める学習成果(教育目標)

心理学の研究方法や基礎的知識を習得する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　■計画実行能力　■選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

心理学の実験や調査研究において必要となる統計的な基礎知識のうち、測定尺度に関する知識や、グラフや代表値などを用いてのデータの整理など、そのデータがどのようなデータであるかを明らかにするための解析の初歩である、記述統計の方法について学習する。
実際のデータを用いた説明を行い求めた値の意味を理解し、自分でもそれらが求めらるように演習を行う。

授業の到達目標

■統計的なデータの整理・記述ができる。
■尺度の概念を理解できる。
■記述統計の概念を理解し計算を行える。

授　業　の　計　画

第1回：概説（心理学における統計の意味）1
第2回：概説（心理学における統計の意味）2
第3回：統計学の基礎（変数の概念、色々な測定尺度）1
第4回：統計学の基礎（変数の概念、色々な測定尺度）2
第5回：データ整理の方法（度数分布とその図示法）1
第6回：データ整理の方法（度数分布とその図示法）2
第7回：代表値と散布度1
第8回：代表値と散布度2
第9回：正規分布1
第10回：正規分布2
第11回：測定値の変換（得点の標準化）2
第12回：測定値の変換（得点の標準化）2
第13回：相関関係1
第14回：相関関係2
第15回：まとめ
第16回：定期試験

授業外の学習方法

各回の授業を受けた後、教科書やノート、配布資料を見直して復習し、理解を深めること。また、練習問題を解くなどして、実際の計算やそれに伴うコンピュータ操作などのスキル向上を心がけすこと。

成　績　評　価　方　法

定期試験（80%）平常点（20%）
（平常点は、授業への参加状況・受講態度などを総合評価する）

成　績　評　価　基　準

■統計的なデータの整理・記述ができるか。
■尺度の概念を理解できるか。
■記述統計の概念を理解し計算を行えるか。

テキスト、参考図書

『心理・教育のための統計法〈第3版〉』　山内光哉著　サイエンス社

その他（受講上の注意）
1年次後期に開講される「心理統計Ⅱ」と、2年次に開講される「心理学基礎実験Ⅰ・Ⅱ」は、本授業で得られる基礎的知識が前提となる。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

心理統計Ⅱ (Statistics for Psychology Ⅱ)			担当教員	水田　敏郎、森本　文人
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS−F−2108	2単位	1年後期	演習	選択

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　基幹科目　心理学基礎

求める学習成果(教育目標)

心理学の研究方法や基礎的知識を習得する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　■計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

心理統計Ⅰ(記述統計)の内容をふまえて、さらに進んだ推測統計学の方法を解説し、演習します。具体的には、統計的仮説検定のうち、t検定、分散分析の考え方について詳しく説明し、実際に自分でもデータの分析や検定ができるようにPCによる演習も行います。

授業の到達目標

統計的仮説検定の基本的な考え方を理解する。実際の仮説検定を行い、結果を理解する。

授　業　の　計　画

第1回：母集団と標本①(標本抽出、標準誤差)
第2回：母集団と標本②(標本抽出、標準誤差)
第3回：統計的仮説検定の考え方①
第4回：統計的仮説検定の考え方②
第5回：2つの平均値の差の検定①(t検定)
第7回：2つの平均値の差の検定②(t検定)
第8回：分散分析①(1要因、2要因)
第9回：分散分析②(1要因、2要因)
第10回：分散分析③(1要因、2要因)
第11回：分散分析④(1要因、2要因)
第12回：SPSSを用いたデータ分析①
第13回：SPSSを用いたデータ分析②
第14回：SPSSを用いたデータ分析③
第15回：まとめ
第16回：定期試験

授業外の学習方法

授業で解説した内容について、教科書で復習を行ってください。十分な予習を行うことも授業の理解を促します。また、心理統計Ⅰの内容の理解が前提となるので、復習をすることをすすめます。週2回ヘルプデスクを開設しますので、わからないことは先輩のSAに相談できます。ぜひ活用してください。

成　績　評　価　方　法

定期試験(70%)　平常点(30%)
(平常点は、授業への参加状況・受講態度などを総合して判断します。)

成　績　評　価　基　準

統計的仮説検定の基本的な考え方を説明することができるか。実際の仮説検定を行い、結果を解釈することができるか。

テキスト、参考図書

テキスト：『心理・教育のための統計法〈第3版〉』　山内光哉著　サイエンス社

参考図書：『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』　森敏昭・吉田寿夫編著　北大路出版
『統計学のはなし』　蓑谷千凰彦著　東京図書
『SPSSにおける分散分析の手順』　遠藤健治著　北樹出版

その他（受講上の注意）
原則として「心理統計Ｉ」の単位を履修していることが必要です。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

性格心理学 (Personality Psychology)			担当教員	森　俊之
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS−ABC−2125	2単位	1年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　基幹科目　心理学専門

求める学習成果(教育目標)

教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。
人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。
組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

性格に関する諸理論を概観し、さまざまな個人差を理解するための枠組みについて学ぶ。その上で、自己や他者の性格をどのように理解し、対人関係の問題にどのように対処したらよいかを考える。

授業の到達目標

・性格心理学に関する基本的用語を説明できる。
・性格に関する心理学研究について説明できる。
・自分の性格について心理学的に考察し評価できる。

授　業　の　計　画

第1回：性格とは
第2回：性格の類型論①
第3回：性格の類型論②
第4回：性格の特性論①
第5回：性格の特性論②
第6回：脳と性格
第7回：性格の遺伝
第8回：ライフサイクルと性格
第9回：家族関係と性格
第10回：対人関係と性格
第11回：文化と性格
第12回：健康と性格
第13回：性格の病気：人格障害
第14回：性格の測定
第15回：まとめ
第16回：期末試験

授業外の学習方法

授業終了時に、次の授業までにしておいてほしいことを指示する。
とくに指示がないときも、授業で聞いたことを、自分や自分の身の周りの体験と照らし合わせてゆっくり考えることが望ましい。
授業内容に関する質問がある場合は、積極的に研究室に来て質問すること。

成　績　評　価　方　法

学期末に実施する筆記試験(60%)と授業中に指示する課題・授業時の態度等(40%)をもとに評価する。

成　績　評　価　基　準

・性格心理学に関する基本的用語を説明できるか。
・性格に関する心理学研究について説明できるか。
・自分の性格について心理学的に評価できるか。

テキスト、参考図書

教科書は指定しない。適宜、補助資料を配付する。
参考書は授業中、随時、紹介する。

その他（受講上の注意）
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

精神分析論 (Psychoanalytic Theory)			担当教員	西村　則昭
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS-AOO-2126	2単位	1年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　基幹科目　心理学専門

求める学習成果(教育目標)

教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

無意識を考えるフロイト以来の深層心理学を概説する。

授業の到達目標

・人間の心には意識できない無意識の部分があることを理解し、無意識の産物である夢や空想や神話を分析することができる。
・自分とタイプの異なる他者あるいは異性を理解し、尊重する精神をもつことができる。
・心を病んだ人々を理解し、その心に寄り添うことができる。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション
第2回：フロイト
第3回：ユング
第4回：夢分析1
第5回：夢分析2
第6回：エディプス・コンプレックス
第7回：母娘コンプレックス
第8回：心の影
第9回：内なる異性
第10回：同性愛
第11回：自己愛
第12回：死の欲動
第13回：心の病理の精神分析的理解1
第14回：心の病理の精神分析的理解2
第15回：まとめ

授業外の学習方法

配布資料を見直して復習し、次の授業に臨んでください。その上で、講義で説明したことを、自分のことを振り返つつ、自分のことに重ね合わせ、理解を深めるようにしてください。できれば夢を記録し、分析してみて下さい。

成　績　評　価　方　法

期末レポート(50%)、小レポート(30%)、平常点(20%)
(平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問等を総合して判断します)

成　績　評　価　基　準

・精神分析やユング心理学の用語、概念を正しく理解し、夢や空想や神話を分析することができるか。
・自分の心理傾向やタイプを理解し、他者の立場に立って、感じたり考えたりできるか。
・心の病理を理解し、共に生きる者として、心を病む人に寄り添う姿勢を持つことができているか。

テキスト、参考図書

テキストは使用しない。

その他(受講上の注意)

質問はメールでも受け付けます(nisimura@jindai.ac.jp)。

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

学習心理学 (Learning Psychology)			担当教員	杉島　一郎
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS−ABC−2129	2単位	1年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　基幹科目　心理学専門

求める学習成果(教育目標)

教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。
人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。
組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

学習による行動変容の法則を学び、臨床や教育、産業、日常生活に応用することを目指す。
学習とは経験により行動が変容する過程のことである。学校における勉学だけでなく、生活のあらゆる場面で私たちは学習し、自分の行動を変容させている。こうした行動変容は、環境に環境に存在する刺激との関係で法則化することができる。これまで明らかにされているさまざまな学習の方法について学び、日常生活に見られる色々な行動や、臨床的に問題のある行動、社会問題について理解を深め、社会において心理学が果たすべき意味を考えていく。

授業の到達目標

・種々の学習理論をその時代背景や社会的・臨床的問題とともに理解することができる。
・さまざまな行動について、学習理論による説明を試みることができる。
・心理学が社会に対していかに貢献できるかを考えることができる。

授　業　の　計　画

第1回：学習とは
第2回：こころの概念と学習
第3回：生得的行動と学習された行動
第4回：ワトソンの行動主義と学習理論
第5回：古典的条件づけの基本
第6回：古典的条件づけで学習されること
第7回：新行動主義
第8回：オペラント条件づけの基本
第9回：強化スケジュール
第10回：強化子の役割と本質
第11回：行動変容と行動療法
第12回：回避（逃避）学習
第13回：学習理論の日常生活への応用
第14回：Learned Helplessness（あきらめの学習）
第15回：現代社会の諸問題と学習理論
第16回：定期試験

授業外の学習方法

各回の講義を受けた後、その講義のノートや配布資料を見直して復習し、自分の日常的な思考や観察される現象にあてはめ、理解を深めるようにしてください。

成　績　評　価　方　法

毎回行うブリーフレポート（20%）、定期試験（80%）

成　績　評　価　基　準

・種々の学習理論をその時代背景や社会的・臨床的問題とともに説明することができるか。
・さまざまな行動について、学習理論による説明することができるか。
・心理学が社会に対していかに貢献できるかを考えることができるか。

テキスト、参考図書
教科書は指定しない。適宜、補助資料を配付する。 参考書は授業中、随時、紹介する。
その他（受講上の注意）
授業には積極的に参加し、指示された内容や自分の意見をブリーフレポートに書きこむようにしてください。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

人間関係論 (Human Relations)			担当教員	橋本　武志
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−T−2101	2単位	1年前期	講義	必修

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　基幹科目　コミュニケーション学基礎A群

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーション学の基礎的理論や知識を学修し、高度なコミュニケーション能力の基盤形成を行う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　■選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

自分と他人と関わることとはどういうことかを、小レポートを書きながらじっくりと考えることで、具体的な企画や表現を実践する基礎となっていながらも、見過ごされがちなタイプの「自己理解・他者理解」について考察する。
身近な自他関係について、授業内で小レポートを書いてもらい、人間関係についてのテキストを読みながら、人間関係の横軸(友人・家族・世間)と縦軸(倫理や規範)について講義する。

授業の到達目標

自分や他人との関わりをもつときに、特に意識していない要素(儀礼的無関心、距離の取り方、世間の圧力)などについて理解し、またそうした関わり全体を支配している、エートスや規範についても理解することを通じて、「自分」「他人」「関わり」という要素を掘り下げて考える。
この講義を通して、具体的な「企画や自己表現」の実践の土台となる自己や他者のより深い理解を目指す。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション
第2回：人間の定義①～一般的な人間の定義の諸説
第3回：人間の定義②～「あいだ」を生きるものとしての人間～
第4回：自分とはいったい何者なのだろうか
第5回：自己の多面性～ペルソナ・仮面・役割演技
第6回：他人との距離感①～世間、世間体、人目
第7回：他人との距離感②～アクセサリーや髪型が気になる理由
第8回：他人にどこまで口出しできるのか～異文化としての自己・異文化としての他者
第9回：自分だけが得をしてはどうしていけないのか～エゴイズム
第10回：葛藤と対立の調停①～「行為の結果」にもとづくルール
第11回：葛藤と対立の調停②～「性悪説」にもとづくルール
第12回：葛藤と対立の調停③～「行為の動機」にもとづくルール
第13回：他者への気遣い～マージナル・ケース
第14回：他者への気遣いの制度化～ケア労働と感情労働
第15回：まとめ

授業外の学習方法

毎回の講義を受けた後でその部分の配布資料とノートを見直して復習をし、次の授業に臨んでください。
そのうえで、授業で配布する参考文献一覧から該当部分を読むなどして、より理解を深めてください。

成　績　評　価　方　法

平常点(50パーセント)、レポート(50パーセント)
(平常点は、授業への参加状況、受講態度、毎回の授業内小レポートの提出状況、内容を総合して判断する)

成　績　評　価　基　準

・「自己」「他人」「関わり」といった言葉を表層的にではなく、深く理解しているか。
・日常特に意識していないが、人間関係を構成する基礎的な要素(儀礼的無関心、距離の取り方、世間の同調圧力、嫉妬、公平など)について理解しているか。

テキスト、参考図書
テキストは使用せず、毎回プリントを配布する。参考書については授業内で適宜示すが、授業初回ないし2回目に参考文献、参考映像一覧を配布する。
その他（受講上の注意）
授業中の私語については非常に厳しく注意する。重ねて注意しても他の受講者の妨げになるようであれば、退出させ、その回は欠席とみなす。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

コミュニケーション概論 (Introduction to Communication)			担当教員	山中　千恵
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−T−2102	2単位	1年前期	講義	必修

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　基幹科目　コミュニケーション学基礎A群

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーション学の基礎的理論や知識を学修し、高度なコミュニケーション能力の基盤形成を行う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

コミュニケーション学の諸相を学ぶ

授業の到達目標

社会学や言語学等さまざまな研究領域でコミュニケーションがどのように研究されて来たのかを学び、学際領域としてのコミュニケーション学について説明することができるようになる。

授　業　の　計　画

第1回：コミュニケーションを学ぶとは？
第2回：動物のコミュニケーション（1）
第3回：動物のコミュニケーション（2）
第4回：言語の獲得と発達過程（1）
第5回：言語の獲得と発達過程（2）
第6回：ノン・バーバルコミュニケーション
第7回：自己と他者
第8回：役割
第9回：「私」を演じる・表現する
第10回：恋愛のコミュニケーション
第11回：ジェンダーとコミュニケーション
第12回：家族のコミュニケーション
第13回：差別と排除
第14回：異文化コミュニケーション
第15回：総括

授業外の学習方法

講義後ノートを見直して復習し、講義内でしめされた専門用語を図書館等で調べ、取り上げられた文献を購読するようにしてください。その上で、講義で説明したことを、自分の身の回りの出来事に当てはめて考え、理解を深めるようにしてください。

成　績　評　価　方　法

中間、期末の達成確認テスト(70%)、平常点(30%)
平常点は授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します。

成　績　評　価　基　準

さまざまな研究領域でコミュニケーションがどのように研究されて来たのかを理解し、学際領域としてのコミュニケーション学について説明することができるか。

テキスト、参考図書

授業中に適宜紹介する。

その他(受講上の注意)

私語等、講義を妨害する学生には退出してもらう。単位を与えない場合もある。受講生の理解度によって授業計画には変更を加える可能性がある。

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

異文化理解 a (Cross-Cultural Understanding a)			担当教員	加藤　優子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−T−2103	2 単位	1 年前期	講義	必修

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　基幹科目　コミュニケーション学基礎A群

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーション学の基礎的理論や知識を学修し、高度なコミュニケーション能力の基盤形成を行う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

異文化コミュニケーション学の入門として、異文化理解に関する事柄を学びながら、異なる文化的背景を持つ人々とのコミュニケーションについて理解する。

授 業 の 到 達 目 標

・異文化コミュニケーション学の基礎を学ぶ。
・異文化理解に関する事柄について学ぶ。
・上記の事柄に関し、グループ・トレーニングを通して経験的な理解を深める。

授　業　の　計　画

第 1 回：異文化コミュニケーションの世界
第 2 回：文化とは？
第 3 回：なぜ人間はコミュニケーションをとるのか？
第 4 回：グループ・トレーニング（ICTを用いた異文化トレーニングの導入）
第 5 回：主なコミュニケーションモデル
第 6 回：非言語的コミュニケーション
第 7 回：異文化コミュニケーション
第 8 回：グループ・トレーニング（異文化トレーニングの実践）
第 9 回：コミュニケーションスタイルズ
第10回：ホフステードの文化次元
第11回：翻訳と通訳・異文化コミュニケーションと教育
第12回：グループ・トレーニング（ICTを用いた異文化トレーニングとのブレンディッド学習）
第13回：異文化コミュニケーション能力と改善
第14回：グループ・トレーニング（ICTを用いた異文化トレーニング内容の復習）
第15回：まとめ
第16回：定期試験

授 業 外 の 学 習 方 法

グループ・トレーニングでは、予習が必要です。あらかじめ指定された課題を予習した上で、次の授業に臨んでください。各回の講義を受けた後は、当該部分の配布資料を見直して復習をしてください。その上で、講義で説明したことを、自分の日常的な思考や観察される現象に当てはめて考え、理解を深めるようにしてください。

成　績　評　価　方　法

定期試験（50％）、小レポート（30％）、平常点（20％）
平常点は、授業の受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します。

成　績　評　価　基　準

・異文化コミュニケーション学の基礎的な用語について説明することができるか。
・異文化コミュニケーション現象を、学んだ知識に基づいて分析・説明することができるか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

テキストは使用しない。

その他（受講上の注意）
5分以上の遅刻3回で欠席1回とみなします。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

異文化理解ｂ (Cross-Cultural Understanding b)			担当教員	加藤　優子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-ABC-2128	２単位	１年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　基幹科目　コミュニケーション学専門

求める学習成果（教育目標）

・課題解決のために「企画・設計・実行・評価・改善」のプロセス全体にわたる効果的なプランとコミュニケーション戦略を構想し、実践する力を育成する。
・リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの４つのスキルを習得させ、異文化理解力を育み、実践的に使える英語力を育成する。
・課題解決のために社会学の知見や情報メディアコンテンツを活用するとともに、データを収集・分析・発信し、地域社会の文化を創造する力を育成する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

異文化コミュニケーション学の基礎的知識を踏まえ、異文化コミュニケーションと多文化共生に関連する重要な事柄について、グループ・トレーニングを交えながら学ぶ。これにより、異なる文化的背景を持つ人々とのコミュニケーションについての多角的な理解を深める。

授業の到達目標

・異文化コミュニケーションと多文化共生に関する重要事項について学ぶ。
・上記の事柄に関し、グループ・トレーニングも交えて理解を深める。

授　業　の　計　画

第１回：イントロダクション
第２回：多文化共生社会における異文化コミュニケーション研究の目的
第３回：文化
第４回：言語
第５回：価値観
第６回：日本語教育
第７回：医療
第８回：福祉・ソーシャルワーク
第９回：中間テスト
第10回：異文化コミュニケーション・トレーニングについて
第11回：異文化トレーニングとは
第12回：グループ・トレーニング（異文化トレーニングの実践）
第13回：アサーティブ・コミュニケーションとは
第14回：グループ・トレーニング（アサーティブ・コミュニケーションの実践）
第15回：まとめ
第16回：定期試験

授業外の学習方法

講義を受けた後は、当該分野の配布資料を見直して復習をしてください。各講義において示された参考資料も読み、理解を深めましょう。その上で、講義で説明したことを、自分の日常的な思考や観察される現象に当てはめて考え、理解を深めるようにしてください。

成　績　評　価　方　法

定期試験（50％）、小レポート（30％）、平常点（20％）
平常点は、授業の受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します。

成　績　評　価　基　準

・異文化コミュニケーションと多文化共生に関する用語について説明することができるか。
・異なる文化的背景を持つ人々とのコミュニケーション現象について、学んだ知識に基づき、論理的に分析し説明することができるか。

テキスト、参考図書
テキスト：特になし。 参考図書：参考文献は適宜授業内で告知する。
その他（受講上の注意）
本講義を受ける前に「異文化理解a」の単位を取得すること。 ５分以上の遅刻３回で欠席１回とみなします。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

日本語概論 (Introduction to the Japanese Language)			担当教員	天野　義廣
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−T−2104	2単位	1年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　基幹科目　コミュニケーション学基礎A群

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーション学の基礎的理論や知識を学修し、高度なコミュニケーション能力の基盤形成を行う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

・日本語の特色を、外国語の場合と対照させながら、発音・語彙・表記法・文法などの分野にわたって紹介する。
・各回とも原則として次の順序で展開する。
[出欠確認→当日取り上げる項目や学習目標の提示→資料プリントの配付→個々の新出事項の説明・課題についての解説・授業メモで出された質問や意見への回答など→次回の予告→「授業メモ」の記述(質問・感想・意見など)]

授業の到達目標

(1)日本語の特色を様々な面から認識し、日本語が日本人の感受性、思考法、発想等にどのような影響を及ぼしているかについても事例を通して思考する。
(2)上記の知見を今後のコミュニケーションや日本語教育に生かそうとする姿勢と技能を養う。

授　業　の　計　画

第1回：授業のねらいと進め方
第2回：世界の中の日本語
第3回：発音から見た日本語　その1
第4回：発音から見た日本語　その2
第5回：語彙から見た日本語　その1
第6回：語彙から見た日本語　その2
第7回：語彙から見た日本語　その3
第8回：表記法から見た日本語　その1
第9回：表記法から見た日本語　その2
第10回：文法から見た日本語　その1
第11回：文法から見た日本語　その2
第12回：文法から見た日本語　その3
第13回：地域方言と社会方言
第14回：日本人の言語表現
第15回：日本語はどうなるか
第16回：定期試験

授業外の学習方法

次回の授業で扱うテキストと配付プリントの範囲を予告する。事前にその部分のテキストを読み、プリントの課題に取り組んで内容の理解に努めておくこと。

成　績　評　価　方　法

定期試験(70%)・レポート(20%)・平常点(10%)
定期試験、レポート(2回)、平常点(出席状況、授業メモの内容、受講態度等)により評価する。

成　績　評　価　基　準

・授業で扱った範囲で、日本語学の基本的な用語の意味・用法を理解できているか。
・授業で扱った範囲で、日本語の発音・語彙・表記・文法等の主な特色を説明できるか。
・外国人学習者への日本語教育について、留意すべき指導項目や指導方法について理解できているか。

テキスト、参考図書
金田一春彦著『日本語』上・下（岩波書店　1988年）　なおほぼ毎回、テキストに準拠した資料プリントを配付する。資料プリントには、テキストの用語・事項の分かりやすい説明や具体例・関連する記事や調査データなどを取り上げる。
その他（受講上の注意）
・予告範囲を予習してきていることを前提に授業を進める。 ・配付した資料プリントはバインダー等で一つにまとめ、毎回持参すること。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

日本語口頭表現 (Oral Expression in Japanese)			担当教員	植月　百枝
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-S-2109	2単位	1年前期･後期	演習	必修

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　基幹科目　コミュニケーション学基礎B群

求める学習成果(教育目標)

言語スキル及びコミュニケーション・ツールの活用スキルを習得し、汎用的なコミュニケーション能力を育成する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

日本語表現の基礎「話す」･「きく」ことの基本を、講義と演習を繰り返すことにより理解し、体得していく。演習では、人前で明瞭な言葉と声で自分の意見や思いを的確に伝えられるようになることを目的に、自己紹介(自己PR)、スピーチ、グループ発表などを行う。

授業の到達目標

人前で、「言葉」を使って自分の意見や思いを過不足なく的確に相手に伝え、相手の考えをきちんと理解して聴くことができるよう「スピーキング能力」、「コミュニケーション能力」、「会話力」を高めることを目標とする。

授　業　の　計　画

第1回：「話す」ということ
第2回：演習①
第3回：「きく」ということ(聞く、聴く、訊く)
第4回：演習②
第5回：話の材料の集め方
第6回：話の材料のまとめ方
第7回：演習③
第8回：心をつかむ話し方
第9回：演習④
第10回：話す力をみがく(表現技術)
第11回：演習⑤
第12回：公の場での話し合い・会議
第13回：演習⑥
第14回：スピーチについて(卓話、報告、説明、発表)
第15回：演習⑦
第16回：定期試験(スピーキング試験)

授業外の学習方法

予習として、演習の課題発表の際には自分の考えをまとめ、声に出して練習しておくこと。
復習としては、授業時の内容をまとめ、次の授業で発表(スピーキング)できるようにしておくこと。

成　績　評　価　方　法

定期試験(50%)　演習(25%)　平常点(25%)　＊平常点は授業への参加状況、受講態度、演習への取り組み方等を総合して判断する。

成　績　評　価　基　準

人前でのスピーキングにおいて、自分の考えや意見を、きき手にわかりやすく、的確、明瞭に伝えているか。演習において、人の話を理解して心に受け入れ聴いているか。「言葉」の役割を理解し、積極的に他者とコミュニケーションをとり、会話力をみがいているか。

テキスト、参考図書

テキストは使用しない。(プリント資料を配布する)

その他（受講上の注意）
上記の授業計画は予定である。授業の進行状況によって変更することもある。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

情報メディア (Information Media)			担当教員	安彦　智史
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-S-2110	2単位	1年後期	講義	必修

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　基幹科目　コミュニケーション学基礎B群

求める学習成果(教育目標)

言語スキル及びコミュニケーション・ツールの活用スキルを習得し、汎用的なコミュニケーション能力を育成する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

情報化社会の発達に伴いメディアのあり方も進化を続けている。情報メディア学では、メディアの歴史やメディアが社会に与えてきた影響について理解を深める。さらに、メディアが発達したことで生じた問題や変化について考察・分析し、情報化社会の中でメディアを正しく認識する力を身に着ける。

授業の到達目標

社会学や言語学等さまざまな研究領域でコミュニケーションがどのように研究されて来たのかを学び、学際領域としてのコミュニケーション学について説明することができるようになる。

授　業　の　計　画

第1回：ガイダンス
第2回：「メディア」とはなにか1
第3回：「メディア」とはなにか2
第4回：マス・コミュニケーションの理論1
第5回：マス・コミュニケーションの理論2
第6回：マス・コミュニケーションの理論3
第7回：メディア・リテラシーを考える1
第8回：メディア・リテラシーを考える2
第9回：メディアがつくる記憶1
第10回：メディアがつくる記憶2
第11回：メディアがつくる記憶3
第12回：グローバル化するメディア産業1
第13回：グローバル化するメディア産業2
第14回：グローバル化するメディア産業3
第15回：まとめと達成度の確認

授業外の学習方法

講義後ノートを見直して復習し、講義内でしめされた専門用語を図書館等で調べ、取り上げられた文献を購読するようにしてください。その上で、講義で説明したことを、自分の身の回りの出来事に当てはめて考え、理解を深めるようにしてください。

成　績　評　価　方　法

中間の達成確認テストと期末のレポート(70%)、平常点(30%)
平常点は授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します。

成　績　評　価　基　準

情報メディア学の基礎知識をえ、それを説明することができるか。

テキスト、参考図書

授業中に適宜紹介する。

その他(受講上の注意)

私語等、講義を妨害する学生には退出してもらう。単位を与えない場合もある。受講生の理解度によって授業計画には変更を加える可能性がある。

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

デジタル・デザイン (Digital Design)			担当教員	金田　明彦
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-S-2111	2単位	1年前期	演習	必修

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　基幹科目　コミュニケーション学基礎B群

求める学習成果(教育目標)

言語スキル及びコミュニケーション・ツールの活用スキルを習得し、汎用的なコミュニケーション能力を育成する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　■計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

ビジュアル・コミュニケーションのための表現ツールとしてパーソナル・コンピュータ（マッキントッシュ）を駆使したデザイン手法のスキルを教示する。

授業の到達目標

デジタルツールの特性を把握し、アプリケーションの操作入力法、加工・デザイン手法、出力法に関する基礎的スキルを獲得する。

授　業　の　計　画

第１回：オリエンテーションと設備・機器解説
第２回：Illustratorの基本操作を元にした国旗やピクトグラムの作図①
第３回：Illustratorの基本操作を元にした国旗やピクトグラムの作図②
第４回：Illustratorの基本操作を元にした国旗やピクトグラムの作図③
第５回：Illustratorの基本操作を元にしたマップの作図①
第６回：Illustratorの基本操作を元にしたマップの作図②
第７回：Illustratorの基本操作を元にしたマップの作図③
第８回：Photoshopの基本操作
第９回：Photoshopの基本操作（画像入力と加工）①
第10回：Photoshopの基本操作（画像入力と加工）②
第11回：テーマに基づくビジュアルツールの課題制作①
第12回：テーマに基づくビジュアルツールの課題制作②
第13回：テーマに基づくビジュアルツールの課題制作③
第14回：テーマに基づくビジュアルツールの制作（中間提出）
第15回：データ整理と保存
（進行状況により変更の場合あり）

授業外の学習方法

課題に関連する情報や素材の収集および課題の制作

成　績　評　価　方　法

課題への取組み（50%）　課題成果（50%）

成　績　評　価　基　準

デジタルツールやアプリケーションの特性を理解し、それを活かした作業が行えることができるか。

テキスト、参考図書

テキストは使用しない。

その他(受講上の注意)

収容定員最大50名。２回以上の連続欠席は、理解不能となる一番の原因となる。課題制作のための進行スケジュールを厳守する。授業時以外にかなりの時間がトレーニングのために必要となる

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

オーラル・コミュニケーションⅠa (Oral Communication Ⅰa)			担当教員	ＭＬ　スプリチャル
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-S-2113	2単位	1年前期	演習	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　基幹科目　コミュニケーション学基礎B群

求める学習成果（教育目標）

言語スキル及びコミュニケーション・ツールの活用スキルを習得し、汎用的なコミュニケーション能力を育成する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

Each unit begins with a warm-up activity to introduce vocabulary and patterns, followed by listening exercises to foster comprehension of basic ideas and details. Speaking exercises introduce strategies to communicate meaning effectively.
（各回、語彙と構文の導入後に、基本概念とその発展の理解を促進するためにリスニング練習を行う。また、意味伝達を効果的に行うため、スピーキング練習を行う。）

授業の到達目標

Through successful completion of this course, participants will be able to easily engage in ‘everyday’ conversations in English at a high-beginner level of proficiency on a variety of topics.
（様々なトピックに関する日常会話を行うことができるよう、基本的な英語力を育成する）

授　業　の　計　画

第１回：Likes & Dislikes：Sentence Stress（Listening）
（得意不得意：文のストレス（リスニング）
第２回：Likes & Dislikes：Asking for Repetition（Speaking）
（得意不得意：繰り返し（スピーキング））
第３回：Money & Prices：Weak Vowels（Listening）
（金銭と価格：弱母音（リスニング））
第４回：Money & Prices：Asking Questions（Speaking）
（金銭と価格：質問（スピーキング）
第５回：Describing Family：Sentence Stress（Listening）
（家族紹介：文のストレス（リスニング））
第６回：Describing Family：Repeating Key Information（Speaking）
（家族紹介：重要な情報の繰り返し（スピーキング））
第７回：Talking About Past Actions：Disappearing Sounds（Listening）
（過去の話：消滅する音（リスニング））
第８回：Talking About Past Actions：Asking Questions（Speaking）
（過去の話：質問（スピーキング））
第９回：Describing Occupations：Sentence Stress（Listening）
（職業紹介：文のストレス（リスニング））
第10回：Describing Occupations：Using Examples for Clarification（Speaking）
（職業紹介：具体例（スピーキング））
第11回：Daily Routines：Weak Vowels（Listening）
（日課：弱母音（リスニング））
第12回：Daily Routines：Repeating Key Information（Speaking）
（日課：重要な情報の繰り返し（スピーキング））
第13回：Describing Location：Guessing Meanings（Listening）
（場所の説明：意味の推測（リスニング））
第14回：Describing Location：Shadowing（Speaking）
（場所の説明：シャドーイング（スピーキング））
第15回：Oral Presentations（発表）
第16回：Listening Examination リスニング試験

授業外の学習方法
Students are required to listen, repeat, and shadow the conversations provided on the CD which is included in the textbook as self-study.
成績評価方法
Proactive Roleplaying Participation（ロールプレイへの参加姿勢）20% At-Home Listening Exercises/Quizzes（授業外でのリスニング練習）20% Oral Presentations（プレゼンテーション）30% Listening Examination（リスニング試験）30%
成績評価基準
Participants can easily engage in ‘everyday’ conversations in English at a high-beginner level of proficiency on a variety of topics. （様々なトピックに関する日常会話を行うことができるよう、基本的な英語力が身に付いているか）
テキスト、参考図書
Communication Spotlight：Speaking Strategies & Listening Skills.（Second Edition） Graham-Marr, Alastair. ABAX ELT Publishers. 2013. ISBN：978- 1 -896942-65-0.
その他（受講上の注意）
This course requires proactively participating in pair-work and group exercises.
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

オーラル・コミュニケーションⅠb (Oral Communication Ⅰb)			担当教員	ＭＬ　スプリチャル
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-S-2114	2単位	1年後期	演習	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　基幹科目　コミュニケーション学基礎B群

求める学習成果（教育目標）

言語スキル及びコミュニケーション・ツールの活用スキルを習得し、汎用的なコミュニケーション能力を育成する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

Each unit begins with a warm-up activity to introduce vocabulary and patterns, followed by listening exercises to foster comprehension of basic ideas and details. Speaking exercises introduce strategies to communicate meaning effectively.
（各回、語彙と構文の導入後に、基本概念とその発展の理解を促進するためにリスニング練習を行う。また、意味伝達を効果的に行うため、スピーキング練習を行う。）

授業の到達目標

Through successful completion of this course, participants will be able to easily engage in ‘everyday’ conversations in English at a high-beginner level of proficiency on a variety of topics.
（様々なトピックに関する日常会話を行うことができるよう、基本的な英語力を育成する）

授　業　の　計　画

授業計画
第１回：Giving Instructions：Weak Vowels（Listening）
（指示：弱母音（リスニング））
第２回：Giving Instructions：Circumlocution（Speaking）
（指示：婉曲表現（スピーキング））
第３回：Describing Current Actions：Sentence Stress（Listening）
（現在の行動：文のストレス（リスニング））
第４回：Describing Current Actions：Paraphrasing（Speaking）
（現在の行動：言い換え（スピーキング））
第５回：Talking About Future：Casual English：gonna（Listening）
（未来についての語り：インフォーマルな英語gonna（リスニング））
第６回：Talking About Future：Asking Questions（Speaking）
（未来についての語り：質問（スピーキング））
第７回：Describing Foods：Sentence Stress（Listening）
（食べ物紹介：文のストレス（リスニング））
第８回：Describing Foods：Asking For Help（Speaking）
（食べ物紹介：支援の依頼（スピーキング））
第９回：Large Numbers：Understanding Tone Groups（Listening）
（多い数：トーングループ（リスニング））
第10回：Large Numbers：Hesitation Devices（Speaking）
（多い数：ためらいの技法（スピーキング））
第11回：Giving Directions：Vowel Intrusion（Listening）
（道案内：母音介入（リスニング））
第12回：Giving Directions：Shadowing（Speaking）
（道案内：シャードーイング（スピーキング））
第13回：Asking For Information：Blended Sounds（Listening）
（情報提供：混合音（リスニング））
第14回：Asking For Information：Asking About Meaning（Speaking）
（情報提供：意味の説明（スピーキング））
第15回：Oral Presentations（発表）
第16回：Listening Examination（リスニング試験）

授業外の学習方法
Students are required to listen, repeat, and shadow the conversations provided on the CD which is included in the textbook as self-study.
成績評価方法
Proactive Roleplaying Participation（ロールプレイへの参加姿勢）20% At-Home Listening Exercises/Quizzes（授業外でのリスニング練習）20% Oral Presentations（プレゼンテーション）30% Listening Examination（リスニング試験）30%
成績評価基準
Participants will be able to easily engage in ‘everyday’ conversations in English at a high-beginner level of proficiency on a variety of topics. （様々なトピックに関する日常会話を行うことができるよう、基本的な英語力が身に付いているか）
テキスト、参考図書
Communication Spotlight：Speaking Strategies & Listening Skills.（Second Edition） Graham-Marr, Alastair. ABAX ELT Publishers. 2013. ISBN：978- 1 -896942-65-0.
その他（受講上の注意）
This course requires proactively participating in pair-work and group exercises.
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

企画開発基礎演習 (Basic Practice in Plannning and Development)			担当教員	冨永　良史
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-AOO-2115	2単位	1年後期	演習	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　基幹科目　コミュニケーション学専門

求める学習成果(教育目標)

課題解決のために「企画・設計・実行・評価・改善」のプロセス全体にわたる効果的なプランとコミュニケーション戦略を構想し、実践する力を育成する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　■計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

新しいモノゴトを生み出すための、ココロとカラダの使い方を、多様な試行を通じて探索する。
狭い常識を打ち破り、視野を拡げ、捕われずに柔軟に考えるための、試行錯誤の場。失敗から学ぶ。

授業の到達目標

1．異なる価値観を持つ他者との対話から、新しい発想を生み出せる。
2．発想したことを、すぐに試行／試作につなげ、そこから学びを生み出せる。
3．自分の大学生活を、主体的に企画開発できる。

授　業　の　計　画

第1回：これからの学び・答えのない問いに向きあう
第2回：創り出すべきは、どんな答えなのだろう
第3回：ヒラメキは、いつ、どんな時にやってくるのか
第4回：どれくらい固定観念にとらわれているのか
第5回：失敗の先にしか成功はない
第6回：理想の環境が与えられることはない
第7回：考える前に、その場所に行って感じ取る
第8回：誰かの目線に重ねあわせ、発展させる
第9回：やってみなければわからないことは、やってみる
第10回：いつもと同じ行動からは、いつもの日常がやってくる
第11回：ありえないところに、ありえないものを置いてみる
第12回：計画と即興の間にある可能性
第13回：旧年を振り返り、新年を信念する
第14回：すべてから切り離された自由
第15回：あなたを企画開発する

授業外の学習方法

授業で生まれた学び、ヒラメキは、「必ず」実行すること。アタマで理解できることは、この授業の成果ではない。ココロとカラダで結果を感じ取って、次の授業にその成果を持ち寄って欲しい。

成　績　評　価　方　法

授業毎のミニレポート(40%)、期末レポート(30%)、授業への参加意欲と貢献(30%)。
「座っているだけ」でも「出席」ではあるが、「参加、貢献」とはみなさない。

成　績　評　価　基　準

1. 自分の殻を破って他者と対話し、触発しあおうとしているか。
2. 思いついたことを「まず、やってみる」という試行力があるか。
3. 授業での学びを、自分の成長、変化、深化に結びつけようとしているか。

テキスト、参考図書

必要に応じてレジュメを配布する。

その他(受講上の注意)

この授業に、正解と不正解の区別はない。どんな発言、発想にも可能性がある。あらゆる常識ハズレを歓迎する。この授業の究極のルールは「バカバカしさを否定しない、面白がる、そこから発展させる」。

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

地域研究概論 (Introduction to Area Studies)			担当教員	島岡　哉
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-AOC-2120	2単位	1年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　基幹科目　コミュニケーション学専門

求める学習成果(教育目標)

・課題解決のために「企画・設計・実行・評価・改善」のプロセス全体にわたる効果的なプランとコミュニケーション戦略を構想し、実践する力を育成する。
・課題解決のために社会学の知見や情報メディアコンテンツを活用するとともに、データを収集・分析・発信し、地域社会の文化を創造する力を育成する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

本講義は、越前・若狭地域の事例を通したエリアスタディーズと、他地域からまなぶエリアスタディーズの複合である。地域の具体的事例の分析、考察を通して、人文・社会科学のさまざまな学問領域の考え方に触れる「アカデミック・ガイダンス」を行う。

授業の到達目標

この講義を通して、人文・社会科学の幅広さに触れ、各学問領域の基礎的スキルを獲得する。そのうえで、自己の地域社会を対象化し、分析できる基礎体力を身につける。

授　業　の　計　画

第1回：明治国家と越前地域のダイナミズム(歴史学)
第2回：「越前」「若狭」エリアの変動(人文地理学)
第3回：近代国民国家から現代へ(社会史)
第4回：大都市と地方都市および過疎高齢化地域の二極化(社会学、経済学)
第5回：地域づくり・地域おこしの時代へ(地域社会学)
第6回：集合的記憶の継承をめぐって(文化人類学①)
第7回：現地調査(文化人類学②)
第8回：現地調査(文化人類学③)
第9回：計量調査に潜む罠(数理社会学、教育社会学)
第10回：ツーリズム・観光の現在と未来(メディア論)
第11回：情報統制①伝承と科学の複合を目指して(民俗学、歴史学、環境学)
第12回：情報統制②「減災社会」を目指して
第13回：情報統制③受益者は受苦者
第14回：他地域から学ぶ①地域の伝統的景観の「保存」に揺れた京都・木屋町
第15回：他地域から学ぶ②コンテンツ・ツーリズムの活用事例
第16回：定期試験

授業外の学習方法

各回の講義で提示した各学問領域における概念や理論の理解を、講義中に示した参考文献を読むことで深めていくこと。また、各学問領域の概念を用いて、日常生活世界を分析、考察できるようになるために、現代社会で起きている事象に関して積極的に調べ、考察すること。

成　績　評　価　方　法

各回の講義内に書いてもらうリアクション・ペーパー記載内容(出欠も兼ねる)が30%、定期試験70%で評価する。

成　績　評　価　基　準

各学問領域の考え方に基づき、自己の地域社会を対象化し、分析できる基礎体力が身についているかどうか。

テキスト、参考図書

カバー範囲が広いため、テキストの指定はしない。そのかわり、講義中に、参考文献および論文を明示する。

その他（受講上の注意）
真摯に学ぶ学生に対して、悪影響を与える学生には、単位を与えない。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

社会学入門 (Introduction to Sociology)			担当教員	島岡　哉
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-OOC-2121	2単位	1年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　基幹科目　コミュニケーション学専門

求める学習成果(教育目標)

課題解決のために社会学の知見や情報メディアコンテンツを活用するとともに、データを収集・分析・発信し、地域社会の文化を創造する力を育成する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

社会調査の意義と諸類型に関する基本的事項を解説する。社会調査の目的と歴史、社会調査の倫理、社会調査の方法の様々な分類について、実例を交えて学ぶ

授業の到達目標

・社会調査の目的について理解する。
・対象に応じて、適切な手法を選択できるようになること。
・官庁統計やデータアーカイブなどの統計資料を利用できるようになること。

授　業　の　計　画

第1回：講義概要
第2回：社会調査の目的と歴史
第3回：社会調査の倫理
第4回：社会調査の種類と特性(1)　国勢調査や官庁統計
第5回：社会調査の種類と特性(2)　質的研究
第6回：社会調査の種類と特性(3)　質問紙調査
第7回：質的研究の実際例(1)　インタビュー調査
第8回：質的研究の実際例(2)　参与観察
第9回：質的調査の意義と限界
第10回：質問紙調査の流れ(1)　問題意識と仮説構成
第11回：質問紙調査の流れ(2)　調査票作成
第12回：質問紙調査の流れ(3)　実査と分析
第13回：質問紙調査の意義と限界
第14回：社会調査の応用例
第15回：まとめと社会調査の課題
第16回：定期試験

授業外の学習方法

指定された教科書の各回の内容について、予め読んでおくこと。また該当箇所について授業内容および教科書を復習しておくこと。

成　績　評　価　方　法

・定期試験(50%)
・小テスト・小課題提出(50%)

成　績　評　価　基　準

・社会調査の目的について理解できているか。
・対象に応じて、適切な手法を選択できるようになっているか。
・官庁統計やデータアーカイブなどの統計資料を利用できるようになっているか。

テキスト、参考図書

適宜、講義中にプリントを配布します。

その他（受講上の注意）
この授業は、一般社団法人社会調査協会が認定する、「社会調査士」資格に必要な、社会調査の基本的事項に関して学ぶ標準カリキュラムのA科目に対応するものである。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

共生社会論 (Social Coexistence Studies)			担当教員	島岡　哉
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-AOC-2122	2単位	1年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　基幹科目　コミュニケーション学専門

求める学習成果(教育目標)

・課題解決のために「企画・設計・実行・評価・改善」のプロセス全体にわたる効果的なプランとコミュニケーション戦略を構想し、実践する力を育成する。
・課題解決のために社会学の知見や情報メディアコンテンツを活用するとともに、データを収集・分析・発信し、地域社会の文化を創造する力を育成する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

本講義は、「地域」「環境」「共生」をキーワードとし、社会変動の中でどのように地域社会が変容を遂げたのかについて学ぶ。取り扱うテーマは、民俗文化から近年のまちおこし、ボランティアの実践まで、多岐にわたる。自らが暮らし、生きてゆく地域を対象化してとらえるために、越前・若狭地域だけでなく、他の地域の事例と分析も扱う。本講義は、1年次「地域研究概論」で扱ったそれぞれの学問領域の考え方を、もう1段階レベルアップした形で、また、領域横断的な形で、地域社会の分析に適応・考察する内容となる。

授業の到達目標

地域特性を析出する力を身につけ、地域社会が抱える問題を対象化してとらえ、課題解決に資する力を身につける。卒業後には、共生社会を実現できる社会人になることを目指す。

授　業　の　計　画

第1回：ガイダンス —— 日常生活世界から地域文化を捉える
第2回：都市化の進展と伝統文化の共存 —— 京都・祇園祭の事例から
第3回：移住とむらおこし ——「田舎暮らし」の事例から
第4回：レジャーとむらおこし ——「バス釣り」の事例から
第5回：「ボランティアセンター」と「ボランティアコーディネーター」
第6回：社会福祉協議会、財団、公益財団法人、NPO、NGOと行政機関の関連性
第7回：災害ボランティアの実践① —— 阪神・淡路大震災（1995）
第8回：災害ボランティアの実践② —— 日本海重油災害（1997）
第9回：災害ボランティアの実践③ —— 東紀州水害（2004、講師の経験から）
第10回：災害ボランティアの実践④ —— 東日本大震災（2011～、講師の経験から）
第11回：福祉ボランティアの実践 —— 育児、介護、disabilityの人たちをめぐって
第12回：医療ボランティアの実践 —— 妊娠・出産から埋葬まで
第13回：スポーツボランティアの実践 —— スポーツ大会運営、地域スポーツ団体、障碍者スポーツ
第14回：ボランティアの担い手としての企業
—— 企業市民社会、メセナ、corporate social responsibility（CSR）
第15回：共生社会の実現に向けて —— 理論から実践への展開を目指して
第16回：定期試験

授業外の学習方法

講義中に示した文献・論文を読むことで地域特性の析出方法と他地域の事例を知ること。講義内で扱った自治体やNPOなどの地域の担い手が作るホームページ、ブログ等を適宜検索・閲覧し、理解を深めること。

成　績　評　価　方　法

リアクションペーパー記載の内容（出欠も兼ねる）20%、地域調査報告ミニレポート（20%）、定期試験60%。

成　績　評　価　基　準

地域特性を析出する力と、地域社会の抱える問題を調査、探索する力が身についているかどうか。それに基づき、実践的課題解決に向けての基礎的思考方法が身についているかどうか。共生社会の理念とその実践について理解を深めることができたか。

テキスト、参考図書
カバー範囲が広いため、テキストの指定はしない。そのかわり、講義中に、参考文献および論文を明示する。
その他（受講上の注意）
真摯に学ぶ学生に対して、悪影響を与える学生には、単位を与えない。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

社会言語学 (Sociolinguistics)			担当教員	加藤　和夫
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-OBC-2125	2単位	1年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　基幹科目　コミュニケーション学専門

求める学習成果(教育目標)

・リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの4つのスキルを習得させ、異文化理解力を育み、実践的に使える英語力を育成する。
・課題解決のために社会学の知見や情報メディアコンテンツを活用するとともに、データを収集・分析・発信し、地域社会の文化を創造する力を育成する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　■選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

わが国の言語学、日本語学分野での一大潮流となりつつある社会言語学とは、社会の中で生きる人間、ないしはその集団との関わりにおいて各言語現象、あるいは言語運用を捉えようとする学問である。授業では、日本語教育分野でも重要視されつつある社会言語学の内容について、現代日本語（受講生の多くの出身地である福井県の方言や全国諸方言を含む）の様々な事象を具体的に取り上げながら考察する。

授業の到達目標

日本語に存在する様々なバリエーションの背景にある社会的要因に気づくとともに、社会的存在としての言語を広い視野で客観的に観察し、豊かな人間関係を築くためのコミュニケーションストラテジーとしての言語機能をよく知り、使いこなすための知識、及びそれらの知識を背景としながら日本語を母語としない人たちに日本語を教えるための知識を身に付けることができる。

授　業　の　計　画

第1回：言葉選びの科学、理論言語学と社会言語学
第2回：社会言語学は面白い、言語共同体とアイデンティティ
第3回：言葉のバリエーション、地域方言と社会方言
第4回：方言の否定、方言の誇り、気づかれにくい方言
第5回：福井県方言の概要（1）
第6回：福井県方言の概要（2）
第7回：言葉とジェンダー
第8回：言葉と世代
第9回：親疎関係と言葉、敬語とポライトネス理論
第10回：場面と言葉、話題・機能と言葉
第11回：日本語の人称表現の特徴、人称表現によるキャラ立て
第12回：ダイグロシア状況、バイリンガル状況
第13回：言語決定論と言語相対論、言葉と文化
第14回：言葉の変化と乱れ、敬意逓減の法則
第15回：言語接触、国語と公用語、言語政策
第16回：試験

授業外の学習方法

集中講義であることから、期間中の予習・復習の時間が限られるので、事前にテキストの内容や参考文献に目を通して、理解した点や疑問点をノートに整理しておくこと。

成　績　評　価　方　法

講義への積極的参加度（20%）と試験（80%）による総合評価。

成　績　評　価　基　準

講義内容を通じて社会言語学の研究内容や研究方法について理解し、日本語のバリエーションとその背景にある要因について説明することができるか。

テキスト、参考図書

石黒 圭『日本語は「空気」が決める　社会言語学入門』 光文社新書　2013年

その他（受講上の注意）
集中講義であるので４日間を通して出席できる者のみが受講できる。受講後の質問等についてはメールで受け付ける。 kkatoh@ed.kanazawa-u.ac.jp
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英語学Ⅰ (English Linguistics Ⅰ)			担当教員	矢橋　知枝
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-OBO-2129	2単位	1年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　基幹科目　コミュニケーション学専門

求める学習成果(教育目標)

リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの4つのスキルを習得させ、異文化理解力を育み、実践的に使える英語力を育成する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

英語学を基礎から学び、英語を体系的に把握する。

授業の到達目標

英語という言語の概要・背景を学び、異文化理解力を育み、英語力を多面的に育成する。

授　業　の　計　画

第１回：オリエンテーション
第２回：身近にある「英語」とは
第３回：３種類のことば
第４回：３種類の英語
第５回：イギリス英語（１）　歴史
第６回：イギリス英語（２）　方言と標準語
第７回：イギリス英語（３）　発音・語彙・文法
第８回：オーストラリア英語（１）　歴史
第９回：オーストラリア英語（２）　特徴
第10回：アメリカ英語（１）　歴史
第11回：アメリカ英語（２）　発音・語彙・文法
第12回：アメリカ英語とイギリス英語
第13回：カナダ英語（１）　歴史
第14回：カナダ英語（２）　特徴
第15回：まとめ
第16回：定期試験

授業外の学習方法

予習として、教科書の各回に関連する頁を読み、あらかじめ疑問点等をまとめておく。講義を受けた後は、教科書の当該部分を見直した上で、興味をもったことを調べる。

成　績　評　価　方　法

定期試験（50％）　授業内レポート（30％）　平常点（20％）
平常点は、授業の受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します。

成　績　評　価　基　準

英語学の基礎が理解できているのか。
世界英語の観点より、異文化への理解ができているのか。

テキスト、参考図書

テキスト：平賀正子（著）　『ベーシック新しい英語学概論』　2016年　ひつじ書房

その他(受講上の注意)

遅刻３回で欠席１回とみなす。必ず英和辞書（電子辞書可）を持参すること。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英語音声学 (English Phonetics)			担当教員	矢橋　知枝
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-OBO-2131	2単位	1年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　基幹科目　コミュニケーション学専門

求める学習成果(教育目標)

リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの4つのスキルを習得させ、異文化理解力を育み、実践的に使える英語力を育成する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

英語の発音のメカニズムを理解し、英語音声の基礎的な知識を得る。

授業の到達目標

英語の発音のメカニズムを理解し、英語音声の基礎的な知識を得るとともに、正しい発音でコミュニケーションをとることができ、また、聞き取りができることを目指す。

授　業　の　計　画

第１回：オリエンテーション
第２回：現代英語の標準発音
第３回：つづり字と発音、音素
第４回：子音（１）　分類・閉鎖音
第５回：子音（２）　摩擦音・破擦音
第６回：子音（３）　側音・半母音
第７回：母音（１）　基本母音
第８回：母音（２）　抑止母音
第９回：母音（３）　開放母音
第10回：音の連続（１）　音節と結合・連続
第11回：音の連続（２）　脱落・同化
第12回：アクセント
第13回：リズム
第14回：イントネーション（１）　音調の構成
第15回：イントネーション（２）　音調の用法
第16回：定期試験

授業外の学習方法

予習・復習として、教科書付属のCDをよく聞き、何度も読む練習をし、モデルと同じような発音ができるよう、心がける。

成　績　評　価　方　法

定期試験（50%）　授業内レポート（30%）　平常点（20%）
平常点は、授業の受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します。

成　績　評　価　基　準

英語発音の仕組みを理解し、音声学の基礎的な知識を得られたか。

テキスト、参考図書

竹林滋・清水あつ子・斎藤弘子　『改訂新版　初級英語音声学』　2013年　大修館書店

その他(受講上の注意)

遅刻３回で欠席１回とみなす。必ず英和辞書（電子辞書可）を持参すること。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

人間と宗教 (Human Beings and Religion)			担当教員	都路　恵子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−1212	2単位	2年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　全学共通科目

求める学習成果(教育目標)

建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　■計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

「仏教の人間観」で学んだ基本を、実際の自分の人生を形成する力にまで高める実践篇の授業です。
徹底的に自分自身と向き合い(内観)、自分の人生を、死後の周りの人々への影響をも含めて考えます。
又、自らの「心の声」を身(行動)・口(言葉)・意(思い・考え)の三業を一致させて現実化することを体感する為、毎週様々な実践ワークの宿題を出します。
この「人間と宗教」の授業が、「本当に生きる」ことを目指す「仁愛兼済の生き方を育てる」授業の集大成となります。

授業の到達目標

・仏教の智慧を自分の生活の様々な場面において、応用実践できるようになる。
・徹底的に自分と向き合い、自らの「心の声」を自分にも他人にも、明確に言葉で伝えることができるようになる。
・執着を手放し、身(行動)・口(言葉)・意(思い・考え)の三業を一致させて現実化する仕組みを体得する。
・自分にとって最高の人生を生きるという覚悟を決める。

授　業　の　計　画

第1回：イントロ(1)初回スピーチ：この授業を通して、何を学び、どのような成長がしたいのか？
第2回：イントロ(2)2年生以上の学生による「仏教の人間観」復習授業
第3回：ブッダ(1)悟りの内容を理解する①:「心の声」に気付くノートワーク
第4回：ブッダ(2)悟りの内容を理解する②：ありがとう日記をつけるワーク
第5回：ブッダ(3)悟りの内容を理解する③：4週間後の自分に手紙を書く：身・口・意の三業リスト作り
第6回：ブッダ(4)悟りの内容を理解する④：言葉を変えると現実が変わるワーク
第7回：ブッダ(5)縁起・縁滅、業の在り方を知る1
第8回：ブッダ(6)縁起・縁滅、業の在り方を知る2
第9回：ブッダ(7)4週間後の自分への手紙・振り返りワーク
第10回：生き方としての仏教(1)3週間後の自分に手紙を書くワーク
第11回：生き方としての仏教(2)
第12回：親鸞『教行信証』の世界-アジャセ物語を通しての生き方の転換
第13回：まとめ(1)レポート提出　3週間後の自分への手紙・振り返りワーク
第14回：まとめ(2)弔辞を書くワーク
第15回：まとめ(3)最終スピーチ大会

授業外の学習方法

・図書館2階の指定図書コーナーにある書籍など、興味のある本、授業中に紹介する仏教書などをどんどん読んでみること。
・魅力的だと感じる人の生き方・働き方についての本やDVDなどを見るだけでなく、講演会や実際に会いに行き、話を聞くなど具体的に行動すること。
・授業中に紹介する実践ワークに関しては、身・口・意の三業を一致させ続けて、現実化する感覚を体得するまで続けてみること。

成　績　評　価　方　法

レポート(40%)、いかに自分と向き合い、日々実践したか(30%)、平常点(30%)
平常点は、講義の聞き方、ワークなどへの参加態度、スピーチ内容、毎回の感想文等で総合的に判断します。

成　績　評　価　基　準
・仏教に対して、正しい理解ができているか。他者にも教えられるほど理解を深めているか。 ・仏教の智慧を自分の人生に応用実践できるよう、自分の中で深く解釈しているか。 ・自分自身と誠実に向き合い、どのように生きていきたいかという問いに対する答えを自分の中から導き出し、それを具体的に現実化できているか。
テキスト、参考図書
川村妙慶「あなたは、あなたのままでいい」(PHP) 鈴木章子「癌告知のあとで」(探究社) および、「和」、「礼讃抄」、プリントを使用。
その他(受講上の注意)
・15回無遅刻・無欠席の学生には、皆勤賞を差し上げます。(原則として全出席を求め、遅刻は認めません。毎回の授業が実践ワークを通して連続発展していく内容である為。) ・初回のガイダンスには、必ず出席のこと。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

仏教の思想 (Views of Buddhism)			担当教員	西本　祐攝
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS-1211	2単位	2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　全学共通科目

求める学習成果(教育目標)

建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

ブッダと親鸞の思想のポイントを学ぶことを通して、人間の課題を学び、自らの生き方を問い尋ねていく。仏教思想における人間観を学び、自己理解と他者理解を深め、豊かな人間関係を築く上での人間力を涵養する。

授業の到達目標

ブッダと親鸞の生涯と基本的な思想を理解し、説明することができる。
仏教思想における人間観を学び、「自分とは何か」を考察し、表現することができる。
仏教思想を通して、豊かな人間関係のあり方を学び、その創造に努める姿勢を身につける。

授　業　の　計　画

第1回：イントロダクション
第2回：ブッダに学ぶ①　人間の課題
第3回：ブッダに学ぶ②　四苦に向きあう1
第4回：ブッダに学ぶ③　四苦に向きあう2
第5回：ブッダに学ぶ④　悟りとは何か1
第6回：ブッダに学ぶ⑤　悟りとは何か2
第7回：ブッダに学ぶ⑥　ブッダと出会った人びと1
第8回：ブッダに学ぶ⑦　ブッダと出会った人びと2
第9回：親鸞に学ぶ①　概説
第10回：親鸞に学ぶ②　ブッダの教えに生きる
第11回：親鸞に学ぶ③　理想と現実1
第12回：親鸞に学ぶ④　理想と現実2
第13回：親鸞に学ぶ⑤　教えとの出遇い、自己との出遇い
第14回：親鸞に学ぶ⑥　救いとは何か
第15回：親鸞に学ぶ⑦　共に生きる道
第16回：定期試験

授業外の学習方法

講義で学んだことを、日常生活のなかで思索し、自分とは何か、他者と共に生きるとはどういうことかを確かめるよう努めること。

成　績　評　価　方　法

定期試験(40%)　小レポート(20%)　平常点(40%)
(平常点は、出席、受講態度、課題に取り組む姿勢等で総合的に判断します。)

成　績　評　価　基　準

講義に対する理解度と、理解した内容を自らの課題として考察できているかどうかを基準にする。

テキスト、参考図書

『ブッダと親鸞』(東本願寺出版部)

その他(受講上の注意)

私語、携帯電話の使用は厳禁です。

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

哲学の世界観 (Philosophical Thinking)			担当教員	橋本　武志
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−1223	2単位	2年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　人間学関連科目

求める学習成果(教育目標)

建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　□コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

古代からの西洋の哲学・思想が生み出してきたさまざまなものの見方を紹介する。また、そうしたものの見方が現代に及ぼしている影響について講義する。

授業の到達目標

過去および現在の哲学独自の思考方法や批判的思考に慣れ親しむことを通じて、現代日本に生きる自分が歴史に制約された存在であることを認識すると同時に、大学生なら知っておくべき程度の、哲学・倫理学の基本的な概念を理解し、その術語を習得する。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーションと「世界観」概念の説明
第2回：神話的世界観ではなぜ不十分なのか？(ミュートスからロゴスへ)
第3回：哲学的思考の発祥(プレソクラテス1)
第4回：哲学的思考の展開(プレソクラテス2)
第5回：ロゴス思想の展開と原子論へ(プレソクラテス3)
第6回：対話という方法の発明(ソクラテスのディアレクティケー1)
第7回：「知る」とはどういう営みか？(ソクラテスのディアレクティケー2)
第8回：何を知れば、物事を本当に知ったと言えるのか？(プラトンのイデア論1)
第9回：何を知れば、物事を本当に知ったと言えるのか？(プラトンのイデア論2)
第10回：「机がわりの箱」は、机なのか、それとも箱なのか？(アリストテレスの目的論と全体論)
第11回：「机がわりの箱」は、机なのか、それとも箱なのか？(アリストテレスの存在論)
第12回：宇宙観の変化が人間観・世界観に与えた影響1
第13回：宇宙観の変化が人間観・世界観に与えた影響2
第13回：身体は一種の機械なのか？(デカルトの心身二元論)
第14回：知識の源泉としての自我(デカルトの自我論・知識論)
第15回：まとめ
第16回：定期試験

授業外の学習方法

毎回の講義を受けた後でその部分の配布資料とノートを見直して復習をし、次の授業に臨んでください。そのうえで、2回目の授業で配布する参考文献一覧から該当部分を読むなどして、より理解を深めてください。

成　績　評　価　方　法

定期試験(80%)、平常点(20%)
(平常点は、授業への参加状況、受講態度、毎回の授業内小レポートの提出状況を総合して判断する)

成　績　評　価　基　準

・哲学の基本的な用語や人名について、これを理解し、説明することができるか。
・授業で扱う西洋思想の流れを理解しているか。

テキスト、参考図書
テキストはとくに使用せず、適宜プリントを配布する。 参考図書については２回目の授業で一覧を配布するが、安価かつ容易に入手できるものを以下に記載しておく。 ・岩田靖夫『ヨーロッパ思想入門』（岩波ジュニア新書）　岩波書店　2003 ・伊藤邦武『物語　哲学の歴史』（岩波新書）　岩波書店　2012 ・熊野純彦『西洋哲学史　古代から中世へ』（岩波新書）　岩波書店　2006 ・熊野純彦『西洋哲学史　近世から現代へ』（岩波新書）　岩波書店　2006
その他（受講上の注意）
毎回授業内で小レポートを書いてもらう。私語は他の受講者の迷惑となるので厳禁。私語の目立つものはその場で注意するが、注意によっても改まらない場合、当日欠席扱いとするので注意されたい。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

文学の世界 (The World of Literature)			担当教員	杣谷　英紀
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−1224	2単位	2年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　人間学関連科目

求める学習成果(教育目標)

建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

横光利一は大正から戦前に活躍した作家であり、新しい表現の開拓者でもある。また、同時に人間関係や他者について深い苦悩を経験した一人の人間でもある。彼の散文表現を中心に、いわゆる「近代的自我」などを含む自己の問題について考察する。その際、意識の在り方と関係の深い言語表現の特性についても考察を深める。

授業の到達目標

・散文表現のレトリックについてその構造を理解できるようになる。
・他者や自己に対する認識の成立について、文学領域からのアプローチをはじめ様々な考え方を得ることができる。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション　菊地寛「形」
第2回：地域と中央　志賀直哉「清兵衛と瓢箪」
第3回：家族と自己　「笑われた子」
第4回：他者の発見　「御身」
第5回：他者と換喩　「赤い着物」「ナポレオンと田虫」
第6回：モダニズムの衝撃「頭ならびに腹」
第7回：人間関係と隠喩　「蝿」
第8回：分身の表象　梶井基次郎「Kの商店」
第9回：隠喩と物語　「春は馬車に乗って」
第10回：物語の構造　「日輪」(1)
第11回：物語の構造　「日輪」(2)
第12回：心理と小説　「機械」(1)
第13回：心理と小説　「機械」(2)
第14回：現代小説　村上春樹を読む
第15回：予備・まとめ

授業外の学習方法

テキストを必ず読んでから出席すること。

成　績　評　価　方　法

期末レポート(50%)、毎回のコメントペーパー(35%)、小テスト(15%)

成　績　評　価　基　準

・文学作品に表象された〈自己〉意識について説明できるか。
・自分で文学作品について方法意識をもって分析できるか。
・文学作品を鑑賞し、現実に繋がる問題を見つけて独自に考察できるか。

テキスト、参考図書

テキスト　横光利一『日輪・春は馬車に乗って　他八篇』(岩波文庫、1981年5月)

その他(受講上の注意)

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

歴史と地域文化 (History and Local Culture)			担当教員	久保　智康
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−1225	2単位	2年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　人間学関連科目

求める学習成果(教育目標)

建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　■選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

地域の歴史・文化は、そこに住む人がかたち作っていくものである。と同時に、それは時代の経過とともにより豊かなものになり、次の世代へと受け継がれていくのが望ましい。すでに過去から蓄積された福井の地域文化を歴史の中にたずね、それを受け継ぎ発展させる具体的方策を考える。

授業の到達目標

・他者だけでなく自己も地域の歴史・文化をかたち作る主体であることを理解できる。
・そのために地域の人々とコミュニケーションが積極的に行える。
・地域の歴史・文化に関する情報収集・探索能力を養成する。

授　業　の　計　画

第1回：「地域文化」とは何か
第2回：越前・若狭という地域の成り立ち
第3回：行政的地域としての越前・若狭
第4回：いつから地域産業は始まったか
第5回：「仏教王国ふくい」の原像を求めて
第6回：山寺と霊山
第7回：道元と蓮如
第8回：「念仏王国」、越前
第9回：元祖地域ブランド、越前焼
第10回：道がつなぐ越前・若狭
第11回：一乗谷文化
第12回：天領と藩領、そして福井県へ
第13回：近世・近代の地域ブランド、赤瓦と笏谷石
第14回：琉球、沖縄と越前
第15回：地域に住むこと、離れること
第16回：定期試験

授業外の学習方法

高校での日本史履修は問わないが、中学で学んだ程度の歴史は復習しておくことを勧める。授業を受けて抱いた疑問は、終了後、あるいは次回授業の際に質問などをして解決すること。福井新聞など地元紙に常時目を通して、授業に関係しそうな記事をチェックしておくこと。

成　績　評　価　方　法

定期試験(80%)　平常点(20%)
(平常点は授業への参加状況、受講態度等で総合的に判断します。)

成　績　評　価　基　準

地域の歴史・文化に関する過去・現在の事例に関して、自己の問題として認識し、具体的な関わり方を想定できるか。

テキスト、参考図書

テキストは使用せず、必要に応じてプリントを配布。

その他（受講上の注意）
できる限り前列の席で受講すること。画像を使用するが、漫然と見ているだけでなく、要点を極力ノートすること。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

人権と法 (Human Rights and Law)			担当教員	早川　秋子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−1221	2単位	2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　人間学関連科目

求める学習成果(教育目標)

建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　□コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

国民の基本的人権のあり方について、市民生活における契約、損害賠償、消費者、労働者、家族の様々な視点から整理する。

授業の到達目標

現代における多様な社会問題を取り上げ、相互に交錯する権利の実現を、いかにして法的解決に導くのかについて、基礎的知識を修得することを目的とする。

授　業　の　計　画

第1回：基本的人権の法的性格
第2回：自然人の権利能力と行為能力
第3回：人間らしく生きる権利(生存権)と人間らしく死ぬ権利(尊厳死)
第4回：法の下の平等と尊属殺規定
第5回：事例研究　死刑制度を考える
第6回：契約自由の原則と法規制
第7回：意思表示の取消と無効
第8回：無権代理と表見代理
第9回：婚姻の成立・効果
第10回：離婚　有責主義から破綻主義へ
第11回：親の権利・子の権利　嫡出推定
第12回：事例研究　代理契約の母と性同一性障害の父について考える
第13回：相続　相続人の権利と義務　法定相続
第14回：遺言　最後の意思表示
第15回：人権の尊重と法の支配について考える　(総まとめ)
第16回：定期試験

授業外の学習方法

各回の講義を受けた後で、テキストとノートの内容を見直して整理しておくこと。新聞などで時事問題や裁判ニュースなどをチェックしておくと、講義への関心度が高まり、理解しやすくなります。

成　績　評　価　方　法

筆記試験(ノート持ち込み可)60%　小レポート30%　平常点10%
(平常点は授業への参加状況・受講態度を総合的に判断します。)

成　績　評　価　基　準

日常生活において起こる様々な事柄やニュースを的確に理解し、法的解決に導くことができるか。

テキスト、参考図書

田中敦子・大野正博編　『法学入門』　成文堂　2015年　1,800円

その他(受講上の注意)

集中講義ですので、体調に注意して欠席しないようにして下さい。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

日本国憲法 (The Japanese Constitution)			担当教員	早川　秋子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−1222	2単位	2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　人間学関連科目

求める学習成果(教育目標)

建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　□コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

憲法の歴史を踏まえながら、憲法について判例を通して整理する。
平和主義については湾岸戦争以来の国際協調を軸として整理する。

授業の到達目標

法治国家における人間の生活は常に法律によって支配されているが、法律は憲法に違反して制定されてはならない。憲法は、個人の尊厳を達成するため国民が国家を規制する法である。これらの憲法に関する基礎知識を修得する。

授　業　の　計　画

第1回：憲法典の定義
第2回：日本国憲法成立の由来
第3回：ポツダム宣言の示した新秩序実現
第4回：戦争放棄 —— 集団自衛権と自衛隊海外派遣
第5回：象徴天皇と国事行為
第6回：基本的人権　新しい人権(プライバシー権)
第7回：基本的人権　表現の自由と公共の福祉・自主規制
第8回：事例研究　靖国神社公式参拝の問題点
第9回：国会中心立法・二院制(両院制)・衆議院の優越性
第10回：行政権内閣帰属の原則とその注意点
第11回：司法権の独立と独立制限
第12回：違憲審査制 違憲判決の具体的整理
第13回：事例研究　在日外国人に対する参政権の付与は必要か
第14回：地方自治の本旨
第15回：憲法改正
第16回：定期試験

授業外の学習方法

各回の講義を受けた後で、テキストとノートの内容を見直して整理しておくこと。新聞などで時事問題や裁判ニュースなどをチェックしておくと、講義への関心度が高まり、理解しやすくなります。

成　績　評　価　方　法

定期試験60%　小レポート30%　平常点10%(平常点は授業への参加状況・受講態度を総合的に判断します。)

成　績　評　価　基　準

日常生活において起こる様々な事柄やニュースを法的に理解し、自分の言葉で他者に適切に説明することができるか。

テキスト、参考図書

田中敦子・大野正博編　『法学入門』　成文堂　2015年

その他(受講上の注意)

積極的に参加する意識をもって受講して下さい。

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

人間と環境B (Human Beings and the Environment B)			担当教員	前田　桝夫
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−1231	2単位	2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　環境・健康科目

求める学習成果(教育目標)

建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　□コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

人間と人間を取り巻く環境(自然環境)について学び、人間は環境とどのように関わりをもってきたのか、特に生きるための糧を得るための食との関係を基点に過去、現在、未来について考える。グループワークにより、ディスカッション力も身に付ける。

授業の到達目標

人間が生きるために自然との営みとしての食のエネルギー生産を学び、人の生存と共生観を構築する。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション　生命について
第2回：生命と地球の45．5億年
第3回：生命の誕生　生命のしくみ(エネルギーと分裂)
第4回：27億年前のビックイベント　酸素発生型光合成生物進化
第5回：生命と地球の共進化　酸素の役割
第6回：2つの生命体　原核生物と真核生物
第7回：多細胞生物の進化　減数分裂
第8回：4．5億年前の第2のビックイベント　オゾン層形成　生存域の拡大(陸上)
第9回：多様な生命の地球の誕生
第10回：地球環境と植物の進化
第11回：植物と動物の共進化
第12回：ヒトの出現
第13回：人と動物の共生
第14回：人と植物との共生　農業
第15回：人と多様な共生系の確立
第16回：定期試験

授業外の学習方法

生命が極めて限定された環境で生きていることに興味関心を寄せ、情報収集を行い、自分の実知識とする。

成　績　評　価　方　法

定期試験(60%)　小レポート(20%)　平常点(10%)
(平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します。)

成　績　評　価　基　準

人間が生きるために自然との営みとしての食のエネルギー生産を学び、人の生存と共生観を構築することができたか。

テキスト、参考図書

必要に応じて提示する。

その他(受講上の注意)

必要に応じて提出物を求める。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

ふくい総合学 (General Studies of Fukui)			担当教員	金田　明彦
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−1232	2単位	2年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　環境・健康科目

求める学習成果(教育目標)

建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

様々な分野・専門領域における「ふくい」についての現況の課題や行政施策等の理解促進を目的とする授業です。本授業では特に「ふくい」の中の「越前市」に焦点をあて、市職員を招聘し、学生へ市計画等の事業の現状、将来構想、施策の特徴を講義し、「市を取り巻く状況」に始まり、「戦略的取組」「行政課題」や「今後の展望」などを取り上げます。
後半は、本学各学科各領域からの視点で越前市や地域との関連性について取り上げ、大学の立地自治体の特徴、文化の理解を深めてもらえるような内容となっています。

授 業 の 到 達 目 標

本学が立地する自治体である「越前市」の特徴や行政全般、さらには独自の文化等に対しての理解が深まる。

授　業　の　計　画

第１回：「ふくい」総合学」趣旨説明＜ 総論＞越前市を取り巻く状況
第２回：戦略的取り組み＜まちづくり編＞コウノトリと里山の人たちとの共生、かこさとしさんと読書のまち宣言
第３回：戦略的取り組み＜福祉編＞検診を受けよう　新しい健康づくり、子どもの笑顔が輝く環境づくり
第４回：戦略的取り組み＜文化編＞国府が置かれた歴史あるまちづくり、たけふ菊人形63年のあゆみ
第５回：戦略的取り組み＜産業編＞越前市の産業活性化（産業活性化プラン・工芸の里構想）
第６回：戦略的取り組み＜環境編＞下水道事業で人と環境のネットワークづくり、もったいない！捨てないで資源回収しよう
第７回：行政課題（１）地域が支える災害に強いまちづくり、まちづくりと交通体系
第８回：行政課題（２）越前市の財政、越前市で暮らそう！～新生活を始めるなら中心市街地がおすすめ～
第９回：行政課題（今後）オープンデータを利用したまち情報の発信、きくりんがちょっといいこと教えちゃうリン！～越前市の嬉しい情報をお届けします～
第10回：行政課題（展望）市民協働プロセスの確立、市民交流・ネットワークづくり
第11回：心理学の視点から
第12回：コミュニケーション学の視点から
第13回：健康栄養学の視点から
第14回：子ども教育学の視点から
第15回：まとめ

授 業 外 の 学 習 方 法

履修登録時に配付する各回の授業内容を事前に読み予習しておくこと。また、復習としては授業時の板書やプリントに基づいて各自のノートに授業内容をまとめておくこと。

成　績　評　価　方　法

レポート（60％）　平常点（40％）
（平常点は、授業時のリアクションペーパー、受講態度等を総合して判断する。）

成　績　評　価　基　準

「越前市の人とまち、その文化」というテーマで、「越前市の取組み」についての現況の課題や今後の施策内容等を理解できたか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

毎回プリントを配布。

その他（受講上の注意）
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

スポーツC (Sports C)			担当教員	野田　政弘
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−1233	1単位	2年後期	実技	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　環境・健康科目

求める学習成果（教育目標）

建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

□自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

青年期におけるスポーツ体験は、体力づくりや健康の維持増進に関する知識と実践方法の理解を促進し、生涯にわたってスポーツやレクリエーションを楽しむことのできる基礎を培う。健康の維持、体力の向上を図るとともに仲間づくりをとおした生涯スポーツへの展開を、宿泊体験を伴うスキーをとおして行なう。

授業の到達目標

野外の自然に囲まれた環境に身をおくことによって、自然に親しみ多様で変化に富んだ魅力を知る。スキーの基礎理論および実技をとおして自然を理解し、安全かつ効果的に知識や技術を習得する。宿泊体験を伴う集団行動をとおして、他者理解や他者との人間関係を形成する。

授　業　の　計　画

2年生の後期（2月下旬）に集中形式（3泊4日）で行なう。
実習地は長野県栂池高原スキー場を予定。
第1日：大学にて事前指導ガイダンス（実習の概要、用具・服装、スキー場の説明等）
第2日：午前、大学からスキー場へ移動、到着後開講式、用具の確認
　　午後「班別講習①」（班分け、課題設定）、夜（ミーティング）
第3日：午前「班別講習②」、午後「班別講習③」、夜（ミーティング）
第4日：午前「班別講習④」、午後「班別講習⑤」、夜（ミーティング）
第5日：午前「総合滑走」、 午後スキー場から大学へ移動

授業外の学習方法

事前にDVD、図書などの視聴覚資料でスキーやスキー場の情報を学習しておく。授業で習った技術をイメージして体の動きを確認する。

成　績　評　価　方　法

技術の習得（60%）、レポート（20%）平常点（20%）。平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断します。

成　績　評　価　基　準

基本的な技術を習得できている。スキー場での安全確認ができている。用具を適切に管理できている。授業に積極的な態度で取り組んでいる。

テキスト、参考図書

必要に応じて資料を配付する。

その他（受講上の注意）

天候により授業日程、内容を変更することがある。受講者が少数の場合は非開講（中止）とすることがある。諸経費（交通費・宿泊費・リフト券など）が別途必要となる。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英語Ⅱa (English Ⅱa)			担当教員	加藤　優子、ＭＬ　スプリチャル、 ME　ハウカ、紺渡　弘幸、 バトラー田中　ポール、山口　和代
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS-1241	1単位	2年前期	演習	必修

<科目区分>　人間学部学部共通科目　外国語科目

求める学習成果(教育目標)

建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

Following a 'Warm-up' activity to introduce the theme of the unit, students will be introduced to the relevant grammar and vocabulary through a series of listening and speaking exercises. Reading and writing exercises will follow to reinforce their knowledge of the material.

授業の到達目標

Expanding upon the material covered in English I a and I b, further attention will be given to developing the four core skills of language proficiency. Students will continue to develop the speaking skills necessary to express themselves in general areas of conversation, such as talking about their daily lives and exchanging personal information. Listening practice will focus on listening for key words and specific information. Reading exercises will focus on the important skills of scanning for general understanding as well as reading for specific content. Writing activities will center on developing the student's ability to express his or her own thoughts and opinions in an easy-to-understand manner.

授　業　の　計　画

第1回：Class Introduction
第2回：Unit 1 Lifestyles①
第3回：Unit 1 Lifestyles②
第4回：Unit 2 Leisure①
第5回：Unit 2 Leisure②
第6回：Unite 3 Getting along①
第7回：Unite 3 Getting along②
第8回：Review
第9回：Unit 4 Interests①
第10回：Unit 4 Interests②
第11回：Unit 5 Telling a story①
第12回：Unit 5 Telling a story②
第13回：Unit 6 Celebrations①
第14回：Unit 6 Celebrations②
第15回：Review
第16回：Examination

授業外の学習方法

Before each unit, students are to familiarize themselves with the class material by reviewing the 'Grammar reference' pages for each unit and completing the exercises on those pages. Students must also complete homework assignments as instructed by their teachers; such as the written assignments suggested in the textbook, and/or accessing the online 'Digibook' (listening activities and video worksheets) to reinforce their in-class studies, as well as other assignments. Furthermore, students will have a TOEIC component to study throughout the course.

成　績　評　価　方　法

Outside-class Assignments - 20%
Proactive In-class Participation - 20%
Examination - 60%

成　績　評　価　基　準
Students' abilities to participate in conversations and express opinions on a variety of subjects will be evaluated as well as their abilities to express opinions in written form and to comprehend reading passages.
テキスト、参考図書
Breakthrough Plus 2 - Miles Craven - 2012 - Macmillan Publishers Limited - ISBN 978- 0 -230-43819- 4 & THE TOEIC TEST TRAINER Reading Supplement - Jefferey Hulihan, et al - 2007- Cengage Learning - ISBN 978- 4 -902902-87- 7
その他（受講上の注意）
At the start of each class, a short time will be spent on preparation for the TOEIC. Students are encouraged to take the TOEIC during their studies at the university. Also, at least one class will be held in the E-Lounge (E-301) during the semester to familiarize the students with the latest available English self-study materials.
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英語Ⅱb (English Ⅱb)			担当教員	加藤　優子、ＭＬ　スプリチャル、 ME　ハウカ、紺渡　弘幸、 バトラー田中　ポール、山口　和代
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−1242	1単位	2年後期	演習	必修

<科目区分>　人間学部学部共通科目　外国語科目

求める学習成果(教育目標)

建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

Following a 'Warm-up' activity to introduce the theme of the unit, students will be introduced to the relevant grammar and vocabulary through a series of listening and speaking exercises. Reading and writing exercises will follow to reinforce their knowledge of the material.

授業の到達目標

Expanding upon the material covered in English I a and I b, further attention will be given to developing the four core skills of language proficiency. Students will continue to develop the speaking skills necessary to express themselves in general areas of conversation, such as talking about their daily lives and exchanging personal information. Listening practice will focus on listening for key words and specific information. Reading exercises will focus on the important skills of scanning for general understanding as well as reading for specific content. Writing activities will center on developing the student's ability to express his or her own thoughts and opinions in an easy-to-understand manner.

授　業　の　計　画

第1回：Class Introduction
第2回：Unit 7 Food & Drink①
第3回：Unit 7 Food & Drink②
第4回：Unit 8 Rules①
第5回：Unit 8 Rules②
第6回：Unit 9 Adventures①
第7回：Unit 9 Adventures②
第8回：Review
第9回：Unit 10 Health①
第10回：Unit 10 Health②
第11回：Unit 11 Comparisons①
第12回：Unit 11 Comparisons②
第13回：Unit 12 The Modern World①
第14回：Unit 12 The Modern World②
第15回：Review
第16回：Examination

授業外の学習方法

Before each unit, students are to familiarize themselves with the class material by reviewing the 'Grammar reference' pages for each unit and completing the exercises on those pages. Students must also complete homework assignments as instructed by their teachers; such as the written assignments suggested in the textbook, and/or accessing the online 'Digibook' (listening activities & video worksheets) to reinforce their in-class studies, as well as other assignments. Furthermore, students will have a TOEIC component to study throughout the course.

成　績　評　価　方　法

Outside-class Assignments - 20%
Proactive In-class Participation - 20%
Examination - 60%

成　績　評　価　基　準
Students' abilities to participate in conversations and express opinions on a variety of subjects will be evaluated as well as their abilities to express opinions in written form and to comprehend reading passages.
テキスト、参考図書
Breakthrough Plus 2 - Miles Craven - 2012 - Macmillan Publishers Limited - ISBN 978- 0 -230-43819- 4 & THE TOEIC TEST TRAINER Reading Supplement - Jefferey Hulihan, et al - 2007- Cengage Learning - ISBN 978- 4 -902902-87- 7
その他（受講上の注意）
At the start of each class, a short time will be spent on preparation for the TOEIC. Students are encouraged to take the TOEIC during their studies at the university. Also, at least one class will be held in the E-Lounge（E-301）during the semester to familiarize the students with the latest available English self-study materials.
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

フランス語Ⅱａ (French Ⅱa)			担当教員	大竹口　麻里
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−1243	１単位	２年前期	演習	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　外国語科目

求める学習成果(教育目標)

建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

フランス語Ia・bで習得した初級文法を復習しながら様々な場面で使われる会話能力を養う。

授業の到達目標

フランス語で日常的な場面で使われる会話の習得を目指す。

授　業　の　計　画

第１回：第０課　発音のルール・あいさつをする／名前を聞く、言う
第２回：第１課　きみは日本人？　国籍や職業をたずね、それに答える
第３回：第１課　きみは日本人？　出身や学部をたずね、それに答える
第４回：第２課　きみはバイトをしているの？　さまざまなーｅｒ動詞を肯定、否定で使う
第５回：第２課　きみはバイトをしているの？　否定疑問形でたずね、それに答える
第６回：第３課　スポーツは好き？　「～すき？」をたずね、それにニュアンスをつけ答える
第７回：第３課　スポーツは好き？　形容詞を使ってコメントする
第８回：第４課　どこでお昼食べるの？　「どこで」「だれを」をたずねる
第９回：第４課　どこでお昼食べるの？　質問の答えを展開させる
第10回：フランス映画鑑賞
第11回：第５課　兄弟姉妹はいる？　「～をもっている／持っていない」を表現する
第12回：第５課　兄弟姉妹はいる？　年齢や学年をたずね、それに答える
第13回：第６課　あなたのお姉さんはどんな感じですか？　家族の名前や身分、職業をたずね、それに答える
第14回：第６課　あなたのお姉さんはどんな感じですか？　人について好き、きらいを言う
第15回：これまでのまとめ
第16回：定期試験

授業外の学習方法

毎回５問程度の書き取りを各回の授業の始めに行うので必ず勉強してくること。

成　績　評　価　方　法

定期試験50％　平常点50％（平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙等の提出状況等を総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

日常的な場面で使われるフランス語での会話ができるか。

テキスト、参考図書

レナ・ジュンタ　清岡智比古　「ぜんぶ話して！」　白水社　2015年

その他(受講上の注意)

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

フランス語Ⅱｂ (French Ⅱb)			担当教員	大竹口　麻里
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−1244	1単位	2年後期	演習	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　外国語科目

求める学習成果(教育目標)

建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

前期に引き続き、フランス語Ia・bで習得した初級文法の復習をしながら、様々な場面で使われる会話能力を養う。

授業の到達目標

フランス語で日常的な場面で使われる会話の習得を目指す。

授　業　の　計　画

第１回：第７課　ふだん、夜は何している？　さまざまな活動について話す
第２回：第７課　ふだん、夜は何している？　週末の過ごし方について話す
第３回：第８課　ふだん朝は何食べる　食事について話す
第４回：第８課　ふだん朝は何食べる　ｃａとｅｎを使いわける
第５回：第９課　週末は、どこに行く？　よく行く場所について話す
第６回：第９課　週末は、どこに行く？　移動手段について話す
第７回：フランス映画鑑賞①
第８回：フランス映画鑑賞②
第９回：第10課　お母さんによく電話する？　習慣についてたずねる
第10回：第10課　お母さんによく電話する？　代名動詞を使って習慣について話す
第11回：第11課　家を何時に出る？　生活時間についてたずねる
第12回：第11課　家を何時に出る？　計画についてたずねる
第13回：第12課　パリではどんな天気？　行きたい場所についてたずねる
第14回：第12課　パリではどんな天気？　アドバイスを求める
第15回：これまでのまとめ
第16回：定期試験

授業外の学習方法

毎回５問程度の書き取りを各回の授業の始めに行うので勉強してくること。

成　績　評　価　方　法

定期試験50%　平常点50%（平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙等の提出状況等を総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

日常的な場面で使われるフランス語での会話ができるか。

テキスト、参考図書

レナ・ジュンタ　清岡智比古　「ぜんぶ話して！」　白水社　2015年

その他(受講上の注意)

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

ドイツ語Ⅱa (German Ⅱa)			担当教員	橋本　武志
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−1245	1単位	2年前期	演習	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　外国語科目

求める学習成果(教育目標)

建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

最初はドイツ語Ⅰでは習得していない文法知識からはじめ、その後簡単なドイツ語で書かれた童話を読みながら読解力を身につける。その回のテキスト内容に合わせて、文法事項をプリントで適宜補う。

授業の到達目標

現在完了、再帰動詞、分離動詞について理解し、それらを含め1年時で学んだドイツ語をもとに、テキスト程度の簡単なドイツ語の文章を理解し、日本語に訳すことができるようになることをめざす。また、訳出は文脈によって多様な一種の創造であり、必ずしも辞書の文言をあてはめる、という機械的作業ではないことを理解する。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーションと1年次のドイツ語の復習
第2回：過去形(復習)と現在完了形1
第3回：現在完了形2
第4回：分離動詞と形容詞
第5回：再帰代名詞と再帰動詞
第6回：ブレーメンの音楽隊1－1
第7回：ブレーメンの音楽隊1－2
第8回：ブレーメンの音楽隊2－1
第9回：ブレーメンの音楽隊2－2
第10回：ブレーメンの音楽隊3－1
第11回：ブレーメンの音楽隊3－2
第12回：ブレーメンの音楽隊3－3
第13回：ブレーメンの音楽隊4
第14回：ブレーメンの音楽隊5
第15回：これまでのまとめ
第16回：定期試験

授業外の学習方法

プリントによる練習問題やテキストの予習(単語調べ、訳の作成)を宿題として出すので、必ずやってきてから授業に臨むこと。毎回の授業は宿題の答え合わせとその解説を行う。間違った問題は、必ず復習しておくこと。

成　績　評　価　方　法

平常点50%、定期試験50%
(平常点は、毎回の出席、予習状況を総合して判断する)

成　績　評　価　基　準

・現在完了、再帰動詞、分離動詞について理解し応用できるか。
・宿題をきちんとやり、当たった場合、その個所を訳出することができているかどうか。
・テキストのドイツ語文とその構造を理解しているかどうか。

テキスト、参考図書

Stefan Wundt　本橋右京　『グリム童話で学ぶドイツ語 partII』　郁文堂 2007年

その他（受講上の注意）
独和辞典および１年時に用いたテキストを持参すること。また、童話の読解に入ると、だれがいつ当たるかわからない。単語を辞書でよく調べ、きちんと日本語に直してくること。予習が大事である。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

ドイツ語Ⅱb (German Ⅱb)			担当教員	橋本　武志
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−1246	1単位	2年後期	演習	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　外国語科目

求める学習成果(教育目標)

建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

ドイツ語Ⅰaにつづいて、簡単なドイツ語で書かれた童話を読みながら読解力を身につける。その回のテキスト内容に合わせて、文法事項をプリントで適宜補う。

授業の到達目標

1年時およびドイツ語Iaで学んだ知識をもとに、テキスト程度の簡単なドイツ語の文章を理解し、日本語に訳すことができるようになることをめざす。また、訳出は文脈によって多様な一種の創造であり、必ずしも辞書の文言をあてはめる、という機械的作業ではないことを理解する。

授　業　の　計　画

第1回：ドイツ語 Ⅱaの復習
第2回：代名詞、現在完了、分離動詞の復習
第3回：形容詞の格変化
第4回：盗賊の花嫁1―1
第5回：盗賊の花嫁1―2
第6回：盗賊の花嫁2―1
第7回：盗賊の花嫁2―2
第8回：盗賊の花嫁3―1
第9回：盗賊の花嫁3―2
第10回：盗賊の花嫁4―1
第11回：盗賊の花嫁4―2
第12回：盗賊の花嫁5―1
第13回：盗賊の花嫁5―2
第14回：盗賊の花嫁6
第15回：これまでのまとめ
第16回：定期試験

授業外の学習方法

プリントによる練習問題やテキストの予習(単語調べ、訳の作成)を宿題として出すので、必ずやってきてから授業に臨むこと。毎回の授業は宿題の答え合わせとその解説を行う。間違った問題は、必ず復習しておくこと。

成　績　評　価　方　法

平常点50%、定期試験50%
(平常点は、毎回の出席、予習状況を総合して判断する)

成　績　評　価　基　準

・現在完了、再帰動詞、分離動詞について理解し応用できるか。
・宿題をきちんとやり、当たった場合、その個所を訳出することができているかどうか。
・テキストのドイツ語文とその構造を理解しているかどうか。

テキスト、参考図書

Stefan Wundt　本橋右京 『グリム童話で学ぶドイツ語 part Ⅱ』 郁文堂 2007年

その他（受講上の注意）
独和辞典および１年時に用いたテキストを持参すること。また、童話の読解に入ると、だれがいつ当たるかわからない。単語を辞書でよく調べ、きちんと日本語に直してくること。予習が大事である。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

中国語Ⅱａ (Chinese Ⅱa)			担当教員	ショウ　ロ
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−1247	１単位	２年前期	演習	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　外国語科目

求める学習成果（教育目標）

建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

□自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

10分・発音練習、60分・演習と解説、20分・まとめと質疑応答。簡単な日常会話を聴くこと、話すことと、簡単な作文を書けることを重点において学習し、中国語の検定試験４級のレベルをめざす。

授業の到達目標

1. 四声を意識して正しく発音することができる。
2. 常用語500語程度を使って、単文及び簡単な複文の中国語の日本語訳と日本語の中国語訳ができる。
3. 100字程度の作文が書ける。
4. 簡単な日常会話ができる。
5. 簡単な依頼、買物、旅行の場面でのコミュニケーション能力を有する。

授　業　の　計　画

第１回：中国語Ⅰaの重要事項の確認、復習。
第２回：時量補語。
第３回：時刻の言い方。
第４回：動態助詞“?”。
第５回：選択疑問文“是（A）、?是B”。
第６回：年月日の言い方。
第７回：結果補語。
第８回：助動詞“会”（１）。
第９回：介詞“?～”。
第10回：助動詞“能”。
第11回：疑問詞“几”と“多少”。
第12回：副詞“在”。
第13回：曜日の言い方。
第14回：“的”構文。
第15回：学習成果の確認。第１回～第14回の復習とまとめ。
第16回：定期試験。

授業外の学習方法

各回講義の後、要点まとめの資料及び練習用プリントを配り、見直しながら復習し次の講義に臨むこと。

成　績　評　価　方　法

定期試験（50％）　課題練習の成績（30％）　平常点（20％）
（平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します）

成　績　評　価　基　準

1. 四声を正しく発音することができるか。
2. 単文及び簡単な複文の中国語訳と日本語訳ができるか。
3. 100字程度の作文が書けるか。
4. 簡単な依頼、買物、旅行の場面での事項確認や自分の意思を伝えられるか。

テキスト、参考図書

佐藤晴彦 監修　徐　送迎 著 『たのしくできる　Ｗｅ　Ｃａｎ！　中国語（初級）』 朝日出版社

その他（受講上の注意）
積極的に授業に参加すること。授業中に大声で発声すること。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

中国語Ⅱb (Chinese Ⅱb)			担当教員	ショウ　ロ
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−1248	1単位	2年後期	演習	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　外国語科目

求める学習成果(教育目標)

建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

10分・発音練習、60分・演習と解説、20分・まとめと質疑応答。少々長い会話聴く、話す、書くことを重点において学習し、中国語の検定試験3級のレベルをめざす。

授業の到達目標

1. 多音語、軽声を正しく発音することができる。
2. 常用語500〜1000語を使って、複文の中国語の日本語訳と日本語の中国語訳ができる。
3. 200字程度の作文が書ける。
4. 簡単な依頼、買物、旅行の場面での演習を通して、相手に自分の意思を正確に伝え、「会話力」を高めることを目標とする。

授　業　の　計　画

第1回：中国語Ⅱaの復習。
第2回：助動詞“可以”。
第3回：“是〜的”構文。
第4回：禁止を表わす副詞“别“。
第5回：介詞“从〜”。
第6回：様態補語。
第7回：単純方向補語。
第8回：助動詞“要”。
第9回：挿入語“听?〜”。
第10回：介詞“?〜”。
第11回：動量補語。
第12回：動態助詞“着”。
第13回：二重目的語。
第14回：使役表現。
第15回：第1回〜第14回の復習。中国語Ⅱabの学習成果の確認とまとめ。
第16回：定期試験。

授業外の学習方法

各回講義の後、要点まとめの資料及び練習用プリントを配り、見直しながら復習し次の講義に臨むこと。

成　績　評　価　方　法

定期試験(50%)　課題練習の成績(30%)　平常点(20%)
(平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します)

成　績　評　価　基　準

1. 多音語、軽声を正しく発音することができるか。
2. 少々長い中国語訳と日本語訳ができるか。
3. 200字程度の作文が書けるか。
4. 相手の話を聞き取れる、自分の意思を正確的に伝えられるか。

テキスト、参考図書

佐藤晴彦 監修、徐　送迎 著 『たのしくできる　Ｗｅ　Ｃａｎ！　中国語(初級)』 朝日出版社

その他（受講上の注意）
積極的に授業に参加すること。授業中に大声で発声すること。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

海外語学研修 (Language Study Abroad)			担当教員	ＭＬ　スプリチャル
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−1249	4単位	2年～4年	演習	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　外国語科目

求める学習成果(教育目標)

建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　■計画実行能力　■選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

本プログラムは、カリフォルニア州立大学フラトン校における「仁愛大学海外語学研修（8週間プログラム）」の参加者を受講者として実施する。受講者への事前授業を10回程度行い、夏期休暇中に約8週間の短期留学を実施する。フラトン校見学、フラトン校語学学校American Language Program（ALP）における語学研修、現地学生との交流、観光などの企画実施を含み、以後の学修・研究のための動機付けを得ることを目指す。

授業の到達目標

集中的な英語研修と生活体験を通し、総合的な英語力（読む力・聞く力・話す力・書く力）を向上させることを目的とする。

授　業　の　計　画

第1回：全体説明会
第2回：事前授業（提出物指示、研修先申込書作成等）①
第3回：事前授業（提出物指示、研修先申込書作成等）②
第4回：事前授業（提出物指示、研修先申込書作成等）③
第5回：事前授業（ビザ申請等）①
第6回：事前授業（ビザ申請等）②
第7回：事前授業（ビザ申請等）③
第8回：事前授業（昨年度参加者との面談）
第9回：事前授業（航空券、その他書類配付等）
第10回：事前授業（出発前の最終確認）

＜語学研修参加（8月中旬～10月上旬）＞

第11回：事後授業（研修の報告および反省）
第12回：事後授業（英語レベルチェック）
第13回：事後授業（プレゼン課題指示）
第14回：事後授業（プレゼン練習）
第15回：次年度プログラム説明会でプレゼンテーション（3月）

授業外の学習方法

準備期間においては、渡航に必要なビザの手続を教員のサポートの元学生自ら行うこと。渡航先の国の文化や基本的情報について学ぶこと。さらに、英語教育センター等で英会話の練習を積むこと。

成　績　評　価　方　法

事前授業への取り組み（30%）、現地評価（50%）、事後授業の取り組み（20%）を総合評価する。

成　績　評　価　基　準

学外における自主的な活動や体験をとおして、通常の講義や演習で得られない視点や考察点を体得できたか。
学修・研究のための動機付けを得て、優れた社会人となるための自己認識を深めることができたか。
※フラトン校から発行される成績表も評価に含まれる。

テキスト、参考図書

ALPより指示がある。

その他（受講上の注意）
本科目の履修登録については、それぞれの担当教員がガイダンスなどを実施し、各プログラムの参加者をもって受講者とするため、通常の受講登録手続きを要しない。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

情報活用 a (Exercises in Information Literacy a)			担当教員	宮川　祐一、佐々木　裕子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−1153	2 単位	2 年前期	演習	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　情報科目

求める学習成果(教育目標)

建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

オフィスソフトの１つであるWordを採り上げる。例題を基に、その機能や操作方法を理解し、大学生活やビジネス場面においても難なく活用できる能力を獲得することを目指す。

授 業 の 到 達 目 標

オフィスソフトWordに関する知識とその機能を深く理解し、一般社会においても十分な情報活用能力を発揮できるようにマイクロソフト社のOffice Specialist試験（Word2013）や、日本商工会議所の日商PC検定試験２級（文書作成）に合格できる能力レベルを目標としている。

文書作成ソフトを使い、基本的な文書を速やかに作成できる。
さらに、複雑な作表や図などを取り込んだビジネス文書を難なく作成できる。
既存の文書に対しては、書式の変更や形式変換などの編集・加工ができる。

授　業　の　計　画

第１回：文書処理に関する資格や検定試験概要、授業の進め方、実力診断用練習問題
第２回：文書の作成、書式設定 p.1～43
第３回：文章のオプション、印刷、保存 p.44～88
第４回：文字列、段落 p.89～135
第５回：文字列段落の並び替え、表とリスト p.136～186
第６回：参考資料の適用 p.187～209
第７回：オブジェクトの挿入と書式設定 p.211～248
第８回：総合練習問題１
第９回：総合練習問題２
第10回：総合練習問題３
第11回：総合練習問題４
第12回：総合練習問題５
第13回：総合練習問題６
第14回：総合練習問題７
第15回：復習問題（特に、不得意なスキルについて）
第16回：定期試験

授 業 外 の 学 習 方 法

予習　授業の計画に示すテキスト範囲について、例題を一通り事前に試行する。
　　その際、不明点・疑問点については、授業時間中に解決できるように努める。
復習　特に、新たに得られた知識について、習熟できるように例題を再度確認する。
　　テキスト付録の練習問題に取り組むこと。（これによって、着実にスキルは向上します）

成　績　評　価　方　法

定期試験（70%）　課題（20%）平常点（10%）
（平常点は、授業への参加状況・受講態度等）

成　績　評　価　基　準
限定した時間内（50分）で、文書作成ソフトウェアWordを使って下記のような処理などができるか。 関連する検定試験（日商PC検定　MOS試験）の合格者については、定期試験の合格と同等以上とする。 文書作成ソフトを使い、基本的な文書を速やかに作成できるか。 複雑な作表や図などを取り込んだビジネス文書を難なく作成できるか。 既存の文書に対しては、書式の変更や形式変換などの編集・加工ができるか。
テ キ ス ト 、 参 考 図 書
『MOS攻略問題集 Word 2013　第２版』　日経BP　2015年
その他（受講上の注意）
情報リテラシーa　の受講を終えていることを前提とします。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

情報活用ｂ (Exercises in Information Literacy b)			担当教員	宮川　祐一、佐々木　裕子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−1154	２単位	２年後期	演習	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　情報科目

求める学習成果（教育目標）

建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

□自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

オフィスソフトの１つであるExcelを採り上げる。例題を基に、その機能や操作方法を理解し、大学生活やビジネス場面においても難なく活用できる能力を獲得することを目指す。

授業の到達目標

オフィスソフトExcelに関する知識とその機能を深く理解し、一般社会においても十分な情報活用能力を発揮できるようにマイクロソフト社のOffice Specialist試験（Excel2013）や、日本商工会議所の日商PC検定試験２級（データ活用）に合格できる能力レベルを目標としている。

表計算ソフトを使い、基本的な表やグラフを速やかに作成できる。
既存の表やグラフに対しては、書式の変更や形式変換などの編集・加工ができる。
さらに、複雑な作表や図などを取り込んだビジネス文書への展開ができる。

授　業　の　計　画

第１回：実力診断用練習問題（日商PC検定試験問題）
第２回：ワークシートやブックの作成、書式設定 p.1～52
第３回：ワークシートやブックのオプション、印刷・保存 p.53～105
第４回：セルやセル範囲の作成、書式設定 p.107～143
第５回：テーブルの作成 p.144～194
第６回：数式や関数の適用 p.195～236
第７回：グラフやオブジェクトの作成 p.237～267、模擬テストについて
第８回：総合練習問題１
第９回：総合練習問題２
第10回：総合練習問題３
第11回：総合練習問題４
第12回：総合練習問題５
第13回：総合練習問題６
第14回：総合練習問題７
第15回：復習問題（特に、不得意なスキルについて）
第16回：定期試験

授業外の学習方法

予習　授業の計画に示すテキスト範囲について、例題を一通り事前に試行する。
　　その際、不明点・疑問点については、授業時間中に解決できるように努める。
復習　特に、新たに得られた知識について、習熟できるように例題を再度確認する。
　　テキスト付録の練習問題に取り組むこと。（これによって、着実にスキルは向上します）

成　績　評　価　方　法

定期試験（70%）　提出課題（20%）平常点（10%）
（平常点は、授業への参加状況・受講態度等）

成　績　評　価　基　準
限定した時間内（50分）で、表計算ソフトウェアExcelを使って下記のような処理などができるか。 関連する検定試験（日商PC検定　MOS試験）の合格者については、定期試験の合格と同等以上とする。 表計算ソフトを使い、基本的な表やグラフを速やかに作成できるか。 既存の表やグラフに対しては、書式の変更や形式変換などの編集・加工ができるか。 複雑な作表や図などを取り込んだビジネス文書への展開ができるか。
テ キ ス ト 、 参 考 図 書
『MOS攻略問題集 Excel 2013　第２版』　日経BP　2015年
そ の 他（受 講 上 の 注 意）
情報リテラシーb　の受講を終えていることを前提とします。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

情報処理演習 a (Information Processing Practicum a)			担当教員	宮川　祐一
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−1251	2 単位	2年前期･3年前期	演習	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　情報科目

求める学習成果(教育目標)

建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

大学はもちろんのこと、一般社会における情報システムの利用者として必要な情報化推進能力を得る。

授 業 の 到 達 目 標

一般企業などにおける情報システムの利用者側としての必要な知識技能を主に習得し、業務の情報化を推進できる幅広い活用能力の獲得を目指す。
本授業では、情報処理技術者試験の一つである「ITパスポート試験」に合格できるレベルの知識と技能を獲得することを目標とする。
ただし、本授業においては、授業回数の都合上「ITパスポート試験」の小問のみを採り上げており、「ITパスポート試験」の中問については情報処理演習bにおいて採り上げる。
参考　IT パスポート試験シラバス
(https://www.jitec.ipa.go.jp/１_13download/syllabus_ip_ver３_0.pdf)

授　業　の　計　画

テキストに従って進めるが、毎授業の30分間程度は演習課題(小問)を採りいれる。
第１回：第１章 企業と法務(１)
第２回：第１章 企業と法務(２)
第３回：第１章 企業と法務(３)
第４回：第２章 経営戦略
第５回：第３章 システム戦略
第６回：第４章 開発技術
第７回：第５章 プロジェクトマネジメント
第８回：第６章 サービスマネジメント
第９回：第７章 基礎理論(１)
第10回：第７章 基礎理論(２)
第11回：第７章 基礎理論(３)
第12回：第８章 コンピュータシステム(１)
第13回：第８章 コンピュータシステム(２)
第14回：第９章 技術要素(１)
第15回：第９章 技術要素(２)
第16回：定期試験

授 業 外 の 学 習 方 法

予習：次の単元の内容を教科書で事前に目を通しておくこと。
復習：重要語句などの確認をすること。
　　授業で採り上げた演習例題については、完全理解に努めること。

　　テキスト付録の過去問題(小問)を各自実行すること。
　　(延べ所要時間　約30時間以上)

成　績　評　価　方　法

定期試験(80%)　中間試験(10%)　平常点(10%)
(平常点は、授業への参加状況・受講態度等)

成　績　評　価　基　準
ITパスポート試験に合格できるレベルの知識と技能を獲得できたか。 ただし、この授業においては、ITパスポート試験の小問を対象とする。
テキスト、参考図書
テキスト 『ITパスポート試験　対策テキスト＆過去問題集　平成28-29年度版』 FOM出版　2015年 参考図書 『ITパスポート試験　直前対策　1週間完全プログラム　シラバスVer3.0準拠』FOM出版　2016年 『ITパスポート試験 書いて覚える学習ドリルCBT試験対応 シラバスVer2.0準拠』 FOM出版 2011年 『平成28年度　ITパスポート合格教本』 技術評論社　2015年
その他（受講上の注意）
テキスト必携必須
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

情報処理演習ｂ (Information Processing Practicum b)			担当教員	宮川　祐一
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−1252	２単位	2年後期･3年後期	演習	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　情報科目

求める学習成果（教育目標）

建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

□自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

大学はもちろんのこと、一般社会における情報システムの利用者として必要な情報化推進能力を得る。

授 業 の 到 達 目 標

一般企業などにおける情報システムの利用者側としての必要な知識技能を主に習得し、業務の情報化を推進できる幅広い活用能力の獲得を目指す。
本授業では、情報処理技術者試験の一つである「ITパスポート試験」に合格できるレベルの知識と技能を獲得することを目標とする。
ただし、本授業においては、授業回数の都合上「ITパスポート試験」の中問を採り上げており、「ITパスポート試験」の小問については情報処理演習aにおいて採り上げる。
参考　IT パスポート試験シラバス
（http://www.jitec.ipa.go.jp/１_13download/syllabus_ip_ver３_0.pdf）

授　業　の　計　画

テキストに従って進めるが、毎授業の60分間程度は演習課題（過去問題の中問）を採りいれる。
第１回：第１章　企業と法務
第２回：第２章　経営戦略
第３回：第３章　システム戦略
第４回：第４章　開発技術
第５回：第５章　プロジェクトマネジメント
第６回：第６章　サービスマネジメント
第７回：第７章　基礎理論
第８回：第８章　コンピュータシステム
第９回：第９章　技術要素
第10回：過去問題研究（１）
第11回：過去問題研究（２）
第12回：知識問題作成演習（１）
第13回：知識問題作成演習（２）
第14回：知識問題作成演習（３）
第15回：作成した知識問題の検証
第16回：定期試験

授 業 外 の 学 習 方 法

予習：次の単元の内容を教科書等で事前に目を通しておくこと。
　　指示したITパスポート試験問題（過去問題）を解いて授業に臨むこと。

復習：重要語句などの確認をすること。
　　採り上げた演習例題については完全理解に努めること。

　　テキスト付録の過去問題（中問）を各自実行すること。
　　（延べ所要時間　約30時間以上）

成　績　評　価　方　法

定期試験（50%）　CBT模擬テスト（20%）　レポート課題（30%）

成　績　評　価　基　準
ITパスポート試験に合格できるレベルの知識と技能を獲得できたか。
テキスト、参考図書
テキスト 『ITパスポート試験　対策テキスト＆過去問題集　平成28-29年度版』 FOM出版　2015年 参考図書 『ITパスポート試験　直前対策　1週間完全プログラム　シラバスVer3.0準拠』FOM出版　2016年 『ITパスポート試験 書いて覚える学習ドリルCBT試験対応 シラバスVer2.0準拠』 FOM出版 2011年 『平成28年度　ITパスポート合格教本』 技術評論社　2015年
その他（受講上の注意）
テキスト必携必須 前期の「情報処理演習a」を受講している者を前提としている。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

キャリア・デザインⅡ （Career Design Ⅱ）			担当教員	升田　法継
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−1261	2単位	2年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　修学基礎・キャリア形成科目

求める学習成果（教育目標）

建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

社会の中での役割を主体的に果たしたながら、「自分らしい生き方」を実現するための力を育むことを目的とし、学生の自立および学生が自身の様々な可能性を発見・再確認できる機会の提供を通じて、今後の大学生活の目標を設定する。

授業の到達目標

・「はたらく」ことの意味・意義について、十分に考えることができる。
・「はたらく」ことと大学生活での「学び」を関連づけて考えることができる。

授　業　の　計　画

第１回：キャリアデザインＭＡＰ①
第２回：「はたらく」とは
第３回：インターンシップ
第４回：スキルアップについて
第５回：業界研究①
第６回：業界研究②
第７回：労働法
第８回：就職活動①
第９回：就職活動②
第10回：仕事理解①
第11回：仕事理解②
第12回：仕事理解③
第13回：仕事理解④
第14回：社会人の人生哲学
第15回：キャリアデザインＭＡＰ②

授業外の学習方法

予習として、各回授業の終わりに、次回授業に向けての予習ポイントを提示するので、あらかじめ疑問点を考えておくなどし、問題意識をもって授業に出席するようにして下さい。
また、復習として、各回授業時の板書や配付プリントを基に要点を整理・再確認するなどし、次回授業に臨んで下さい。

成　績　評　価　方　法

課題に対する活動内容及び提出物（80％）、平常点（20％）
※平常点：授業への参加状況・受講態度等を総合して判断するもの

成　績　評　価　基　準

・「はたらく」ことの意味・意義について、十分に考えることができるか。
・「はたらく」ことと大学生活での「学び」を関連づけて考えることができるか。

テキスト、参考図書

テキストは使用しません。参考図書は必要に応じて紹介します。

その他（受講上の注意）
前向きな姿勢での参画を望みます。 また、授業の計画は、進捗や学生の反応・理解度に応じて、前後したり変更する場合があります。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

フィールドワーク演習（ボランティア） （Fieldwork Practice（Volunteer））			担当教員	金田　明彦、谷　雅徳
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−1164	２単位	１年～４年	演習	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　修学基礎・キャリア形成科目

求める学習成果（教育目標）

建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■自他の理解能力■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　■計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

本プログラムには、学内外でのボランティア活動体験、社会的イベント・コンペティションなどへの参画体験が含まれる。教室や研究室で学習や研究をするのではなく、実際に社会での直接的体験を通して、優れた社会人となるための自己認識、自己啓発の機会とすることを目的とする。担当教員や活動支援団体による説明会への参加をもとに受講の意思を明らかにし、プログラムへの参加とする。

授業の到達目標

それぞれが今後学ぶ、または学んでいることの社会的意義を見いだすことができる。学生間はもとより地域社会で仕事や生活をしている社会人とのコミュニケーションが円滑に行える。

授　業　の　計　画

地域社会からのニーズを元にプログラムを立てるため、その解決すべき課題を元に授業計画を設定する。

４～７月　　事前ガイダンスの実施と計画の提示
８～９月　　現地にて研修
10～11月　　事後報告として、レポート・プレゼンテーション等の実施

授業外の学習方法

課題に関連する情報の収集

成　績　評　価　方　法

プログラムへの取組み（50%）　レポート（20%）　プレゼンテーション（30%）

成　績　評　価　基　準

課題について、的確な視点を持ち、その解決に向けて自身の考察による提案ができるか。

テキスト、参考図書

使用しない。

その他（受講上の注意）

本科目の履修登録については、それぞれの担当教員がガイダンスなどを実施し、各プログラムの参加者をもって受講者とするため、通常の受講登録手続きを要しない。

※個人参加のボランティア活動体験、社会的イベント・コンペティションなどへの参画体験等も対象とする場合があるので、受講希望者は、事前に科目担当者へ問い合わせること。

※単位認定については、参加するボランティア活動体験、社会的イベント・コンペティションのプログラム終了後、担当教員より課される課題等を全て提出し、単位認定するにあたり適当であると認めた場合のみとする。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

フィールドワーク演習（国際交流） （Fieldwork Practice（International Exchange））			担当教員	ＭＬ　スプリチャル
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−1165	２単位	１年～４年	演習	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　修学基礎・キャリア形成科目

求める学習成果（教育目標）

建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　■計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

本プログラムは、原則として、カリフォルニア州立大学フラトン校における「仁愛大学海外短期研修プログラム（２週間）」の参加者を受講者として実施する。受講者への事前授業を10回程度行い、夏期休暇中に約２週間の短期留学を実施する。現地学校での英会話クラス受講、現地学生との交流、観光などの研修を実施し、以後の学修・研究のための動機付けを得ることを目指す。

授業の到達目標

学外における自主的な活動や体験をとおして、通常の講義や演習で得られない視点や考察点を体得する。
本科目では、原則として、「仁愛大学海外短期研修プログラム（２週間）」への参画体験演習を行い、以後の学修・研究のための動機付けを得ること、異文化理解を深めることを目的とする。

授　業　の　計　画

第１回：全体説明会
第２回：事前授業（提出物、課題指示等）①
第３回：事前授業（提出物、課題指示等）②
第４回：事前授業（現地活動の企画等）①
第５回：事前授業（現地活動の企画等）②
第６回：事前授業（現地活動の準備等）①
第７回：事前授業（現地活動の準備等）②
第８回：事前授業（現地活動の準備等）③
第９回：事前授業（航空券、その他書類配付等）
第10回：事前授業（出発前の最終確認）

＜研修参加（９月）＞

第11回：事後授業（研修の報告および反省）
第12回：事後授業（レポート課題指示）
第13回：事後授業（プレゼン課題指示）
第14回：事後授業（プレゼン練習）
第15回：次年度プログラム説明会でプレゼンテーション（３月）

授業外の学習方法

準備期間においては、渡航先の国の文化や基本的情報について学ぶこと。さらに、英語教育センター等で英会話の練習を積むこと。

成　績　評　価　方　法

事前授業の取り組み（30%）、現地評価（50%）、事後授業の取り組み、およびレポート課題（20%）を総合評価する。

成　績　評　価　基　準

学外における自主的な活動や体験をとおして、通常の講義や演習で得られない視点や考察点を体得できたか。
学修・研究のための動機付けを得て、優れた社会人となるための自己認識を深めることができたか。

テキスト、参考図書

特になし

その他（受講上の注意）
仁愛大学海外短期研修の最小催行人数は原則として６名とする。よって受講生が少ない場合、非開講とすることがある。本科目の履修登録については、担当教員等が行うガイダンスと、本プログラムの参加をもって履修登録とするため、通常の履修登録手続きを要しない。 ※個人参加の海外語学研修および国内における外国人との国際交流などの企画体験等も対象とする場合があるので、事前（海外語学研修は渡航の２ヶ月前）に担当教員または英語教育センターに問い合わせること。また、個人で参加する海外語学研修の期間については、夏期休暇期間または春期休暇期間とし、単位認定時期については、夏期休暇期間の場合は当該年度の後期に、春期休暇期間の場合は翌年度の前期に単位認定する。したがって、卒業年次生による個人参加の海外語学研修は、夏季休暇中での開始・実施のみ単位認定する。 ※単位認定については、参加する海外語学研修・国際交流等のプログラム終了後、担当教員より課される課題等を全て提出し、単位認定するにあたり適当であると認めた場合のみとする。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

心理学基礎実験Ⅰ (Basic Experiments in Psychology Ⅰ)			担当教員	山本　雅代、水上　喜美子、 森本　文人、青井　利哉、島田　浩二
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS-F-2205	2単位	2年前期	実験	必修

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　基幹科目　心理学基礎

求める学習成果(教育目標)

心理学の研究方法や基礎的知識を習得する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　■計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

心理学が科学であることを理解し、心理的問題をどのように研究していくのか、心理学研究の実験的実証的技法における基本的方法について学ぶ。
受講者はグループごとに、ミューラリヤー錯視、鏡映描写、認知的葛藤、反応時間、触2点閾の測定、単純接触効果(対人魅力)などの様々な実験にあたる。(数名のグループに分かれ、順次全6課題の実験を体験する)。また、実験者と被験者の両方の役割を体験する。
上記テーマについて先行研究などの情報収集を行い、各自で研究目的に従いデータをとり、収集したデータや情報の整理、分析、考察する方法を学ぶ。また、各実験ごとにレポートを提出する。これにより卒業論文を書く上で重要な科学論文の形式を習得することを目指す。

授業の到達目標

1)心理学における実験方法や実証方法を習得する。
2)実験結果についての整理、分析や考察ができるようになる。
3)科学論文の執筆ができるようになる。

授　業　の　計　画

第1回:オリエンテーション
第2回:課題1(ミューラリヤー;山本・水上・森本・青井・島田)①
第3回:課題1(ミューラリヤー;山本・水上・森本・青井・島田)②
第4回:課題1(ミューラリヤー;山本・水上・森本・青井・島田)③
第5回:課題1(ミューラリヤー;山本・水上・森本・青井・島田)④
第6回:課題2(全5課題:鏡映描写(島田)・認知的葛藤(青井)・反応時間(森本)・触2点閾の測定(水上)・対人魅力(山本))①
第7回:課題2(全5課題:鏡映描写(島田)・認知的葛藤(青井)・反応時間(森本)・触2点閾の測定(水上)・対人魅力(山本))②
第8回:課題3(全5課題:鏡映描写(島田)・認知的葛藤(青井)・反応時間(森本)・触2点閾の測定(水上)・対人魅力(山本))①
第9回:課題3(全5課題:鏡映描写(島田)・認知的葛藤(青井)・反応時間(森本)・触2点閾の測定(水上)・対人魅力(山本))②
第10回:課題4(全5課題:鏡映描写(島田)・認知的葛藤(青井)・反応時間(森本)・触2点閾の測定(水上)・対人魅力(山本))①
第11回:課題4(全5課題:鏡映描写(島田)・認知的葛藤(青井)・反応時間(森本)・触2点閾の測定(水上)・対人魅力(山本))②
第12回:課題5(全5課題:鏡映描写(島田)・認知的葛藤(青井)・反応時間(森本)・触2点閾の測定(水上)・対人魅力(山本))①
第13回:課題5(全5課題:鏡映描写(島田)・認知的葛藤(青井)・反応時間(森本)・触2点閾の測定(水上)・対人魅力(山本))②
第14回:課題6(全5課題:鏡映描写(島田)・認知的葛藤(青井)・反応時間(森本)・触2点閾の測定(水上)・対人魅力(山本))①
第15回:課題6(全5課題:鏡映描写(島田)・認知的葛藤(青井)・反応時間(森本)・触2点閾の測定(水上)・対人魅力(山本))②

授業外の学習方法

それぞれの実験について予習しておくことが望ましい。
実験レポートが訂正されたり、返却された場合には必ず見直し、復習してください。

成　績　評　価　方　法
実験終了後に提出する実験レポート、実験、授業への参加態度等を総合的に判断し評価する。 【実験レポート 60%　実験、授業への参加態度 40%】
成　績　評　価　基　準
心理学における実験方法や実証方法を習得できているか。 実験結果についての整理、分析や考察ができているか。 科学論文の執筆ができているか。
テキスト、参考図書
（1）『心理学論文の書き方』　松井豊　河出書房新社　2010年 （2）『実験とテスト＝心理学の基礎（実習編）』　心理学実験市道研究会　培風館　1985年 その他、授業時プリント配布
その他（受講上の注意）
第１回目の授業（オリエンテーション）には必ず出席すること。 教員やTAの紹介、受講に際しての注意事項を行います。 各実験ごとに必ずレポート提出があります。各教員の指示に従って提出してください。またレポートの提出期限は必ず守ること。再提出等の指示がありますので掲示には注意して下さい。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

心理学基礎実験Ⅱ （Basic Experiments in Psychology Ⅱ）			担当教員	大森　慈子、水田　敏郎、 青井　利哉、伏田　幸平
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS−OBO−2206	2単位	2年後期	実習	選択

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　基幹科目　心理学基礎

求める学習成果（教育目標）

人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　■計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

心理学における実験の意義を学習すると同時に、少人数グループで基本的な心理学実験をすることによって、実験に含まれる様々な問題にふれる。また、レポートの作成を繰り返すことによって、実験結果を科学的事実として報告する方法を習得する。

授業の到達目標

■心理学実験の基礎的技術を身につける
■実験データに対する分析方法や考察のしかたを理解する
■心理学における実験論文の書き方を習得する

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション
第2回：課題1（心的回転、短期記憶、または、対人距離）①
第3回：課題1（心的回転、短期記憶、または、対人距離）②
第4回：課題1（心的回転、短期記憶、または、対人距離）③
第5回：課題2（短期記憶、対人距離、または、心的回転）①
第6回：課題2（短期記憶、対人距離、または、心的回転）②
第7回：課題2（短期記憶、対人距離、または、心的回転）③
第8回：課題3（対人距離、心的回転、または、短期記憶）①
第9回：課題3（対人距離、心的回転、または、短期記憶）②
第10回：課題3（対人距離、心的回転、または、短期記憶）③
第11回：課題4（虚偽検出・ラットの学習・両側性転移・ストレス反応の中から1つ選択）①
第12回：課題4（虚偽検出・ラットの学習・両側性転移・ストレス反応の中から1つ選択）②
第13回：課題4（虚偽検出・ラットの学習・両側性転移・ストレス反応の中から1つ選択）③
第14回：課題4（虚偽検出・ラットの学習・両側性転移・ストレス反応の中から1つ選択）④
第15回：課題4（虚偽検出・ラットの学習・両側性転移・ストレス反応の中から1つ選択）⑤
＜15回すべて全教員4名で担当、課題1～3は学生をグループに分けて3つの課題を各3週行う＞

授業外の学習方法

予習として、教科書の各実験課題に関連する部分と関連図書を読み、あらかじめ疑問点などを考えておく
復習として、授業時の板書やプリントおよび添削して返却されたレポートを見直し、授業とレポート作成に臨む

成　績　評　価　方　法

4課題に対するレポート（60%）　平常点（40%）
（平常点は、授業への参加状況と態度、課題への取り組み姿勢などを総合して判断します）

成　績　評　価　基　準

■心理学実験の基礎的技術が身についているか
■実験データに対する分析方法や考察のしかたを理解しているか
■心理学における実験論文の書き方を習得しているか

テキスト、参考図書

テキスト：心理学実験指導研究会編「実験とテスト－実習編－」（培風館）

その他（受講上の注意）
■心理統計Ⅰ・Ⅱ、心理学基礎実験Ⅰの単位を修得していること ■原則として、遅刻、欠席およびレポート提出の遅延は認めない
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

心理検査法Ⅰ (Psychological Assessment Methods Ⅰ)			担当教員	森　俊之、吉水　ちひろ、青井　利哉
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS-F-2209	2単位	2年後期	演習	必修

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　基幹科目　心理学基礎

求める学習成果(教育目標)

心理学の研究方法や基礎的知識を習得する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

タイプの異なる4種の検査を体験する。全体で一つの検査を体験した後、3グループに分かれ、3人の教員のもとで3タイプの心理検査を交互に実習する。4種の検査それぞれに対して、講義、実習、実習結果をまとめたレポート提出が課せられる。

授業の到達目標

・さまざまな心理検査の種類を理解し、それぞれの検査の効用と限界について説明できる。
・課題として取り上げた心理検査について、実施手順や分析手順を理解し、一通り実施できる。
・自分自身の性格を多角的に分析し、他者に説明できる。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション　【担当：森、吉水、青井】
第2回：知能検査(京大NX15)①【担当：森、吉水、青井】
第3回：知能検査(京大NX15)②【担当：森、吉水、青井】
第4回：質問紙検査(TEG等)①【担当：青井】；投映法検査①【担当：吉水】；作業検査①【担当：森】
第5回：質問紙検査(TEG等)②【担当：青井】；投映法検査②【担当：吉水】；作業検査②【担当：森】
第6回：質問紙検査(TEG等)③【担当：青井】；投映法検査③【担当：吉水】；作業検査③【担当：森】
第7回：質問紙検査(TEG等)④【担当：青井】；投映法検査④【担当：吉水】；作業検査④【担当：森】
第8回：投映法検査(バウムテスト等)①【担当：吉水】；作業検査①【担当：森】；質問紙検査①【担当：青井】
第9回：投映法検査(バウムテスト等)②【担当：吉水】；作業検査②【担当：森】；質問紙検査②【担当：青井】
第10回：投映法検査(バウムテスト等)③【担当：吉水】；作業検査③【担当：森】；質問紙検査③【担当：青井】
第11回：投映法検査(バウムテスト等)④【担当：吉水】；作業検査④【担当：森】；質問紙検査④【担当：青井】
第12回：作業検査(内田クレペリン検査等)①【担当：森】；質問紙検査①【担当：青井】；投映法検査①【担当：吉水】
第13回：作業検査(内田クレペリン検査等)②【担当：森】；質問紙検査②【担当：青井】；投映法検査②【担当：吉水】
第14回：作業検査(内田クレペリン検査等)③【担当：森】；質問紙検査③【担当：青井】；投映法検査③【担当：吉水】
第15回：作業検査(内田クレペリン検査等)④【担当：森】；質問紙検査④【担当：青井】；投映法検査④【担当：青井】
※第4回～第15回については、4回ずつ3タイプの検査を実習するが、グループにより、体験する検査の順番が異なる。
※知能を測定する心理検査は3名の教員が共同して担当する。検査質問紙による心理検査は青井が、投映法による心理検査は吉水が、単純作業による心理検査は森が、3グループを通してそれぞれ担当する。
第16回：期末試験

授業外の学習方法

検査の実施、分析の作業は、授業時間だけでは足りないこともあり、その都度、次回までの作業の指示があるので、作業を遂行して次回の授業に臨むこと。

成　績　評　価　方　法

検査毎に作成するレポート(20%×4)と学期末に行う筆記試験(20%)により評価する。実習を伴うため、出席状況や受講態度が悪い場合は、厳しく減点する。

成　績　評　価　基　準

・さまざまな心理検査の種類を理解し、それぞれの検査の効用と限界について説明できるか。
・課題として取り上げた心理検査について、実施手順や分析手順を理解し、一通り実施できるか。
・自分自身の性格について多角的に分析し、他者に説明できるか。

テキスト、参考図書
願興寺礼子・吉住隆弘編「心理検査の実施の初歩」(ナカニシヤ出版、2011年発行) そのほか、各検査毎に必要な資料を配付したり、参考図書を指示する。
その他(受講上の注意)
・実習を含むので、出席と熱心な受講態度を期待する。 ・自分自身の性格等の自己開示が必要な場合がある。 ・心理検査の学習者・実施者の倫理(授業時に説明)を守り、検査の知識を安易に使用しないこと。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

心理調査法 (Psychological Questionnaire Methods)			担当教員	早川　清一
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS−OBC−2211	2単位	2年後期	演習	選択

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　基幹科目　心理学基礎

求める学習成果(教育目標)

人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。
組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

心理学の研究手法である質問紙調査法について理解し、実際の心理学の調査を通じて、調査票の作成から統計解析ソフトでの分析方法、レポートの書き方までを修得する。心理調査は2回行う。1回目は、既成の調査票を利用(大学生活に関する心理調査)。2回目は、各自がテーマを決定し心理調査票を作成する(自由調査)。

授業の到達目標

自分で調査票を作成し、コンピュータを利用して基本的な統計解析を行える知識を修得することを目標とする。調査の分析が正しく行われ、調査書が適切に作成できる。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション
第2回：質問紙調査法について
第3回：SPSSデータ入力法
第4回：SPSSの利用法1
第5回：SPSSの利用法2
第6回：大学生活に関する心理調査の実施(実際のデータを用いて分析を行う)
第7回：自由調査の実施1(調査内容の決定)
第8回：自由調査の実施2(心理調査票の作成)
第9回：自由調査の実施3(心理調査票の作成)
第10回：調査票の回答
第11回：データ入力
第12回：データ解析
第13回：報告書の作成1
第14回：報告書の作成2
第15回：報告書の作成3

授業外の学習方法

各回の授業を受けた後で、eラーニングに掲載された当該部分に関連する資料を熟読し、理解を深めてください。

成　績　評　価　方　法

2回の理解度確認テストに合格していること、および2回のレポートが期限内に提出されていること。
1回目理解度確認テスト(10%)、2回目理解度確認テスト(10%)、中間レポート(30%)、期末レポート(50%)による評価。

成　績　評　価　基　準

自分で心理調査票が正しく作成できるか。さらに、調査の分析が正しく行われ、報告書が適切に作成できるか。

テキスト、参考図書

テキストは使用しない。eラーニングに授業内容に関連する論文等の資料を掲載している。また、授業で使用したパワーポイントおよび印刷資料もeラーニングで公開しているので、復習に利用してください。

その他（受講上の注意）
受講には原則として、１年次の「心理統計Ⅰ・Ⅱ」の単位を取得していることが必要です。授業時間以外にも、解析、レポート作成等の学習が必要になります。なお、授業の特性上、第１回、第２回の授業には必ず出席すること.”平均値の差の検定”の簡単な試験を行います．無断欠席は厳禁です．３年前期の「多変量解析演習」を受講する予定の学生は必ず受講し単位を取得しておくこと。また、３年次に早川ゼミを希望する人も必ず受講してください。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

心理面接法 (Clinical Interviewing Methods)			担当教員	片畑　真由美、水上　喜美子、久保　陽子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS−AOC−2212	2単位	2年後期	演習	選択

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　基幹科目　心理学基礎

求める学習成果(教育目標)

教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。
組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

心理学分野で用いられる面接法(調査的面接法・臨床的面接法)について学ぶ。具体的には、心理面接法に関する基礎知識についての講義を行い、演習によって学生が体験的に学習する。

授業の到達目標

①心理面接法(調査的面接法・臨床的面接法)の基本的な理論や技法を理解する。②心理面接法を行う際に必要な倫理的態度を理解し、身につける。③積極的な演習への参加を通して、人の意見を聞き自分の意見を言える能力を身につける。

授　業　の　計　画

※第3週から第14週はグループに分かれてA〜Cの演習を行う(3種類×4週)
A：調査的面接法　〔水上喜美子〕
B：臨床的面接法1(共感的理解の演習)　〔片畑真由美〕
C：臨床的面接法2(ロールプレイ基礎演習)　〔久保陽子〕

第1回：オリエンテーション　〔片畑真由美・水上喜美子・久保陽子〕
第2回：心理面接法についての概説　〔片畑真由美・水上喜美子・久保陽子〕

第3回：A：調査的面接法、B：臨床的面接法1(共感的理解の演習)、C：臨床的面接法2(ロールプレイ基礎演習)①
第4回：A：調査的面接法、B：臨床的面接法1(共感的理解の演習)、C：臨床的面接法2(ロールプレイ基礎演習)②
第5回：A：調査的面接法、B：臨床的面接法1(共感的理解の演習)、C：臨床的面接法2(ロールプレイ基礎演習)③
第6回：A：調査的面接法、B：臨床的面接法1(共感的理解の演習)、C：臨床的面接法2(ロールプレイ基礎演習)④
第7回：A：調査的面接法、B：臨床的面接法1(共感的理解の演習)、C：臨床的面接法2(ロールプレイ基礎演習)①
第8回：A：調査的面接法、B：臨床的面接法1(共感的理解の演習)、C：臨床的面接法2(ロールプレイ基礎演習)②
第9回：A：調査的面接法、B：臨床的面接法1(共感的理解の演習)、C：臨床的面接法2(ロールプレイ基礎演習)③
第10回：A：調査的面接法、B：臨床的面接法1(共感的理解の演習)、C：臨床的面接法2(ロールプレイ基礎演習)④
第11回：A：調査的面接法、B：臨床的面接法1(共感的理解の演習)、C：臨床的面接法2(ロールプレイ基礎演習)①
第12回：A：調査的面接法、B：臨床的面接法1(共感的理解の演習)、C：臨床的面接法2(ロールプレイ基礎演習)②
第13回：A：調査的面接法、B：臨床的面接法1(共感的理解の演習)、C：臨床的面接法2(ロールプレイ基礎演習)③
第14回：A：調査的面接法、B：臨床的面接法1(共感的理解の演習)、C：臨床的面接法2(ロールプレイ基礎演習)④

第15回：演習全体の振り返りとまとめ　〔片畑真由美・水上喜美子・久保陽子〕

授業外の学習方法

授業で提示される課題について、次の授業までに必ず完成させておくこと。

成　績　評　価　方　法

授業への積極的参加(出席・態度・発言)50%、課題内容50%で総合的に評価する。
また演習形式の授業であるため、授業への欠席や遅刻などは厳重に減点を行う。

成　績　評　価　基　準

①心理面接法(調査面接法・臨床的面接法)の基礎的かつ実践的な知識が身についているか。②心理面接法を行う際に必要な倫理的態度を理解し、身につけているか。③演習に積極的に参加し、人の意見を聞き自分の意見を言える能力を身につけているか。

テキスト、参考図書
テキストは、オリエンテーション時に示す。
その他（受講上の注意）
3グループに分かれ、順次ローテーションにて3つの演習を行う。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

臨床心理学Ⅰ (Clinical Psychology Ⅰ)			担当教員	片畑　真由美
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS−ABC−2221	2単位	2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　基幹科目　心理学専門

求める学習成果(教育目標)

教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。
人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。
組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　□コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

臨床心理学の概説。臨床心理学の基礎知識や特有の視点について学ぶ。

授業の到達目標

臨床心理学の基礎的理論および心の病について理解し、自分でその内容について説明することができる。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション
第2回：臨床心理学の歴史と成り立ちについて
第3回：臨床心理学の理論①(意識・無意識について)
第4回：臨床心理学の理論②(フロイトとユング)
第5回：臨床心理学の理論③(分析心理学について)
第6回：臨床心理学の理論④(心の考え方について)
第7回：身体と心
第8回：悩みと心の病①
第9回：悩みと心の病②
第10回：事例検討①
第11回：事例検討②
第12回：悩みと心の病③
第13回：障害に対する援助①
第14回：障害に対する援助②
第15回：心理臨床の研究について
第16回：定期試験

授業外の学習方法

各回の授業終了後、当該部分の配布資料を見直して重要な用語や概念について復習をしてください。

成　績　評　価　方　法

定期試験(80%)、小レポート(10%)、授業参加態度(10%)

成　績　評　価　基　準

臨床心理学の基礎的理論および心の病について、用語や概念を理解し説明することができるか。

テキスト、参考図書

レジュメや資料を配布する。

その他(受講上の注意)

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

臨床心理学Ⅱ (Clinical Psychology Ⅱ)			担当教員	佐藤　至子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS−ABC−2222	2単位	2年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　基幹科目　心理学専門

求める学習成果(教育目標)

教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。
人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。
組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　□コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

臨床心理学の概説。臨床心理学の基礎知識や特有の視点について学ぶ。

授業の到達目標

心理療法の基礎的理論および心的発達を理解し、自分でその内容について説明することができる。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション
第2回：人の一生
第3回：臨床心理学と心的発達①
第4回：臨床心理学と心的発達②
第5回：臨床心理学と心的発達③
第6回：事例検討①
第7回：事例検討②
第8回：心理療法とは
第9回：さまざまな心理療法①
第10回：さまざまな心理療法②
第11回：さまざまな心理療法③
第12回：臨床心理士の仕事①
第13回：臨床心理士の仕事②
第14回：心理臨床の専門性
第15回：まとめ

授業外の学習方法

各回の授業終了後、当該部分の配布資料を見直して、重要な用語や概念について復習してください。

成　績　評　価　方　法

大レポート(80%)、小レポート(10%)、授業参加態度(10%)

成　績　評　価　基　準

心理療法の基礎的理論および心的発達を理解し、自分でその内容について説明することができるか。

テキスト、参考図書

レジュメや資料を配布する。

その他(受講上の注意)

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

生涯発達心理学Ⅰ (Developmental Psychology Ⅰ)			担当教員	竹村　明子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS−ABC−2227	2単位	2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　基幹科目　心理学専門

求める学習成果(教育目標)

教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。
人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。
組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　□コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

1. 本講義では、人生の前半期(胎児期から児童期)の身体的変化および心理的変化について学ぶ。
2. 生涯発達に関する主要理論について学ぶ。
3. 発達心理学を科学的に研究する方法について学ぶ。

授業の到達目標

・人間の生涯を通して展開される発達について理解する視点を獲得する。
・誕生から児童期までの各発達段階の特徴と心理的問題を説明することができる。
・多様な生き方を理解し、互いに認め合う態度を養成する。

授　業　の　計　画

第1回：生涯発達心理学とは
第2回：発達の主要理論
第3回：発達の規定要因(遺伝要因、環境要因、相互作用)
第4回：発達心理学の研究方法(発達メカニズムを解明する方法と発達過程を記述する方法)
第5回：乳児期の発達①(身体と運動機能)
第6回：乳児期の発達②(知覚能力)
第7回：乳児期の発達③(愛着・親子の心の絆)
第8回：主な発達理論のまとめと中間試験
第9回：幼児期の発達①(言語とコミュニケーション)
第10回：幼児期の発達②(認知)
第11回：児童期の発達①(知能の個人差)
第12回：児童期の発達②(記憶と思考)
第13回：児童期の発達③(社会性)
第14回：発達に関連する問題(自閉症スペクトラム障がい)
第15回：発達に関連する問題(学習障がい・注意欠陥多動性障がい)

授業外の学習方法

予習として、次回に学ぶ内容について関連する書籍・新聞・雑誌記事を読み、あらかじめ疑問点等をまとめて授業に臨むこと。また復習として、授業と配布するプリントに基づき、各自のノートに授業内容をまとめておくこと。

成　績　評　価　方　法

中間試験(30%)　期末レポート試験(40%)　小レポート(30%)

成　績　評　価　基　準

・人間の生涯を通して展開される発達について、生涯発達的視点から理解しているか。
・誕生から児童期における各発達の特徴と心理的問題を説明することができるか。
・これまでの自分自身や他者の生き方をみつめ直し、生涯発達心理学の視点から考察できるか。

テキスト、参考図書

テキストは特に指定しない。講義の際にプリントを配布する。参考図書は、必要に応じて講義の中で紹介する。

その他（受講上の注意）
毎回の講義に小レポートの提出を課すので、必ず講義に出席し小レポートを提出すること。講義では、自分の意見をまとめ表現できるよう、心がけてほしい。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

生涯発達心理学Ⅱ （Developmental Psychology Ⅱ）			担当教員	竹村　明子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS−ABC−2228	2単位	2年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　基幹科目　心理学専門

求める学習成果（教育目標）

教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。
人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。
組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

1. 本講義では、人生の後半期（青年期から高齢期）の身体的変化および心理的変化について学ぶ。
2. 身体的な加齢と、心理的変化との関係について学ぶ。
3. 社会的変化が個人の発達にどのように影響するのかについて学ぶ。

授業の到達目標

・人間の生涯を通して展開される発達について理解する視点を獲得する。
・青年期から成人後期までの各発達段階の特徴と心理的問題を説明することができる。
・多様な生き方を理解し、互いに認め合う態度を養成する。

授　業　の　計　画

第１回：青年期から成人後期にかけての発達の特徴
第２回：青年期の発達①　青年期の心理の特徴
第３回：青年期の発達②　自我アイデンティティの確立
第４回：青年期の発達③　職業選択
第５回：成人初期の発達①　セクシュアリティ
第６回：成人初期の発達②　恋愛と結婚
第７回：成人初期の発達③　子育て
第８回：青年期から成人初期のまとめと中間試験
第９回：成人中期の発達①　　中年期の危機とライフサイクル
第10回：成人中期の発達②　身体的機能の衰退と社会活動
第11回：成人中期の発達③　認知機能と記憶の加齢変化
第12回：成人中期の発達④　知的能力の加齢変化と英知
第13回：成人後期の発達①　超高齢社会
第14回：成人後期の発達②　喪失と死
第15回：成人後期の発達③　サクセスフルエイジング
第16回：まとめと期末試験

授業外の学習方法

予習として、次回に学ぶ内容について関連する書籍・新聞・雑誌記事を読み、あらかじめ疑問点等をまとめて授業に臨むこと。また復習として、授業と配布するプリントに基づき、各自のノートに授業内容をまとめておくこと。

成　績　評　価　方　法

中間試験（30%）　期末試験（40%）　小レポート（30%）

成　績　評　価　基　準

・人間の生涯を通して展開される発達について、生涯発達的視点から理解することができるか。
・青年期から成人後期における発達の特徴と心理的問題を説明することができるか。
・これからの自分自身や他者の生き方をみつめ直し、生涯発達心理学の視点から考察できるか。

テキスト、参考図書

テキストは特に指定しない。講義の際にプリントを配布する。参考図書は、必要に応じて講義の中で紹介する。

その他（受講上の注意）
毎回の講義に小レポートの提出を課すので、必ず講義に出席すること。講義では、自分の意見をまとめ表現できるよう、心がけてほしい。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

認知心理学 (Cognitive Psychology)			担当教員	杉島　一郎
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS−ABC−2230	2単位	2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　基幹科目　心理学専門

求める学習成果(教育目標)

教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。
人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。
組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

知覚・記憶・言語・思考など、人間の認知に関するトピックについて学ぶ。認知心理学とは、環境との対応と環境に対する働きかけ、あるいは他者とのコミュニケーションといった、我々が生活していく上でその根幹となる機能について考えていく領域である。現象としてではなく、認知に関する理論や研究法について考察し、日常生活や社会における問題解決能力を身につけることを目指す。

授業の到達目標

・認知に関する理論について理解できる。
・認知に関する研究法について考察することができる。
・他者とのコミュニケーションを円滑にする方法を考えることができる。
・認知に関する知識をもとに、日常生活や社会における問題を考えることができる。

授　業　の　計　画

第1回：認知心理学とは
第2回：知覚［1］
第3回：知覚［2］
第4回：注意
第5回：記憶［1］記憶の基本過程
第6回：記憶［2］短期記憶とワーキングメモリー
第7回：記憶［3］長期記憶(意味記憶、エピソード記憶、手続記憶)
第8回：知識と記憶
第9回：スキーマとメタ記憶
第10回：言語の学習［1］言語習得のメカニズム
第11回：言語の学習［2］言語と思考
第12回：言語の理解
第13回：概念と推理
第14回：思考と問題解決
第15回：まとめ
第16回：定期試験

授業外の学習方法

各回の講義を受けた後、その講義のノートや配布資料を見直して復習し、自分の日常的な思考や観察される現象にあてはめ、理解を深めるようにしてください。

成　績　評　価　方　法

毎回行うブリーフレポート(20%)、定期試験(80%)

成　績　評　価　基　準

・認知に関する理論について説明することができるか。
・認知に関する研究法について考察することができるか。
・他者とのコミュニケーションを円滑にする方法を考えることができるか。
・認知に関する知識をもとに、日常生活や社会における問題を考えることができるか。

テキスト、参考図書
テキストは使用せず適宜プリントを配布する。
その他（受講上の注意）
授業には積極的に参加し、指示されたことや自分の考えをブリーフレポートに書きこんでください。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

生理心理学 (Psychophysiology)			担当教員	水田　敏郎
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS−OBC−2231	2単位	2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　基幹科目　心理学専門

求める学習成果(教育目標)

人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。
組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

人を含めた動物全般の心的活動には脳が大きくかかわっています。この授業では、様々な心理機能の基盤となる脳を中心とした生理学的メカニズムを理解するために、前半では脳や身体の基本構造と働きについて、後半では心的活動と関連の深い生理的活動について、そのアプローチ法とともに解説します。

授業の到達目標

脳の基本構造と働きについて理解する。生理心理学的アプローチの基本について理解する。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション(授業の進め方と概要)
第2回：脳・神経系と心的活動
第3回：脳・神経系の基本構造
第4回：脳の構造
第5回：脳・神経系のはたらき
第6回：生理心理学とは
第7回：生理心理学で用いられる生体反応①
第8回：生理心理学で用いられる生体反応②
第9回：脳波―脳波の記録と分析―
第10回：事象関連電位
第11回：その他の脳機能の測定①
第12回：その他の脳機能の測定②
第13回：生理心理学の応用①―虚偽検出―
第14回：生理心理学の応用②―障害児教育への応用―
第15回：まとめ
第16回：定期試験

授業外の学習方法

各回の講義を受講した後、当該部分の配布資料をよく読んで復習してください。また、予習にあたっても次の授業の内容部分をよく見て、疑問点などをもって授業に臨んでください。

成　績　評　価　方　法

定期試験(70%)　平常点(30%)
(平常点は、授業への参加状況、質問用紙の提出状況などを総合して判断します。)

成　績　評　価　基　準

脳の基本構造と働きについて説明することができるか。生理心理学的アプローチの基本について説明することができるか。

テキスト、参考図書

テキストは使用しない。資料の取得方法については、その都度指示します。
参考図書:「新生理心理学」全3巻　宮田洋監修　北大路書房

その他(受講上の注意)

身体と心の関係に対する基礎的な理解ができます。実験的な心理学研究に関心のある方には受講をすすめます。

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

産業・組織心理学Ⅰ (Industrial and Organizational Psychology Ⅰ)			担当教員	早川　清一
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS−AOC−2233	2単位	2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　基幹科目　心理学専門

求める学習成果(教育目標)

教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。
組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　□コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

産業組織の中で働く人々の心理および行動について解説する。具体的には、リーダーシップ、職場適応、職業適性等について解説する予定である。さらに、日本的人間関係についても理解を深める。

授業の到達目標

産業組織の中で働く人々の心理、行動について理解できる。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション
第2回：産業心理学の出発
第3回：モダンタイムス
第4回：生産方式の変化
第5回：リーダーシップ1
第6回：リーダーシップ2
第7回：リーダーシップ3
第8回：職場適応／職業適性
第9回：動作分析／職務分析
第10回：日本人論
第11回：日本的人間関係1
第12回：日本的人間関係2
第13回：日本的人間関係3
第14回：日本的人間関係4
第15回：労働観と宗教

授業外の学習方法

各回の講義を受けた後で、eラーニングに掲載された当該部分に関連する論文等の資料を熟読し、理解を深めてください。

成　績　評　価　方　法

中間レポート(30%)　期末レポート(70%)

成　績　評　価　基　準

産業組織の中で働く人々の心理および行動について、説明および考察することができるか。

テキスト、参考図書

テキストは使用しない。eラーニングに、講義で使用するスライド資料および関連論文等を掲載している。また、講義で使用したパワーポイントも講義終了後に公開するので、復習に利用してください。

その他(受講上の注意)

定期試験の受験資格の要件「欠席数が、実施授業時間数の3分の1を超えていないこと」を確認するため、出欠は毎回とります。授業中の私語は厳禁です。3年次に、早川ゼミを希望する人は必ず受講してください。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

産業・組織心理学Ⅱ (Industrial and Organizational Psychology Ⅱ)			担当教員	早川　清一
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS-OOC-2234	2単位	2年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　基幹科目　心理学専門

求める学習成果(教育目標)

組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　□コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

産業組織の中で働く人々の心理および行動について解説する。具体的には、ストレス、ワークモチベーション、勤労観等について解説する予定である。

授業の到達目標

産業組織の中で働く人々の心理、行動について理解できる。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション
第2回：ストレス1
第3回：ストレス2
第4回：ストレス3
第5回：ストレス4
第6回：ワークモチベーション1
第7回：ワークモチベーション2
第8回：ワークモチベーション3
第9回：教育訓練／人事考課
第10回：賃金管理
第11回：勤労観と雇用
第12回：ワーキング・プア1
第13回：ワーキング・プア2
第14回：就業条件管理
第15回：生きがい

授業外の学習方法

各回の講義を受けた後で、eラーニングに掲載された当該部分に関連する論文等の資料を熟読し、理解を深めてください。

成　績　評　価　方　法

中間レポート(30%)　期末レポート(70%)

成　績　評　価　基　準

産業組織の中で働く人々の心理および行動について、説明および考察することができるか。

テキスト、参考図書

テキストは使用しない。eラーニングに、講義で使用するスライド資料および関連論文等を掲載している。また、講義で使用したパワーポイントも講義終了後に公開するので、復習に利用してください。

その他(受講上の注意)

定期試験の受験資格の要件「欠席数が、実施授業時間数の3分の1を超えていないこと」を確認するため、出欠は毎回とります。授業中の私語は厳禁です。3年次に、早川ゼミを希望する人は必ず受講してください。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

社会心理学Ⅰ (Social Psychology Ⅰ)			担当教員	山本　雅代
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS−ABC−2235	2単位	2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　基幹科目　心理学専門

求める学習成果(教育目標)

教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。
人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。
組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

人間の社会的行動について心理学の立場から解説する。
社会心理学Ⅰでは、社会の中の個人に注目し、自己意識、自己概念がどのように形成され、また個人が他者をどのように認知、理解し、自己の行動を表出させるのか、といった問題について解説する。
授業ではできるだけ実社会で起こっている現象をとりあげ社会心理的視点から理解していくことをめざす。

授業の到達目標

（1）社会心理学における基本的な概念について理解する。
（2）集団の中の個人の行動を理解する。
（3）現実社会での個人の行動を理解し、研究と結び付けて考えることができる。

授　業　の　計　画

第1回：社会心理学について
第2回：自己意識
第3回：自己概念
第4回：自己呈示
第5回：没個性化
第6回：原因帰属
第7回：対人認知とステレオタイプ
第8回：対人魅力（1）
第9回：対人魅力（2）
第10回：対人魅力（3）
第11回：動機づけ
第12回：社会的動機
第13回：異文化交流ゲーム（1）
第14回：異文化交流ゲーム（2）
第15回：まとめ

授業外の学習方法

講義中に紹介した問題について自主的に復習すること。
各講義後に手書きノートを作るなどすることが望ましい。

成　績　評　価　方　法

授業中に実施する小テスト、課題レポート、授業への参加態度等を総合的に判断し評価する。
【小テスト60%　　課題レポート30%　授業への参加態度10%】

成　績　評　価　基　準

社会心理学の基本的概念について説明できるか。
集団の中の個人の行動を理解できているか。
現実社会での個人の行動を理解し、研究と結び付けて考えることができるか。

テキスト、参考図書

授業中に適宜資料を配布する。

その他（受講上の注意）
基本的に講義形式ですが、より理解を深めるために必要に応じてVTRを使用したり、自己分析、異文化交流ゲームを実施する。その際、レポート課題の提出を求めることがある。 ゲームには出席することが望ましい。 ゲームは数時間を要する場合があり、実施日時については授業の状況をみてその都度調整変更する場合がある。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

社会心理学Ⅱ （Social Psychology Ⅱ）			担当教員	山本　雅代
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS−ABC−2236	２単位	２年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　基幹科目　心理学専門

求める学習成果（教育目標）

教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。
人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。
組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

人間の社会的行動について心理学の立場から解説する。
社会心理学Ⅱでは、社会の中の個人、集団の中の個人に注目して授業を行う。
現実社会で起こる様々な人間行動について過去の実験や研究を紹介しながら解説していく。
主なテーマは、社会的動機、集団や群衆行動、リーダーシップ、援助行動、攻撃行動、同調と服従などである。
また特別講義として、模擬社会ゲームに参加してもらうこととする。模擬社会ゲームは社会でおこる様々な現象や構造を理解するゲームであり、これに参加することにより大学生活ではあまり遭遇しない社会、集団の概念を理解し、心理的葛藤、集団間葛藤等を体験し、問題解決能力を向上させることができる。このような社会生活に近い体験学習を通じ人間の行動に対する理解をより深め、社会や社会の中の一部である自己を探求し、自己成長することを目指す。

授業の到達目標

１）社会心理学における基本的な概念について理解する。
２）集団葛藤やコミュニケーションスキルについて理解する。
３）日常生活における対人間、集団間の心理学的法則について理解する。

授　業　の　計　画

第１回：状況の力とは
第２回：個人と集団
第３回：集団の凝集性
第４回：集団意思決定
第５回：リーダーシップ
第６回：同調と服従
第７回：囚人と看守実験
第８回：流言
第９回：パニック
第10回：援助行動（１）
第11回：援助行動（２）
第12回：攻撃行動（１）
第13回：攻撃行動（２）
第14回：ゲーム理論
第15回：模擬社会ゲームについて

授業外の学習方法

講義中に紹介した問題について自主的に復習すること。
各講義後に手書きノートを作るなどすることが望ましい。

成　績　評　価　方　法

授業中に実施する小テスト、課題レポート、授業への参加態度等を総合的に判断し評価する。
【小テスト60％　　課題レポート30％　授業への参加態度10％】

成　績　評　価　基　準
社会心理学における基本的概念について説明できるか。 集団葛藤やコミュニケーションスキルについて説明できるか。 日常生活における対人間、集団間の心理学的法則について理解できているか。
テキスト、参考図書
授業中に資料配布。
その他（受講上の注意）
基本的に講義形式ですが、より理解を深めるために必要に応じてVTRを使用したり、簡単な討議や自己分析などを行うことがある。その際、レポート課題の提出を求める。 また特別講義として模擬社会ゲームを実施する。 ゲームには出席することが望ましい。 ゲームは数時間を要する場合があり、実施日時については授業の状況をみてその都度調整変更する場合がある。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

心理学特別講義 (Topics in Psychology)			担当教員	水田　敏郎、早川　清一、西村　則昭、 大森　慈子、山本　雅代、三脇　康生、 水上　喜美子、森　俊之、片畑　真由美、 久保　陽子、森本　文人、吉水　ちひろ、 竹村　明子、杉島　一郎、氏田　麻美
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS-F-2239	2単位	2年前期	講義	必修

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　基幹科目　心理学専門

求める学習成果(教育目標)

心理学の研究方法や基礎的知識を習得する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

心理学科の全教員が1回の持ち回りで講義を行うオムニバス形式の授業です。各専任教員が専門とする心理学の諸分野を解説します。

授業の到達目標

心理学の諸分野について理解を深める。様々なトピックスに触れる中で、心理学に対する関心を高める。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション
　　各教員が専門とする内容①／西村　則昭
第2回：各教員が専門とする内容②／片畑真由美
第3回：各教員が専門とする内容③／大森　慈子
第4回：各教員が専門とする内容④／杉島　一郎
第5回：各教員が専門とする内容⑤／久保　陽子
第6回：各教員が専門とする内容⑥／三脇　康生
第7回：各教員が専門とする内容⑦／竹村　明子
第8回：各教員が専門とする内容⑧／早川　清一
第9回：各教員が専門とする内容⑨／水上喜美子
第10回：各教員が専門とする内容⑩／水田　敏郎
第11回：各教員が専門とする内容⑪／森本　文人
第12回：各教員が専門とする内容⑫／森　　俊之
第13回：各教員が専門とする内容⑬／山本　雅代
第14回：各教員が専門とする内容⑭／吉水ちひろ
第15回：各教員が専門とする内容⑮／氏田　麻美
＊各教員が一回ずつ担当する

授業外の学習方法

毎回担当教員が変わりますので、疑問や予め知っておきたい事項があるときには、時間外(オフィスアワーなど)を活用して、担当教員に質問などをするようにして、予習・復習につとめてください。

成　績　評　価　方　法

小レポート(50%)　平常点(50%)
(毎回、授業後に小レポートが課されます。平常点は授業への参加状況・受講態度などを総合して判断します。)

成　績　評　価　基　準

各授業において担当教教員の説明する心理学的トピックについて理解を深めることができたか。また、あわせて関心や疑問をもつことができたか。

テキスト、参考図書

使用しない

その他（受講上の注意）
3年生から始まるゼミ（心理学特別演習Ⅰ・Ⅱ）の担当教員や4年生の卒業研究のテーマを決めるうえで、重要な授業となります。週ごとに担当教員が変わるので、毎回出席してください。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

言語コミュニケーション論 (Verbal Communication)			担当教員	矢橋　知枝
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Abg−2201	2単位	2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　基幹科目　人間関係・コミュニケーション系

求める学習成果(教育目標)

テキスト、画像、映像、図、音響、などの素材の特性を活かし、マルチメディアを媒介としたコンテンツ作成能力や表現力を育成する。
現代社会の情報の洪水のなかで、自分なりに課題を析出し、明らかにしていくための、グローバルな視点を育てる。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

コミュニケーションにおける言語の役割について学ぶ。

授業の到達目標

円滑な人間関係を維持する上で、必要となる言語的要素について学ぶ。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション
第2回：ことばと社会
第3回：方言（1）
第4回：方言（2）
第5回：呼称（1）
第6回：呼称（2）
第7回：対人関係の親密化（1）
第8回：対人関係の親密化（2）
第9回：自己開示（1）
第10回：自己開示（2）
第11回：自己呈示（1）
第12回：自己呈示（2）
第13回：ポライトネス理論（1）
第14回：ポライトネス理論（2）
第15回：まとめ

授業外の学習方法

予習として、各回に関連する資料を読み、あらかじめ疑問点を考えておくこと。また復習としては授業時の板書やハンドアウトに基づいて、各自のノートに授業内容をまとめておくこと。

成　績　評　価　方　法

期末レポート（50%）　授業内レポート（30%）　平常点（20%）
（平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

コミュニケーションにおいて、言語が果たす役割を説明することができるか。

テキスト、参考図書

町田健・籾山洋介　『よくわかる言語学入門』　1996年　バベルプレス　【1年次言語学概論で使用した教科書】　その他、適宜プリントを配布する。

その他(受講上の注意)

遅刻3回で欠席1回とみなす。必ず国語辞書（電子辞書可）を持参すること。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

非言語コミュニケーション論 (Nonverbal Communication)			担当教員	山本　雅代
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Abg−2211	2単位	2年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　基幹科目　人間関係・コミュニケーション系

求める学習成果(教育目標)

テキスト、画像、映像、図、音響、などの素材の特性を活かし、マルチメディアを媒介としたコンテンツ作成能力や表現力を育成する。
現代社会の情報の洪水のなかで、自分なりに課題を析出し、明らかにしていくための、グローバルな視点を育てる。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

普段意識していないが、対人コミュニケーションにおいて私たちは、言語以外にもさまざまなチャンネルを使用しコミュニケーションしている。そのようなチャンネルをどのように受け取り、他者に対してどのように使用しているのか、またどのような状況でどのような効果があるのか、といった問題について論じる。
さらに、国際交流が深まる中、言語が使えない状況での非言語コミュニケーションが果たす役割は大きいと思われる。言葉が通じる場合でも、理解不足から上手にコミュニケーションがとれないといった状況も頻繁に遭遇する。講義では、このようなコミュニケーションの状況について、異文化交流ゲームを通じて、非言語体験、異文化接触の際の心理状況や行動、問題解決について考え、これを通じて自己理解、他者、集団理解していく。

授業の到達目標

1）非言語コミュニケーションとは何かを理解する
2）他者との相互関係の中で使用されるコミュニケーションを理解する
3）現実社会で使用されている非言語情報を理解する

授　業　の　計　画

第1回：非言語コミュニケーションとは
第2回：言語的コミュニケーションと非言語コミュニケーションの違いⅠ
第3回：言語的コミュニケーションと非言語コミュニケーションの違いⅡ
第4回：視線Ⅰ
第5回：視線Ⅱ
第6回：対人認知と印象形成Ⅰ
第7回：対人認知と印象形成Ⅱ
第8回：表情
第9回：ジェスチャーと表情
第10回：プレゼンテーションと非言語コミュニケーション
第11回：空間把握
第12回：異文化コミュニケーションと非言語
第13回：異文化コミュニケーションゲームⅠ
第14回：異文化コミュニケーションゲームⅡ
第15回：まとめ

授業外の学習方法

講義中に紹介した問題について自主的に復習すること。
各講義後に手書きノートを作るなどすることが望ましい。

成　績　評　価　方　法

授業中に実施する小テスト、課題レポート、授業への参加態度等を総合的に判断し評価する。
【小テスト60%　　課題レポート30%　授業への参加態度10%】

成　績　評　価　基　準

非言語コミュニケーションについて基本的概念を理解できる。
積極的に他者とコミュニケーション行える。

テキスト、参考図書
授業中に資料配布
その他（受講上の注意）
基本的に講義形式ですが、より理解を深めるために必要に応じてVTRを使用したり、自己分析、異文化交流ゲームを実施する。その際、レポート課題の提出を求めることがある。 ゲームには出席することが望ましい。 ゲームは数時間を要する場合があり、実施日時については授業の状況をみてその都度調整変更する場合がある。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

パーソナル･コミュニケーション論ａ (Personal Communication a)			担当教員	谷　雅徳
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Aab−2202	２単位	２年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　基幹科目　人間関係・コミュニケーション系

求める学習成果（教育目標）

柔軟な発想力と企画力を身につけるとともに、企画した内容を実行するための、有効かつ実際的なプランを構築する能力を育成する。
テキスト、画像、映像、図、音響、などの素材の特性を活かし、マルチメディアを媒介としたコンテンツ作成能力や表現力を育成する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

パーソナルコミュニケーションを自己との対話と位置づけ、集中講義の形式を取る事で自分自身を徹底的に見つめ直す機会を作ります。その手段に書道を用います。もちろん字をうまく書く事を目的とはしません。自分がこうだと決めつけている形から抜け出し、自己を素直に表現する事を目的とします。限りなく演習に近い講義となります。

授業の到達目標

自分自身を見つめる能力。すなわち内省力を養います。囚われている自己を開放させる方法論を学びます。

授　業　の　計　画

授業を一緒に学ぶ上で仲間意識を高めます
第１回：自分てなんだろう
第２回：取り敢えず、紙に向かって書いてみる
第３回：自己紹介をかねて全員が話す１
第４回：紙、硯、筆の歴史を学ぶ（DVD鑑賞）
第５回：墨の歴史（DVD鑑賞）

自分を知り、さらに自身に対する考察を深める
第６回：内省書道１
第７回：内省書道２
第８回：内省書道３
第９回：内省書道４
第10回：内省書道５

形から抜け出す方法論を学びます
第11回：解放書道１
第12回：解放書道２
第13回：解放書道３
第14回：解放書道４
第15回：作品鑑賞、意見交換

授業外の学習方法

講義で自分が感じ取った感覚を出来るだけその日のうちに思い返し、次の日の講義に向けて意識を持続させて下さい。

成　績　評　価　方　法

提出課題（40％）小レポート（30％）平常点（30％）「平常点は、授業への参加意欲、受講態度等を総合して判断します」

成　績　評　価　基　準

どれだけ自分を深く見つめる事が出来ているのか。どれだけ自分を素直に表現出来ているのかを判断基準とします。

テキスト、参考図書
現場で配布します。
その他（受講上の注意）
墨を扱うので出来るだけ汚れても良い服装で受講して下さい。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

プレゼンテーション技法a (Presentation Skills a)			担当教員	高橋　知世
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Aab−2201	2単位	2年前期	演習	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　基幹科目　人間関係・コミュニケーション系

求める学習成果(教育目標)

柔軟な発想力と企画力を身につけるとともに、企画した内容を実行するための、有効かつ実際的なプランを構築する能力を育成する。
テキスト、画像、映像、図、音響、などの素材の特性を活かし、マルチメディアを媒介としたコンテンツ作成能力や表現力を育成する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　■計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

Power Pointを用いて、プレゼンテーションのための技法を習得する演習を行う。その前段階として、図表をはじめとして、情報をわかりやすく伝えるための手段の一つであるビジュアライゼーション（視覚化）についての解説と絵集を行う。さいごに、まとめとして、グループによるプレゼンテーションと相互評価を実施する。

授業の到達目標

ビジュアライゼーションのスキルやPower Pointの基本的な操作スキルを習得するだけでなく、自らのアイデアと適切な情報収集によって、プレゼンテーションの企画立案を行い、説得的なコミュニケーションという位置づけにおいて、魅力あるプレゼンテーションを実現できる能力を養成する。

授　業　の　計　画

第１回：イントロダクション（プレゼンテーションとは？）
第２回：ビジュアル・コミュニケーションって何？
第３回：ビジュアル・コミュニケーションの概説（１）
第４回：ビジュアル・コミュニケーションの概説（２）
第５回：ビジュアライゼーション（視覚化）の演習（１）
第６回：ビジュアライゼーション（視覚化）の演習（２）
第７回：ビジュアル・デザインの演習（１）
第８回：ビジュアル・デザインの演習（２）
第９回：プレゼンテーションの企画とスライドの作成（１）
第10回：プレゼンテーションの企画とスライドの作成（２）
第11回：プレゼンテーションの企画とスライドの作成（３）
第12回：プレゼンテーション演習と評価（１）
第13回：プレゼンテーション演習と評価（２）
第14回：プレゼンテーション演習と評価（３）
第15回：プレゼンテーション演習と評価（４）

授業外の学習方法

授業時に授業時間外に行うべき課題（予習・復習も含めて）について指示する。具体的に、予習については、次の授業で扱う内容について教科書の該当部分を読み、あらかじめ質問等を考えておくこと。また、復習については、Power Point の操作を含め、指示するビジュアライゼーションの練習課題等を行っておくこと。

成　績　評　価　方　法

課題等の提出物を30％、授業における発表を50％、平常点を20％として評価する。なお、平常点は、授業への参加状況・受講態度・授業中の発言等を総合して判断する。

成　績　評　価　基　準

ビジュアライゼーションの考え方を理解しそれを実践できること、Power Point を操作することによって、プレゼンテーションのスライド（資料）を作成することができること、また、そのスライドを用いて、プレゼンテーションの評価項目に留意しながら、魅力あるプレゼンテーションを行うことができることについて、受講生の評価も考慮に入れつつ評価する。

テキスト、参考図書
ワイルマン、R.E.・井上智義・北神慎司・藤田哲也 『ビジュアル・コミュニケーション』 北大路書房 2002年
その他（受講上の注意）
授業の中では、グループワークも予定しているため、できるだけ欠席をすることのないように留意すること。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

プレゼンテーション技法b (Presentation Skills b)			担当教員	本多　幸子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Aab−2211	2単位	2年後期	演習	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　基幹科目　人間関係・コミュニケーション系

求める学習成果(教育目標)

柔軟な発想力と企画力を身につけるとともに、企画した内容を実行するための、有効かつ実際的なプランを構築する能力を育成する。
テキスト、画像、映像、図、音響、などの素材の特性を活かし、マルチメディアを媒介としたコンテンツ作成能力や表現力を育成する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

本講義では、プレゼンテーションについて概説するとともに、多様な実例をもとにその技法を研究する。このため、対象、利用媒体など異なる環境におけるプレゼンテーションの映像的記録をもとに、それに伴う身体表現・音響などの特徴、効果について分析する。また、その結果についてのプレゼンテーションを学生自身で行い、相互に評価・検討を行う。本講義を通して、コミュニケーション能力や情報収集・探索能力を高めることを目指す。

授業の到達目標

本講義では、情報の視覚化・マルチメディア化を行い、パソコンを直接操作するデジタルプレゼンテーションの演習を通して、多様な情報の取り扱いと情報表現能力を身につける。

授　業　の　計　画

第1回：「プレゼン」とは何か？超一流のプレゼンに観るその本質
第2回：感動プレゼンの解析。なぜ「そのプレゼン」は観衆を総立ちにさせるのか？
第3回：データを駆使したプレゼン〜ハンス・ロスリングスに学ぶ
第4回：データ・プレゼン実習（1）
第5回：データ・プレゼン実習（2）
第6回：データ・プレゼン実習（3）
第7回：映像プレゼン実習（1）
第8回：映像プレゼン実習（2）
第9回：映像プレゼン実習（3）
第10回：モノローグ＆ダイアローグ・プレゼン実習（1）
第11回：モノローグ＆ダイアローグ・プレゼン実習（2）
第12回：モノローグ＆ダイアローグ・プレゼン実習（3）
第13回：ノン・ヴァーバルプレゼンの可能性第（1）
第14回：ノン・ヴァーバルプレゼンの可能性第（2）
第15回：プレゼンテーションの意義や課題に関する総括的議論と発表

授業外の学習方法

各回の講義を受講後、配付資料を見直して復習すること。また、デジタルプレゼンテーションの発表に向けて、各自準備すること。

成　績　評　価　方　法

小レポート（30%）、平常点（50%）、発表（20%）
（平常点は、授業への参加状況・受講態度などを総合して判断する。）

成　績　評　価　基　準

・コミュニケーション能力や情報収集・探索能力を高めることができるか。
・パソコンを活用して、デジタルプレゼンテーションを行うことができるか。

テキスト、参考図書

なし

その他（受講上の注意）
遅刻や欠席はしないこと。教員との連絡方法については、授業時に指示する。 各授業ごとに仮題ビデオを鑑賞し、逐次そのテーマに添ったパワーポイントを作成して発表する。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

地域経済論 (Regional Economics)			担当教員	安彦　智史
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Chh−2201	2単位	2年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　基幹科目　社会・文化系

求める学習成果(教育目標)

社会調査の知識と技術の修得によって、データを自分で収集する力、データを分析する力、分析結果を効果的に伝える力を獲得する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　■選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

この講義では、地方自治体が地域において実施している支援事業を中心に調査を行う。さらにその内容を分析し、地域の問題点や産業化戦略について考察を行う。また、授業後半では自身が住んでいる地域についての理解を深め、分析結果をパブリッシュする。

授業の到達目標

・経済が発展し産業化していくプロセスを地域間の人口移動との関連で理解する。
・福井（越前地域）をはじめとする地域社会の特徴を理解する。

授　業　の　計　画

第1回：ガイダンス
第2回：経済発展と地域社会①
第3回：経済発展と地域社会②
第4回：経済発展と地域社会③
第5回：グループ分け、福井が促進する新事業についての紹介
第6回：福井が促進する新事業①調査（グループワーク）
第7回：福井が促進する新事業②分析（グループワーク）
第8回：福井が促進する新事業③考察（グループワーク）
第9回：福井が促進する新事業④発表
第10回：グループ分け、地域におけるWikipedia活用事例についての紹介
第11回：福井を取り巻く社会環境①調査（グループワーク）
第12回：福井を取り巻く社会環境②分析（グループワーク）
第13回：福井を取り巻く社会環境③Wikipedia加筆（グループワーク）
第14回：福井を取り巻く社会環境④発表
第15回：まとめ

授業外の学習方法

新聞を日々読み、新たな技術や社会情勢を確認し、「ビジネスにどのように役立てていくのか？」や「どのようにビジネスに利用できるのか？」を日々考えてください。

成　績　評　価　方　法

授業中のグループワークでの発言と各グループの発表（1グループ15分程度×2）の内容および日々の発言内容等を加味して総合的に評価する。
発表（50%）　平常点（50%）（平常点はディスカッションの参加度や発言内容を加味して総合的に判断する）

成　績　評　価　基　準

・経済が発展し産業化していくプロセスを地域間の人口移動との関連で理解できているか。
・福井（越前地域）をはじめとする地域社会の特徴を理解しているか。

テキスト、参考図書

必要に応じて、プリントの配布、参考文献・テキストの指示などを行う。

その他(受講上の注意)

グループワーク主体であるため、授業の出席は必須事項.

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

地域社会論 (Social Coexistence Studies)			担当教員	島岡　哉
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-Chh-2211	2単位	2年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　基幹科目　社会・文化系

求める学習成果(教育目標)

社会調査の知識と技術の修得によって、データを自分で収集する力、データを分析する力、分析結果を効果的に伝える力を獲得する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

本講義は、「地域」「環境」「共生」をキーワードとし、社会変動の中でどのように地域社会が変容を遂げたのかについて学ぶ。取り扱うテーマは、民俗文化から近年のまちおこし、ボランティアの実践まで、多岐にわたる。自らが暮らし、生きてゆく地域を対象化してとらえるために、越前・若狭地域だけでなく、他の地域の事例と分析も扱う。本講義は、1年次「地域研究概論」で扱ったそれぞれの学問領域の考え方を、もう1段階レベルアップした形で、また、領域横断的な形で、地域社会の分析に適応・考察する内容となる。

授業の到達目標

地域特性を析出する力を身につけ、地域社会が抱える問題を対象化してとらえ、課題解決に資する力を身につける。卒業後には、共生社会を実現できる社会人になることを目指す。

授　業　の　計　画

第1回：ガイダンス —— 日常生活世界から地域文化を捉える
第2回：都市化の進展と伝統文化の共存 —— 京都・祇園祭の事例から
第3回：移住とむらおこし ——「田舎暮らし」の事例から
第4回：レジャーとむらおこし ——「バス釣り」の事例から
第5回：「ボランティアセンター」と「ボランティアコーディネーター」
第6回：社会福祉協議会、財団、公益財団法人、NPO、NGOと行政機関の関連性
第7回：災害ボランティアの実践① —— 阪神・淡路大震災(1995)
第8回：災害ボランティアの実践② —— 日本海重油災害(1997)
第9回：災害ボランティアの実践③ —— 東紀州水害(2004、講師の経験から)
第10回：災害ボランティアの実践④ —— 東日本大震災(2011～、講師の経験から)
第11回：福祉ボランティアの実践 —— 育児、介護、disabilityの人たちをめぐって
第12回：医療ボランティアの実践 —— 妊娠・出産から埋葬まで
第13回：スポーツボランティアの実践 —— スポーツ大会運営、地域スポーツ団体、障碍者スポーツ
第14回：ボランティアの担い手としての企業
—— 企業市民社会、メセナ、corporate social responsibility(CSR)
第15回：共生社会の実現に向けて —— 理論から実践への展開を目指して
第16回：定期試験

授業外の学習方法

講義中に示した文献・論文を読むことで地域特性の析出方法と他地域の事例を知ること。講義内で扱った自治体やNPOなどの地域の担い手が作るホームページ、ブログ等を適宜検索・閲覧し、理解を深めること。

成　績　評　価　方　法

リアクションペーパー記載の内容(出欠も兼ねる)20%、地域調査報告ミニレポート(20%)、定期試験60%。

成　績　評　価　基　準

地域特性を析出する力と、地域社会の抱える問題を調査、探索する力が身についているかどうか。それに基づき、実践的課題解決に向けての基礎的思考方法が身についているかどうか。共生社会の理念とその実践について理解を深めることができたか。

テキスト、参考図書

カバー範囲が広いため、テキストの指定はしない。そのかわり、講義中に、参考文献および論文を明示する。

その他（受講上の注意）
真摯に学ぶ学生に対して、悪影響を与える学生には、単位を与えない。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

デザイン文化論 (Design and Culture)			担当教員	佐野　寛
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Abb−2201	2単位	2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　基幹科目　社会・文化系

求める学習成果(教育目標)

テキスト、画像、映像、図、音響、などの素材の特性を活かし、マルチメディアを媒介としたコンテンツ作成能力や表現力を育成する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

人口爆発、格差社会、異常気象、世界の中の日本と、自分が住む地域の近未来を、デザインの視点から考える。

授業の到達目標

世界経済のシステムが行き詰まり、貧富の格差が世界中で深刻化し、異常気象による災害が頻発して人間生活を脅かすようになっている。この講義は、そうした世界状況の現状をデザインおよび文化の視点から読み解いて、地域の文化的、経済的再生こそが、明るい未来を拓くという認識に到達することを目標とする。そのために、歴史を振り返り、IT革命以降の経済社会の激変と生活文化の関係を振り返り、スマホ、タブレット端末が人間生活を変える現実の行方がどうなっていくか、いくべきかを考えていく。そしてそうした現実変革に対しデザインに対するデザインの役割を、並行して考えていく。

授　業　の　計　画

第１回：始めに、現実を再認識し、グローバルな格差問題と、世界人口増と難民問題、地域再生の緊急性について言う。
第２回：デザイン―文化―人間（１）デザインの中に生まれ育ち生きる人間
第３回：デザイン―文化―人間（２）デザインが造る生活環境
第４回：デザイン―文化―人間（３）デザインのメッセージ
第５回：デザインと文化の流れ（１）発明発見19世紀、戦争の20世紀、そしてITの21世紀へ
第６回：デザインと文化の流れ（２）メディアのコミュニケーション革命
第７回：広告の発展（１）大量生産大量消費ビジネスの人間改造と地域文化の衰退
第８回：広告の発展（２）メディア革命／若者の大都市志向／地域の過疎化高齢化
第９回：広告の発展（３）広告の手法（気にしない力／満足仮説／AIDMA／視聴率と多数決原理）
第10回：広告の発展（４）広告の現在（マスメディアの衰退とメディアの多様化）
第11回：デザインと文化のこれから（１）IT革命と広告文明の崩壊１　大量生産大量消費の激変
第12回：デザインと文化のこれから（２）IT革命と広告文明の崩壊２　スマホ対マスメディア
第13回：デザインと文化のこれから（３）世界と日本の問題１　地域環境／人口／水／食糧自給率
第14回：デザインと文化のこれから（４）世界と日本の問題２　地産地消の真の意味
第15回：デザインと文化のこれから（５）世界と日本の問題３　デザインの新使命と地域文化の復興

授業外の学習方法

事前配布資料（コミュニケーション論）、参考図書（下記）と良く読んでおくこと。
参考図書（１）ハワード・ラインゴールド『スマートモブス』NTT出版　（２）佐野寛『メディア写真論』パロル舎　2000　（３）佐野寛『21世紀的生活』三五館　1996　（４）佐野山寛太『現代広告の読み方』文春新書　（５）佐野山寛太『追悼　広告の時代』洋泉社Y新書

成　績　評　価　方　法

レポート50%,平常点50%（平常点は、授業への参加状況、受講態度、レポートの提出等を総合して判断する。

成　績　評　価　基　準

社会問題（経済問題、格差社会、異常気象等）を認識し、明るい未来を拓く力（問題解決力）を身につけることができているか。

テキスト、参考図書
（1） 佐野寛「コミュニケーション」論（コピー夏期休暇前に配付）授業当日までに読んでおく。 （2） 世界人口図（当日配布） （3） PLANA／PLANB図
その他（受講上の注意）
3日間の集中講義なので3日間の出席率が単位取得の条件になる。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

時事問題研究 a (Research of Current Affairs a)			担当教員	升田　法継
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Cff−2201	2単位	2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　基幹科目　社会・文化系

求める学習成果(教育目標)

思想と歴史を段階的かつ学際的に学ぶことによって、実践知・専門知のみに偏らない教養・知・文化理解を獲得する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

内外の主な出来事を正確に理解して、自分たちの生活や仕事にどう関わり、影響するかを把握できるような内容にしたい。ニュースへの関心と理解を深めることで時代や身の回りの変化への対応力がつくような内容にしていきたい。

授 業 の 到 達 目 標

・日々のニュースに関心を持つ。
・ニュースの中身についての理解を深める。
・政治や経済の仕組みを理解し、現在起きていることの意味を考える。
・消費税を含め、税の仕組みを学び、自治体や国家の財政についても理解するようにする。
・社会現象についても背景を考え、解決策を探る。
・事件報道については警察、検察そして裁判までの仕組みを理解する。
・近隣諸国の関係を含め、国際社会の現状認識を深める。
・福井県内のニュースにも触れながら、県政の方向について学ぶ。
・ニュースに登場する人を取り上げ、どのような人物かを知る。
＊前期（時事問題研究aでは一週間単位で起きるニュース解説をしながら上記にあげたように基礎的な仕組みやことがらへの理解を深めるようにする。

授　業　の　計　画

第１回：オリエンテーション、時事問題理解への意義
第２回：国の予算と決定までの課程
第３回：選挙制度の変遷と定数是正
第４回：国際情勢と国の安全保障
第５回：エネルギー問題を考える
第６回：原発立地の歴史と課題
第７回：国際貿易とTPP
第８回：福井の経済構造と課題
第９回：日本経済の変遷と課題_第１回：オリエンエンテーション、新聞の読み行く方。時事問題理解への意義。
第10回：日本経済の変遷と課題_
第11回：地域を変える交通体系
第12回：観光について考える
第13回：地域の魅力発見と発信
第14回：近隣諸国との関係
第15回：国際スポーツ競技について考える。
第16回：試験
＊第２回目以降は１週間単位のニュース報道を見ながら上記にあげたテーマを順不同に取り上げる。このため回ごとのテーマと授業内容が多少しずれることもある。

授 業 外 の 学 習 方 法

基本的には毎日、新聞を読むことやラジオ、テレビのニュース報道に接することを求めていく。毎回一週間単位でのニュースレジメを配布するが、理解できないことや、どのような関連ニュースがあったかを授業の最初に質問していく。

成　績　評　価　方　法
定期試験（70％）、小レポート（10％）、平常点（20％） （平常点は、授業への参加状況、受講態度、質問用紙等の状況を総合的に判断します。）
成　績　評　価　基　準
・ニュースに出てきたキーワードを理解しているか。 ・政治や経済の仕組みをどこまで理解したか。 ・景気の良い悪いとはどのようなことか。 ・大きな出来事についての背景や展開を理解できたか。 ・国際問題などで何が問題になっているのか。 ・このほか、授業期間中起きたニュースを題材に授業で取り上げた内容について理解しているか。
テキスト、参考図書
特別なテキストは用意しないが、テーマごとに参考図書を提示する。 毎回ニュースレジメを用意し配布する。 ＊参考図書 「日経HR編集部」・「日経キーワード」・「日経HR」・「2013年」 「池上彰」・「池上彰のニュースそこからですか」・「文春新書」・「2012年」 「清原聖子・前嶋和弘」・「インターネットが変える選挙」・「慶応義塾大学出版会」・「2011年」 「日本新聞協会編集委員会」・「取材と報道」・「日本新聞協会」・「2009年」 「増田弘・土山実男」・「日米間系キーワード」・「有斐閣」・「2001年」 「新版　比較・選挙政治」・「ミネルヴァ書房」・「2004年」
その他（受講上の注意）
ニュースに接することを習慣づけるように心がける。そのため新聞、テレビ、ネットのほか雑誌、書籍にも触れ、関心を高めた問題はより深く考えるようにする。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

時事問題研究ｂ (Research of Current Affairs b)			担当教員	四戸　友也
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Cff−2211	２単位	２年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　基幹科目　社会・文化系

求める学習成果（教育目標）

思想と歴史を段階的かつ学際的に学ぶことによって、実践知・専門知のみに偏らない教養・知・文化理解を獲得する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

前期同様、日々起きるニュースの焦点を当てながら授業を進める。前期はニュースのテーマになっている事柄について仕組みから解説するが、後期ではニュースの流れを追う。そのニュースの発生した原点、つまりどこから、どのような原因で起きたかを分析しながらニュースは一過性でないことを学んでいく。

授業の到達目標

・日々の出来事、報道に関心を持てるようになる。
・ニュースを歴史的な視点で見ていく。新聞で報道された事柄は発生モノ（事故・事件）は突然起きるが、通常のニュースには以前からくすぶっていたことが表に出てくる。そうした原点を調べることで当日のニュースが通過点であり、今後の展開を予想することも出来ることを学ぶ。
・国際関係についても歴史的な寒天で考えることで理解を深める、
・社説・論説など新聞によって異なる見方や主張をしているケースは多い。読み比べ、ニュースを多角的に読むことが出来るようにしたい。
・二項対立の案件も多いが、第三の道を探るとの視点でニュースを読み解く努力が出来るか。
・客観的なものの見方が出来るようになる。一方で、さまざまな情報を入手し自分の考え方を確立するような努力が出来るか。

授　業　の　計　画

第１回：オリエンテーション、後期の授業の進め方。時の話題を取り上げ、歴史的なものの見方を考える
第２回：経済動向の行方。経済ニュースを最近の流れから分析しながら検討してみる。
第３回：臨時国会の焦点。
第４回：オリンピックに向けて東京一極かが加速するのか。大阪はどうなる。福井は。
第５回：北陸新幹線について考える。整備新幹線の歴史と到達点。金沢開業で福井はどう変わるのか。
第６回：先送りされた消費税のアップ。（８％から10％）、国の財政事情。
第７回：少子高齢化社会と年金問題。地方は消滅するのか。
第８回：原発と沖縄がわが国の二大テーマ
第９回：福井県の産業構造について考えよう
第10回：選挙と政治について。（定数是正問題）世論調査とは。
第11回：日米関係の歴史と今
第12回：なぜ中国、韓国との関係はこじれるのか
第13回：国際化社会で日本の針路
第14回：注目企業と経営者
第15回：時事問題から考える歴史と未来。
第16回：定期試験

授業外の学習方法

日常、新聞をはじめとしたメディアのニュースに疑問を持ちながら考える習慣を持ってもらいたい。「なぜこうなったのか」を考え、自分の関心を持ったニュースを追いかける楽しみを覚えてもらう。

成　績　評　価　方　法

定期試験（80％）、平常点（20％）
（平常点は、授業への参加状況、受講態度、質問用紙等の状況を総合的に判断します。）

成　績　評　価　基　準

・過去20年程度の景気動向の変化から経済の見方を理解できたか。
・福井県内の企業動向から県内の産業構造の変化を学べたか。
・原発と沖縄問題における２項対立の現状を理解できたか。
・ニュースから現在の日米関係を知り、その歴史的な見方を身につけることができたか。
・中国、韓国、北朝鮮、ロシアという極東アジアとの関係について学べたか。
・著名な企業経営者の考え方をどう捉えることができるか。
・日々のニュースを日常生活にどう反映するか考えるようになったか。

テキスト、参考図書

毎回資料を配布する。
＊参考図書
「日経HR編集部」・「日経キーワード」・「日経HR」・「2013年」
「池上彰」・「池上彰のニュースそこからですか」・「文春新書」・「2012年」紙
「池上彰」・「池上彰の政治の学校」・「朝日新書」・「2012年」
「津田大介」・「ウェブで政治を動かす」・「朝日新書」・「2012年」
「ゲーリーEクレイトン」・「アメリカの高校生が学ぶ経済学」・「WAVE出版」・「2011年」
「清原聖子・前嶋和弘」・「インターネットが変える選挙」・「慶応義塾大学出版会」・「2011年」
「別冊宝島編集部」・「１時間でわかる『尖閣諸島・竹島』問題」・「宝島社」・「2012年」
「日本新聞協会編集委員会」・「取材と報道」・「日本新聞協会」・「2009年」
「増田弘・土山実男」・「日米間系キーワード」・「有斐閣」・「2001年」
「新版　比較・選挙政治」・「ミネルヴァ書房」・「2004年」

その他（受講上の注意）

日常生活の中で新聞を読み、テレビやラジオ、ネットなどメディアに接し、ニュースに敏感になるよう努力する。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

日本語文法論 (Grammar of the Japanese Language)			担当教員	笹原　幸子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Abi−2201	2単位	2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　基幹科目　言語系

求める学習成果(教育目標)

テキスト、画像、映像、図、音響、などの素材の特性を活かし、マルチメディアを媒介としたコンテンツ作成能力や表現力を育成する。
日本語を母語としない人たちに日本語を教えられる能力を育成する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　■計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

日本語の文法を日本語教育という視点からとらえ、一つの外国語として客観的に観察しながら日本語の文法を学んでいく。さらに、日本語にどのような特徴があるかを他の言語と比較して把握する。また、外国人の日本語学習者がおかす誤用の原因を探るために日常使われている日本語を観察分析し、日本語の規則性を発見するという課題が与えられる。

授業の到達目標

・日本語教育から見た日本語の文法の捉え方が理解できるようになる。
・言語としての日本語の特徴が分かるようになる。
・日本語学習者の誤用原因を探るために、日常使っている日本語を観察、分析できるようになる。
・日本語の基本的な文法知識を身につける。

授　業　の　計　画

第1回：日本語教育の文法　外国語としての日本語文法
第2回：品詞1
第3回：品詞2
第4回：品詞3
第5回：格助詞1
第6回：格助詞2
第7回：「は」と「が」
第8回：動詞の分類と活用
第9回：動詞の「て」形
第10回：ヴォイス1
第11回：ヴォイス2
第12回：アスペクト1
第13回：アスペクト2
第14回：テンス
第15回：まとめ
第16回：定期試験

授業外の学習方法

予習としては、教科書の中の各講義の関連項目を読み、あらかじめ問題意識を持つようにしておく。復習としては、各講義で得た文法の知識を深めておくために、教科書の問題ページをしておく。課題や宿題が出された場合は次のクラスで発表できるように準備しておく。

成　績　評　価　方　法

試験(70%)、課題(20%)、平常点(10%)の割合で評価する。
(平常点は授業への参加状況と受講態度を総合して判断する)

成　績　評　価　基　準

・日本語の特徴が分かるようになったか。
・日常使っている日本語を客観的に分析できるようになったか。
・日本語の基本的な文法知識が身についたか。

テキスト、参考図書
野田尚史　『はじめての人の日本語文法』　くろしお出版　1991年
その他（受講上の注意）
講義内容などに関する質問は授業中およびe-mailで受け付ける。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英文講読 a (English Reading a)			担当教員	紺渡　弘幸
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Bce−2201	1 単位	2 年前期	演習	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　基幹科目　言語系

求める学習成果(教育目標)

英語でのプレゼンテーション力やディスカッション力を高め、メッセージをグローバルに発信できるコミュニケーション能力を育成する。
次世代の英語コミュニケーション能力育成に携わるすぐれた知識と技能を持つ人間性豊かな中学校・高等学校の英語教員を育成する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

小説、エッセイ、評論文、英字新聞や雑誌の記事、マニュアルなど多様な素材を用いて、英米文学や日常生活に必要な情報から文化論、環境問題、社会問題、教育問題など幅広いトピックをとりあげながら、読解力を養成する。

授 業 の 到 達 目 標

1. 多読 (reading for pleasure) に親しむ。
2. 望ましい読書習慣を理解し、身につける。
3. 多様なリーディング・ストラテジーを理解し、読みの目的に応じて使用できる。
4. 詩やスピーチを読んで暗唱できる。
5. 効果的な語彙学習の方法を知り、語彙力を高めることができる。
6. 明示的に書かれていない内容を推測しながら読むことができる。
7. 英文パラグラフのトピック、メインアイディアを把握できる。
8. 新聞記事の見出しの規則や構成を理解し、必要な情報を読み取ることができる。

授　業　の　計　画

第 1 回：多読：目的と読み方、望ましい読書習慣
第 2 回：多読：読書レポート、読書記録、本の選択
第 3 回：プレビューイング
第 4 回：スキャニング
第 5 回：レシテーション：英詩
第 7 回：スキミング
第 8 回：語彙学習：辞書の活用
第 9 回：語彙学習：品詞、語形成、文脈による語義の推測
第10回：推論
第11回：パラグラフの理解：トピック、メインアイディア
第12回：パラグラフの理解：パラグラフの構成
第13回：英字新聞の読み方：記事の構成、見出しのルール、リード
第14回：英字新聞の読み方：スキャニング、レポート
第15回：まとめ
第16回：定期試験

授 業 外 の 学 習 方 法

1.テキストの予習・復習を行うとともに、自分に適した多読用の英語の本を選んで読む。
2.語彙ノートを作成し、未知語を辞書で調べて整理し、語彙力を高める。
3. NetAcademyのStandard CourseのReading Section を用いて自学自習する。

成　績　評　価　方　法

定期試験 (50%) 、課題 (25%) 、平常点 (25%)
(平常点は、授業の受講態度から判断する。)

成　績　評　価　基　準
1. 多読（reading for pleasure）に親しむことができたか。 2. 望ましい読書習慣を理解し、身につけることができたか。 3. 多様なリーディング・ストラテジーを理解し、読みの目的に応じて使用できるか。 4. 詩やスピーチを読んで暗唱できるか。 5. 効果的な語彙学習の方法を知り、語彙力を高めることができるか。 6. 明示的に書かれていない内容を推測しながら読むことができるか。 7. 英文パラグラフのトピック、メインアイディアを把握できるか。 8. 新聞記事の見出しの規則や構成を理解し、必要な情報を読み取ることができるか。
テキスト、参考図書
テキスト：MORE READING POWER　Mikulecky, B.S., and L. Jeffries.　Addison-Wesley Publishing Company. 参考図書：英字新聞、インターネット・雑誌等の記事、NetAcademy
その他（受講上の注意）
なるべく多く英語を読むように心がけ、望ましい読書習慣を身につけてもらいたい。主体的な学習を期待する。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英文講読b (English Reading b)			担当教員	紺渡　弘幸
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Bce−2211	1単位	2年後期	演習	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　基幹科目　言語系

求める学習成果(教育目標)

英語でのプレゼンテーション力やディスカッション力を高め、メッセージをグローバルに発信できるコミュニケーション能力を育成する。
次世代の英語コミュニケーション能力育成に携わるすぐれた知識と技能を持つ人間性豊かな中学校・高等学校の英語教員を育成する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

小説、エッセイ、評論文、英字新聞や雑誌の記事、マニュアルなど多様な素材を用いて、英米文学や日常生活に必要な情報から文化論、環境問題、社会問題、教育問題など幅広いトピックをとりあげながら、読解力を養成する。

授業の到達目標

1. 多様なリーディング・ストラテジーを理解し、読みの目的に応じて使用できる。
2. 読んだ物語を英語で話すことができる。
3. 速読の方法を理解し、英文を速読できる。
4. 英文パラグラフの構成パターンを理解し、読む際に認識できる。
5. 読んだ内容について自分の意見を述べることができる。
6. 内容を正確に深く精読できる。
7. 読んだニュースを英語でレポートし、その内容に関して自分の意見を述べることができる。

授　業　の　計　画

第1回：リーディング・ストラテジー
第2回：ストーリーテリング
第3回：速読：目的と読み方
第4回：速読：読むスピードの測定方法・記録
第5回：英文構成パターン：列挙・連続(時系列)・比較のパターン
第7回：英文構成パターン：因果関係・問題解決のパターン
第8回：情報収集のための読みとディスカッション：異文化理解
第9回：情報収集のための読みとディスカッション：環境問題
第10回：レシテーション：スピーチ
第11回：精読：小説
第12回：精読：説明文
第13回：ニュース・レポーティングとディスカッション：社会問題
第14回：ニュース・レポーティングとディスカッション：教育問題
第15回：まとめ
第16回：定期試験

授業外の学習方法

1. テキストの予習・復習を行うとともに、興味のある新聞記事を選択し、継続的に読む。
2. 語彙ノートを作成し、未知語を辞書で調べて整理し、語彙力を高める。
3. NetAcademyのStandard CourseのReading Section を用いて自学自習する。

成績評価方法

定期試験(50%)、課題(25%)、平常点(25%)
(平常点は、授業の受講態度から判断する。)

成　績　評　価　基　準
1. 多様なリーディング・ストラテジーを理解し、読みの目的に応じて使用できるか。 2. 読んだ物語を英語で話すことができるか。 3. 速読の方法を理解し、英文を速読できるか。 4. 英文パラグラフの構成パターンを理解し、読む際に認識できるか。 5. 読んだ内容について自分の意見を述べることができるか 6. 内容を正確に深く精読できるか。 7. 読んだニュースを英語でレポートし、その内容に関して自分の意見を述べることができるか。
テキスト、参考図書
テキスト：MORE READING POWER　Mikulecky, B.S., and L. Jeffries.　Addison-Wesley Publishing Company. 参考図書：英字新聞、インターネット・雑誌・BBC・CNN等の記事、NetAcademy
その他（受講上の注意）
なるべく多く英語を読むように心がけ、望ましい読書習慣を身につけてもらいたい。主体的な学習を期待する。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

ＬＬ演習ａ (Computer and Language Laboratory Practice a)			担当教員	加藤　優子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Bcc−2201	１単位	２年前期	演習	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　基幹科目　言語系

求める学習成果（教育目標）

英語でのプレゼンテーション力やディスカッション力を高め、メッセージをグローバルに発信できるコミュニケーション能力を育成する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

□自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

リスニング・ディクテーションの訓練を通し、平易な内容の英語文を正確に聞き取る力を鍛え、英語によるコミュニケーション能力を身につけることを目指す。

授業の到達目標

・音声記号を理解できる。
・平易な英語を、書き取ることができる。
・平易な英語を、より正確な発音で話すことができる。

授　業　の　計　画

第１回：オリエンテーション
第２回：Unit 1　音声の知識１ Flowers
第３回：Unit 2　音声の知識２ Dolphins
第４回：Unit 3　音声の知識３ The Learning Tower of Pisa
第５回：Unit 4　音声の知識４ Cosmetics
第６回：Unit 5　音声の知識５ Sakhalin Dogs Stranded at the South Pole
第７回：Unit 6　音声の知識６ A Train Journey
第８回：Unit 7　音声の知識７ Charley the Paleontologist
第９回：Unit 8　音声の知識８ Crows
第10回：Unit 9　音声の知識９ Near Miss
第11回：Unit 10　音声の知識10 Husband, John and Wife, Barbara
第12回：Unit 11　音声の知識11 Anna and the London Taxi Driver
第13回：復習問題１　Mysterious Stones 1
第14回：復習問題２　Mysterious Stones 2
第15回：復習問題３　発音記号
第16回：定期試験

授業外の学習方法

各回の演習後に、リスニングの課題を出します。これを宿題とし、次の演習時に提出してください。また、ネットアカデミーなどのウェブ教材を利用し、リスニングの練習を習慣づけてください。

成　績　評　価　方　法

定期試験 60%、課題 30%、平常点 10%
（平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出等を総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

・音声記号を理解できるか。
・平易な英語を、書き取ることができるか。
・平易な英語を、より正確な発音で話すことができるか。

テキスト、参考図書

都築正善『英語のイージーリスニングとディクテーション』朝日出版社、2010年。
その他適宜プリントを使用する。

その他（受講上の注意）
5分以上の遅刻3回で欠席1回とみなします。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

ＬＬ演習ｂ (Computer and Language Laboratory Practice b)			担当教員	加藤　優子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Bcc−2211	１単位	２年後期	演習	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　基幹科目　言語系

求める学習成果（教育目標）

英語でのプレゼンテーション力やディスカッション力を高め、メッセージをグローバルに発信できるコミュニケーション能力を育成する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

□自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

ノーマルスピードの英語のリスニング・ディクテーションの訓練を通し、英語文を正確に聞き取る力を鍛え、英語によるコミュニケーション能力を身につけることを目指す。

授業の到達目標

・ノーマルスピードの英語を、書き取ることができる。
・ノーマルスピードの英語を、話すことができる。

授　業　の　計　画

第１回：オリエンテーション
第２回：Listening and Dictation Training 1
第３回：Listening and Dictation Training 2（小テスト１）
第４回：Listening and Dictation Training 3（小テスト２）
第５回：Listening and Dictation Training 4（小テスト３）
第６回：Listening and Dictation Training 5（小テスト４）
第７回：Listening and Dictation Training 6（小テスト５）
第８回：Listening and Dictation Training 7（小テスト６）
第９回：Listening and Dictation Training 8（小テスト７）
第10回：Listening and Dictation Training 9（小テスト８）
第11回：Listening and Dictation Training 10（小テスト９）
第12回：Listening and Dictation Training 11（小テスト10）
第13回：Listening and Dictation Training 12（小テスト11）
第14回：Listening and Dictation Training 13（小テスト12）
第15回：復習問題　1　発音記号（小テスト13）

授業外の学習方法

学期中に２回、課題を出します。これを宿題とし、次の演習時に提出してください。また、様々なウェブ教材を利用し、リスニングの練習を習慣づけてください。

成　績　評　価　方　法

小テスト 65%、課題20％、平常点 15%
（平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出等を総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

・ノーマルスピードの英語を、書き取ることができるか。
・ノーマルスピードの英語を、話すことができるか。

テキスト、参考図書

授業中に適宜紹介します。

その他（受講上の注意）

５分以上の遅刻３回で欠席１回とみなします。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

企画開発論 (Study of Planning and Development)			担当教員	冨永　良史
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Aaa−2201	2単位	2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　企画・表現系

求める学習成果(教育目標)

柔軟な発想力と企画力を身につけるとともに、企画した内容を実行するための、有効かつ実際的なプランを構築する能力を育成する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　■計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

新しいモノゴトを生み出すための、アタマの使い方を、多様な切り口からの思考と対話を通じて探索する。
企画を創造的な対話から生み出すための作法＝「ファシリテーション」を体験的に学ぶ。

授業の到達目標

1. 先入観や常識にとらわれることなく、モノゴトをあるがままに感じ取る。
2. 問題を解決する手段として、新しいモノゴトを、他者との対話／触発を通じて企画する。
3. 自分の現実を動かす／変えるための企画開発力（自分のスタイル）を育む。

授　業　の　計　画

第１回：企画は、願望と課題から、開発される
第２回：願望と課題を研ぎ澄ませる
第３回：数が積み重なり、質へと転化する
第４回：全部を一挙に眺める、鳥の目
第５回：細部にこだわる、虫の目
第６回：企画は、物語のように、開発される
第７回：ひとりよがりからの脱却
第８回：思考と試行と試作の繰り返しが必要な理由
第９回：企画は、対話を通じて、磨かれる
第10回：多様な他者が、創造的に対話するには
第11回：ファシリテーションとは何か
第12回：ファシリテーションを実践する
第13回：あなたの物語を描く（１）
第14回：あなたの物語を描く（２）
第15回：互いの物語を聴きあう

授業外の学習方法

モノゴトを捉えるアンテナの感度を磨くために、様々な「初体験」をすること。読んだことのない分野の本を読み、行ったことのない場所に行き、話したことのない人と話し、そこで感じたことを書きとめていくこと。具体的方法は授業中に解説する。

成　績　評　価　方　法

授業毎のミニレポート（40%）、期末レポート（30%）、授業への参加意欲と貢献（30%）。
「座っているだけ」でも「出席」ではあるが、「参加、貢献」とはみなさない。

成　績　評　価　基　準

1. 借り物でない自分のコトバ、シンボルで表現できるか。
2. 身の回りの現実から、自分なりの問題を取り出し、解決としての企画に表現できるか。
3. 他者との対話から学び、独りよがりでない思考ができるか。

テキスト、参考図書

必要に応じてレジュメを配布する。

その他（受講上の注意）
自分を成長させたい「熱望」を持って参加して欲しい。難しい知識を扱う授業ではないが、深く広く柔らかく思考し「続ける」ためには、主体的な意欲＝熱望が支えとなる。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

企画開発演習 (Practice in Planning and Development)			担当教員	金田　明彦
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Aaa−2211	2単位	2年後期	演習	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　企画・表現系

求める学習成果(教育目標)

柔軟な発想力と企画力を身につけるとともに、企画した内容を実行するための、有効かつ実際的なプランを構築する能力を育成する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　■計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

コラボレーションによる企画立案からその実施計画の策定およびプレゼンテーションによる他者評価を元に実施する企画の遂行と終了後の評価検証を行い、今後の企画立案の際の配慮についての考察を行う。

授業の到達目標

チームワークによる自他の創造性を高めあい、斬新かつ発展性のある企画の実現ができる。他者とのコミュニケーションが円滑に行える。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーションと「社会人基礎力」および授業との関係性の解説
第2回：イベント企画のケーススタディ
第3回：イベント企画のためのミーティング(ブレーンストーミング)
第4回：イベント企画のためのミーティング(実施企画候補の絞り込み)
第5回：イベント企画のためのミーティング(企画書を元にした企画のブラッシュアップ)
第6回：イベント企画のためのミーティング(企画実施のための実施要領の作成)
第7回：企画案プレゼンテーションと相互評価
第8回：イベント企画の実施と相互評価(1)
第9回：イベント企画の実施と相互評価(2)
第10回：イベント企画の実施と相互評価(3)
第11回：イベント企画の実施と相互評価(4)
第12回：イベント企画の実施と相互評価(5)
第13回：イベント企画の実施と相互評価(6)
第14回：イベント企画の実施と相互評価(7)
第15回：総括とレポート提示

授業外の学習方法

課題に関連する情報や使用物・場所等の準備など

成　績　評　価　方　法

課題への取組み(50%)　課題成果(30%)　最終レポート(20%)

成　績　評　価　基　準

チームにおいて各自が率先して参画し、自他の提案・調整が出来、相互信頼において企画を実践にいたらしめることができるか。

テキスト、参考図書

テキストは使用しない。

その他(受講上の注意)

ワークショップ形式によるチームワークを尊重するため、「企画開発基礎演習」「企画開発論」の受講を推奨する。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

コミュニケーション技法Ⅰａ (Communication Techniques Ⅰa)			担当教員	四戸　友也
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Aab−2203	２単位	２年前期	演習	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　企画・表現系

求める学習成果(教育目標)

柔軟な発想力と企画力を身につけるとともに、企画した内容を実行するための、有効かつ実際的なプランを構築する能力を育成する。
テキスト、画像、映像、図、音響、などの素材の特性を活かし、マルチメディアを媒介としたコンテンツ作成能力や表現力を育成する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

コミュニケーションとは何かを考え、その伝える_道具_としてのメディアの伝え方について学ぶ。話し方、会話の基本や文章の書き方。文章には目的に応じてさまざまな種類があり、時と場合によっての使い分けを理解する。具体的には新聞に掲載されているニュース原稿とコラム原稿に触れ、実際に書いてみる。以下に正しく自分の意思を相手に伝えられるかを試しながら学んでいく。

授業の到達目標

・コミュニケーションの基本、すなわち意思伝達についてのさまざまな方法について学ぶ。
・話すための方法、どのような注意が必要かを理解する。
・簡潔に伝える文章の書き方の要点を学ぶ。
・取材の方法。
・新聞などニュース原稿の書き方の基本。
・固有名詞への注意と配慮。
・新聞原稿と放送原稿との違い。
・主観記事と客観記事。
・インタビューの仕方。
・写真はどう撮るか。
・新聞紙面の作り方。
・文章で伝える。物語はどのように構成されているか。
・詩、短歌で気持ちを表現する。

授　業　の　計　画

第１回：言葉とコミュニケーション、誤解を生まない話し方。（会話がコミュニケーションの基本）
第２回：話し言葉と書き言葉（相手によって話し方は変わる。敬語の使い方、手紙の書き方や依頼文について考える）
第３回：文章の書き方。簡潔に伝える。ニュース原稿の書き方。（５Ｗ１Ｈを盛り込む）。
第４回：ニュース原稿と雑感、サイド記事との違いについて。心の奥まで入り込む。
第５回：コラムとは。コラムはどう書く。社説、論説との違い。
第６回：比ゆの使い方（ものごとを身近な事柄に例えると理解が早い。使い方を間違えると誤解やひんしゅくを買う）
第７回：自己紹介をする。インタビューについて。（受け方としかた）
第８回：分かりやすく「報告」する。レポートの書き方。
第９回：リスクコミュニケーションについて。不始末や不利な立場でのコミュニケーションはどうする。
（企業などの不祥事をいかに伝え、信頼を取り戻すか）
第10回：プロパガンダについて。
第11回：物語を構成する。書いてみる。
第12回：写真をどう撮るか。
第13回：演習・新聞を作る。書く、見出しをつける、レイアウト・編集する。
第14回：演習・新聞を作る②
第15回：読ませる文章を書こう。（テーマの絞り方、エピソードの使い方、普遍化する）
第16回：定期試験
（順番は入れ替わることがあります）

授業外の学習方法
新聞のコラムを書き写し、どのようなことが伝わってきたかを書いてもらう。 小説などの短編を読み、構成について考える。 身近な家族、友人で「何かをした人（毎日散歩をしているでもよい）をテーマにインタビューして原稿にする」－などの課題を出します。
成績評価方法
定期試験（50％）、小レポート、授業中の課題（30％）、平常点（20％） （平常点は、授業への参加状況、受講態度、質問用紙等の状況を総合的に判断します。）
成績評価基準
・主観記事と客観記事の区別が出来るか。 ・話し言葉と書き言葉遣いを理解しているか。 ・文章の種類と書き方を理解できたか。 ・テーマに沿った文章を作成できたか。 ・比ゆを使いながら文章を書くことが出来るか。 ・きちんと相手に理解できるように自己紹介が出来るか。 ・写真やイラストなどで表現する意味が理解できたか ・個人情報を守ることと固有名詞を扱う意味について理解できたか。
テキスト、参考図書
特定のテキストは使用しない。（毎回プリント資料を配布する） ＊参考図書 「三谷宏治」・「一瞬で大切なことを伝える技術」・「かんき出版」・「2012年」 「斉藤孝」・「コミュニケーション力」・「岩波新書」・「2012年」 「野口悠紀雄」・「『超』文章法」・「中公新書」・「2002年」 「内藤国夫」・「インタビュー入門」・「みき書房」・「1978年」 「新将命」・「コミュニケーションの教科書」・「講談社」・「2013年」 「樺島忠夫」・「文章術」・「角川oneテーマ」・「2002年」 「外岡秀俊」・「情報のさばき方」・「朝日新書」・「2006年」 「西村良平」・「らくらく編集術」・「日本エディタースクール出版部」・「2000年」
その他（受講上の注意）
日常的に新聞を読み、小説などにも親しむように心がけることが必要。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

コミュニケーション技法Ⅰb (Communication Techniques Ⅰb)			担当教員	植月　百枝
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Aab−2213	2単位	2年後期	演習	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　企画･表現系

求める学習成果(教育目標)

柔軟な発想力と企画力を身につけるとともに、企画した内容を実行するための、有効かつ実際的なプランを構築する能力を育成する。
テキスト、画像、映像、図、音響、などの素材の特性を活かし、マルチメディアを媒介としたコンテンツ作成能力や表現力を育成する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

コミュニケーションの原点は相手の気持ちを察しながら自分の考えを的確に伝えること。それを紡ぐのが「言葉」である。
授業では、話す・きくの基本に加え、報告、説明、会議、発表などの演習を通し、言葉による自己表現力、コミュニケーション能力の向上をめざす。

授業の到達目標

・言葉を使って、自分の考えを的確に過不足なく相手に伝える。
・人前で分かりやすく、相手の心をつかむ自己紹介、説明、報告、発表ができる。
・グループワークを通して他者とのコミュニケーションが円滑に行える。

授　業　の　計　画

第1回：コミュニケーションの基本
第2回：「初対面の人」と話す→初めて会う人との会話をスムーズに運ぶひと言、コツや気配り。
第3回：演習①
第4回：「自己紹介」のポイント→公私における自己紹介の仕方。分かりやすく、印象に残る話し方。
第5回：演習②
第6回：分かりやすく「説明」する→場所や商品を説明するときの基本とポイント。
第7回：演習③
第8回：分かりやすく「報告」する→上手な報告、下手な報告の違い。
第9回：演習④
第10回：話を「聴く」→「聞く」から「聴く」「訊く」へ。
第11回：演習⑤
第12回：「会議」を仕切る→会議の準備とスムーズな進行方法。
第13回：演習⑥
第14回：話をまとめる、発表する→話の整理方法、効果的な発表の仕方。
第15回：演習⑦
第16回：定期試験

授業外の学習方法

・予習として、演習の課題発表の際には自分の考えをまとめ、実際に声に出して練習しておくこと。
・復習としては、授業時の内容をまとめ、次の授業で発表できるようにしておくこと。

成　績　評　価　方　法

定期試験(50%)　演習(25%)　平常点(25%)
＊平常点は出席状況、授業への参加態度、グループワーク演習への取り組み姿勢等を総合して判断する。

成　績　評　価　基　準

・言葉を使って、自分の考えを的確に過不足なく相手に伝えることができるか。
・人前で分かりやすく、相手の心をつかむ自己紹介、説明、報告、発表ができるか。
・グループワークを通して他者とのコミュニケーションを円滑に行う能力を磨いているか。

テキスト、参考図書
テキストは使用しない。（適時プリント資料を配布する）
その他（受講上の注意）
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

マス・コミュニケーション論a (Study of Mass Communication a)			担当教員	土山　彌一郎
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Aab−2204	2単位	2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　企画・表現系

求める学習成果(教育目標)

柔軟な発想力と企画力を身につけるとともに、企画した内容を実行するための、有効かつ実際的なプランを構築する能力を育成する。
テキスト、画像、映像、図、音響、などの素材の特性を活かし、マルチメディアを媒介としたコンテンツ作成能力や表現力を育成する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

地方の創生、活性化、まちづくり(まちおこし)が叫ばれて久しい。国力も地域力も減退し、後継者はなし。高齢化、少子化が進んでいる。このままでは、のどかな「田舎暮らし」は崩壊してしまうだろう。福井県の現状と多くの課題を、テレビメディアを通して考えてみる。テーマは「潮目」。

授業の到達目標

県政の課題をまず学び、そのうえで、地域創成のために、県民やメディアがどのように関わり、参画するかを考え、実践・提言する力を身につける。

授　業　の　計　画

第1回：総論 —— メディアと地域創造
第2回：17自治体の現状と課題
第3回：県内のメディア状況
第4回：県政の課題 —— 人口減、原発、新幹線
第5回：ニュースを作る —— 取材から放送まで
第6回：福井の産業 —— 伝統産業、地場産業、先端産業
第7回：放送人の仕事 —— 記者、アナウンサー、ディレクター、カメラマンなど
第8回：戦後の県内の主な出来事
第9回：地域おこしとテレビの“仕事”
第10回：テレビと速報 —— 技術の進歩と番組作り
第11回：高齢化社会を楽しく ——「人生第3幕」
第12回：番組を作る —— 企画、取材、構成、広報
第13回：テレビの課題 —— 視聴率、営業、事業など
第14回：テレビ(メディア)批判レポートづくり(見てきて論評)
第15回：まとめ(放送・テレビと地域づくり)
※講義の展開方法により、順序が前後することもあります。

授業外の学習方法

各講義を受講した後、当該部分の配布資料をよく読んで復習してください。また、予習にあたっても次の授業の内容部分をよく見て、問題意識を持って授業に臨んでください。

成　績　評　価　方　法

レポート試験(80%)　平常点(20%、授業への参加状況、受講態度、ミニレポートの提出等を総合して判断します。)

成　績　評　価　基　準

地域創成に際して、県民やメディアがどのように対応していくかについての提言ができるか。

テキスト、参考図書

適宜、授業内容についての資料を配布する。

その他（受講上の注意）
・積極的質問をする。 ・遅刻をしない。 ・授業中のおしゃべりは厳禁。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

マス・コミュニケーション論ｂ (Study of Mass Communication b)			担当教員	四戸　友也
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Aab−2214	２単位	２年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　企画・表現系

求める学習成果（教育目標）

柔軟な発想力と企画力を身につけるとともに、企画した内容を実行するための、有効かつ実際的なプランを構築する能力を育成する。
テキスト、画像、映像、図、音響、などの素材の特性を活かし、マルチメディアを媒介としたコンテンツ作成能力や表現力を育成する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

□自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

現代におけるマスコミュニケーションについて考える。不特定多数の大衆（マス）を対象にさまざまな情報を提供してきたマスコミ。伝える手段としてのメディアの発展・進化とともにその形態は変貌を遂げてきた。わが国のマスメディアは150年前の明治維新前後から誕生し、数々の戦争で部数を拡大してきた。発生から拡大そして影響力を強める中で、政府の規制を受けてきた歴史でもある。150年間のメディアの歴史を追いながらメディアの特性を考えていく。ラジオ・テレビの普及から、インターネットの登場でメディア界は何度目かの革新の時代を迎えている。現代そして未来へと発展していくメディアとマスコミュニケーションの未来について考えていく。

授 業 の 到 達 目 標

・新聞などメディアがどのように生まれてきたかを考え理解する。
・メディアからさまざまな産業が生まれたことも知る。
・地域限定型のメディアが印刷技術の進歩でマスコミュニケーション化していく過程でメディアそのものも産業として存在価値を高めていくことを学ぶ。
・マスコミニュケーションの発達によって社会的な貢献が評価されるようになった。同時にさまざまな問題や権力による介入、規制が行なわれるようになったことを学ぶ。
・現在のマスコミとして存在する新聞、テレビなどに日常的に接するように慣れるか。
・インターネットへの展開と課題についても理解する。
・SNSと既存メディアの関係について理解する。
・インターネットを利用したメディアとの接し方について考えてみる。

授　業　の　計　画

第１回：ジャーナリズムとメディア。
第２回：マスコミで報じられる情報とジャーナリズム
第３回：明治期のメディア、相次ぐ新聞の発刊
第４回：戦争と新聞（メディア）
第５回：通信社の誕生と役割
第６回：関東大震災と新聞、東日本大震災との比較してみる
第７回：ラジオの誕生と新聞
第８回：普通選挙の実施、２・26ai件、満州事変などと新聞／太平洋戦争とメディア、権力（政府）による介入と規制
第９回：紙の規制と１県１紙体制の構築
第10回：GHQによるメディア政策、共同、時事通信の誕生
第11回：テレビの誕生と新聞、広告業の発展
第12回：公害報道などキャンペーン、調査報道
第13回：権力の監視機能としてのマスコミとジャーナリズム
第14回：インターネットの登場と既存メデ
第15回：マスコミ化するSNS
第16回：定期試験

授業外の学習方法

日常から新聞、テレビのニュース報道に関心もち、それが社会にどのような影響を与えているかを考える習慣をつけていくことが大切。またネットのニュースのほかブログやツイッターなどSNSが社会にどのような影響を与えているのかを考えながらあらゆるメディアと接する努力をする。

成績評価方法

定期試験（80％）、平常点（20％）
（平常点は、授業への参加状況、受講態度、質問用紙等の状況を総合的に判断します。）

成績評価基準

・メディアの発展過程を理解できたか。
・メディアの発展は巨大なマスコミを生み出した。技術進歩がマスコミを変えてきたことを理解する。
・ジャーナリズムへの理解と、マスメディアの権力監視機能について学べたか。
・通信社機能とはなにか。その役割は。
・マスコミの特性を学び、報道される情報をどう受け止めることができたか（リテラシーを身につける）
・新聞、ラジオ、テレビ、インターネットへのメディアの進化を理解できたか。

テキスト、参考図書

毎回レジメを配布する
＊参考図書
「春原昭彦」・「日本新聞史」・「新泉社」・「2007年」
「山口正康」・「新聞の歴史をたどる」・「自費出版」・「2003年」
「山本文雄編」・「日本マスコミュニケーション史」・「1976年」
「山口功二ら編」「メディア学の現在」・「世界思想社」・「2001年」
「鈴木みどりほか」・「メディア社会の歩き方」・「世界思想社」・「2004年」
「浪田陽子・福間良明編」・「はじめてのメディア研究」・「世界思想社」・「2012年」
「小林恭子」・「英国メディア史」・「中央公論社」・「2011年」
「小黒純ほか編」・「超入門ジャーナリズム」・「晃洋書房」・「2010年」
「天野勝文ほか編」・「新現代マスコミ論のポイント」・「学文社」・「2008年」
「田村紀雄・林利隆編」・「新版ジャーナリズムを学ぶひとのために」・「世界思想社」・「1999年」
「小黒純、李相哲、西村敏雄、松浦哲郎著」・「超入門ジャーナリズムー101の扉」「晃洋書房・2010年」
「天野勝文、松岡新児、植田康夫著」・「新現代マスコミ論のポイント」「学文社・2008年」

その他（受講上の注意）

日々、新聞やテレビ、雑誌などに触れるようにする。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

ビジュアル･コミュニケーション論ａ (Theory of Visual Communication a)			担当教員	橋本　洋子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Aab−2205	２単位	２年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　企画・表現系

求める学習成果（教育目標）

柔軟な発想力と企画力を身につけるとともに、企画した内容を実行するための、有効かつ実際的なプランを構築する能力を育成する。
テキスト、画像、映像、図、音響、などの素材の特性を活かし、マルチメディアを媒介としたコンテンツ作成能力や表現力を育成する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

コミュニケーションとビジュアル・デザインに関する知識を基に、その伝達手段のエレメントとしての色彩の基本を理解し考察を通して、人間の行動や環境に与える影響について考える。

授業の到達目標

コミュニケーションに関して、ビジュアル・デザインにおける色彩の機能性と重要性について説明することができる。

授　業　の　計　画

第１回：オリエンテーション／コミニュケーションと色彩について
第２回：光と色について考える
第３回：色が見えるしくみ
第４回：色彩の基礎知識
第５回：色彩対比
第６回：色彩同化
第７回：ユニバーサルデザインと色
第８回：色の機能的役割
第９回：加齢による変化
第10回：色覚異常
第11回：カラーユニバーサルデザインのチェック方法
第12回：錯視と形
第13回：色彩でコミュニケーション
第14回：形でコミュニケーション
第15回：色彩総括と総評

授業外の学習方法

課題や授業内容に関係する情報や現況の実態調査など

成　績　評　価　方　法

課題への取り組み（50%）　課題成果（30%）　平常点（20%）
（平常点は、授業への参加状況・授業態度、提出物の状況等を総合して判断します）

成　績　評　価　基　準

身の廻りの環境において、コミュニケーション成立のために、色彩を合理的かつ効果的に活用または、観察および考察することができるか。

テキスト、参考図書

必要に応じて授業内で配布

その他（受講上の注意）

授業時以外においても、生活環境での現状調査を伴う。

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

ビジュアル･コミュニケーション論ｂ (Theory of Visual Communication b)			担当教員	金田　明彦
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Aab−2215	２単位	２年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　企画・表現系

求める学習成果（教育目標）

柔軟な発想力と企画力を身につけるとともに、企画した内容を実行するための、有効かつ実際的なプランを構築する能力を育成する。
テキスト、画像、映像、図などの素材の特性を活かし、マルチメディアを媒介としたコンテンツ作成能力や表現力を育成する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　■計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

コミュニケーションとビジュアル・デザインに関する知識を元に、「図で考える」「図で伝える」行為を並行して実践的にトレーニングを行う。

授業の到達目標

ビジュアル・コミュニケーションに関して、ビジュアル・デザインの位置づけを説明することができ、新たな提案ができる。

授　業　の　計　画

第１回：オリエンテーションとビジュアル・コミュニケーションに関する基本的概念の確認
第２回：ビジネス現場の新たな試みの図式化（基礎編１）
第３回：ビジネス現場の新たな試みの図式化（基礎編２）
第４回：ビジネス現場の新たな試みの図式化（基礎編３）
第５回：ビジネス現場の新たな試みの図式化（基礎編４）
第６回：ビジネス現場の新たな試みの図式化（基礎編５）
第７回：自身が他者に教示できることの視覚化
第８回：ビジュアル・プレゼンテーションによる理解の検証（１）
第９回：ビジュアル・プレゼンテーションによる理解の検証（２）
第10回：ビジュアル・プレゼンテーションによる理解の検証（３）
第11回：ビジュアル・プレゼンテーションによる理解の検証（４）
第12回：ビジュアル・プレゼンテーションによる理解の検証（５）
第13回：他者の考察への理解と他者へ発信するためのビジュアル図解立案
第14回：ビジュアルプレゼンテーションのためのデータ作成
第15回：ビジュアルプレゼンテーション

授業外の学習方法

課題に関連する情報収集や現況の実態調査など

成　績　評　価　方　法

課題への取組み（50%）　課題成果（30%）　平常点（20%）
（平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

身の回りの環境において、コミュニケーションの成立のためのビジュアル・デザインの効果を踏まえた考察と表現ができるか。

テキスト、参考図書

使用しない。

その他（受講上の注意）

授業時以外においても、生活環境での現状調査を伴う。

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

デジタル・デザインa (Digital Design)			担当教員	金田　明彦
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Aab−2206	2単位	2年前期	演習	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　企画・表現系

求める学習成果（教育目標）

柔軟な発想力と企画力を身につけるとともに、企画した内容を実行するための、有効かつ実際的なプランを構築する能力を育成する。
テキスト、画像、映像、図、音響、などの素材の特性を活かし、マルチメディアを媒介としたコンテンツ作成能力や表現力を育成する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

□自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　■計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

ビジュアル・コミュニケーションのための表現ツールとしてパーソナル・コンピュータ（マッキントッシュ）を駆使したデザイン手法のスキルを教示する。

授業の到達目標

デジタルの特性を把握し、アプリケーションの操作入力法、加工・デザイン手法、出力法に関する基礎的スキルを獲得する。

授　業　の　計　画

第１回：オリエンテーションと設備・機器解
第２回：Illustratorの基本操作を元にした国旗やピクトグラムの作図①
第３回：Illustratorの基本操作を元にした国旗やピクトグラムの作図②
第４回：Illustratorの基本操作を元にした国旗やピクトグラムの作図③
第５回：Illustratorの基本操作を元にしたマップの作図①
第６回：Illustratorの基本操作を元にしたマップの作図②
第７回：Illustratorの基本操作を元にしたマップの作図③
第８回：Photoshopの基本操作
第９回：Photoshopの基本操作（画像入力と加工）①
第10回：Photoshopの基本操作（画像入力と加工）②
第11回：テーマに基づくビジュアルツールの課題制作①
第12回：テーマに基づくビジュアルツールの課題制作②
第13回：テーマに基づくビジュアルツールの課題制作③
第14回：テーマに基づくビジュアルツールの制作（中間提出）
第15回：データ整理と保存
（進行状況により変更の場合あり）

授業外の学習方法

課題に関連する情報や素材の収集および課題の制作

成　績　評　価　方　法

課題への取組み（50%）　課題成果（50%）

成　績　評　価　基　準

OSやアプリケーションの特性を理解し、それを活かした作業が行えることができるか。

テキスト、参考図書

テキストは使用しない。

その他（受講上の注意）

収容定員最大50名。２回以上の連続欠席は、理解不能となる一番の原因となる。課題制作のための進行スケジュールを厳守する。授業時以外にかなりの時間がトレーニングのために必要となる

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

デジタル・デザインb (Digital Design b)			担当教員	金田　明彦
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Aab−2216	2単位	2年後期	演習	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　企画・表現系

求める学習成果（教育目標）

柔軟な発想力と企画力を身につけるとともに、企画した内容を実行するための、有効かつ実際的なプランを構築する能力を育成する。
テキスト、画像、映像、図、音響、などの素材の特性を活かし、マルチメディアを媒介としたコンテンツ作成能力や表現力を育成する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

□自他の理解能力■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　■計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

ビジュアル・コミュニケーションのための表現ツールとしてパーソナル・コンピュータ（マッキントッシュ）を駆使し、「デジタル・デザインa」で獲得したスキルをさらに向上すべく、作業精度向上とモーション・グラフィックによる映像・動画表現につなげる。

授業の到達目標

デジタルの特性を把握し、高い作業性と効率を獲得し、マルチメディアによる表現・デザインができる。

授　業　の　計　画

第１回：オリエンテーションと課題テーマ説明および課題導入
第２回：Illustratorの発展トレーニング（シンボルマーク作図）および作業能力チェック①
第３回：Illustratorの発展トレーニング（シンボルマーク作図）および作業能力チェック②
第４回：Illustratorの発展トレーニング（シンボルマーク作図）および作業能力チェック③
第５回：Illustratorの発展トレーニング（シンボルマーク作図）および作業能力チェック④
第６回：Illustratorの発展トレーニング（シンボルマーク作図）および作業能力チェック⑤
第７回：Illustratorの発展トレーニング（シンボルマーク作図）および作業能力チェック⑥
第８回：Keynote利用によるスライド作成およびモーショングラフィックスへの展開①
第９回：Keynote利用によるスライド作成およびモーショングラフィックスへの展開②
第10回：Keynote利用によるスライド作成およびモーショングラフィックスへの展開③
第11回：Keynote利用によるスライド作成およびモーショングラフィックスへの展開④
第12回：Keynote利用によるスライド作成およびモーショングラフィックスへの展開⑤
第13回：Keynote利用によるスライド作成およびモーショングラフィックスへの展開⑥
第14回：iMovieによる映像・音響編集
第15回：プレゼンテーション

授業外の学習方法

課題に関連する情報や素材の収集および課題の制作

成　績　評　価　方　法

課題への取組み（50%）　課題成果（50%）

成　績　評　価　基　準

OSやアプリケーションの特性を理解し、それを活かした作業が行えることができるか。テーマに即したコンテンツを作成できるか。

テキスト、参考図書

使用しない。

その他（受講上の注意）

「デジタル・デザインa」履修者に限る。最大50名定員。人数オーバーの場合は、「デジタル・デザインa」の成績上位者を優先する。

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英語音声学 (English Phonetics)			担当教員	フッド　晴美
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Bde−2201	2単位	2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　英語コミュニケーション系

求める学習成果(教育目標)

言語としての英語について、深い知識を身につけるとともに、異文化理解能力を高め、国際感覚豊かな人材の育成を目指す。
次世代の英語コミュニケーション能力育成に携わるすぐれた知識と技能を持つ人間性豊かな中学校・高等学校の英語教員を育成する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

この授業では、英語の発音のメカニズムを理解し、英語の子音・母音、話し言葉における音の変化、アクセント、リズム、イントネーションの基礎的な知識を得るとともに、正しい発音でコミュニケーションをとることができ、また、聞き取りができることを目指す。

授業の到達目標

1. 子音・母音の発音のメカニズムを理解し、発音記号を読み、正しく発音ができる。
2. 話し言葉における音の変化を理解し、発音ができるとともに、聞き取ることができる。
3. アクセント・リズム・イントネーションについて理解し、意図することを正しいアクセント・リズム・イントネーションで発話することができ、発話される英文の意味がわかる。

授　業　の　計　画

第1回：現代英語の標準発音
第2回：つづり字と発音、音素
第3回：子音（1）
第4回：子音（2）
第5回：子音（3）
第6回：母音（1）
第7回：母音（2）
第8回：母音（3）
第9回：音の連続
第10回：音の連続
第11回：アクセント
第12回：リズム
第13回：イントネーション
第14回：イントネーション
第15回：Review
第16回：定期試験

授業外の学習方法

授業で使用するテキストをよく読み、予習・復習をすること。復習として、テキストに付属するCDをよく聞き、あとにつけて何度も読む練習をし、モデルの発音と同じような発音ができることを確認する。復習課題として出る音声課題などを、毎週、E-learning上に提出し、教員によるfeedbackを確認すること。

成　績　評　価　方　法

定期試験（50%）、課題（25%）、小テスト（25%）

成　績　評　価　基　準

1．子音・母音の発音のメカニズムを理解し、発音記号を読み、正しく発音ができるか。
2．話し言葉における音の変化を理解し、発音ができるとともに、聞き取ることができるか。
3．アクセント・リズム・イントネーションについて理解し、意図することを正しいアクセント・リズム・イントネーションで発話することができ、発話される英文の意味がわかるか。

テキスト、参考図書
『初級英語音声学』　竹林滋・清水あつ子・斎藤弘子　大修館書店　2013年
その他（受講上の注意）
英和辞書あるいは英英辞書を必ず持参すること。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英作文演習 a (English Writing a)			担当教員	フッド　晴美
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Bcc−2202	1 単位	2 年前期	演習	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　英語コミュニケーション系

求める学習成果(教育目標)

英語でのプレゼンテーション力やディスカッション力を高め、メッセージをグローバルに発信できるコミュニケーション能力を育成する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　■計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

パラグラフ・ライティングに焦点を当て、意図することを読み手に効果的に伝える基本的なパラグラフ構成を学習する。このプロセスにはペア・グループでの学習も含まれ、様々な言語活動を通して、ライティングにおける流暢さと正確さを追及する。

授 業 の 到 達 目 標

1. 意図することを読み手に効果的に伝える基本的なパラグラフ構成を理解し、そのようなパラグラフを書くことができる。
2. 10分間で、与えられたテーマについて、意図することを読み手に正確に伝えるパラグラフを80語程度で書くことができる。
3. 簡単な日本語の随筆から 1 文程度を、書き手の意味することを伝える文に英訳できる。

授　業　の　計　画

第 1 回：Introduction
第 2 回：1 The Topic Sentence（1）
第 3 回：1 The Topic Sentence（2）
第 4 回：2 Supporting Sentences（1）
第 5 回：2 Supporting Sentences（2）
第 6 回：3 The Concluding Sentence（1）
第 7 回：3 The Concluding Sentence（2）
第 8 回：4 Descriptive Paragraphs（1）
第 9 回：4 Descriptive Paragraphs（2）
第10回：5 Narative Paragraphs（1）
第11回：5 Narative Paragraphs（2）
第12回：6 Expository Paragraphs（1）
第13回：6 Expository Paragraphs（2）
第14回：Review 1
第15回：Review 2
第16回：定期試験

授 業 外 の 学 習 方 法

1. 予習では、テキストの語彙等について、わからないところを辞書などで調べておくこと。
2. 復習として、授業で書いたパラグラフで添削を受けたものを書き直し、E-learningに提出すること。
3. 毎週、E-learning上で“My Opinion Forum”に参加し、授業で学習したパラグラフ・ライティングの方法を確認しながら自分の考えを80語ぐらいの英文で述べ、また、他の学生の意見に英文でコメントを述べること。

成　績　評　価　方　法

授業での言語活動15%、毎時間の小テスト20%、課題15%、定期試験50%

成　績　評　価　基　準

1. 意図することを読み手に効果的に伝える基本的なパラグラフ構成を理解し、そのようなパラグラフを書くことができるか。
2. 10分間で、与えられたテーマについて、意図することを読み手に正確に伝えるパラグラフを80語程度で書くことができるか。
3. 簡単な日本語の随筆の一文を、書き手の意味することを伝える文に英訳できるか。

テキスト、参考図書
"Writing to Communicate 1 -Paragraphs-" C. Boardman. Pearson/Longman. 2008. 『マーフィーのケンブリッジ英文法（中級編）』R. Murphy. Cambridge. 2013.
その他（受講上の注意）
英和辞書、和英辞書、英英辞書を必ず持参すること。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英作文演習b (English Writing b)			担当教員	フッド　晴美
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Bcc−2212	1単位	2年後期	演習	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　英語コミュニケーション系

求める学習成果(教育目標)

英語でのプレゼンテーション力やディスカッション力を高め、メッセージをグローバルに発信できるコミュニケーション能力を育成する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　■計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

英作文演習aで学習したことを更に発展させ、パラグラフ・ライティングで、意図することを読み手に効果的に伝えるパラグラフ構成を学習する。このプロセスにはペア・グループでの学習も含まれ、様々な言語活動を通して、ライティングにおける流暢さと正確さを追及する。

授業の到達目標

1. 意図することを読み手に効果的に伝えるパラグラフ構成を理解し、そのようなパラグラフを書くことができる。
2. 10分間で、与えられたテーマについて、意図することを読み手に正確に伝えるパラグラフを80語から100語程度で書くことができる。
3. 簡単な日本語の随筆の一節を、書き手の意味することを伝える文に英訳できる。

授　業　の　計　画

第1回：Introduction
第2回：7 Unity（1）
第3回：7 Unity（2）
第4回：8 Coherence（1）
第5回：8 Coherence（2）
第6回：9 Cohesion（1）
第7回：9 Cohesion（2）
第8回：10 Process（1）
第9回：10 Process（2）
第10回：11 Reasons and Results（1）
第11回：11 Reasons and Results（2）
第12回：12 Opinion（1）
第13回：12 Opinion（2）
第14回：Review 1
第15回：Review 2
第16回：定期試験

授業外の学習方法

1. 予習では、テキストの語彙等について、わからないところを辞書などで調べておくこと。
2. 復習として、授業で書いたパラグラフで添削を受けたものを書き直し、E-learningに提出すること。
3. 毎週、E-learning上で“My Opinion Forum”に参加し、授業で学習したパラグラフ・ライティングの方法を確認しながら自分の考えを80語以上の英文で述べ、また、他の学生の意見に英文でコメントを述べること。

成　績　評　価　方　法

授業での言語活動15%、毎時間の小テスト20%、課題15%、定期試験50%

成　績　評　価　基　準

1. 意図することを読み手に効果的に伝えるパラグラフ構成を理解し、そのようなパラグラフを書くことができるか。
2. 10分間で、与えられたテーマについて、意図することを読み手に正確に伝えるパラグラフを80語から100語程度で書くことができるか。
3. 簡単な日本語の随筆の一節を、書き手の意味することを伝える文に英訳できるか。

テキスト、参考図書
"Writing to Communicate 1 -Paragraphs-" C. Boardman. Pearson/Longman. 2008. 『マーフィーのケンブリッジ英文法（中級編）』R. Murphy. Cambridge. 2013.
その他（受講上の注意）
英和辞書、和英辞書、英英辞書を必ず持参すること。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

オーラル・コミュニケーションⅡa (Oral Communication Ⅱa)			担当教員	ME　ハウカ
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Bcc−2203	1単位	2年前期	演習	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　英語コミュニケーション系

求める学習成果(教育目標)

英語でのプレゼンテーション力やディスカッション力を高め、メッセージをグローバルに発信できるコミュニケーション能力を育成する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　■計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

最初にテキストのトピック内の記事を読み、英文を読む訓練を行う。続いて語彙の確認や記事の背景を理解し、自分の意見やアイディアを整理する。各ユニットの最後に討論を行う。

授業の到達目標

自分の意見やアイディアを英語で話すだけでなく、他人の意見やアイディアを英語で聞いて理解し、さらにその意見やアイディアに対して建設的な考えを英語で発言できることを目指す。また物事を批評する力を身につけることを目指す。

授　業　の　計　画

第1回：四季の描写、日本とアメリカ　(文章の理解、語彙の確認)
第2回：四季の描写、日本とアメリカ　(課題を踏まえての討論)
第3回：国内旅行　(文章の理解、語彙の確認)
第4回：国内旅行　(課題を踏まえての討論)
第5回：ハンバーガーの生い立ち　(文章の理解、語彙の確認)
第6回：ハンバーガーの生い立ち　(課題を踏まえての討論)
第7回：中間試験
第8回：ファースト・フードと健康　(文章の理解、語彙の確認)
第9回：ファースト・フードと健康　(課題を踏まえての討論)
第10回：世界で最も幸せな国　(文章の理解、語彙の確認)
第11回：世界で最も幸せな国　(課題を踏まえての討論)
第12回：間接喫煙　(文章の理解、語彙の確認)
第13回：間接喫煙　(課題を踏まえての討論)
第14回：甘い飲み物　(文章の理解、語彙の確認)
第15回：甘い飲み物　(課題を踏まえての討論)
第16回：定期試験

授業外の学習方法

Information regarding homework and out-of-class preparation will be given at the beginning of the course.

成　績　評　価　方　法

積極的な授業態度及び課題(25%)　中間試験(25%)　期末試験(50%)

成　績　評　価　基　準

自分の意見やアイディアを英語で話すだけでなく、他人の意見やアイディアを英語で聞いて理解し、さらにその意見やアイディアに対して建設的な考えを英語で発言できるか。
物事を批評する力を身につけているか。

テキスト、参考図書

Life Topics：A Critical Thinking Approach to English Proficiency（総合英語ライフトピックス）
Takashi Shimaoka and Jonathan Berman 2012.　NAN' UN-DO　ISBN 978- 4 -523-17689- 3
（島岡丘, ジョナサン・バーマン著　出版社：南雲堂　2012）

その他（受講上の注意）
Self-motivation and effort are very important for successful completion of this course.
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

オーラル・コミュニケーションⅡb (Oral Communication Ⅱb)			担当教員	ME　ハウカ
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Bcc−2213	1単位	2年後期	演習	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　英語コミュニケーション系

求める学習成果(教育目標)

英語でのプレゼンテーション力やディスカッション力を高め、メッセージをグローバルに発信できるコミュニケーション能力を育成する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　■計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

最初にテキストのトピック内の記事を読み、英文を読む訓練を行う。続いて語彙の確認や記事の背景を理解し、自分の意見やアイディアを整理する。各ユニットの最後に討論を行う。

授業の到達目標

自分の意見やアイディアを英語で話すだけでなく、他人の意見やアイディアを英語で聞いて理解し、さらにその意見やアイディアに対して建設的な考えを英語で発言できることを目指す。また物事を批評する力を身につけることを目指す。

授　業　の　計　画

第1回：幽霊　(文章の理解、語彙の確認)
第2回：幽霊　(課題を踏まえての討論)
第3回：宇宙人とUFOは存在するか　(文章の理解、語彙の確認)
第4回：宇宙人とUFOは存在するか　(課題を踏まえての討論)
第5回：インターネットの発達　(文章の理解、語彙の確認)
第6回：インターネットの発達　(課題を踏まえての討論)
第7回：中間試験
第8回：インターネットで買い物(文章の理解、語彙の確認)
第9回：インターネットで買い物　(課題を踏まえての討論)
第10回：クレジットカードの罠　(文章の理解、語彙の確認)
第11回：クレジットカードの罠　(課題を踏まえての討論)
第12回：遺伝子組換え　(文章の理解、語彙の確認)
第13回：遺伝子組換え　(課題を踏まえての討論)
第14回：整形　(文章の理解、語彙の確認)
第15回：整形　(課題を踏まえての討論)
第16回：定期試験

授業外の学習方法

Information regarding homework and out-of-class preparation will be given at the beginning of the course.

成　績　評　価　方　法

積極的な授業態度及び課題(25%)　中間試験(25%)　期末試験　(50%)

成　績　評　価　基　準

自分の意見やアイディアを英語で話すだけでなく、他人の意見やアイディアを英語で聞いて理解し、さらにその意見やアイディアに対して建設的な考えを英語で発言できるか。
物事を批評する力を身につけているか。

テキスト、参考図書

Life Topics：A Critical Thinking Approach to English Proficiency　(総合英語ライフトピックス)
Takashi Shimaoka and Jonathan Berman 2012. NAN' UN-DO ISBN 978- 4 -523-17689- 3
(島岡丘, ジョナサン・バーマン著　出版社：南雲堂　2012)

その他（受講上の注意）
Self-motivation and effort are very important for successful completion of this course.
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英米文化論 (Anglo-American Cultural Studies)			担当教員	ＭＬ　スプリチャル
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Bdd−2211	２単位	２年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　英語コミュニケーション系

求める学習成果(教育目標)

言語としての英語について、深い知識を身につけるとともに、異文化理解能力を高め、国際感覚豊かな人材の育成を目指す。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

Following small-group and whole-class discussions of basic aspects of intercultural communication, participants will be tasked with applying their knowledge to historical and cultural comparisons of British, American, and Japanese societies. Supplemental examples from other sources（i.e., books and films）will be given to further understanding.

授 業 の 到 達 目 標

When people of different cultural backgrounds interact, their encounter is influenced by their respective culturally rooted values, perceptions, and styles of speaking. This preparatory course will introduce various aspects of these influences in order to foster an appreciation of the importance of intercultural communication in today's borderless world.

授　業　の　計　画

第１回：Meaning of Culture
第２回：Meaning of Culture
第３回：Stereotypes
第４回：Stereotypes
第５回：Verbal Communication
第６回：Non-verbal Communication
第７回：Diversity
第８回：Perception
第９回：Perception
第10回：Communication Styles
第11回：Communication Styles
第12回：Beliefs and Values
第13回：Beliefs and Values
第14回：Culture Shock
第15回：Culture Shock
第16回：Examination

授 業 外 の 学 習 方 法

Students will be tasked with researching information about each topic via newspapers, magazines and the Internet in preparation for discussions on each aspect brought up in classes.

成　績　評　価　方　法

Proactive Participation in Discussions - 25%
Written & Oral Reports - 25%
Examination - 50%

成　績　評　価　基　準

Students will be evaluated on the basis of the amount of additional information they share with the class in discussion groups, and oral and written reports. Also, a written examination will be given.

テキスト、参考図書
Culture in Action : Cultural Activities for Cultural Awareness. Juri Abe, Reiko Nebashi, Yumi Sasaki, & Joseph Shaules. Nan'un-do Publishing Co., Ltd., 1998
その他（受講上の注意）
Without preparation and solely relying on others' research, one cannot fully participate in this course, thereby placing a burden on others' learning. This course is not a series of lectures. Proactive participation in discussions and reporting one's ideas are very important aspects for successful participation.
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

家族の人間関係 (Human Relations in the Family)			担当教員	織田　暁子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Cgg−2201	2単位	2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　現代社会系

求める学習成果(教育目標)

現代社会の情報の洪水のなかで、自分なりに課題を析出し、明らかにしていくための、グローバルな視点を育てる。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

「家族」について、さまざまな視点から考える。また、多様な家族のあり方を知る。

授業の到達目標

「家族」はあまりに身近な存在であるがために、自分の知る「家族」だけが、当たり前のものだと考えがちである。しかし「家族」は普遍的なものではなく、時代や社会によって大きく異なり、また同じ社会の中でもさまざまである。授業を通じて、家族の歴史や家族のあり方の多様性を理解することをめざす。
またさまざまなライフイベント(結婚・育児・離婚など)に関する制度や法律について適切に理解することをめざす。

授　業　の　計　画

第1回：イントロダクション：「家族」とは何か？
第2回：「近代家族」の誕生
第3回：ジェンダー：男は仕事、女は家庭？
第4回：結婚①：結婚とは何か
第5回：結婚②：結婚すること・しないこと、未婚化・晩婚化
第6回：子どもを巡る論点：少子化／リプロダクティブヘルス・ライツ
第7回：家事の歴史
第8回：育児①：母親の育児／父親の育児
第9回：育児②：育児の社会化
第10回：少子高齢社会の介護
第11回：数字からみる福井の家族の生活
第12回：家族と暴力：ドメスティック・バイオレンス(DV)、児童虐待
第13回：貧困とジェンダー
第14回：離婚と再婚：シングルマザー／シングルファザー、ステップファミリー
第15回：まとめ：社会の中の家族、家族をめぐる「選択」
第16回：定期試験

授業外の学習方法

授業中に適宜紹介する参考図書を読んでほしい。また授業ではさまざまな事例を紹介するが、授業後に、インターネットや文献を検索し、他の事例を調べたり、確認したりしてほしい。

成　績　評　価　方　法

定期試験(50%)、平常点(50%)
※平常点は受講態度、小テスト、授業への参加状況等を総合して判断する。

成　績　評　価　基　準

現在の家族に関する制度や法律について正しく理解できているか。
家族の多様性や歴史的な変化を正しく理解し、具体的な事例を用いて説明することができるか。

テキスト、参考図書

テキストは指定しない。
参考図書として、落合恵美子『21世紀家族へ(第3版)』有斐閣(2004年)、
牟田和恵編『家族を超える社会学：新たな生の基盤を求めて』新曜社(2009年)など。

その他（受講上の注意）
受講生の関心に応じて、「授業の計画」に提示した内容から若干変更する可能性がある。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

社会の人間関係 (Human Relations in Society)			担当教員	山本　雅代
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Cff−2212	2単位	2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　現代社会系

求める学習成果(教育目標)

思想と歴史を段階的かつ学際的に学ぶことによって、実践知・専門知のみに偏らない教養・知・文化理解を獲得する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

社会心理学的観点から、個人と社会の関係、集団との関係について理解する。

授業の到達目標

1）社会と個人の関係を理解する。
2）集団の中の人間関係を理解する。
3）現実社会の問題と人間行動について理解する。

授　業　の　計　画

第1回：イントロダクション
第2回：動物から学ぶ人間関係
第3回：社会的動物としての人間
第4回：社会的環境と学習
第5回：アイデンティティの発達
第6回：青年期の人間関係
第7回：動機づけと社会的動機
第8回：態度
第9回：態度変容
第10回：集団と個人
第11回：リーダーシップ
第12回：援助行動
第13回：人間関係とストレス
第14回：人間関係とサポート
第15回：まとめ

授業外の学習方法

講義中に紹介した問題について自主的に復習すること。
各講義後に手書きノートを作るなどすることが望ましい。

成　績　評　価　方　法

授業中に実施する小テスト、課題レポート、授業への参加態度等を総合的に判断し評価する。
【小テスト60%　　課題レポート30%　授業への参加態度10%】

成　績　評　価　基　準

人間関係の成り立ちについて理解できる。
集団の中の人間の心理を理解できる。

テキスト、参考図書

授業中に資料を配布する

その他(受講上の注意)

基本的に講義形式ですが、より理解を深めるために必要に応じてVTRを使用したり、自己分析、ゲームを実施する。その際、レポート課題の提出を求めることがある。
ゲームには出席することが望ましい。
ゲームは数時間を要する場合があり、実施日時については授業の状況をみてその都度調整変更する場合がある。

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

社会学概論 a (Introduction to Sociology a)			担当教員	島岡　哉
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Cff−2202	2 単位	2 年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　現代社会系

求める学習成果(教育目標)

思想と歴史を段階的かつ学際的に学ぶことによって、実践知・専門知のみに偏らない教養・知・文化理解を獲得する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

本講義は、社会学、民俗学、人類学、メディア論などの学問領域と知見に基づいて編まれた社会科学の邦語文献購読である。卒業研究を見据えて、全14章からなるテキストを丁寧に読み解きながら、テーマ探しと論理的思考のトレーニングを行う。毎回の講義時間内に、各論考に基づいた論述を課す。

授業の到達目標

社会科学の理論を実践的に応用した論文群を解読しながら、日常生活世界を読み解くための情報収集・探索能力を身につける。次に、社会学の根源的問いでもある、他者とは何か、社会とは何かについて、理論的に考える力をつける作業を通して、自他の理解能力を高めることをめざす。

授　業　の　計　画

第 1 回：流動化する愛 ――「電車男」と告白
第 2 回：お笑い ―― 男の世界での女性の語られ方
第 3 回：心理ブーム ―― 感情のコントロール
第 4 回：田舎暮らし ――「住」の選択
第 5 回：贈り物 ―― こめられた意味
第 6 回：旅と観光 ―― 旅のあり方の変容
第 7 回：習い事 ―― バレエ教室を事例に
第 8 回：民話 ―― 猿退治伝説の再生
第 9 回：盆踊り ―― 賑わいの創出と対象化
第10回：地域社会とメディア ―― ケータイ「圏外」地域と情報化
第11回：子供と遊び ―― 子供の世界における「集団」
第12回：「お客様」社会 ――「客」と暴力
第13回：ラジオと高齢者 ――「ラジオ深夜便」
第14回：文化の遺産化 ―― 彷徨える「文化財」?
第15回：まとめと再考察 ―― 社会学的思考のための11のヒント

授業外の学習方法

講義内に解説した内容をテキスト本体に書き込んでいくこと。教科書はきれいに取っておくものではない。教科書の各論考に加え、最新の研究を紹介しつつ購読をすすめる。時代背景の変化なども考慮しつつ、理解を深めること。

成　績　評　価　方　法

毎回配布するリアクション・ペーパーへの論述記載内容（出欠も兼ねる）70%、レポート試験30%

成　績　評　価　基　準

毎回の講義内に演習形式でおこなうリアクション・ペーパーを用いた論述を繰り返すことで、社会科学の概念を適切に用い、事例を分析し、論証する力が付いていっているかどうか。

テキスト、参考図書

『現代文化の社会学入門』　小川伸彦・山泰幸編著　ミネルヴァ書房　2007年

その他(受講上の注意)

真摯に学ぶ学生に対して、悪影響を与える学生には、単位を与えない。

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

社会学概論b (Introduction to Sociology b)			担当教員	島岡　哉
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-Cff-2213	2単位	2年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　現代社会系

求める学習成果(教育目標)

思想と歴史を段階的かつ学際的に学ぶことによって、実践知・専門知のみに偏らない教養・知・文化理解を獲得する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

本講義のサブタイトルは、「現代社会への文化人類学的アプローチ」でである。グローバルな視点から、日本社会およびそれぞれの地域社会をとらえる力を身につける。現代社会は、近代の社会編成の上に成り立っている。そこで、西洋近代の学としてのルーツを持っていた文化人類学の理論枠組みを用いて、世界史的（※西洋中心主義の歴史ではない）視点から物事を把握できる力の養成と、論理的思考のトレーニングを行う。

授業の到達目標

グローバルな視点から、あるいはグローカルな視点から、日本社会や地域社会を把握し、捉えなおす力を身につける。

授　業　の　計　画

第１回：文化人類学とは？ ――「フクイ・シルク」から「西洋近代の相対化」まで
第２回：本講義を理解するために① ―― 西洋近代の二元論の確認
第３回：本講義を理解するために② ―― 基礎的な世界史の確認
第４回：「グローバル」＝「ユニバーサル」? ―― 帝国から国民国家へ、そしてボーダレス化へ
第５回：環境問題における「グローバル」とは？ ―― 身体の復権
第６回：ハイブリッド・モダニティ ―― 言説が持つ権力性への「抵抗」と「流用」
第７回：「ディアスポラ」という「共同体」―― 西洋近代との「交渉」
第８回：「サバルタン」とは誰か？ ―― 語りえない位置におかれた人々
第９回：英語帝国主義と格差社会
第10回：情報戦争 ―― 監視社会の成立
第11回：情報都市と世界都市 ―― ９・11テロ以前／以後の世界
第12回：マクドナルド化する社会？ ―― グローバル化とトランスナショナルカルチャーをめぐって
第13回：ヘリテージ・ツーリズムの現在 ―― 記憶の選択と忘却、コメモレーション
第14回：オリエンタリズム
第15回：オクシデンタリズム

授業外の学習方法

文化人類学と社会学は近接領域であるため、本講義でも、１年次から学んできた社会学の概念が多く出てくる。その際には、１～２年次の講義で学んだ概念の理解を踏まえて、もう１段階ハイレベルでの理論的理解を確実に行えるようにすること。
また、未翻訳の英語論文を使用することもあるため、適宜図書館にて、辞典類にあたりながら理解の促進につとめること。

成　績　評　価　方　法

リアクション・ペーパー記載内容（出欠も兼ねる）が30％、レポート70％

成　績　評　価　基　準

グローバルな視点から現代社会を理解する力、人類学が対象としてきたマイノリティの人たちへの理解や、西洋近代社会が作り出した権力編成への理解などを、評価の基準とする。

テキスト、参考図書

特定のテキストは指定しない。文化人類学の文献の中から、日本語で読めて入手可能なもの、入門書の文体でわかりやすいものを、講義中に紹介する。

その他（受講上の注意）
真摯に学ぶ学生に対して、悪影響を与える学生には、単位を与えない。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

社会調査法Ⅰ (Introduction to Sociology)			担当教員	島岡　哉
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Chh−2202	2単位	2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　現代社会系

求める学習成果(教育目標)

社会調査の知識と技術の修得によって、データを自分で収集する力、データを分析する力、分析結果を効果的に伝える力を獲得する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

社会調査の意義と諸類型に関する基本的事項を解説する。社会調査の目的と歴史、社会調査の倫理、社会調査の方法の様々な分類について、実例を交えて学ぶ

授業の到達目標

・社会調査の目的について理解する。
・対象に応じて、適切な手法を選択できるようになること。
・官庁統計やデータアーカイブなどの統計資料を利用できるようになること。

授　業　の　計　画

第1回：講義概要
第2回：社会調査の目的と歴史
第3回：社会調査の倫理
第4回：社会調査の種類と特性(1)　国勢調査や官庁統計
第5回：社会調査の種類と特性(2)　質的研究
第6回：社会調査の種類と特性(3)　質問紙調査
第7回：質的研究の実際例(1)　インタビュー調査
第8回：質的研究の実際例(2)　参与観察
第9回：質的調査の意義と限界
第10回：質問紙調査の流れ(1)　問題意識と仮説構成
第11回：質問紙調査の流れ(2)　調査票作成
第12回：質問紙調査の流れ(3)　実査と分析
第13回：質問紙調査の意義と限界
第14回：社会調査の応用例
第15回：まとめと社会調査の課題
第16回：定期試験

授業外の学習方法

指定された教科書の各回の内容について、予め読んでおくこと。また該当箇所について授業内容および教科書を復習しておくこと。

成　績　評　価　方　法

・定期試験(50%)
・小テスト・小課題提出(50%)

成　績　評　価　基　準

・社会調査の目的について理解できているか
・対象に応じて、適切な手法を選択できるようになっているか。
・官庁統計やデータアーカイブなどの統計資料を利用できるようになっているか。

テキスト、参考図書

適宜、講義中にプリントを配布します。

その他（受講上の注意）
この授業は、一般社団法人社会調査協会が認定する、「社会調査士」資格に必要な、標準カリキュラムのA科目に対応するものである。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

社会調査法Ⅱ (Social Research Methods II)			担当教員	織田　暁子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-Chh-2203	2単位	2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　現代社会系

求める学習成果(教育目標)

社会調査の知識と技術の修得によって、データを自分で収集する力、データを分析する力、分析結果を効果的に伝える力を獲得する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

社会調査によって資料やデータを収集し、分析しうる形にまで整理していく具体的な方法を解説する。調査目的と調査方法、調査方法の決め方、調査企画と設計、仮説構成、全数調査と標本調査、無作為抽出、標本数と誤差、サンプリングの諸方法、質問文・調査票の作り方、調査の実施方法(調査票の配布・回収法、調査データの整理などを学ぶ。

授業の到達目標

・調査票調査の手順を理解する。
・調査票調査におけるデータ収集法の違いについて理解する。
・適切な質問と回答選択肢を作成するための方法を習得する。
・無作為抽出の意義を理解する。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション
第2回：調査方法の選択
第3回：アンケート調査の進め方(1)　リサーチクエスチョン、仮説を構成する
第4回：アンケート調査の進め方(2)　調査の企画
第5回：調査票作成の基礎(1)　仮説と質問項目
第6回：調査票作成の基礎(2)　ワーディング
第7回：調査票作成の基礎(3)　質問文の形式と選択肢の構成
第8回：サンプリング(1)　ランダム・サンプリングがなぜ必要か
第9回：サンプリング(2)　サンプリングと調査票の配布から回収まで
第10回：模擬調査
第11回：調査データの作成(1)　エディティング、コーディング
第12回：調査データの作成(2)　データ入力、データクリーニング
第13回：データ分析(1)　記述統計
第14回：データ分析(2)　クロス表分析
第15回：報告書の作成
第16回：定期試験

授業外の学習方法

指定された教科書の各回の内容について、予め読んでおくこと。また該当箇所について授業内容および教科書を復習しておくこと。

成　績　評　価　方　法

・定期試験(50%)
・課題提出・受講態度(50%)

成　績　評　価　基　準

・調査票調査の手順を理解できているか。
・調査票調査におけるデータ収集法の違いについて理解できているか。
・適切な質問と回答選択肢を作成するための方法を習得しているか。
・無作為抽出の意義を理解できているか。

テキスト、参考図書
『入門・社会調査法』　（第二版）轟・杉野編　法律文化社　2013年
その他（受講上の注意）
この授業は、一般社団法人社会調査協会が認定する、社会調査士資格認定科目【B】〔調査設計と実施方法に関する科目〕に相当する。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

現代社会研究Ⅰ (Studies of Contemporary Society Ⅰ)			担当教員	山中　千恵
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Cff−2203	2単位	2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　現代社会系

求める学習成果(教育目標)

思想と歴史を段階的かつ学際的に学ぶことによって、実践知・専門知のみに偏らない教養・知・文化理解を獲得する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

本授業は、ポピュラー・カルチャーの定義をめぐる様々な議論を概観し、まさにその定義が争われる場としてのポピュラー・カルチャー概念を理解したうえで、現代社会を分析する視角として用いることができるようになる。

授業の到達目標

大衆文化論、文化産業論、カルチュラル・スタディーズの議論、ポストモダニズム論からの視点を整理し、それらを基にハイカルチャーとポピュラー・カルチャーの境界が溶解しまた争われているような事例をふまえて、考察することができるようになる。

授　業　の　計　画

第1回：イントロダクション
第2回：大衆文化とポピュラー文化(1)
第3回：大衆文化とポピュラー文化(2)
第4回：フランクフルト学派と文化産業(1)
第5回：フランクフルト学派と文化産業(2)
第6回：構造主義
第7回：記号論
第8回：マルクス主義のポピュラー文化論
第9回：日本におけるポピュラー文化論
第10回：フェミニストによるポピュラー文化批判と文化分析
第11回：ポストモダニズムのポピュラー文化(1)
第12回：ポストモダニズムのポピュラー文化(2)
第13回：ポピュラー文化ミュージアムを考える(1)
第14回：ポピュラー文化ミュージアムを考える(2)
第15回：授業のまとめと振り返り

授業外の学習方法

新しく学んだ語彙や概念を「社会学辞典」で調べ、要約し、自分なりに説明できるようにする。

成　績　評　価　方　法

課題レポート60%及び平常点(小テスト・授業参加度合い)40%

成　績　評　価　基　準

大衆文化論、文化産業論、カルチュラル・スタディーズの議論、ポストモダニズム論からの視点を整理し、それらを基にハイカルチャーとポピュラー・カルチャーの境界が溶解しまた争われているような事例をふまえて、考察することができるようになっているかどうか。

テキスト、参考図書

ドミニクストリナチ『ポピュラー文化論を学ぶ人のために』、世界思想社、2003年。
石田佐恵子他編『ポピュラー文化ミュージアム』ミネルヴァ書房、2013年。

その他(受講上の注意)

真摯に学ぶ学生に対して、悪影響を与える学生には、単位を与えない。

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

社会調査方法論 (Social Data Analysis)			担当教員	織田　暁子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-Chh-2212	2単位	2年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　現代社会系

求める学習成果(教育目標)

社会調査の知識と技術の修得によって、データを自分で収集する力、データを分析する力、分析結果を効果的に伝える力を獲得する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

この講義では、量的なデータを読み、正しく理解するために必要な統計学の知識について、基礎から説明していく。単純集計、度数分布、代表値、クロス集計などの記述統計データの読み方や、グラフの読み方、また、それらの計算や作成のしかた、さまざまな質的データの読み方と基本的なまとめ方を学ぶことで、官庁統計や簡単な調査報告・フィールドワーク論文を読めるようにする。

授業の到達目標

・必要に応じて、官庁統計を探し、それを読みこなせるようになる。
・基礎的な統計量について理解できるようになる。
・データをグラフなどを用いて要約できるようになる。

授　業　の　計　画

第１回：オリエンテーション
第２回：統計データとはなにか
第３回：統計データの入手方法　官庁統計を利用する
第４回：統計データの読み方（１）　単純集計・度数分布
第５回：統計データの読み方（２）　基本統計量：代表値・分散・標準偏差
第６回：小テスト
第７回：統計データをグラフにする（１）　円グラフ、棒グラフ、折れ線グラフ
第８回：統計データをグラフにする（２）　ヒストグラム、散布図
第９回：関連性を探る（１）　相関係数
第10回：関連性を探る（２）　クロス集計表
第11回：関連性を探る（３）　クロス集計表
第12回：小テスト
第13回：相関係数と因果関係　みかけの相関に騙されないために
第14回：質的データのまとめ方
第15回：まとめ
第16回：定期試験

授業外の学習方法

授業中に出された課題に取り組むこと。また、参考書やレジュメを読んで十分に復習すること。

成　績　評　価　方　法

定期試験（50%）
平常点・小テスト・課題提出（50%）
（平常点は授業への参加状況・受講態度を総合的に判断します）

成　績　評　価　基　準

・必要に応じて、適切な官庁統計を探せているか。また、それを読みこなせているか。
・基礎的な統計量について理解できているか。
・データをグラフなどを用いて要約できるようになっているか。

テキスト、参考図書

『社会調査のための統計データ分析』　廣瀬毅士・寺島拓幸　オーム社　2010年

その他（受講上の注意）
この授業は、一般社団法人社会調査協会が認定する、社会調査士資格認定科目【C】〔基本的な資料とデータの分析に関する科目〕に相当する。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

社会統計学 (Social Statistics)			担当教員	織田　暁子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Chh−2213	2単位	2年後期	演習	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　現代社会系

求める学習成果(教育目標)

社会調査の知識と技術の修得によって、データを自分で収集する力、データを分析する力、分析結果を効果的に伝える力を獲得する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　■計画実行能力　■選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

社会調査の統計的データをまとめたり分析したりするために必要な基礎的統計学を学ぶ。まず推測統計の論理として確率論の基礎、基本統計量、検定・推定理論とその応用、抽出法の理論を学び、その後変数間の関連を表す統計量として、クロス表の統計量、相関係数、回帰分析についての基礎を学ぶ。

授業の到達目標

・統計的データをまとめることができる。
・推測統計に必要な知識と方法を理解している。
・変数間の関係性を表す統計量の知識と方法を持っている。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション
第2回：記述統計と推測統計との違い
第3回：部分から全体を推測する　社会を知るための諸条件
第4回：確率分布について（1）　二項分布・ポアソン分布
第5回：確率分布について（2）　正規分布・t分布
第6回：確率分布について（3）　カイ二乗分布・F分布
第7回：推定の論理（1）　中心極限定理
第8回：推定の論理（2）　信頼区間
第9回：推定の論理（3）　帰無仮説の考え方
第10回：検定の論理（1）　t検定
第11回：検定の論理（2）　カイ二乗検定
第12回：相関係数
第13回：回帰分析
第14回：回帰係数の検定
第15回：まとめ
第16回：定期試験

授業外の学習方法

各回の授業を受けた後、教科書やノート、配布資料を見直して復習し、理解を深めるようにしてください。また、練習問題を解くなど、計算やコンピュータ操作のスキル向上を心がけて下さい。

成　績　評　価　方　法

定期試験（50%）、授業中の小レポートと受講態度（50%）

成　績　評　価　基　準

・統計的データをまとめることができるか。
・推測統計に必要な知識と方法を理解しているか。
・変数間の関係性を表す統計量の知識と方法を持っているか。

テキスト、参考図書

『これならわかる統計学』　美濃哲郎 著　ムイスリ出版　2005年

その他（受講上の注意）
この授業は、一般社団法人社会調査協会が認定する、社会調査士資格認定科目【D〕〔社会調査に必要な統計学に関する科目〕に相当する。 数学的知識を必要とするが、全員あまり数学的知識を持っていないものとして授業を進める。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

データ解析法a (Qualitative Data Analysis a)			担当教員	山中　千恵
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-Cgh-2211	2単位	2年後期	演習	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　現代社会系

求める学習成果(教育目標)

現代社会の情報の洪水のなかで、自分なりに課題を析出し、明らかにしていくための、グローバルな視点を育てる。
社会調査の知識と技術の修得によって、データを自分で収集する力、データを分析する力、分析結果を効果的に伝える力を獲得する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　■計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

質的調査法を学ぶ

授業の到達目標

質的データの収集や分析方法を理解したうえで、実際にインタビュー調査を企画し、実施、報告をおこなうことができる。

授　業　の　計　画

第1回：質的調査とはなにか
第2回：調査の倫理
第3回：質的調査の手法(1)　インタビュー調査
第4回：質的調査の手法(2)　参与観察法
第5回：質的調査の手法(3)　会話分析
第6回：質的調査の手法(4)　内容分析(活字メディア)
第7回：質的調査の手法(5)　内容分析(映像メディア)
第8回：中間試験
第9回：インタビューをおこなう(1)　インタビューを企画する
第10回：インタビューをおこなう(2)　対象者を決める
第11回：インタビューをおこなう(3)　インタビューをおこなう
第12回：調査結果をまとめる(1)
第13回：調査結果をまとめる(2)
第14回：質的データの問題点と質的調査の限界
第15回：報告会

授業外の学習方法

講義後ノートを見直して復習し、講義内でしめされた専門用語を図書館等で調べ、取り上げられた文献を購読する。インタビュの実施にあたっては、班のメンバーと協力しながら、自主的にこれをすすめていく。

成　績　評　価　方　法

中間テスト(55%)および発表、レポート(40%)と平常点(5%)による。
平常点は授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します。

成　績　評　価　基　準

質的調査法を理解し、インタビュー調査を企画、実施、報告できるか。

テキスト、参考図書

特になし

その他(受講上の注意)

私語等、講義を妨害する学生には退出してもらう。単位を与えない場合もある。受講生の理解度によって授業計画には変更を加える可能性がある。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

日本の言語文化 a (Japanese Language and Culture a)			担当教員	大河　晴美
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Cff−2204	2 単位	2 年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　現代社会系

求める学習成果(教育目標)

思想と歴史を段階的かつ学際的に学ぶことによって、実践知・専門知のみに偏らない教養・知・文化理解を獲得する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

明治期の日本文学とそれを原作とした映画を取り上げ、表現･内容の分析と比較を行う。文字表現による文学、映像・音声表現による映画の特性に注目しながら、言語と文化のかかわりやその変化について考察する。

授業の到達目標

・各作品の表現・内容と文化的・社会的背景の関係が理解できる。
・近代と現代の共通点・相違点を考え、日本の言語・文化について認識を深める。

授　業　の　計　画

第 1 回：オリエンテーション
第 2 回：森鴎外と「舞姫」
第 3 回：小説「舞姫」(1)
第 4 回：小説「舞姫」(2)
第 5 回：小説「舞姫」(3)
第 6 回：映画「舞姫」
第 7 回：泉鏡花と「外科室」
第 8 回：小説「外科室」
第 9 回：映画「外科室」
第10回：夏目漱石と「夢十夜」
第11回：小説「夢十夜」(1)
第12回：映画「ユメ十夜」(1)
第13回：小説「夢十夜」(2)
第14回：映画「ユメ十夜」(2)
第15回：まとめ

授業外の学習方法

予習：テキストの該当部分を読み、あらかじめ疑問点等を考えておくこと。
復習：授業時に配付した資料とテキストの該当部分を確認し、課題を行うこと。

成　績　評　価　方　法

期末レポート (50%)、課題 (30%)、平常点 (20%)
(平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断する。)

成　績　評　価　基　準

課題：各作品の表現・内容や文化的・社会的背景等が理解できているか。
期末レポート：各自が選んだ作品とテーマについて、十分に考察し、説得力のある結論が出せているか。

テキスト、参考図書

森鴎外『舞姫・うたかたの記　他三篇』・岩波文庫・1981年
夏目漱石『文鳥・夢十夜』・新潮文庫・2002年
※泉鏡花「外科室」については、プリントを配付する。

その他(受講上の注意)

授業で使用するPowerPointの資料を配付するので、気づいたこと･考えたことをノート欄に記入すること。

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

日本の言語文化b (Japanese Language and Culture b)			担当教員	大河　晴美
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Cff−2214	2単位	2年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　現代社会系

求める学習成果(教育目標)

思想と歴史を段階的かつ学際的に学ぶことによって、実践知・専門知のみに偏らない教養・知・文化理解を獲得する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

大正・昭和期の日本文学とそれを原作とした映画を取り上げ、表現･内容の分析と比較を行う。文字表現による文学、映像・音声表現による映画の特性に注目しながら、言語と文化のかかわりやその変化について考察する。

授業の到達目標

・各作品の表現・内容と文化的・社会的背景の関係が理解できる。
・近代と現代の共通点・相違点を考え、日本の言語・文化について認識を深める。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション
第2回：宮沢賢治と「銀河鉄道の夜」
第3回：童話「銀河鉄道の夜」(1)
第4回：童話「銀河鉄道の夜」(2)
第5回：映画「銀河鉄道の夜」
第6回：小林多喜二と「蟹工船」
第7回：小説「蟹工船」(1)
第8回：小説「蟹工船」(2)
第9回：小説「蟹工船」(3)
第10回：映画「蟹工船」
第11回：太宰治と「ヴィヨンの妻」
第12回：小説「ヴィヨンの妻」(1)
第13回：小説「ヴィヨンの妻」(2)
第14回：映画「ヴィヨンの妻～桜桃とタンポポ～」
第15回：まとめ

授業外の学習方法

予習：テキストの該当部分を読み、あらかじめ疑問点等を考えておくこと。
復習：授業時に配付した資料とテキストの該当部分を確認し、課題を行うこと。

成　績　評　価　方　法

期末レポート(50%)、課題(30%)、平常点(20%)
(平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断する。)

成　績　評　価　基　準

課題：各作品の表現・内容や文化的・社会的背景等が理解できているか。
期末レポート：各自が選んだ作品とテーマについて、十分に考察し、説得力のある結論が出せているか。

テキスト、参考図書

小林多喜二『蟹工船』・新潮文庫・1954年
宮沢賢治『新編　銀河鉄道の夜』・新潮文庫・1989年
太宰治『ヴィヨンの妻』・新潮文庫・1950年

その他(受講上の注意)

授業で使用するPowerPointの資料を配付するので、気づいたこと･考えたことをノート欄に記入すること。

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英語Ⅲａ (English Ⅲa)			担当教員	ＭＥ　ハウカ
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−1341	１単位	３年前期	演習	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　外国語科目

求める学習成果（教育目標）

建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

A pre-reading warm-up activity will be held before reading the essay for each unit. Comprehension exercises, including pair-work, will follow the introduction of new vocabulary. After discussing the topic in groups, a short writing exercise will be given.

授業の到達目標

The focus of the course is on developing reading and discussion skills. Students will learn about the world around them and then engage in thoughtful discussions in an effort to deepen their international understanding.

授　業　の　計　画

第１回：Introductions
第２回：The Greater Mekong Sub-region：A New Era for Cambodia ①
第３回：The Greater Mekong Sub-region：A New Era for Cambodia ②
第４回：Singapore Playing Cupid：The Problem of Birthrate Decline ①
第５回：Singapore Playing Cupid：The Problem of Birthrate Decline ②
第６回：Energy-hungry Nepal：Urban Area ①
第７回：Energy-hungry Nepal：Urban Area ②
第８回：Mid-term Examination / East Timor Now：Medical Situation ①
第９回：East Timor Now：Medical Situation ②
第10回：Born This Way in Thailand：Gender Identity ①
第11回：Born This Way in Thailand：Gender Identity ②
第12回：Gawad Kalinga Project in the Philippines：Getting People out of the Slums ①
第13回：Gawad Kalinga Project in the Philippines：Getting People out of the Slums ②
第14回：Vietnam's Cultural Revival：Nha Nhac Court Music ①
第15回：Vietnam's Cultural Revival：Nha Nhac Court Music ②
第16回：Final Examination

授業外の学習方法

Students are encouraged to consult the Internet for information on topics introduced in the textbook.

成　績　評　価　方　法

Proactive In-class Participation, Homework and Assignments - 25%
Mid-term Examination - 25%
Final Examination - 50%

成　績　評　価　基　準

Students will be evaluated on their contributions during in-class discussions and on assigned material as well as their performance on the mid-term and final evaluations.

テキスト、参考図書

English from NHK World TV
Akira Morita, Yukinobu Satake, et al.
MACMILLAN LANGUAGEHOUSE
ISBN978- 4 -7773-6471- 8

その他（受講上の注意）
Active participation in class is essential for success in this course.
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英語Ⅲb (English Ⅲb)			担当教員	ME　ハウカ
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−1342	1単位	3年後期	演習	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　外国語科目

求める学習成果(教育目標)

建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

A pre-reading warm-up activity will be held before reading the essay for each unit. Comprehension exercises, including pair-work, will follow the introduction of new vocabulary. After discussing the topic in groups, a short writing exercise will be given.

授業の到達目標

The focus of the course is on developing reading and discussion skills. Students will learn about the world around them and then engage in thoughtful discussions in an effort to deepen their international understanding.

授　業　の　計　画

第1回：Introductions
第2回：The Greater Mekong Sub-region：Labor Situation in Cambodia ①
第3回：The Greater Mekong Sub-region：Labor Situation in Cambodia ②
第4回：Singapore Playing Cupid：Matchmaking Agency ①
第5回：Singapore Playing Cupid：Matchmaking Agency ②
第6回：Energy-hungry Nepal：Problems of Rural Areas ①
第7回：Energy-hungry Nepal：Problems of Rural Areas ②
第8回：Mid-term Examination / East Timor Now：Mobile Clinics ①
第9回：East Timor Now：Mobile Clinics ②
第10回：Born This Way Thailand：Professional Transgender Women ①
第11回：Born This Way Thailand：Professional Transgender Women ②
第12回：Gawad Kalinga Project in the Philippines：Supporting New Life ①
第13回：Gawad Kalinga Project in the Philippines：Supporting New Life ②
第14回：Vietnam's Cultural Revival：Perserving Cultural Assets ①
第15回：Vietnam's Cultural Revival：Perserving Cultural Assets ②
第16回：Final Examination

授業外の学習方法

Students are encouraged to consult the Internet for information on topics introduced in the textbook.

成　績　評　価　方　法

Proactive In-class Participation, Homework and Assignments - 25%
Mid-term Examination - 25%
Final Examination - 50%

成　績　評　価　基　準

Students will be evaluated on their contributions during in-class discussions and on assigned material as well as their performance on the mid-term and final examinations.

テキスト、参考図書

English from NHK World TV
Akira Morita, Yukinobu Satake, et al.
MACMILLAN LANGUAGEHOUSE
ISBN978- 4 -7773-6471- 8

その他（受講上の注意）
Active participation in class is essential for success in this course.
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

海外語学研修 (Language Study Abroad)			担当教員	ＭＬ　スプリチャル
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−1249	4単位	2年～4年	演習	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　外国語科目

求める学習成果(教育目標)

建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　■計画実行能力　■選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

本プログラムは、カリフォルニア州立大学フラトン校における「仁愛大学海外語学研修（8週間プログラム）」の参加者を受講者として実施する。受講者への事前授業を10回程度行い、夏期休暇中に約8週間の短期留学を実施する。フラトン校見学、フラトン校語学学校American Language Program（ALP）における語学研修、現地学生との交流、観光などの企画実施を含み、以後の学修・研究のための動機付けを得ることを目指す。

授業の到達目標

集中的な英語研修と生活体験を通し、総合的な英語力（読む力・聞く力・話す力・書く力）を向上させることを目的とする。

授　業　の　計　画

第1回：全体説明会
第2回：事前授業（提出物指示、研修先申込書作成等）①
第3回：事前授業（提出物指示、研修先申込書作成等）②
第4回：事前授業（提出物指示、研修先申込書作成等）③
第5回：事前授業（ビザ申請等）①
第6回：事前授業（ビザ申請等）②
第7回：事前授業（ビザ申請等）③
第8回：事前授業（昨年度参加者との面談）
第9回：事前授業（航空券、その他書類配付等）
第10回：事前授業（出発前の最終確認）

＜語学研修参加（8月中旬～10月上旬）＞

第11回：事後授業（研修の報告および反省）
第12回：事後授業（英語レベルチェック）
第13回：事後授業（プレゼン課題指示）
第14回：事後授業（プレゼン練習）
第15回：次年度プログラム説明会でプレゼンテーション（3月）

授業外の学習方法

準備期間においては、渡航に必要なビザの手続を教員のサポートの元学生自ら行うこと。渡航先の国の文化や基本的情報について学ぶこと。さらに、英語教育センター等で英会話の練習を積むこと。

成　績　評　価　方　法

事前授業への取り組み（30%）、現地評価（50%）、事後授業の取り組み（20%）を総合評価する。

成　績　評　価　基　準

学外における自主的な活動や体験をとおして、通常の講義や演習で得られない視点や考察点を体得できたか。
学修・研究のための動機付けを得て、優れた社会人となるための自己認識を深めることができたか。
※フラトン校から発行される成績表も評価に含まれる。

テキスト、参考図書

ALPより指示がある。

その他（受講上の注意）
本科目の履修登録については、それぞれの担当教員がガイダンスなどを実施し、各プログラムの参加者をもって受講者とするため、通常の受講登録手続きを要しない。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

情報処理演習 a (Information Processing Practicum a)			担当教員	宮川　祐一
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−1251	2 単位	2年前期･3年前期	演習	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　情報科目

求める学習成果(教育目標)

建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

大学はもちろんのこと、一般社会における情報システムの利用者として必要な情報化推進能力を得る。

授 業 の 到 達 目 標

一般企業などにおける情報システムの利用者側としての必要な知識技能を主に習得し、業務の情報化を推進できる幅広い活用能力の獲得を目指す。
　本授業では、情報処理技術者試験の一つである「ITパスポート試験」に合格できるレベルの知識と技能を獲得することを目標とする。
ただし、本授業においては、授業回数の都合上「ITパスポート試験」の小問のみを採り上げており、「ITパスポート試験」の中問については情報処理演習bにおいて採り上げる。
参考　IT パスポート試験シラバス
(https://www.jitec.ipa.go.jp/１_13download/syllabus_ip_ver３_0.pdf)

授　業　の　計　画

　テキストに従って進めるが、毎授業の30分間程度は演習課題(小問)を採りいれる。
第１回：第１章 企業と法務(１)
第２回：第１章 企業と法務(２)
第３回：第１章 企業と法務(３)
第４回：第２章 経営戦略
第５回：第３章 システム戦略
第６回：第４章 開発技術
第７回：第５章 プロジェクトマネジメント
第８回：第６章 サービスマネジメント
第９回：第７章 基礎理論(１)
第10回：第７章 基礎理論(２)
第11回：第７章 基礎理論(３)
第12回：第８章 コンピュータシステム(１)
第13回：第８章 コンピュータシステム(２)
第14回：第９章 技術要素(１)
第15回：第９章 技術要素(２)
第16回：定期試験

授 業 外 の 学 習 方 法

予習：次の単元の内容を教科書で事前に目を通しておくこと。
復習：重要語句などの確認をすること。
　　授業で採り上げた演習例題については、完全理解に努めること。

　　テキスト付録の過去問題(小問)を各自実行すること。
　　(延べ所要時間　約30時間以上)

成　績　評　価　方　法

定期試験(80%)　中間試験(10%)　平常点(10%)
　(平常点は、授業への参加状況・受講態度等)

成　績　評　価　基　準
ITパスポート試験に合格できるレベルの知識と技能を獲得できたか。 ただし、この授業においては、ITパスポート試験の小問を対象とする。
テキスト、参考図書
テキスト 『ITパスポート試験　対策テキスト＆過去問題集　平成28-29年度版』 FOM出版　2015年 参考図書 『ITパスポート試験　直前対策　１週間完全プログラム　シラバスVer3.0準拠』FOM出版　2016年 『ITパスポート試験 書いて覚える学習ドリルCBT試験対応 シラバスVer2.0準拠』 FOM出版 2011年 『平成28年度　ITパスポート合格教本』 技術評論社　2015年
その他（受講上の注意）
テキスト必携必須
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

情報処理演習ｂ (Information Processing Practicum b)			担当教員	宮川　祐一
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−1252	２単位	2年後期･3年後期	演習	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　情報科目

求める学習成果（教育目標）

建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

□自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

大学はもちろんのこと、一般社会における情報システムの利用者として必要な情報化推進能力を得る。

授 業 の 到 達 目 標

一般企業などにおける情報システムの利用者側としての必要な知識技能を主に習得し、業務の情報化を推進できる幅広い活用能力の獲得を目指す。
　本授業では、情報処理技術者試験の一つである「ITパスポート試験」に合格できるレベルの知識と技能を獲得することを目標とする。
ただし、本授業においては、授業回数の都合上「ITパスポート試験」の中問を採り上げており、「ITパスポート試験」の小問については情報処理演習aにおいて採り上げる。
参考　IT パスポート試験シラバス
（http://www.jitec.ipa.go.jp/１_13download/syllabus_ip_ver３_0.pdf）

授　業　の　計　画

　テキストに従って進めるが、毎授業の60分間程度は演習課題（過去問題の中問）を採りいれる。
第１回：第１章　企業と法務
第２回：第２章　経営戦略
第３回：第３章　システム戦略
第４回：第４章　開発技術
第５回：第５章　プロジェクトマネジメント
第６回：第６章　サービスマネジメント
第７回：第７章　基礎理論
第８回：第８章　コンピュータシステム
第９回：第９章　技術要素
第10回：過去問題研究（１）
第11回：過去問題研究（２）
第12回：知識問題作成演習（１）
第13回：知識問題作成演習（２）
第14回：知識問題作成演習（３）
第15回：作成した知識問題の検証
第16回：定期試験

授 業 外 の 学 習 方 法

予習：次の単元の内容を教科書等で事前に目を通しておくこと。
　　指示したITパスポート試験問題（過去問題）を解いて授業に臨むこと。

復習：重要語句などの確認をすること。
　　採り上げた演習例題については完全理解に努めること。

　　テキスト付録の過去問題（中問）を各自実行すること。
　　（延べ所要時間　約30時間以上）

成　績　評　価　方　法

定期試験（50%）　CBT模擬テスト（20%）　レポート課題（30%）

成　績　評　価　基　準
ITパスポート試験に合格できるレベルの知識と技能を獲得できたか。
テキスト、参考図書
テキスト 『ITパスポート試験　対策テキスト＆過去問題集　平成28-29年度版』 FOM出版　2015年 参考図書 『ITパスポート試験　直前対策　1週間完全プログラム　シラバスVer3.0準拠』FOM出版　2016年 『ITパスポート試験 書いて覚える学習ドリルCBT試験対応 シラバスVer2.0準拠』 FOM出版 2011年 『平成28年度　ITパスポート合格教本』 技術評論社　2015年
その他（受講上の注意）
テキスト必携必須 前期の「情報処理演習a」を受講している者を前提としている。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

フィールドワーク演習（インターンシップ） （Fieldwork Practice（Internship））			担当教員	升田　法継、水田　敏郎
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−1361	2単位	3年前期	演習	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　修学基礎・フィールドワーク科目

求める学習成果（教育目標）

建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　■計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

本授業は、主として「福井県インターンシッププログラム」（3年生対象）に沿って、民間企業や各種団体、自治体等における就業体験（原則として5日間）を夏期休業中に行う。インターンシップ参加者（福井県外での参加者含む）は、事前の本学教員および主催者によるガイダンスや面接等を受講し、事後の報告会等に参加することを義務づけ、就業意識の高揚をねらう。

授業の到達目標

民間企業や各種団体・自治体等で就業体験（実習）を行い、以後の学習・研究のための動機付けを得ること、また社会人・職業人となるための自己認識、自己啓発につなげること。

授　業　の　計　画

●出願・調整期間
4月上旬：インターンシップガイダンス
4月上旬：志望動機書提出
4月中旬：面接（4月下旬 結果発表）
5月上旬：インターンシップ説明会
5月中旬：エントリーシート締切
6月上旬：仁愛大学インターンシップ事前研修会
6月下旬：研修先等の決定
7月上旬：主催者による事前研修会
●研修・就業体験期間
7月中旬～：研修先と事前打合せ
8月上旬～9月末：企業・団体にて就業体験
●レポート提出
10月末：テーマ：インターンシップで学んだこと

授業外の学習方法

予習として、インターンシップ参加までに受入先企業・団体の企業概要や事業内容について事前に調べておくこと。就業体験中は、その日の実習で気づいたことや体験したことを見直して次の日に臨むこと。

成　績　評　価　方　法

インターンシップ先の評価（35%）、レポート（30%）、平常点（35%）
平常点は事前研修（ガイダンス・面接を含む）の参加状況、参加意欲（志望動機）等を総合して判断する。

成　績　評　価　基　準

インターンシップ先の研修において、期待される行動・態度がとれているか。
就業体験をとおして、今後自己に必要な学習・研究について明確化することができているか。
民間企業や各種団体等での就業体験によって、自己の就業意識を向上することができたか。

テキスト、参考図書

使用しない。

その他（受講上の注意）
・受講希望者には、「志望動機書」の提出および面接を行い、就業意欲を認めたうえで実施する。 ・授業計画は、協力団体などの都合により、前後したり変更する場合がある。 ・第１回キャリアガイダンスにおいてスケジュールなどについて説明するので、必ず出席すること。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

フィールドワーク演習（ボランティア） （Fieldwork Practice（Volunteer））			担当教員	金田　明彦、谷　雅徳
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−1164	2単位	1年～4年	演習	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　修学基礎・フィールドワーク科目

求める学習成果（教育目標）

建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■自他の理解能力■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　■計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

本プログラムには、学内外でのボランティア活動体験、社会的イベント・コンペティションなどへの参画体験が含まれる。教室や研究室で学習や研究をするのではなく、実際に社会での直接的体験を通して、優れた社会人となるための自己認識、自己啓発の機会とすることを目的とする。担当教員や活動支援団体による説明会への参加をもとに受講の意思を明らかにし、プログラムへの参加とする。

授業の到達目標

それぞれが今後学ぶ、または学んでいることの社会的意義を見いだすことができる。学生間はもとより地域社会で仕事や生活をしている社会人とのコミュニケーションが円滑に行える。

授　業　の　計　画

地域社会からのニーズを元にプログラムを立てるため、その解決すべき課題を元に授業計画を設定する。

４～７月　　事前ガイダンスの実施と計画の提示
８～９月　　現地にて研修
10～11月　　事後報告として、レポート・プレゼンテーション等の実施

授業外の学習方法

課題に関連する情報の収集

成　績　評　価　方　法

プログラムへの取組み（50%）　レポート（20%）　プレゼンテーション（30%）

成　績　評　価　基　準

課題について、的確な視点を持ち、その解決に向けて自身の考察による提案ができるか。

テキスト、参考図書

使用しない。

その他（受講上の注意）

本科目の履修登録については、それぞれの担当教員がガイダンスなどを実施し、各プログラムの参加者をもって受講者とするため、通常の受講登録手続きを要しない。

※個人参加のボランティア活動体験、社会的イベント・コンペティションなどへの参画体験等も対象とする場合があるので、受講希望者は、事前に科目担当者へ問い合わせること。

※単位認定については、参加するボランティア活動体験、社会的イベント・コンペティションのプログラム終了後、担当教員より課される課題等を全て提出し、単位認定するにあたり適当であると認めた場合のみとする。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

フィールドワーク演習（国際交流） （Fieldwork Practice（International Exchange））			担当教員	ＭＬ　スプリチャル
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−1165	２単位	１年～４年	演習	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　修学基礎・フィールドワーク科目

求める学習成果（教育目標）

建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　■計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

本プログラムは、原則として、カリフォルニア州立大学フラトン校における「仁愛大学海外短期研修プログラム（２週間）」の参加者を受講者として実施する。受講者への事前授業を10回程度行い、夏期休暇中に約２週間の短期留学を実施する。現地学校での英会話クラス受講、現地学生との交流、観光などの研修を実施し、以後の学修・研究のための動機付けを得ることを目指す。

授業の到達目標

学外における自主的な活動や体験をとおして、通常の講義や演習で得られない視点や考察点を体得する。
本科目では、原則として、「仁愛大学海外短期研修プログラム（２週間）」への参画体験演習を行い、以後の学修・研究のための動機付けを得ること、異文化理解を深めることを目的とする。

授　業　の　計　画

第１回：全体説明会
第２回：事前授業（提出物、課題指示等）①
第３回：事前授業（提出物、課題指示等）②
第４回：事前授業（現地活動の企画等）①
第５回：事前授業（現地活動の企画等）②
第６回：事前授業（現地活動の準備等）①
第７回：事前授業（現地活動の準備等）②
第８回：事前授業（現地活動の準備等）③
第９回：事前授業（航空券、その他書類配付等）
第10回：事前授業（出発前の最終確認）

＜研修参加（９月）＞

第11回：事後授業（研修の報告および反省）
第12回：事後授業（レポート課題指示）
第13回：事後授業（プレゼン課題指示）
第14回：事後授業（プレゼン練習）
第15回：次年度プログラム説明会でプレゼンテーション（３月）

授業外の学習方法

準備期間においては、渡航先の国の文化や基本的情報について学ぶこと。さらに、英語教育センター等で英会話の練習を積むこと。

成　績　評　価　方　法

事前授業の取り組み（30%）、現地評価（50%）、事後授業の取り組み、およびレポート課題（20%）を総合評価する。

成　績　評　価　基　準

学外における自主的な活動や体験をとおして、通常の講義や演習で得られない視点や考察点を体得できたか。
学修・研究のための動機付けを得て、優れた社会人となるための自己認識を深めることができたか。

テキスト、参考図書

特になし

その他（受講上の注意）
仁愛大学海外短期研修の最小催行人数は原則として６名とする。よって受講生が少ない場合、非開講とすることがある。本科目の履修登録については、担当教員等が行うガイダンスと、本プログラムの参加をもって履修登録とするため、通常の履修登録手続きを要しない。 ※個人参加の海外語学研修および国内における外国人との国際交流などの企画体験等も対象とする場合があるので、事前（海外語学研修は渡航の２ヶ月前）に担当教員または英語教育センターに問い合わせること。また、個人で参加する海外語学研修の期間については、夏期休暇期間または春期休暇期間とし、単位認定時期については、夏期休暇期間の場合は当該年度の後期に、春期休暇期間の場合は翌年度の前期に単位認定する。したがって、卒業年次生による個人参加の海外語学研修は、夏季休暇中での開始・実施のみ単位認定する。 ※単位認定については、参加する海外語学研修・国際交流等のプログラム終了後、担当教員より課される課題等を全て提出し、単位認定するにあたり適当であると認めた場合のみとする。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

心理検査法Ⅱ （Psychological Assessment Methods Ⅱ）			担当教員	水上　喜美子、吉水　ちひろ、青井　利哉
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS−F−2310	2単位	3年前期	演習	選択

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　基幹科目　心理学基礎

求める学習成果（教育目標）

心理学の研究方法や基礎的知識を習得する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

この授業では、心理検査の背景理論や実施方法について学習した後、、実際に検査者と被検者の双方を体験していく。このような体験をする中で、心理検査を正しく理解するだけでなく、その効用と限界の認識、さらに倫理性をわきまえた態度を身につけていく。また、一定の決められた実施法や解釈の仕方などを習得する中で、新たな自分への気づきや他者理解へと繋げることを目的とする。

授業の到達目標

・検査の実施に際して、実施要領に従って正しく施行できる。
・心理検査を用いるときの注意事項について説明することができる。
・アセスメントの際に心理検査を利用することの効用だけでなく、その限界や誤用がもたらす弊害についても考えることができる。

授　業　の　計　画

この授業では、心理検査について正しい理解やとらえ方ができるようになるために、オムニバス形式でおこない、4週ごとに異なる検査について学んでいく。
第1回：オリエンテーション
第2回：質問紙法検査（YG性格検査、CMI）・投影法検査（ロールシャッハテスト）・知能検査（WAIS-Ⅲ）①
第3回：質問紙法検査（YG性格検査、CMI）・投影法検査（ロールシャッハテスト）・知能検査（WAIS-Ⅲ）②
第4回：質問紙法検査（YG性格検査、CMI）・投影法検査（ロールシャッハテスト）・知能検査（WAIS-Ⅲ）③
第5回：質問紙法検査（YG性格検査、CMI）・投影法検査（ロールシャッハテスト）・知能検査（WAIS-Ⅲ）④
第6回：質問紙法検査（YG性格検査、CMI）・投影法検査（ロールシャッハテスト）・知能検査（WAIS-Ⅲ）①
第7回：質問紙法検査（YG性格検査、CMI）・投影法検査（ロールシャッハテスト）・知能検査（WAIS-Ⅲ）②
第8回：質問紙法検査（YG性格検査、CMI）・投影法検査（ロールシャッハテスト）・知能検査（WAIS-Ⅲ）③
第9回：質問紙法検査（YG性格検査、CMI）・投影法検査（ロールシャッハテスト）・知能検査（WAIS-Ⅲ）④
第10回：質問紙法検査（YG性格検査、CMI）・投影法検査（ロールシャッハテスト）・知能検査（WAIS-Ⅲ）①
第11回：質問紙法検査（YG性格検査、CMI）・投影法検査（ロールシャッハテスト）・知能検査（WAIS-Ⅲ）②
第12回：質問紙法検査（YG性格検査、CMI）・投影法検査（ロールシャッハテスト）・知能検査（WAIS-Ⅲ）③
第13回：質問紙法検査（YG性格検査、CMI）・投影法検査（ロールシャッハテスト）・知能検査（WAIS-Ⅲ）④
第14回：臨床現場における心理検査の実際
第15回：まとめ
※各検査の担当者は［　　］に示す通りである。質問紙法検査［青井］、投影法検査［吉水］、知能検査［水上］

授業外の学習方法

予習として、授業で取り上げられる心理検査に関連する頁や関連する書籍などを読み、基本的な事柄について理解しておくこと。復習としては、授業で体験した心理検査を通して、考えたことや感じたことをまとめておくこと。また、授業時間だけでは作業が終わらないこともあり、その際には、残った作業を遂行して次回の授業に臨むこと。

成　績　評　価　方　法

授業への参加状況や受講態度（30%）、検査ごとに作成する課題レポート（30%）、確認テスト（40%）などから総合的に評価する。実習を伴うため、出席状況や受講態度が悪い場合は、厳しく減点する。

成　績　評　価　基　準
・心理検査の実施に際して、実施要領に従って正しく施行できるか。 ・心理検査を用いるときの注意事項について説明することができるか。 ・心理検査を利用することの効用だけでなく、その限界や誤用がもたらす弊害についても考えることができるか。
テキスト、参考図書
願興寺礼子・吉住隆弘（編）「心理検査の実施の初歩」（ナカニシヤ出版,2011年発行） そのほか、各検査毎に必要な資料を配布したり、参考図書を指示する。
その他（受講上の注意）
・実習を含むので出席と熱心な実習態度を期待する。 ・実習にあたって同グループの友人等に対して自己開示が必要な場合がある。 ・検査の知識を安易に使用しないこと。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

精神医学Ⅰ （Psychiatry Ⅰ）			担当教員	三脇　康生
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS−ABC−2323	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　基幹科目　心理学専門

求める学習成果（教育目標）

教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。
人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。
組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

精神医学は日本が近代化される中で構築された。そこには日本の近代化の遅れが投影されている。その歴史を学び改善をする方向性について、外国のシステムを参考にしながら考える。具体的な病気についても、重い病気を中心に学ぶが、それが軽症化してきている現代社会の特徴についても考える。

授業の到達目標

精神医療の政策にたいして、その内容を吟味できるようになり、どの位の経済的な支出をしていくのか、政治的な判断を大人として下して、実際に、選挙で投票する際の指標に出来るようになることを目指す。

授　業　の　計　画

第１回：精神病院の様子の紹介
第２回：近代精神医学の歴史　日本１
第３回：近代精神医学の歴史　日本２
第４回：近代精神医学の歴史　ヨーロッパ１
第５回：近代精神医学の歴史　ヨーロッパ２
第６回：精神障害と犯罪
第７回：統合失調症１
第８回：統合失調症２
第９回：地域と病院の協力のしかた１
第10回：地域と病院の協力のしかた２
第11回：気分障害　（躁鬱病）１
第12回：気分障害２
第13回：気分障害３（若者の鬱）
第14回：パニック障害１
第15回：パニック障害２
第16回：定期試験

授業外の学習方法

精神医療に関係する新聞記事、ネット情報を集める。本を読みたい人は、まず精神医療の歴史に関する本を図書館で探すとよい。病気に関しては、病名が本の題名になっている本を探すとよい。

成　績　評　価　方　法

レポートも期末テストと同時に提出。期末テスト70%レポート30%で評価する。
テストにはかならずテキストを持ち込むこと。持ち込まないと、テストは受けられない。

成　績　評　価　基　準

歴史を踏まえて日本の精神医療がどのように成立したか説明し、他国と比較でき、これからの姿を各自で考えられるか。

テキスト、参考図書
多賀茂　三脇康生「医療環境を変える－制度を使った精神療法の実践と思想」京都大学学術出版会2008年 テキストの購入方法： 下記ページにアクセスをして、「買い物かごに入れる」→「配送先：JAPAN」→「購入手続きに進む」の順番で手続を行い、申し込み画面にて「氏名」、「住所」、「クーポンコード」等を入力すると、書籍代金が２割引きされます。 http://www.kyoto-up.or.jp/book.php?isbn=9784814000296 クーポンコード：CS1601（有効期限2016/５/31） なお、学内でのテキスト販売にて購入の場合は定価（5,985円）になります。
その他（受講上の注意）
欠席は３回までしか認めない。公式の用事がある場合は欠席に数えない。証明書を提出すること。まずこれをクリアーしたらテストを受けられる。 私語は一切禁じる。二度注意されたら自ら教室を去ること。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

精神医学Ⅱ （Psychiatry Ⅱ）			担当教員	三脇　康生
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS−AOO−2324	2単位	3年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　基幹科目　心理学専門

求める学習成果（教育目標）

教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

精神医学１は原因がわからない重病について学んだが、精神医学２ではその原因が現代社会で問題になっている病について学ぶ。災害や職場や学校での暴力から生じる病について学ぶ。

授業の到達目標

現代はハラスメント社会とも呼ばれる状況にある。この外的なトラウマと精神分析的な精神的なトラウマの関係はフロイトですら明確には出来なかった。この二つのトラウマについて考え、各自の意見をこの問題に持てるようになり、ハラスメント社会を生き抜く方法を考える、

授　業　の　計　画

第１回：PTSDとは何か１
第２回：PTSDとは何か２
第３回：PTSDとは何か３
題４回：PTSDとは何か４
題５回：PTSDとは何か５
題６回：解離と多重人格１
題７回：解離と多重人格２
第８回：人格障害１
題９回：人格障害２
第10回：社会的ひきこもり（摂食障害の説明も含む）１
題11回：社会的引きこもり２
第12回：社会的引きこもり３
第13回：東日本大震災特講
第14回：性同一性障害
第15回：現代社会において、それぞれ個人でできることは何だろうか？
第16回：定期試験

授業外の学習方法

PTSDやハラスメントに関する本を図書館で読むこと。自分がバイトさきなどで経験したことを分析して考察することも出来る。

成　績　評　価　方　法

平常点20パーセント　期末テスト50パーセント　レポート30パーセント
（平常点は、授業への参加状況・受講態度などを総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

ハラスメント社会を深く理解し、それを切り抜ける方法を身につけたか。

テキスト、参考図書

就労と教育システムに関して：大野正和『自己愛化する仕事』大野正和　l労働調査会　2011年　（レポートを書くとき必ず必要）
参考書　PTSDへのアートセラピーに関して：
三脇康生他　『アート×セラピー潮流』　フィルムアート社　2002年

その他（受講上の注意）
私語は厳禁とする。二度注意を受けたら自から教室を去ること。東日本大震災の講義は実施時期がゲスト講師の都合により変わり得るので注意すること。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

教育心理学 (Educational Psychology)			担当教員	竹村　明子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS−ABO−2332	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　基幹科目　心理学専門

求める学習成果(教育目標)

教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。
人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

心理学の教育への応用を通じて、こころの発達とこころのありかたの問題点を探る。
教育心理学は、子どもの発達と自己形成の支援を行うものである「教育」について、心理学の視点から研究する学問である。そのため、発達や学習、人間関係に関する基礎理論をもとに、それぞれの子どもに最適な各教科の教授法や指導法を考え、学校や社会での人との関わりを促す方法を構築していくためにはどうすれば良いかを学ぶ。

授業の到達目標

①教育心理学の概念や知識を用いて、子どもの発達や学習、障害について理解することができる
②教育心理学の研究から得られた事実や理論を用いて、教育や学習について考察することができる
③現在の教育の問題について、学んだ知識を基に批判的・論理的に思考することができる

授　業　の　計　画

第1回：教育心理学とは
第2回：教育と発達
第3回：やる気を高める1（動機づけと欲求）
第4回：やる気を高める2（学習意欲と無気力）
第5回：学習のメカニズム1（学習の基礎としての条件づけ）
第6回：学習のメカニズム2（記憶の役割・問題解決）
第7回：学習指導の理論
第8回：まとめと中間テスト
第9回：教育評価
第10回：知的能力の発達
第11回：社会性と道徳性の発達
第12回：親子関係と仲間関係の発達
第13回：学級の心理学（教師との関係、級友との関係）
第14回：不適応（不登校・いじめ・非行）
第15回：発達障害

授業外の学習方法

予習について、日頃から教育に関連する書籍・新聞を読み、興味を持って授業に臨むこと。
復習について、授業ごとに課題を出すので、授業や配布された資料を基に課題をまとめること。課題の評価は、中間試験および期末試験を用いて判断する。

成　績　評　価　方　法

中間試験30%、期末レポート試験40%、小レポート提出30%で評価を行う

成　績　評　価　基　準

・発達や学習、障害に関する基本的な考え方を説明することができるか。
・心理学的知見の教育への応用について説明できるか。
・現代の教育における問題点について、具体的に解決法を考えることができるか。

テキスト、参考図書

桜井茂男（編）たのしく学べる最新教育心理学―教職にかかわるすべての人に―図書文化社　ISBN978-4-8100-3419-6

その他（受講上の注意）
毎回の講義に小レポートの提出を課すので、必ず講義に出席し小レポートを提出すること。講義では、自分の意見をまとめ表現できるよう、心がけてほしい。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

家族心理学 (Family Psychology)			担当教員	竹村　明子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS−ABC−2337	2単位	3年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　基幹科目　心理学専門

求める学習成果(教育目標)

教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。
人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。
組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

1. 家族の定義と、現在の家族の状況について学ぶ。
2. 家族の発達過程と、各発達段階に生じる問題について学ぶ。
3. 家族を対象とした臨床的援助について学ぶ。
4. 時代や社会により異なる家族像を知り、地域(福井)に対する理解を深める

授業の到達目標

・家族の機能や家族内で展開される人間関係の特徴について説明することができる。
・現在社会の家族が抱える問題について分析し、心理学的視点から考察することができる。

授　業　の　計　画

第1回：家族に関する概略
第2回：家族とは何か(定義と起源)
第3回：家族の健康とは
第4回：家族のライフコースと発達段階
第5回：家族づくりの準備段階
第6回：夫婦の発達
第7回：中間試験と主要理論のまとめ
第8回：子どもが育つ場としての家族
第9回：変化する社会の中の家族(晩婚化・非婚化)
第10回：変化する社会の中の家族(少子化)
第11回：家族療法の理論と技法
第12回：家族の変化に役立つ臨床的援助技法
第13回：家族への臨床的アプローチの実際
第14回：家族にふりかかるストレスや問題
第15回：社会・文化による異なる家族の特徴(日本・米国・福井県)
第16回：期末試験とまとめ

授業外の学習方法

予習について、家族に関連する書籍・新聞・雑誌記事を読み、興味を持って授業に臨むこと。
復習について、授業ごとに課題を出すので、授業内容と配布するプリントに基づき課題をまとめておくこと。課題に対する評価は、中間テストや期末テストを用いて判断する。

成　績　評　価　方　法

中間試験(30%)　期末試験(40%)　小レポート(30%)

成　績　評　価　基　準

・家族の機能や家族内で展開される人間関係の特徴について、心理学用語を用いて説明することができるか。
・現在社会の家族が抱える問題について分析・考察し、自分の意見を適切に表現できるか。

テキスト、参考図書

平木典子・中釜洋子(共著)家族の心理―家族への理解を深めるために―梅本堯夫・大山　正(監修)ライブラリ実践のための心理学3　サイエンス社　ISBN 4-7819-1144-7

その他（受講上の注意）
毎回の講義に小レポートの提出を課すので、必ず講義に出席すること。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

スポーツ心理学 (Sport Psychology)			担当教員	野田　政弘
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS−OBC−2338	2単位	3年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　基幹科目　心理学専門

求める学習成果(教育目標)

人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。
組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　■計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

スポーツ心理学は応用科学としてスポーツ行動における心理学的事象を解明し、それらに対処できるようにすることを目的としたものである。スポーツ全般における心理学的な諸問題をとりあげ今日までの研究成果に基づいて学習する。

授業の到達目標

運動の制御機構、運動と学習、競技心理、スポーツと臨床などについて理解できる。

授　業　の　計　画

第1回：スポーツ心理学とは
第2回：スポーツと発達
第3回：運動の制御機構①
第4回：運動の制御機構②
第5回：運動の学習と指導①
第6回：運動の学習と指導②
第7回：スポーツにおける動機づけ
第8回：スポーツの社会心理
第9回：運動による健康の増進
第10回：競技心理①
第11回：競技心理②
第12回：メンタルトレーニング①
第13回：メンタルトレーニング②
第14回：スポーツ臨床①
第15回：スポーツ臨床②
第16回：定期試験

授業外の学習方法

講義を受けた後は、講義ノートや配布資料を見直して復習し、身の回りにおけるスポーツや運動に観察される事象にあてはめて理解を深める。

成　績　評　価　方　法

定期試験(80%)、平常点(20%)。平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断します。

成　績　評　価　基　準

運動の制御機構、運動と学習、競技心理、スポーツと臨床などについて説明できる。

テキスト、参考図書

テキストは使用しない。参考図書　中込四郎・伊藤豊彦・山本裕二編著「よくわかるスポーツ心理学」ミネルヴァ書房 2012、荒木雅信編著「これから学ぶスポーツ心理学」大修館書店 2011

その他(受講上の注意)

スポーツや運動に関するできごとや情報に積極的に関心を向けること。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

心理療法論Ⅰ (Theory of Psychotherapy Ⅰ)			担当教員	森　俊之
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS−ABC−2351	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　応用科目　臨床系

求める学習成果(教育目標)

教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。
人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。
組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

さまざまな心理療法の考え方について学ぶとともに、そうした考え方を参考に自分自身の心の健康をめざすための方略について考える。

授業の到達目標

・代表的な心理療法の背景にある基本的な考え方を理解する。
・自分自身の心の健康法について考える。

授　業　の　計　画

第1回：心理療法とは
第2回：無意識を理解する（精神分析的心理療法）①
第3回：無意識を理解する（精神分析的心理療法）②
第4回：クライエントを尊重する（来談者中心療法）①
第5回：クライエントを尊重する（来談者中心療法）②
第6回：行動を変える（行動療法）①
第7回：行動を変える（行動療法）②
第8回：認知を変える（認知行動療法）
第9回：身体をリラックスさせる（自律訓練法）
第10回：人間関係を分析する（交流分析）
第11回：自己を表現する（芸術・表現療法）
第12回：家族で解決する（家族療法）
第13回：集団で解決する（集団療法）
第14回：日本生まれの心理療法を考える（森田療法・内観療法）
第15回：まとめ
第16回：期末試験

授業外の学習方法

授業の終わりに、次の授業までにしておいてほしいことを指示する。
とくに指示がない場合も、複数の心理療法の説明の中で共通することはないか、自分なりに考えること。また、心の健康にとって何が大切かを自分なりに考えること。
授業内容に関する質問等がある場合は、積極的に研究室に来て質問すること。

成　績　評　価　方　法

学期末に実施する筆記試験（60%）と、授業中に指示する課題や授業中の態度（40%）から、評価する。

成　績　評　価　基　準

・代表的な心理療法の背景にある基本的な考え方を理解し、説明できるか。
・自分自身の心の健康法について考えることができるか。

テキスト、参考図書

教科書は指定しない。適宜、補助資料を配付する。
参考書は授業中、随時、紹介する。

その他（受講上の注意）
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

心理療法論Ⅱ (Theory of Psychotherapy Ⅱ)			担当教員	久保　陽子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS−AOC−2352	2単位	3年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　応用科目　臨床系

求める学習成果(教育目標)

教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。
組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

子どもから中年期までの心理療法について学習する。また、心の病について学習し、それぞれの心理療法について理解する。

授業の到達目標

子どもから中年期までの心理療法の特徴や経過を理解すること。また、心の病について学習し、それぞれの病における心理療法について理解を深める。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション
第2回：受理面接…見立ての重要性
第3回：治療構造と記録をとること
第4回：子どもの心理療法：遊戯療法
第5回：遊戯療法の経過
第6回：思春期の心理療法：関わりの難しさ
第7回：イメージ療法：演習
第8回：青年期の心理療法：自立と依存の葛藤
第9回：中年期の心理療法：人生後半への転換点
第10回：神経症の心理療法：理論と技法
第11回：神経症の心理療法：転換性障害
第12回：人格障害の心理療法
第13回：スーパーヴィジョンについて
第14回：面接の終結について
第15回：まとめ

授業外の学習方法

毎回、授業後に質問を受け付けます。次回授業において質問への回答を含めた授業を行いますので、復習として前回の授業内容を見直しておくこと。

成　績　評　価　方　法

中間レポート(30%)＋最終レポート(30%)＋平常点(40%)
(レポートは授業中に指示します。平常点は授業への出欠・受講態度などを総合して判断します。)

成　績　評　価　基　準

子どもから中年期の心理療法の特徴を理解し、説明できるか。また、授業でとりあげた心の病における心理療法について理解できているか。

テキスト、参考図書

必要に応じて授業中に資料配布する。

その他(受講上の注意)

私語厳禁。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

アイデンティティ心理学 (Identity Psychology)			担当教員	西村　則昭
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS−AOC−2353	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　応用科目　臨床系

求める学習成果(教育目標)

教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。
組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

「本当の自分」とは何か、深層心理学の立場から考える。

授業の到達目標

・「本当の自分」とか「本当の幸福」が何か、自ら論理的(心理学的＝哲学的)に考え、イメージとしても思い描くことができる。
・本来的自己と非本来的自己、性別など、アイデンティティの問題について自ら考えたことに基づいて、自分の将来像や人生設計を構築することができる。
・アイデンティティの問題が心の病理と本質的な繋がりのあることを理解し、心を病んだ人の気持ちを理解し、寄り添うことができる。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション
第2回：ラカンの鏡像段階
第3回：ラカンの現実界
第4回：話す主体はどのように成立するか
第5回：幻想
第6回：欲望
第7回：離人症
第8回：解離性障害
第9回：摂食障害(拒食)
第10回：摂食障害(過食)
第11回：境界性パーソナリティ障害
第12回：本来的自己とは何か
第13回：女性とは何か
第14回：宗教的アイデンティティ
第15回：まとめ

授業外の学習方法

配布資料を見直して復習し、次の授業に臨んでください。その上で、講義で説明したことを、自分の日常的な思考や観察される現象と重ね合わせ、理解を深めるようにしてください。

成　績　評　価　方　法

期末レポート(50%)、小レポート(30%)、平常点(20%)
(平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問等を総合して判断します)

成　績　評　価　基　準

・深層心理学の考え方を自ら思索し直しつつ、「本当の自分」や「本当の幸福」を思索できるか。
・その上で、自分の将来像や人生設計を構築し、その意義を論理的(心理学的＝哲学的)に説明することができるか。
・心を病む人におけるアイデンティティの問題が何かを理解し、その心に寄り添う姿勢を持つことができるか。

テキスト、参考図書

テキストは使用しない。プリント資料を配布する。

その他（受講上の注意）
質問はメールでも受け付けます（nisimura@jindai.ac.jp）。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

犯罪心理学 (Criminal Psychology)			担当教員	廣井　亮一
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS−AOC−2354	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　応用科目　臨床系

求める学習成果(教育目標)

教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。
組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

講義内容を3部で構成する。
第1部では、非行・犯罪をとらえる基本的視座について、家裁調査官のアプローチをもとに理解を深める。
第2部では、少年非行の現状、歴史的変遷と現代型いじめをもとに、非行や犯罪につながる「攻撃性」の変質を説明したうえで犯罪の4類型について講義する。
第3部では、ストーカー犯罪、パーソナリティ障害と犯罪、殺人事件の精神鑑定の事例によるワークを行いながら、法的アプローチと心理臨床的アプローチの協働-司法臨床の必要性を明示する。
以上について、家裁調査官と非行少年の関わり(NHKドラマ「少年たち3」)を通して理解を深め、非行少年の更生に向けた援助の方法を考察する。

授業の到達目標

・非行少年や犯罪者を十分に理解して、彼らの更生の援助ができる。
・人と人との関係性を修復することができる。

授　業　の　計　画

第1回：非行・犯罪をとらえる基本的視座
第2回：少年非行の司法システムと家庭裁判所
第3回：非行少年と家裁調査官
　　―― 少年たち3(第一話前半)「オヤジ狩り」をもとに解説
第4回：少年非行の歴史的変遷：子どもの攻撃性の変質
第5回：攻撃性の4類型
　　―― 少年たち3(第一話後半)「オヤジ狩り」をもとに解説
第6回：現代型いじめの理解と対応①
第7回：現代型いじめの理解と対応②
　　―― 少年たち3(第二話)「なぐられる人」をもとに解説
第8回：ストーカー犯罪の理解と対応①
第9回：ストーカー犯罪の理解と対応②
　　―― 少年たち3(第三話)「再逮捕」をもとに解説
第10回：パーソナリティ障害と犯罪①
第11回：パーソナリティ障害と犯罪②
　　―― 少年たち3(第四話)「父の記憶」をもとに解説
第12回：動機不可解な殺人事件の精神鑑定例をめぐって①
第13回：動機不可解な殺人事件の精神鑑定例をめぐって②
　　―― 少年たち3(第五話)「最終審判」をもとに解説
第14回：少年たちの未来に向けて－受講生の感想をもとに
第15回：確認テストと総まとめ

授業外の学習方法

予習として、テキストの各回に関連する該当頁を読んでおくこと。
復習として、テキストを再読し、配布された資料で再確認すること。

成　績　評　価　方　法

確認テスト(50%)、レポート(30%)、平常点(20%)
平常点は、受講マナー、授業の取り組み等を総合的に判断

成　績　評　価　基　準
個々の非行少年や犯罪者に応じた更生の援助ができるか。
テキスト、参考図書
廣井亮一著　『司法臨床入門－第２版』日本評論社 2012年 （テキストで事例説明やデーターを提示したりするので必ず購入してください。 なお、テキストの現物のみ試験の持ち込み可能物件にします。）
その他（受講上の注意）
＊テキストは講義と確認テストに使用するので、各自必ず準備すること。確認テストでは、テキストの現物のみ持ち込み可（コピー等は不可）。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

臨床心理演習 (Clinical Psychology Training)			担当教員	森　俊之、片畑　真由美、久保　陽子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS−ABO−2355	2単位	3年前期	演習	選択

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　応用科目　臨床系

求める学習成果(教育目標)

教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。
人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

3クラスに分かれ、いずれかの教員の指導のもと、ペアまたは少人数のグループで、いろいろな対話や表現を体験する。これらの体験を通して、自己理解・他者理解を促すとともに、傾聴などカウンセリングの基本的態度を身に付ける。

授業の到達目標

カウンセリングにおける話の聴き方の基本を理解する。
自分自身のコミュニケーションの特徴について理解する。
ものの捉え方や考え方、コミュニケーションの仕方などの多様性について考える。
他者と円滑にコミュニケーションできる。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション　【担当：森、片畑、久保】
第2回：自他理解のためのグループ体験①　【担当：森、片畑、久保】
第3回：自他理解のためのグループ体験②　【担当：森、片畑、久保】
第4回：自他理解のためのグループ体験③　【担当：森、片畑、久保】
第5回：自他理解のためのグループ体験④　【担当：森、片畑、久保】
第6回：自他理解のための表現体験①　【(担当：森、片畑、久保】
第7回：自他理解のための表現体験②　【担当：森、片畑、久保】
第8回：自他理解のための表現体験③　【担当：森、片畑、久保】
第9回：自他理解のための表現体験④　【担当：森、片畑、久保】
第10回：傾聴のための基本技法と実践①　【担当：森、片畑、久保】
第11回：傾聴のための基本技法と実践②　【担当：森、片畑、久保】
第12回：傾聴のための基本技法と実践③　【担当：森、片畑、久保】
第13回：傾聴のための基本技法と実践④　【担当：森、片畑、久保】
第14回：傾聴のための基本技法と実践⑤　【担当：森、片畑、久保】
第15回：まとめ　【担当：森、片畑、久保】
※第1回の際にグループ分けを行い、第2回以降については、いずれかの教員のもとで演習を行う。

授業外の学習方法

授業時に、随時、次の授業までにしてきてほしい課題を指示する。

成　績　評　価　方　法

授業中に課す課題(60%)と授業への参加態度(40%)で評価する。
授業への参加態度については、演習活動への積極性や授業中の発言の内容などから総合的に評価する。
授業への出席を重視し、欠席は厳しく減点する。

成　績　評　価　基　準

カウンセリングにおける話の聴き方の基本について説明できるか。また、それを模擬的に実践できるか。
自分自身の考え方やコミュニケーションなどの特徴について説明できるか。
考え方やコミュニケーションの仕方の多様性について考えられるか。
他者と円滑にコミュニケーションが行えるか。

テキスト、参考図書
授業時に資料を配付する。 そのほか、参考書については、授業時に随時、紹介する。
その他（受講上の注意）
授業の中で状況に応じて、自分の感じたことや考えたことについて他者に話してもらうことがある。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

比較心理学 (Comparative Psychology)			担当教員	氏田　麻美
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS−OBO−2361	2単位	3年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　応用科目　行動・支援系

求める学習成果(教育目標)

人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　■選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

動物の行動や認知機能について比較分析した諸研究を紹介しながら、比較心理学がどのような学問であるかの理解を深める。

授業の到達目標

科学原則に則った心理学の研究法を説明できる。
様々な認知機能について、ヒトとヒト以外の動物におけるそれぞれの特徴を説明できる事。

授　業　の　計　画

第1回：ガイダンス・比較心理学とは
第2回：比較心理学の歴史
第3回：比較心理学の研究手法
第4回：動物の感覚の特徴
第5回：動物の知覚過程
第6回：動物の学習について
第7回：動物の学習過程
第8回：動物の記憶−1−
第9回：動物の記憶−2−
第10回：動物の思考過程−1−
第11回：動物の思考過程−2−
第12回：動物の概念形成
第13回：動物のコミュニケーション
第14回：動物の社会的認知
第15回：動物の心の理論
第16回：定期試験

授業外の学習方法

予習：次回の講義内容について、参考図書などを用いて関連箇所を調べておくこと。
復習：毎回の授業内容を各自ノート等にまとめておくこと。

成　績　評　価　方　法

定期試験(60%)　小テスト(15%)　平常点(25%)
(平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断する。)

成　績　評　価　基　準

科学原則に則った心理学の研究法を説明できるか。
様々な認知機能において、ヒトとヒト以外の動物におけるそれぞれの特徴を説明できるか。

テキスト、参考図書

必要な資料を随時配布する。
参考図書：「比較認知科学への招待～こころの進化学～」藤田和生著 ナカニシヤ出版
「心の進化～人間性の起源をもとめて～」松沢哲郎・長谷川寿一編 岩波書店

その他（受講上の注意）
授業後にアンケートを取り、質問等があった場合は次回の授業で回答していきますので、積極的に質問をしてください。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

神経心理学 (Neural Psychology)			担当教員	森本　文人
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS−ABO−2362	2単位	3年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　応用科目　行動・支援系

求める学習成果(教育目標)

教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。
人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

様々な心的活動と神経系の機能との関連性について、身近な医療臨床場面で見られる症状や身近な知覚・認知の例（錯覚など）、あるいは最新の脳科学および実験心理学の知見を通して概観する。

授業の到達目標

■局在論に基づいた脳の基礎的な構造と心的機能の関連について基礎的な知識を獲得する。
■高次脳機能障害として扱われる代表的な症例を理解する。
■認知神経心理学的観点から、脳機能を測定する実験研究について理解する。

授　業　の　計　画

臨床神経心理学および認知神経心理学と呼ばれる神経系と心理過程の関連を探求する分野の各種トピックについて、各回で取り上げ紹介する。

第1回：オリエンテーション
第2回：脳外観
第3回：全体論と局在論
第4回：脳神経科学研究法　脳機能測定法
第5回：神経系の構造　ニューロン
第6回：視覚神経系
第7回：聴覚神経系
第8回：半側空間無視
第9回：だまされる脳
第10回：錯覚と神経系
第11回：高次脳機能障害
第12回：認知症
第13回：失行 言語障害
第14回：記憶障害
第15回：事象関連電位を用いた認知心理学実験
第16回：定期試験

授業外の学習方法

各回の講義終了後、スライドおよび板書に基づいてその内容を各自で整理しておくこと。講義で扱うトピックは日々の生活の中に溢れているため、身近な日常を通してさらなる理解を深められるように心構えしておくこと。また、脳科学および医療臨床における最新の知見は、メディアなど取り上げられることも多いため、それらにアンテナを張って、貪欲に知識を得る心構えを日常的にしておくことが望ましい。

成　績　評　価　方　法

定期試験（70%）平常点（30%）
（平常点は、授業への参加状況・受講態度などを総合評価する）

成　績　評　価　基　準

■局在論に基づいた脳の基礎的な構造と心的機能の関連について理解しているか。
■高次脳機能障害として扱われる代表的な症例を理解しているか。
■認知神経心理学的観点から、脳機能を測定する実験研究について理解しているか。

テキスト、参考図書
テキストは使用しない。
その他（受講上の注意）
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

心理学特殊実験Ⅰ (Experiments in Psychology Ⅰ)			担当教員	水田　敏郎、大森　慈子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS-OBO-2363	2単位	3年前期	実験	選択

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　応用科目　行動・支援系

求める学習成果(教育目標)

人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　■計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

心理学における実験的研究の全過程について実習を行う。実験に関連した文献研究、問題設定、実験計画と準備ならびに実行、さらに分析と結果に対する考察すべてを行う。特に、本授業では、行動・生理反応・質問紙などの多様な心理学的指標を用いて実験を行う。その中で、実験装置の取り扱い方や、各種刺激づくりを学生自らが体験する。

授業の到達目標

自ら進んで課題を設定する。実験に必要な事項を理解し、計画を立案しそれに基づき実行することができる。実験結果に対して理論的に考察をすることができる。

授　業　の　計　画

第１回：オリエンテーション
第２回：心理学実験の基礎とその技術
第３回：心理学実験の応用とその技術
第４回：実験心理学に関する文献検索と講読（目的と実験計画の設定＊１）
第５回：コンピュータによる実験刺激の作製①、実験計画発表
第６回：コンピュータによる実験刺激の作製②、レポートの書き方①
第７回：予備実験、データ分析方法演習、レポートの書き方②
第８回：予備実験のデータ分析、実験計画発表
第９回：本実験①＊１、２
　　A（感情・コミュニケーション・言語）　B（注意・認知・記憶）
　　＊１：学生は４～５人のグループに分かれ、上記AまたはBの中からテーマを選び実験を実施する。
　　＊２：反応時間、行動観察、質問紙、生理学的指標を全グループが記録・分析する。
第10回：本実験②、データ分析①
第11回：本実験③、データ分析②
第12回：本実験④、データ分析③
第13回：本実験のデータ分析④と中間発表
第14回：研究発表会の準備、レポートと抄録の作成準備
第15回：研究発表会（コンピュータを用いたプレゼンテーション）

全15回すべてを２名の教員が担当する。

授業外の学習方法

実験心理学に関する論文や卒業研究などに触れることで、課題設定の方向性や具体的な実験方法について知ることができます。

成　績　評　価　方　法

レポート（60％）　平常点（40％）
（平常点は、授業の参加状況・受講態度などを総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

自ら進んで課題を設定することができるか。実験に必要な事項を理解し、計画を立案しそれに基づき実行することができるか。実験結果に対して理論的に考察をすることができるか。

テキスト、参考図書
テキストは使用しないが、実験実習マニュアルを配布する。 参考図書：「新生理心理学」全３巻　宮田洋監修　北大路書房
その他（受講上の注意）
原則として、心理統計Ⅰ・Ⅱ、心理学基礎実験Ⅰ・Ⅱの単位を修得していること。少人数グループでの活動が多くなります。個人の役割が明確になるので、責任感をもって課題に取り組んでください。実験実験は長時間におよぶこともあります。授業時間以外にも各グループごとに協力してデータ整理などを行い、時間を有効に活用する必要があります。人間の生理学的メカニズムについて学習しておくことが望ましい。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

心理学特殊実験Ⅱ (Experiments in Psychology Ⅱ)			担当教員	森本　文人、氏田　麻美
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS−OBO−2364	2単位	3年後期	実験	選択

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　応用科目　行動・支援系

求める学習成果(教育目標)

人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　■計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

心理学における実験的研究の全過程について実習を行う。具体的には、人を対象としての生理指標を測定する心理実験や動物（ラット）の様々な行動観察を通じて、実験に関連した文献研究、問題設定、実験計画と準備ならびに実行、さらに分析と結果に対する考察すべてを行う。

授業の到達目標

■自ら進んで課題が設定できる。
■実験に必要な事項を理解し、計画を立案しそれに基づき実行することができる。
■人の生体反応（脳波・事象関連脳電位）を測定・分析できる。
■動物の様々な行動を客観的に分析できる。
■関連文献を適切に講読し、実験結果に対して理論的な考察をすることができる。

授　業　の　計　画

第１回：オリエンテーション
第２回：人での生理心理学実験総説
第３回：動物での生理心理学実験総説
第４回～14回：グループに分かれての実験実習
　　テーマは以下のＡまたはＢ
　　Ａ．人を対象とした事象関連脳電位を用いての認知心理学実験（担当：森本）
　　Ｂ．動物（ラット）の活動リズムと脳内機構との関連（担当：氏田）
　　グループに分かれた後、第４回~10回までに課題設定、文献研究、実験準備。
　　第11回以降で予備・本実験を行いながら、データ分析と考察の議論を行う。
第15回：まとめ（研究発表会または研究レポートに関する質疑応答）
※第１回～３回および第15回は、森本・氏田、両教員で全員を担当する。

授業外の学習方法

実験心理学や生理心理学に関連する文献や卒業研究などを参考に、課題設定の方向性や具体的な実験方法について調べておくこと。
得られた実験データは、その都度、ノートにまとめたりパソコンなどに入力しておくこと。

成　績　評　価　方　法

実験レポート（60％）、平常点（40％）
（平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

■自ら進んで課題が設定できるか。
■実験に必要な事項を理解し、計画を立案しそれに基づき実行することができるか。
■人の生体反応（脳波・事象関連脳電位）を測定・分析できるか。
■動物の様々な行動を客観的に分析できるか。
■関連文献を適切に講読し、実験結果に対して理論的な考察をすることができるか。

テキスト、参考図書

テキストは使用しないが実験実習マニュアルを配布する。
参考図書：「新生理心理学」全３巻　宮田洋監修　北大路書房

その他（受講上の注意）
実験は長時間に及ぶこともあり、授業時間以外にも各グループごとに協力してデータ整理などを行い、時間を有効に活用する必要がある。また、人や動物の生理学的メカニズムについて学習しておくことが望ましい。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

高齢者心理学 (Psychology of Aging)			担当教員	水上　喜美子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS−ABC−2365	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　応用科目　行動・支援系

求める学習成果(教育目標)

教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。
人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。
組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

高齢者の心理を理解するために、人間関係や社会参加などの社会的側面および身体機能やもの忘れなどの生理的側面についても知識を深め、高齢者と関わる上で必要な知識を習得することを目的とする。また、高齢期は「喪失の時期」であるとも言われており、このような喪失体験に対して、どのような心理的な援助ができるのかについても考えていく。

授業の到達目標

・生涯発達における高齢期の位置づけと課題を理解する。
・高齢期における加齢の変化について理解し、自分や自分の身近な人の「老い」について考えることができる。

授　業　の　計　画

講義形式ですすめる。必要に応じて視聴覚教材を用いながら、高齢期の心理的特徴と行動について学んでいく。
第1回：オリエンテーション
第2回：高齢社会とエイジズム
第3回：生涯発達と高齢期
第4回：加齢による変化①身体機能
第5回：加齢による変化②記憶・知能・知恵
第6回：加齢による変化③人格
第7回：高齢期の人間関係①家族・きょうだい
第8回：高齢期の人間関係②友人・近隣
第9回：高齢期の心理的問題①死
第10回：高齢期の心理的問題②性
第11回：高齢期の心理的問題③うつ・不安
第12回：高齢期の心理的問題④認知症
第13回：高齢者に対する心理的援助①
第14回：高齢者に対する心理的援助②
第15回：まとめ
第16回：定期試験

授業外の学習方法

授業の計画を参考に、次回の授業テーマについて、関連のある書籍や論文などに目を通すことが望ましい。また、日常生活の中で、高齢者に関するニュースなどに関心を持つだけでなく、身近な高齢の方々と接する機会を大切にしてほしい。

成　績　評　価　方　法

定期試験(70%)、平常点(30%)
(平常点は、授業への参加状況・受講態度などから総合的に判断します)

成　績　評　価　基　準

・生涯発達における高齢期の位置づけと課題を理解できたか。
・高齢期における加齢の変化について理解し、説明できるか。
・自分や自分の身近な人の「老い」について考えることができるか。

テキスト、参考図書
テキストは特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。
その他（受講上の注意）
授業の進行状況によって、授業計画に変更を加える可能性もある。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

消費者心理学 (Consumer Psychology)			担当教員	山本　雅代
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS−OBC−2371	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　応用科目　産業・社会系

求める学習成果(教育目標)

人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。
組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　□コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

私たちは毎日何気なく消費行動を行っている。一方で企業は、どのようなモノやサービス、状況であれば消費行動が行われるのか研究し、戦略を練る。消費者マインドがどのような法則に従って変動するのか、企業はそれをどのように捉えようとしているのか、社会心理学や行動経済学等の視点を取り入れながら解説する。講義では消費者行動の基礎的な知識を習得するとともに、国内外における企業のマーケティング戦略をとりあげながら応用について学んでいくこととする。

授業の到達目標

1）消費者心理学における基本的な概念を理解する。
2）消費行動や意思決定について理解する。
3）消費者リスクについて理解する。
4）実社会における企業戦略について理解する。

授　業　の　計　画

第1回：消費者心理について
第2回：行動経済と心理学
第3回：消費者の意志決定（1）
第4回：消費者の意思決定（2）
第5回：消費者の意思決定（3）
第6回：消費者の意思決定（4）
第7回：消費者の態度（1）
第8回：消費者の態度（2）
第9回：消費者の動機
第10回：口コミと消費行動
第11回：インターネット上の消費行動
第12回：企業戦略と悪徳商法
第13回：広告と消費行動
第14回：消費ゲーム
第15回：まとめ

授業外の学習方法

講義中に紹介した問題について自主的に復習すること。
各講義後に手書きノートを作るなどすることが望ましい。

成　績　評　価　方　法

授業中に実施する小テスト、課題レポート、授業への参加態度等を総合的に判断し評価する。
【小テスト60%　課題レポート30%　授業への参加態度10%】

成　績　評　価　基　準

消費者行動についての基本的概念が理解できたか。
消費者リスクについて説明できたか。
実社会における企業戦略を分析できたか。

テキスト、参考図書
授業中に資料を配布する
その他（受講上の注意）
基本的に講義形式。より理解を深めるため、必要に応じてVTRなどの考察、実際の消費行動についての分析、グループ討議を行うことがある。その際、レポート課題の提出を求めることがある。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

対人心理学 (Interpersonal Psychology)			担当教員	大森　慈子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS−ABC−2372	2単位	3年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　応用科目　産業・社会系

求める学習成果(教育目標)

教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。
人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。
組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

社会動物であるヒトが生活していくうえで欠かせない人間関係における心理、すなわち、心の対人的側面について学ぶ。対人認知、対人行動、他者存在といった主要なテーマに加え、発達過程や文化的な問題まで、さまざまな先行研究や実験例を概観しながら理解を深める。

授業の到達目標

■人間関係における心理について理解を深める
■心理学の対人的な領域に関する主要な人物および成果の知識を得る
■心理学の対人的分野における基本的な用語や内容の説明ができる

授　業　の　計　画

第1回：対人心理学とは
第2回：対人認知と印象形成（1）
第3回：対人認知と印象形成（2）
第4回：コミュニケーションと対人行動（1）
第5回：コミュニケーションと対人行動（2）
第6回：コミュニケーションと対人行動（3）
第7回：感情と表情（1）
第8回：感情と表情（2）
第9回：視線行動（1）
第10回：視線行動（2）
第11回：対人距離とタッチ（1）
第12回：対人距離とタッチ（2）
第13回：他者存在と自己呈示（1）
第14回：他者存在と自己呈示（2）
第15回：まとめ

授業外の学習方法

予習として、次週に学ぶべき内容について関連する書籍などを読み、予備知識を得ておく
復習として、講義内容に基づいて各自が記したノートを見直し、日常的な現象にあてはめて考え、理解を深める

成　績　評　価　方　法

期末レポート（60%）　コメントペーパー（20%）　平常点（20%）
（平常点は、授業への参加状況、質問紙の提出状況などを総合して判断します）

成　績　評　価　基　準

■人間関係における心理について理解しているか
■心理学の対人的な領域に関する主要な人物および研究成果を知っているか
■心理学の対人分野における基本的な用語や内容の説明ができるか

テキスト、参考図書

テキストは使用しない
参考図書については適宜紹介する

その他（受講上の注意）
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

多変量解析演習 (Multivariate Statistical Analysis)			担当教員	早川　清一
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS−OBC−2373	2単位	3年前期	演習	選択

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　応用科目　産業・社会系

求める学習成果(教育目標)

人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。
組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

心理学のデータを用いて多変量解析（因子分析、重回帰分析）を理解する．実際の心理調査データを統計解析ソフトで分析し、報告書も作成を行います。多変量解析を行うための調査は2回行います。1回目は既成の調査票を利用する調査。2回目は各自がテーマを決定し調査票を作成するオリジナル調査。

授業の到達目標

調査票を作成し、統計解析ソフトを利用して多変量解析（因子分析、重回帰分析）を行える知識を修得することを目標とする。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション「因子分析とは？」
第2回：多変量解析を用いた心理学研究論文の講読1
第3回：多変量解析を用いた心理学研究論文の講読2
第4回：因子分析1
第5回：因子分析2
第6回：因子分析3
第7回：重回帰分析1
第8回：重回帰分析2
第9回：重回帰分析3
第10回：既成の調査票を用いた調査のレポートの作成
第11回：オリジナル調査の調査票作成
第12回：オリジナル調査の調査票印刷
第13回：オリジナル調査の調査票回答、データ入力
第14回：オリジナル調査のデータ分析（多変量解析）
第15回：オリジナル調査のレポートの作成

授業外の学習方法

各回の授業を受けた後で、eラーニングに掲載された当該部分に関連する資料を熟読し、理解を深めてください。

成　績　評　価　方　法

1回目小レポート（10%）、2回目小レポート（10%）、中間レポート（30%）、期末レポート（50%）による評価

成　績　評　価　基　準

多変量解析（因子分析・重回帰分析）が理解できるか。

テキスト、参考図書

テキストは使用しない。eラーニングに授業内容に関連する論文等の資料を掲載している。また、授業で使用したパワーポイントおよび印刷資料もeラーニングで公開しているので、復習に利用してください。

その他(受講上の注意)

受講には、2年次の「心理調査法」の単位を取得していることが必要です。授業時間以外にも、解析、レポート作成等の学習が必要になります。真に、多変量解析をマスターしたい学生のみ受講してください。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

産業カウンセリングⅠ (Industrial Counseling Ⅰ)			担当教員	久保　陽子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS-AOC-2374	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　応用科目　産業・社会系

求める学習成果(教育目標)

教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。
組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　□コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

社会における産業カウンセリングの役割を学び、カウンセリングの理論と技法について学習する。特に、うつ病については、視聴覚教材の具体例を通して、身近な問題として理解を深める。

授業の到達目標

産業カウンセラーの役割について、実社会において位置づけ、説明することができる。また、職場におけるメンタルヘルスを理解し、特にうつ病については身近な疾患として理解し、適切な対応をすることができる。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション
第2回：産業カウンセリングの歴史と発展
第3回：産業カウンセリングの役割と活動
第4回：産業カウンセラーの倫理
第5回：カウンセリングの基礎理論①
第6回：カウンセリングの基礎理論②
第7回：カウンセリングの実際
第8回：キャリア・カウンセリング
第9回：パーソナリティ理論
第10回：心理アセスメント
第11回：職場におけるメンタルヘルス
第12回：職場における精神疾患・精神障害①
第13回：職場における精神疾患・精神障害②
第14回：職場における復職支援
第15回：まとめ

授業外の学習方法

毎回、授業後に質問を受け付けます。次回授業において質問への回答を含めた講義行いますので、復習として前回の授業内容を見直しておくこと。予習としては、経済状況や家族問題など社会とも深く関わる内容なので、日々社会の動向について関心をもって臨むこと。

成　績　評　価　方　法

中間レポート(30%)＋最終レポート(30%)＋平常点(40%)
(レポートは授業内で指示します。平常点は授業への出欠・受講態度などを総合して判断します。)

成　績　評　価　基　準

産業カウンセリングの役割について説明することができるか、また、うつ病に対する知識や対応について理解できているか。

テキスト、参考図書

必要に応じて授業中に資料配布する。

その他(受講上の注意)

私語厳禁。

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

産業カウンセリングⅡ (Industrial Counseling Ⅱ)			担当教員	吉水　ちひろ
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS-AOC-2375	2単位	3年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　応用科目　産業・社会系

求める学習成果(教育目標)

教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。
組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

産業カウンセリングの実際や職場のメンタルヘルス対策について学習する。

授業の到達目標

産業カウンセリングの実際を理解し、職場のメンタルヘルス対策について具体的な説明や対応策が考えられる。

授　業　の　計　画

第1回：現代社会と労働者のストレス
第2回：産業カウンセリングの歴史と発展
第3回：産業カウンセリングに必要な法律・指針
第4回：職業性ストレス
第5回：ストレス関連疾患
第6回：職場のメンタルヘルス①―4つのケアの推進
第7回：職場のメンタルヘルス②―事例から学ぶ
第8回：職場のメンタルヘルス③―ストレス評価の進め方
第9回：職場のメンタルヘルス④―活用できる資源
第10回：職場のメンタルヘルス⑤―セルフケア
第11回：家族の対応
第12回：過重労働・自殺の予防と対策
第13回：職場の人間関係づくり①―アサーティブネス・コミュニケーションⅠ
第14回：職場の人間関係づくり②―アサーティブネス・コミュニケーションⅡ
第15回：産業カウンセリングの実際

授業外の学習方法

社会情勢、職場環境、メンタルヘルス等に関する情報に関心を持ち、授業で学んだ知識や経験に関連付けて知識を整理し理解を深めること。

成　績　評　価　方　法

中間レポート(20%)+期末レポート(40%)+平常点(40%)
(平常点は授業の参加状況、受講態度、質問カードの提出内容などで総合的に判断します。)

成　績　評　価　基　準

産業カウンセリングの実際について理解し説明できるか。
職場のメンタルヘルス対策を理解し適切な提案が考えられるか。

テキスト、参考図書

必要に応じて授業中に資料配布する。

その他(受講上の注意)

特になし。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

心理学特別演習Ⅰ (Special Psychology Seminar Ⅰ)			担当教員	大森　慈子、杉島　一郎、西村　則昭、早川　清一、水田　敏郎、三脇　康生、森　　俊之、片畑真由美、久保　陽子、竹村　明子、水上喜美子、山本　雅代、吉水ちひろ、森本　文人
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS−ABC−2381	4単位	3年通年	演習	必修

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　応用科目　特別演習・卒業研究

求める学習成果(教育目標)

教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。
人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。
組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　■計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

卒業研究の準備段階として、学生自ら研究課題を設定することを目標にして演習を行います。テーマの設定に必要な文献や図書を精読し、発表や議論などを行います。(配属先のゼミの担当教員によって演習内容は異ります。)

授業の到達目標

自らの研究課題を設定する。研究課題に関連する文献などを適切に講読できる。

授　業　の　計　画

第1回～30回：各担当教員の進め方に沿って取り組んでいく

授業外の学習方法

研究課題の設定のために必要と思われる、本演習以外の授業を履修する。

成　績　評　価　方　法

レポートや発表(50%)　平常点(50%)
(レポートや発表の形式は担当教員により異なります。平常点は、授業への参加状況・受講態度などを総合して判断します。)

成　績　評　価　基　準

自らの研究課題を設定することができるか。研究課題に関連する文献などを適切に講読できるか。

テキスト、参考図書

担当教員から指示されます。

その他(受講上の注意)

担当教員から指示されます。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

ビジネスコミュニケーション研究 (Business Communication)			担当教員	升田　法継
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Aaa−2301	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　基幹科目　人間関係・コミュニケーション系

求める学習成果(教育目標)

柔軟な発想力と企画力を身につけるとともに、企画した内容を実行するための、有効かつ実際的なプランを構築する能力を育成する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

情報通信媒体を介したバーチャルコミュニケーションが著しく拡大している今日において、ますます対面のコミュニケーション能力の重要性が問われる時代となっている。授業では、実社会において自身の個性や資質をより活かせるようにするための実践的なコミュニケーション能力の向上を狙いとする。

授業の到達目標

・コミュニケーション能力を高めるための視点や要件について説明することができる。
・他者とのコミュニケーションが円滑に行える。

授　業　の　計　画

授業では、集団・組織におけるコミュニケーションパターンを学ぶとともに、コミュニケーション能力を高めるためのアプローチ方法について考えていく。
第1回：「はたらく」ということ
第2回：ビジネスコミュニケーションとは
第3回：対立
第4回：交渉、説得
第5回：職場のコミュニケーション
第6回：上司と部下のコミュニケーション
第7回：組織のコミュニケーション①
第8回：組織のコミュニケーション②
第9回：会議①
第10回：会議②
第11回：企画書①(検討)
第12回：企画書②(作成)
第13回：企画書③(プレゼンテーション)
第14回：企画書④(プレゼンテーション)
第15回：まとめ

授業外の学習方法

予習として、各回授業の終わりに、次回授業に向けての予習ポイントを提示するので、あらかじめ疑問点を考えておくなどし、問題意識をもって授業に出席するようにして下さい。
また、復習として、各回授業時の板書や配付プリントを基に要点を整理・再確認するなどし、次回授業に臨んで下さい。

成　績　評　価　方　法

レポート(40%)、課題に対する活動内容及び提出物(30%)、平常点(30%)
※平常点：授業への参加状況・受講態度等を総合して判断するもの

成　績　評　価　基　準

・コミュニケーション能力を高めるための視点や要件について説明することができるか。
・他者とのコミュニケーションが円滑に行えるか。

テキスト、参考図書

テキストは使用しません。参考図書は必要に応じて紹介します。

その他（受講上の注意）
前向きな姿勢での参画を望みます。 また、授業の計画は、進捗や学生の反応・理解度に応じて、前後したり変更する場合があります。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

日本文化論 (Japanese Culture)			担当教員	大河　晴美
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-Cfi-2301	2単位	3年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　基幹科目　社会・文化系

求める学習成果(教育目標)

思想と歴史を段階的かつ学際的に学ぶことによって、実践知・専門知のみに偏らない教養・知・文化理解を獲得する。日本語を母語としない人たちに日本語を教えられる能力を育成する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

近代以降に書かれた小説・詩をもとに、〈日本〉について考える。近代国家構築のプロセスや風景の発見、戦前・戦後の〈日本〉の姿、現在の〈日本〉の多様性などへの理解を通して、〈日本〉の歴史・文化を批評的に捉える眼を養う。

授業の到達目標

・各作品の表現・内容と文化的・社会的背景の関係が理解できる。
・近代と現代の共通点・相違点を考え、自己の〈日本〉観を見直し、認識を深める。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション
第2回：森鴎外「普請中」
第3回：国木田独歩「武蔵野」(1)
第4回：国木田独歩「武蔵野」(2)
第5回：太宰治「十二月八日」
第6回：中島敦「マリヤン」
第7回：牛島春子「祝という男」(1)
第8回：牛島春子「祝という男」(2)
第9回：金鍾漢「幼年」「辻詩　海」「合唱について」「くらいまつくす」
第10回：野坂昭如「火垂るの墓」(1)
第11回：野坂昭如「火垂るの墓」(2)
第12回：小島信夫「アメリカン･スクール」(1)
第13回：小島信夫「アメリカン･スクール」(2)
第14回：目取真俊「水滴」
第15回：まとめ

授業外の学習方法

予習：テキストの該当部分を読み、あらかじめ疑問点等を考えておくこと。
復習：授業時に配付した資料とテキストの該当部分を確認し、課題を行うこと。

成　績　評　価　方　法

期末レポート(50%)、課題(30%)、平常点(20%)
(平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断する。)

成　績　評　価　基　準

課題：各作品の表現・内容や文化的・社会的背景等が理解できているか。
期末レポート：各自が選んだ作品とテーマについて、十分に考察し、説得力のある結論が出せているか。

テキスト、参考図書

飯田祐子・日高佳紀・日比嘉高編『文学で考える<日本>とは何か』・双文社出版・2007年

その他(受講上の注意)

授業で使用するPowerPointの資料を配付するので、気づいたこと･考えたことをノート欄に記入すること。

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

企画開発研究 a (Research of Planning and Development a)			担当教員	野尻　昌明
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Aaa−2302	2 単位	3 年前期	演習	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　企画・表現系

求める学習成果(教育目標)

柔軟な発想力と企画力を身につけるとともに、企画した内容を実行するための、有効かつ実際的なプランを構築する能力を育成する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　■計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

企業はどのようにして商品開発に取り組んでいるか。企業、商品における総体的なイメージを創るプロモーションを理解し、提案・実践できる能力を養います。

授 業 の 到 達 目 標

将来、就く仕事において企画・開発・研究に関わる知識はどのように作用するのか。会社、社会、業務における「仕事」「プロモーション」の目的を理解する。

授　業　の　計　画

第 1 回：コミュニケーションと企画開発研究についてブレーンストーミング。
第 2 回：企業における企画開発研究〜ブランディングの考察。
第 3 回：大学・地域の企画開発を考える。
第 4 回：制作。
第 5 回：プレゼンテーション。
第 6 回：プロモーションにおける取材の重要性を考察〜実習。
第 7 回：テーマ設定。テーマに関するキーマンへの取材内容を考える。
第 8 回：定着メディアを決定し取材。
第 9 回：取材の書き起こし。目的に応じて決定稿制作。
第10回：プレゼンテーション。
第11回：前半で得た取材内容を中心に、平面・映像を企画する。
第12回：取材内容から企画・コンセプト・コピーライト・ラフコンテ制作。
第13回：メインビジュアル・コンテ制作。
第14回：コピー・映像・ビジュアル・サウンド・デザイン制作。
第15回：編集・各種制作。
第16回：定期試験（最終プレゼンテーション）。
（進行状況により変更の場合あり）

授 業 外 の 学 習 方 法

課題に関連する情報（時事、映画、小説、雑誌、資料文献、web、テレビ、ラジオ、自分ニュース等）や素材の収集など。

成　績　評　価　方　法

企画中間プレゼンテーション（50%）　最終制作プレゼンテーション（40%）　平常点（10%）（平常点は、授業への参加状況・受講態度を総合して判断します）

成　績　評　価　基　準

メディア（紙・映像・サウンド）を利用しての実践的制作プロセス（企画開発研究）のスケジュール把握と、各種ツールへの効果的・効率的な情報運用ができるか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

使用しない.。

その他(受講上の注意)

受講人数により判断するが、原則として、チーム編成にて作業を進行する。

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

企画開発研究ｂ （Research of Planning and Development b）			担当教員	金田　明彦
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Aaa−2311	２単位	３年後期	演習	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　企画・表現系

求める学習成果（教育目標）

柔軟な発想力と企画力を身につけるとともに、企画した内容を実行するための、有効かつ実際的なプランを構築する能力を育成する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　■計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

地域の課題の抽出を元に、その解決策をチームワークにおいて企画・立案・実践・検証を行う。最終成果物を学外にアウトプットする。

授業の到達目標

最終成果物を実際に地域社会に発信し、評価に値するコンテンツが提供できる。

授　業　の　計　画

第１回：オリエンテーションと課題テーマ説明および課題導入
第２回：地域の課題についての現況と特性の明確化
第３回：地域課題の明確化および「学生発」のコンテンツ企画プランニング
第４回：プロジェクト単位による編集・企画ミーテング
第５回：テーマ別のチーム編成
第６回：チーム別企画ディスカッション
第７回：チーム単位の企画プレゼンテーション
第８回：プロジェクト単位による編集・企画ミーテング
第９回：取材、編集作業および進捗状況報告
第10回：取材、編集作業および進捗状況報告
第11回：プロジェクト単位による編集・企画ミーテング
第12回：デジタル・コンテンツの作成および制作マニュアルの作成
第13回:デジタル・コンテンツの作成および制作マニュアルの作成
第14回：デジタル・コンテンツの作成および制作マニュアルの作成
第15回：プレゼンテーション

授業外の学習方法

課題に対する、取材・素材収集など

成　績　評　価　方　法

課題への取り組み（50％）、最終成果物（50％）

成　績　評　価　基　準

個人やチームにおいて自分の出来ること（得意なこと）を見いだし、企画・提案に寄与できるか。

テキスト、参考図書

使用しない

その他（受講上の注意）

「デジタル・デザイン」「メディア制作a」「企画開発研究a」履修生が望ましい。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

コミュニケーション技法Ⅱａ (Communication Techniques Ⅱa)			担当教員	植月　百枝
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Aab−2301	2単位	3年前期	演習	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　企画･表現系

求める学習成果(教育目標)

柔軟な発想力と企画力を身につけるとともに、企画した内容を実行するための、有効かつ実際的なプランを構築する能力を育成する。
テキスト、画像、映像、図、音響、などの素材の特性を活かし、マルチメディアを媒介としたコンテンツ作成能力や表現力を育成する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　■計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

コミュニケーション技術を高めるため、自分で考えたこと、調べたことなど様々な内容に形式を与える練習をする。
口頭発表や文章表現、電子機器を使ったプレゼンテーションなどを実践する。
発表は個人、グループなど様々な形式で行う。

授業の到達目標

・課題に沿って自由な発想で企画を立て、実行するための計画を構築することができる。
・課題に対して自分のアイデアを出し、他者に説明し、納得させることができる。
・口頭発表、文章表現など様々な様式での表現ができる。

授　業　の　計　画

第１回：オリエンテーション　→協調性と社交性
第２回：演習①　→自分をプレゼンテーションする（自己ＰＲ）
第３回：説明力を鍛える　→他人に自分の思いを伝え、納得させる。
第４回：演習②
第５回：質問力を鍛える　→きちんと聴き、相手の思いを訊き出す。
第６回：演習③
第７回：グループディスカッション→総合的なコミニュケーション能力を養う。
第８回：演習④
第９回：プレゼンテーション　→相手と向き合い、価値のある情報を届ける。
第10回：演習⑤
第11回：グループワーク①
第12回：グループワーク②　→課題に沿ってコンテンツを作成する。
第13回：グループワーク③
第14回：発表（口頭表現）
第15回：発表（口頭表現）
第16回：定期試験（文章表現）

授業外の学習方法

・日頃から与えられた課題について考えると共に、問題意識をもち、分からないことは事前に調べておく。
・さまざまな形での発表があるので、各自発表の準備をしておく。

成　績　評　価　方　法

定期試験（30%）　口頭発表（30%）　平常点（40%）
＊平常点は授業への出席状況、グループワークへの参加態度、演習への取り組みなどを総合して判断する。

成　績　評　価　基　準

・課題に沿って自由な発想で企画を立て、実行するための計画を構築することができるか。
・課題に対して自分のアイデアを出し、他者に説明し、納得させることができるか。
・口頭発表、文章表現など様々な様式での表現ができるか。

テキスト、参考図書
テキストは使用しない。（適時プリントを配布する）
その他（受講上の注意）
上記の授業計画は予定である。授業の進行状況によって変更することもある。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

コミュニケーション技法Ⅱｂ (Communication Techniques Ⅱb)			担当教員	谷　雅徳
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Aab−2311	2単位	3年後期	演習	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　企画･表現系

求める学習成果(教育目標)

柔軟な発想力と企画力を身につけるとともに、企画した内容を実行するための、有効かつ実際的なプランを構築する能力を育成する。
テキスト、画像、映像、図、音響、などの素材の特性を活かし、マルチメディアを媒介としたコンテンツ作成能力や表現力を育成する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

この演習では、大学構内の教室は使用せず、武生駅前にある仁愛サテライトを拠点に隔週2コマ連続でおこないます。大学という限られた空間でなく、街全体を教室と捉え、実際に街に繰り出し、自分たちの感性で武生の街を写真で切り取り、インスタグラムを利用してTAKEFU.naviなる武生紹介サイトを作ります。

授業の到達目標

与えられた課題をただこなすというよりは、自分で問題(テーマ)を見つけ、それを解決するにはどうすればいいのかを自分自身で考え、実行出来る能力を養う事を目的とします。また、教員の講義を通して、コミュニケーション技術を理論として学ぶのではなく、実際に街に暮らす人達とリアルに接することで、生きたコミュニケーション能力として身につける事を目標とします。

授　業　の　計　画

第1回：ガイダンス
第2回：実際に街に出て街の様子を見てみる
第3回：サテライトに戻り、感じた事を共有する
第4回：街が持っている可能性について話し合う
第5回：各自のテーマを決め、そのテーマが有効であるのかを、実際に街に出て検証する
第6回：インスタグラムの使い方を学ぶ
第7回：街に出て実際にインスタグラムを使ってみる
第8回：決定したテーマに基づいて、実際に取材する1
第9回：報告、共有、アドバイス(必要な受講生は教員によるアドバイスに基づいてテーマの見直し)
第10回：決定したテーマに基づいて、実際に取材する2
第11回：中間報告　意見交換
第12回：決定したテーマに基づいて、実際に取材する3
第13回：報告、共有、アドバイス
第14回：完成したTAKEFU.navi鑑賞会
第15回：各自の発表と意見交換

授業外の学習方法

どうしても、授業時間だけでは足らないので、授業外でも課題に対して積極的に取り組んで下さい。

成　績　評　価　方　法

課題提出(50%)　小レポート(30%)　平常点(20%)「平常点は、授業への参加意欲、受講態度、出席率等を考慮して判断します。」

成　績　評　価　基　準

1.自分で問題(テーマ)を見つけることができたか。
2.問題(テーマ)を解決するにはどうすればいいのかを自分自身で考え、実行できたか。
3.実際に暮らす人達と接し、生きたコミュニケーションをとることができたか。

テキスト、参考図書

必要に応じて現場で配布します。

その他（受講上の注意）
言われた事をいかにこなすかではなく、自主的に課題に取り組んでいるのかを重視します。 武生駅前にある仁愛サテライトを拠点に隔週２コマ連続でおこないます。一度休めばいっきに２回欠席となりますので、気をつけてください。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

地域メディア論 (Study of Local Media)			担当教員	升田　法継
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Abb−2301	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　企画･表現系

求める学習成果(教育目標)

テキスト、画像、映像、図、音響、などの素材の特性を活かし、マルチメディアを媒介としたコンテンツ作成能力や表現力を育成する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

東京一極集中が進行する一方で各地域は産業衰退及び人口減少により「元気がない」と言われて久しい。こうした中、メディアを活用して地域の再生を図ろうとする動きが活発だ。授業では、地域メディアの学びを通じて、コミュニティのあり方や地域の活性化について考えることのできる人材の養成を図る。

授業の到達目標

・地域メディアを活用した地域活性化の可能性・展望について分析することができる。
・調査の目的と方法について説明することができる。また、調査を実施することができる。

授　業　の　計　画

授業では、地域メディアの現状を学ぶとともに、地域メディアの今後の可能性や展望について考えていく。
第1回：地域メディアとは
第2回：まちづくりについて考える①
第3回：まちづくりについて考える②
第4回：まちづくりについて考える③
第5回：地域メディアとまちおこし②
第6回：地域メディアとまちおこし③
第7回：地域の魅力を考える①
第8回：地域の魅力を考える②
第9回：メディア制作①(制作)
第10回：メディア制作②(発表)
第11回：メディア制作③(発表)
第12回：調査について①
第13回：調査について②
第14回：地域社会と情報・メディア
第15回：まとめ

授業外の学習方法

予習として、各回授業の終わりに、次回授業に向けての予習ポイントを提示するので、あらかじめ疑問点を考えておくなどし、問題意識をもって授業に出席するようにして下さい。
また、復習として、各回授業時の板書や配付プリントを基に要点を整理・再確認するなどし、次回授業に臨んで下さい。

成　績　評　価　方　法

レポート(40%)、課題に対する活動内容及び提出物(30%)、平常点(30%)
※平常点：授業への参加状況・受講態度等を総合して判断

成　績　評　価　基　準

・地域メディアを活用した地域活性化の可能性・展望について分析することができるか。
・調査の目的と方法について説明することができる。また、調査を実施することができるか。

テキスト、参考図書

テキストは使用しません。参考図書は必要に応じて紹介します。

その他（受講上の注意）
前向きな姿勢での参画を望みます。 また、授業の計画は、進捗や学生の反応・理解度に応じて、前後したり変更する場合があります。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

メディア･コミュニケーション論 (Study of Media Communication)			担当教員	升田　法継
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Aab−2312	2単位	3年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　企画･表現系

求める学習成果(教育目標)

柔軟な発想力と企画力を身につけるとともに、企画した内容を実行するための、有効かつ実際的なプランを構築する能力を育成する。
テキスト、画像、映像、図、音響、などの素材の特性を活かし、マルチメディアを媒介としたコンテンツ作成能力や表現力を育成する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

情報社会と呼ばれる今日では、様々なメディアが私たちの生活に深く入り込み、日常のコミュニケーションを通じて、社会のあり様を大きく変えている。授業では、情報が溢れかえる時代において、物事の本質を問う力、考える力、表現する力の向上を狙いとする。

授業の到達目標

・メディア理論に関して、その要諦と社会的意味の位置づけを説明することができる。
・メディアと社会の変容について分析することができる。また、自身の意見をもち考えを述べることができる。

授　業　の　計　画

授業では、メディアとコミュニケーションや社会の変容という側面から、社会の諸問題及び社会との関わりについて考察するとともに、社会と繋がっていくために必要なコミュニケーションのあり方を考えていく。
第１回：メディアとは
第２回：メディアから社会をみる①
第３回：メディアから社会をみる②
第４回：メディアの軌跡①（新聞、映画）
第５回：メディアの軌跡②（電話）
第６回：メディアの軌跡③（ラジオ、テレビ）
第７回：メディアの軌跡④（ＰＣ、スマホ）
第８回：メディアの軌跡⑤（ＳＮＳ）
第９回：メディア・リテラシー①
第10回：メディア・リテラシー②
第11回：メディア・リテラシー③
第12回：メディア制作①（検討・作成）
第13回：メディア制作②（発表）
第14回：メディア制作③（発表）
第15回：まとめ

授業外の学習方法

予習として、各回授業の終わりに、次回授業に向けての予習ポイントを提示するので、あらかじめ疑問点を考えておくなどし、問題意識をもって授業に出席するようにして下さい。
また、復習として、各回授業時の板書や配付プリントを基に要点を整理・再確認するなどし、次回授業に臨んで下さい。

成　績　評　価　方　法

レポート（40％）、課題に対する活動内容及び提出物（30％）、平常点（30％）
※平常点：授業への参加状況・受講態度等を総合して判断

成　績　評　価　基　準

・メディア理論に関して、その要諦と社会的意味の位置づけを説明することができるか。
・メディアと社会の変容について分析することができるか。また、自身の意見をもち考えを述べることができるか。

テキスト、参考図書
テキストは使用しません。参考図書は必要に応じて紹介します。
その他（受講上の注意）
前向きな姿勢での参画を望みます。 また、授業の計画は、進捗や学生の反応・理解度に応じて、前後したり変更する場合があります。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

メディア制作a (Media Studies a)			担当教員	金田　明彦
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Abb−2302	2単位	3年前期	演習	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　企画･表現系

求める学習成果(教育目標)

テキスト、画像、映像、図、音響、などの素材の特性を活かし、マルチメディアを媒介としたコンテンツ作成能力や表現力を育成する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　■コミュニケーション能力■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　■計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

デジタル・メディアを使用し、コミュニケーションとメディアに関する知識と基本的スキルを元に、各種のメディアでの表現に応用できるスキルを会得する。

授業の到達目標

コミュニケーション・メディアに関しての基本的な知識とスキルを用いて様々なメディアでの表現ができる。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーションと各種メディアの特性の確認
第2回：紙メディアでの展開手法(テーマ設定、編集検討)
第3回：紙メディアでの展開手法(取材、撮影)
第4回：紙メディアでの展開手法(編集、デザインデータ制作)
第5回：紙メディアでの展開手法(アウトプット)
第6回：音メディアでの展開手法(アプリケーション操作法)
第7回：音メディアでの展開手法(テーマ設定、編集検討)
第8回：音メディアでの展開手法(取材、録音)
第9回：音メディアでの展開手法(編集とアウトプット)
第10回：映像メディアでの展開手法(アプリケーション操作法)
第11回：映像メディアでの展開手法(テーマ設定、編集検討)
第12回：映像メディアでの展開手法(取材、撮影)
第13回：映像メディアでの展開手法(編集)
第14回：映像メディアでの展開手法(編集)
第15回：映像メディアでの展開手法(アウトプット)

授業外の学習方法

課題に関連する情報や素材の収集など

成　績　評　価　方　法

課題への取組み(50%)　課題成果(30%)　平常点(20%)
(平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します。)

成　績　評　価　基　準

三つのメディア(紙、音、映像)を利用しての制作プロセスの把握と、デジタル・ツールの効果的・効率的な運用ができるか。

テキスト、参考図書

使用しない。

その他(受講上の注意)

「デジタル・デザイン」受講(履修済みまたは、並行して受講)が望ましい。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

メディア制作b (Media Studies b)			担当教員	野尻　昌明
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-Abb-2311	2単位	3年後期	演習	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　企画･表現系

求める学習成果(教育目標)

テキスト、画像、映像、図、音響、などの素材の特性を活かし、マルチメディアを媒介としたコンテンツ作成能力や表現力を育成する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　■計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

コミュニケーション能力、情報収集・探索能力、役割把握・認識能力、計画実行能力、課題解決能力を実践し、発信したいメディアにふさわしいのかを検証。各メディア特性を確認しながらメディアを制作し、効果を学ぶ。最終的にデジタルメディアに集結するコミュニケーションを企画、制作する。

授業の到達目標

コミュニケーション・メディアに関する制作能力を高める。コミュニケーションが目的とするベクトルを把握しながら表現能力を会得する。

授　業　の　計　画

第1回：プロフェッショナルが扱う各種メディアの特性の確認
【考え方を企画書にまとめる】
第2回：コンセプトの制作実践(クライアント設定、マネジメント、ブレーンストーミング、テーマ設定、編集検討)
第3回：コンセプトの制作実践(コピーライト、撮影)
【平面メディアの制作】
第4回：表現企画の制作実践(コピーライト、編集、デザインデータ制作)
第5回：表現企画の制作実践(コピーライト、アウトプット)
第6回：メディアの制作実践(クライアント設定、マネジメント、メディア設定、コピーライト、メディア特性の復習)
第7回：メディアの制作実践(テーマ設定、編集検討、コピーライティング～企画書によるプレゼンテーション)
【音メディアの制作】
第8回：メディアの制作実践(映像制作＞音メディア、コピーライト)
第9回：メディアの制作実践(映像制作＞音メディア、ディレクション、サウンド＆音声編集とアウトプット)
第10回：メディアの制作実践(映像制作＞マネジメント、メディア設定、メディア特性の復習)※撮影準備
【映像メディアの制作】
第11回：メディアの制作実践(映像制作＞制作確認のためのブレーンストーミング、テーマ設定、編集検討)
第12回：メディアの制作実践(映像制作＞企画、スケジュール設定、絵コンテ制作～初期プレゼンテーション)
※撮影準備
第13回：メディアの制作実践(コピーライト、撮影、編集～MA：サウンド＆ナレーション追加)
第14回：メディアの制作実践①(アウトプット、プレビュー試写、改善点修復作業～納品、全員総評)
第15回：メディアの制作実践②(総評)
(進行状況により変更の場合あり)

授業外の学習方法

課題に関連する情報(時事、映画、小説、雑誌、資料文献、web、テレビ、ラジオ、自分ニュース等)や素材の収集など。

成　績　評　価　方　法

企画中間プレゼンテーション(50%)　最終制作プレゼンテーション(40%)　平常点(10%)(平常点は、授業への参加状況・受講態度を総合して判断します)

成　績　評　価　基　準

3つのメディア(紙、音、映像)を利用しての実践的制作プロセス(営業、マネジメント、企画、プレゼンテーション～納品まで)のスケジュール把握と、デジタル・ツールへの効果的・効率的な情報運用ができるか。

テキスト、参考図書
使用しない。
その他（受講上の注意）
メディア制作a（３年前期）を履修した者に限る。原則として、チーム編成にて作業を進行する。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

ビジュアル･コミュニケーション演習 a (Practice in Visual Communication a)			担当教員	橋本　洋子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Abb−2303	2 単位	3 年前期	演習	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　企画･表現系

求める学習成果（教育目標）

テキスト、画像、映像、図、音響、などの素材の特性を活かし、マルチメディアを媒介としたコンテンツ作成能力や表現力を育成する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

コミュニケーションとビジュアル・デザインに関する知識を基に、その伝達手段のエレメントとしての色彩の基本を理解し、その内容と表現について演習を通して試行・研究する。また、プレゼンテーションを行い伝わるデザインかを検証する。

授 業 の 到 達 目 標

コミュニケーションに関して、ビジュアル・デザインにおける色彩の機能性と重要性について説明することができ、効果的かつ新たな提案をすることができる。

授　業　の　計　画

第 1 回：オリエンテーション／コミニュケーションと色彩について
第 2 回：光と色について考える
第 3 回：色が見えるしくみ
第 4 回：色彩の基礎知識
第 5 回：色彩対比と同化
第 6 回：ユニバーサルデザインと色
第 7 回：色の機能的役割
第 8 回：加齢による変化と色覚異常
第 9 回：カラーユニバーサルデザインのチェック方法
第10回：錯視と形
第11回：最小限の表現（プレゼンテーション）
第12回：伝わると伝える
第13回：穴のある風景（プレゼンテーション）
第14回：伝わるイメージ（プレゼンテーション）
第15回：色彩総括と総評

授 業 外 の 学 習 方 法

課題に関連する情報や素材の収集など

成　績　評　価　方　法

課題への取り組み（50%）　課題成果（30%）　平常点（20%）
（平常点は、授業への参加状況・授業態度、提出物の状況等を総合して判断します）

成　績　評　価　基　準

身の廻りの環境において、コミュニケーション成立のために、色彩を合理的かつ効果的に活用または、観察および考察することができるか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

必要に応じて授業内で配布

その他（受講上の注意）

授業時以外においても、生活環境での現状調査を伴う。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

ビジュアル･コミュニケーション演習ｂ (Practice in Visual Communication b)			担当教員	金田　明彦
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Abb−2312	２単位	３年後期	演習	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　企画･表現系

求める学習成果（教育目標）

テキスト、画像、映像、図、音響、などの素材の特性を活かし、マルチメディアを媒介としたコンテンツ作成能力や表現力を育成する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　■計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

コミュニケーションとビジュアル・デザインに関する知識を元に、自分自身のコンセプトメイキングからそのビジュアル・デザイニング、およびビジュアル・プレゼンテーションについて実践をもとに試行・研究し、対外的にアウトプット可能なセルフポートレートを作成する。

授業の到達目標

コミュニケーションに関して、ビジュアル・デザインの位置づけを説明することができ、効果的かつ新たな提案ができる。

授　業　の　計　画

第１回：オリエンテーションとビジュアル・コミュニケーションに関する基本的概念の確認
第２回：自身のコンセプトメイキング（１）言葉の収集
第３回：自身のコンセプトメイキング（２）言葉の収集
第４回：自身のコンセプトメイキング（３）言葉の整理
第５回：自身のコンセプトデザイン（１）言葉からの視覚化
第６回：自身のコンセプトデザイン（２）言葉からの視覚化
第７回：自身のコンセプトデザイン（３）言葉からの視覚化
第８回：自身のシンボルマーク立案（１）
第９回：自身のシンボルマーク立案（２）
第10回：自身のロゴタイプ立案（１）
第11回：自身のシンボルロゴセット立案（１）
第12回：自身のシンボルロゴセット立案（２）
第13回：ビジュアル・ソースを元にした表現（１）
第14回：ビジュアル・ソースを元にした表現（２）
第15回：プレゼンテーション

授業外の学習方法

課題に関連する情報の収集や現況の実態調査など

成　績　評　価　方　法

課題への取組み（50%）　課題成果（30%）　平常点（20%）
（平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

身の回りの環境において、コミュニケーションの成立のためのビジュアル・デザインの効果を踏まえた考察と表現ができるか。

テキスト、参考図書

必要に応じて授業内で配布します。

その他（受講上の注意）

授業時以外においても、生活環境での現状調査を伴う。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

ビジネス能力論 (Study of Business Skills)			担当教員	吉田　史朗
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Aaa−2303	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　企画･表現系

求める学習成果(教育目標)

柔軟な発想力と企画力を身につけるとともに、企画した内容を実行するための、有効かつ実際的なプランを構築する能力を育成する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

社会人として求められる原則、基本的な姿勢について学習し、コミュニケーションの重要性を認識する。
学習に必要な習慣を身に着ける。

授業の到達目標

自分の得意とする分野を明確にし、他者とのコミュニケーションが主体的に行えることを目指す。

授　業　の　計　画

第１回：人としての原理原則について―コミュニケーションを学ぶための前提条件
第２回：コミュニケーション力―信頼関係を築くのがコミュニケーションの目的
第３回：人としての原則（プリンシプル）＋原理―先人の教えを学ぶ
第４回：社会人に必要な習慣①
第５回：社会人に必要な習慣②
第６回：自分自身のＳＷＯＴ分析で、自分をプロファイリングする
第６回：ポジショニングで自分の得意技を自覚する
第８回：「３人の石切工」の話＝理想は高く、仕事は楽しく
第９回：「ネットワーク」を活かす
第10回：Not Yet! まだまだやればできる―の実践
第11回：夢は実現できる―DNAの話
第12回：夢をかなえるためのマーケティングについて
第13回：計画する、実行する―を学ぶ
第14回：課題解決シートの活用
第15回：成果＝能力×情熱×考え方＝「人生の方程式」
第16回：定期試験

授業外の学習方法

授業中にいろんなショートレポートを書きます。そのテーマについて、日々の生活の中で振り返って考えてください。

成　績　評　価　方　法

授業中の小レポート（50％）、期末試験（50％）

成　績　評　価　基　準

コミュニケーションの定義について説明できるか。
マーケティングの手法を使って基礎的な企画ができるか。

テキスト、参考図書

オリジナルのテキスト（プリント）を準備

その他(受講上の注意)

授業中の私語（友達との会話など）、スマートフォン、飲食は禁止します。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

ビジネス能力研究 (Research of Business Skills)			担当教員	吉田　史朗
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Aaa−2312	2単位	3年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　企画･表現系

求める学習成果(教育目標)

柔軟な発想力と企画力を身につけるとともに、企画した内容を実行するための、有効かつ実際的なプランを構築する能力を育成する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　■計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

マーケティング力を磨くことを目標にしています。自分の得意技を見出し、それを強みとして伝えるための研究をします。

授業の到達目標

ビジネススキルとして「０→１」、何もないところから何かを生み出せる意欲や、方法論を学ぶ。

授　業　の　計　画

人脈作りはこの教室から
第１回：コミュニケーションについて（人との信頼関係を築くのが目的）
第２回：社会人として必要な７つの習慣①
第３回：社会人として必要な７つの習慣②
第４回：マーケティングの基本
第５回：コーラを1000円で売る方法を考えよう
第６回：お客様は誰だ？　ポッキーが売れている理由をかんがえよう
第７回：ＳＷＯＴ分析２　自分の強み弱み、チャンス、不安について考えよう
第８回：ブランド研究１
第９回：ブランド研究２　企業を知る
第10回：利益より信頼
第11回：コストについて学ぼう
第12回：エントリーシートを完成しよう
第13回：自分を知る
第14回：デザインについて考えよう
第15回：０→１を生む力の必要性について
第16回：定期試験

授業外の学習方法

授業中にいろんなショートレポートを書きます。そのテーマについて、日々の生活の中で振り返って考えてください。

成　績　評　価　方　法

授業中の小レポート（50％）、期末試験（50％）

成　績　評　価　基　準

マーケティングスキル、デザイン思考を使って自分の得意分野を説明できるか。

テキスト、参考図書

オリジナルのテキスト（プリント）を準備

その他(受講上の注意)

授業中の私語（友達との会話など）、スマートフォン、飲食は禁止します。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英語学研究Ⅰ（語用論） （English Linguistics Ⅰ）			担当教員	矢橋　知枝
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Bdd−2301	2単位	3年前期･4年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　英語コミュニケーション系

求める学習成果（教育目標）

言語としての英語について、深い知識を身につけるとともに、異文化理解能力を高め、国際感覚豊かな人材の育成を目指す。

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

英語における語用論を学ぶ。

授業の到達目標

英語の発話を語用論的手法を用いて理解する。

授　業　の　計　画

第１回：オリエンテーション
第２回：直示と距離①
第３回：直示と距離②
第４回：指示と推論①
第５回：指示と推論②
第６回：前提と含意①
第７回：前提と含意②
第８回：協調と推意①
第９回：協調と推意②
第10回：言語行為と言語事象①
第11回：言語行為と言語事象②
第12回：ポライトネスと相互行為①
第13回：ポライトネスと相互行為②
第14回：会話と優先構造
第15回：まとめ

授業外の学習方法

予習として、各回に関連する資料を読み、あらかじめ疑問点を考えておくこと。また復習としては授業時の板書やハンドアウトに基づいて、各自のノートに授業内容をまとめておくこと。

成　績　評　価　方　法

期末レポート（50％）　授業内レポート（30％）　平常点（20％）
（平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

英語の発話を、語用論的手法で分析することができるか。

テキスト、参考図書

テキストは使用せず、適宜ハンドアウトを配布する。

その他（受講上の注意）

遅刻３回で欠席１回とみなす。必ず英和辞書（電子辞書可）を持参すること。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英語文章表現法 a (Essay Writing a)			担当教員	紺渡　弘幸
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Bcc−2301	2 単位	3 年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　英語コミュニケーション系

求める学習成果(教育目標)

英語でのプレゼンテーション力やディスカッション力を高め、メッセージをグローバルに発信できるコミュニケーション能力を育成する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

書くプロセスを重視したコミュニカティブ・ライティングにより、メッセージを効果的にわかりやすく読み手に伝えるライティングの力を養成する。

授 業 の 到 達 目 標

1. Process Writing の方法を理解し、英文を書く際に用いることができる。
2. パラグラフの構成を理解し、それを踏まえて英文を書くことができる。
3. パラグラフの展開の方法を理解し、それを活用して英文を書くことができる。
4. 記述パラグラフの書き方を理解し、それを用いて英文を書くことができる。
5. プロセスパラグラフの書き方を理解し、それを用いて英文を書くことができる。
6. オピニオンパラグラフの書き方を理解し、それを用いて英文を書くことができる。

授　業　の　計　画

第 1 回：Introduction：Process Writing①
第 2 回：Introduction：Process Writing②
第 3 回：Pre-Writing：Getting Ready to Write①
第 4 回：Pre-Writing：Getting Ready to Write②
第 5 回：The Structure of a Paragraph①
第 6 回：The Structure of a Paragraph②
第 7 回：The Development of a Paragraph①
第 8 回：The Development of a Paragraph②
第 9 回：Descriptive and Process Paragraphs①
第10回：Descriptive and Process Paragraphs②
第11回：Descriptive and Process Paragraphs③
第12回：Opinion Paragraphs①
第13回：Opinion Paragraphs②
第14回：Opinion Paragraphs③
第15回：Consolidation
第16回：定期試験

授 業 外 の 学 習 方 法

テキストの予習・復習に加えて、与えられた課題について作文を書く。

成　績　評　価　方　法

定期試験 (50%)、課題 (25%)、平常点 (25%)
(平常点は、授業への参加状況と受講態度から判断します。)

成　績　評　価　基　準

1. Process writing の方法を理解し、英文を書く際に用いることができるか。
2. パラグラフの構成を理解し、それを踏まえて英文を書くことができるか。
3. パラグラフの展開の方法を理解し、それを活用して英文を書くことができるか。
4. 記述パラグラフの書き方を理解し、それを用いて英文を書くことができるか。
5. プロセスパラグラフの書き方を理解し、それを用いて英文を書くことができるか。
6. 意見パラグラフの書き方を理解し、それを用いて英文を書くことができるか。

テキスト、参考図書
『Writing Essays』 Zemach、D. E. MACMILLAN LANGUAGEHOUSE 2011 他に随時プリントを使う。
その他（受講上の注意）
なるべく多く英文を書いて、書くことに対する抵抗が少なくなるよう努力してもらいたい。主体的な学習を期待する。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英語文章表現法ｂ (Essay Writing b)			担当教員	紺渡　弘幸
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Bcc−2311	2単位	3年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　英語コミュニケーション系

求める学習成果（教育目標）

英語でのプレゼンテーション力やディスカッション力を高め、メッセージをグローバルに発信できるコミュニケーション能力を育成する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　■計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

書くプロセスを重視したコミュニカティブ・ライティングにより、メッセージを効果的にわかりやすく読み手に伝えるライティングの力を養成する。

授 業 の 到 達 目 標

1. 比較・対比パラグラフの書き方を理解し、それを用いて英文を書くことができる。
2. 問題・解決パラグラフの書き方を理解し、それを用いて英文を書くことができる。
3. エッセイの構成を理解し、それを活用して英文を書くことができる。
4. アウトラインの書き方を理解し、それを用いて英文を書くことができる。
5. 効果的なイントロダクション・コンクルージョンの書き方を理解し、それを活用して英文を書くことができる。
6. 文章の統一性やまとまりに留意して、英文を書くことができる。

授　業　の　計　画

第１回：Comparison / Contrast Paragraphs①
第２回：Comparison / Contrast Paragraphs②
第３回：Problem / Solution Paragraphs①
第４回：Problem / Solution Paragraphs②
第５回：The Structure of an Essay①
第６回：The Structure of an Essay②
第７回：Outlining an Essay①
第８回：Outlining an Essay②
第９回：Introductions and Conclusions①
第10回：Introductions and Conclusions②
第11回：Unity and Coherence①
第12回：Unity and Coherence②
第13回：Essays for Examinations①
第14回：Essays for Examinations②
第15回 Consolidation
第16回：定期試験

授 業 外 の 学 習 方 法

テキストの予習・復習に加えて、与えられた課題について作文を書く。

成　績　評　価　方　法

定期試験（50%）、課題（25%）、平常点（25%）
（平常点は、授業への参加状況と受講態度から判断します。）

成　績　評　価　基　準
1. 比較・対比パラグラフの書き方を理解し、それを用いて英文を書くことができるか。 2. 問題・解決パラグラフの書き方を理解し、それを用いて英文を書くことができるか。 3. エッセイの構成を理解し、それを活用して英文を書くことができるか。 4. アウトラインの書き方を理解し、それを用いて英文を書くことができるか。 5. 効果的なイントロダクション・コンクルージョンの書き方を理解し、それを活用して英文を書くことができるか。 6. 統一性やまとまりのある英文を書くことができるか。
テキスト、参考図書
『Writing Essays』　Zemach、D. E.　MACMILLAN LANGUAGEHOUSE　2011 他に随時プリントを使う。
その他（受講上の注意）
英文を書くことに習熟し、主張が明確で論理的なエッセイをスムーズに書くことができるように努力してもらいたい。主体的な学習を期待する。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

メディア英語研究 a (Media English a)			担当教員	矢橋　知枝
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Bdd−2302	2 単位	3 年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　英語コミュニケーション系

求める学習成果(教育目標)

言語としての英語について、深い知識を身につけるとともに、異文化理解能力を高め、国際感覚豊かな人材の育成を目指す。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

メディアに関わる英語とその文化的背景を学ぶ。

授業の到達目標

メディアに関わる英語に関し、その言語特徴および文化的背景を理解する能力を養成する。

授　業　の　計　画

第 1 回：オリエンテーション
第 2 回：Delicious "Tan-i"
第 3 回：Silver Workforce
第 4 回：Beauty Differs
第 5 回：Review（1）
第 6 回：Mobile Networks Yielding New Business
第 7 回：Potential of Music
第 8 回：About That Controversial Black Drink
第 9 回：Review（2）
第10回：Kids Cooking
第11回：Wired Wirelessly to Tourists
第12回：Japanese Barbershop Finds Success in Vietnam
第13回：Times Gone By?
第14回：Review（3）
第15回：まとめ

授業外の学習方法

予習として、教科書の各回に関連する頁を読み、あらかじめ辞書で未知語を調べておく。また復習としては授業時の板書やハンドアウトに基づいて、各自のノートに授業内容をまとめておくこと。

成　績　評　価　方　法

期末レポート（50%）　授業内レポート（30%）　平常点（20%）
（平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

メディア英語の言語的特徴と文化背景に基づき、英文を分析的に理解することができるか。

テキスト、参考図書

村尾純子他　『世界を読むメディア英語入門　Insights 2016』　金星堂　2016年
また、必要に応じて適宜ハンドアウトを配布する。

その他(受講上の注意)

遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。必ず英和辞書（電子辞書可）を持参すること。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

メディア英語研究ｂ (Media English b)			担当教員	矢橋　知枝
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Bdd−2311	2単位	3年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　英語コミュニケーション系

求める学習成果(教育目標)

言語としての英語について、深い知識を身につけるとともに、異文化理解能力を高め、国際感覚豊かな人材の育成を目指す。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

メディアに関わる英語とその文化的背景を学ぶ。

授業の到達目標

メディアに関わる英語に関し、その言語特徴および文化的背景を理解する能力を養成する。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション
第2回：Helpful or Harmful?
第3回：Encounter with a Genius
第4回：Facing a Choice
第5回：Review（1）
第6回："Bug Hunters" Wanted
第7回：Advice for Child-Rearing Fathers
第8回：An Eco-Friendly Freshness Enhancer
第9回：Review（2）
第10回：New Type of Sleeping Pill
第11回：Are You "Narcissi-Stick"?
第12回：Printing 3D Tissues for Humans
第13回：Extremely Though Woman
第14回：Review（3）
第15回：まとめ

授業外の学習方法

予習として、教科書の各回に関連する頁を読み、あらかじめ辞書で未知語を調べておく。また復習としては授業時の板書やハンドアウトに基づいて、各自のノートに授業内容をまとめておくこと。

成　績　評　価　方　法

期末レポート(50%)　授業内レポート(30%)　平常点(20%)
(平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します。)

成　績　評　価　基　準

メディア英語の言語的特徴と文化背景に基づき、英文を分析的に理解することができるか。

テキスト、参考図書

村尾純子他　『世界を読むメディア英語入門　Insights 2016』　金星堂　2016年
また、必要に応じて適宜ハンドアウトを配布する。

その他(受講上の注意)

遅刻3回で欠席1回とみなす。必ず英和辞書(電子辞書可)を持参すること。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英米文学研究 a (English and American Literature a)			担当教員	原口　治
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Bdd−2312	2 単位	3 年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　英語コミュニケーション系

求める学習成果(教育目標)

言語としての英語について、深い知識を身につけるとともに、異文化理解能力を高め、国際感覚豊かな人材の育成を目指す。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

イギリス文学の主要「四分野（＝小説、詩、演劇、批評）」の著名な作品の解説及び原典（抜粋）を精読することで、英語文学の鑑賞を行なう。また、作品の政治、文化的背景等の知識を深めることで, イギリス文学および文化研究の基礎的能力を育成する。なお、DVDやVTR等の視聴覚、音声教材等も出来る限り利用する。

授 業 の 到 達 目 標

文学作品における登場人物等の研究を通して、自他の個性の多様性を理解する。また、この理解力をもとに、多様な集団・組織の中でのコミュニケーション能力の育成を目指す。さらに、課題作成や定期試験により、様々な情報の収集および選択能力の養成を図る。以上のプロセスにより、一定の自己成長を果たしていくことを本講義の到達目標とする。

授　業　の　計　画

第１回：テキストＰ　１～Ｐ343　本講義のガイダンス、図書館ガイダンス
第２回：テキストＰ217～Ｐ240　イギリス小説（Ⅰ）・『プライドと偏見』、『オリヴァ―・テュイスト』
第３回：テキストＰ217～Ｐ240、Ｐ270～Ｐ292　イギリス小説（Ⅱ）・『嵐が丘』、『ダロウェイ夫人』
第４回：テキストＰ270～Ｐ292　イギリス小説（Ⅲ）・『ハワーズ・エンド』、『虹』
第５回：テキストＰ161～Ｐ188　イギリス小説（Ⅳ）・『ロビンソン・クルーソー』、『ガリバー旅行記』
第６回：テキストＰ196～Ｐ216　イギリス詩（Ⅰ）・ワーズワス、キーツ（ロマン派詩人）
第７回：テキストＰ140～Ｐ160　イギリス詩（Ⅱ）・ブレイク、ロバート・バーンズ
第８回：テキストＰ　２～Ｐ　29　イギリス詩（Ⅲ）・『ベオウルフ』、『カンタベリー物語』、『サーガーウェンと円卓の騎士』
第９回：テキストＰ117～Ｐ127　イギリス詩（Ⅳ）・ミルトン
第10回：テキストＰ293～Ｐ308　イギリス演劇（Ⅰ）・『ピグマリオン』、『マイフェアレディ』
第11回：テキストＰ　60～Ｐ　73　イギリス演劇（Ⅱ）・演劇創世記
第12回：テキストＰ293～Ｐ308　イギリス演劇（Ⅲ）・『真面目が肝心』
第13回：テキストＰ258～Ｐ292　イギリス批評（Ⅰ）・Ｅ．Ｍ．フォースター
第14回：テキストＰ258～Ｐ269　イギリス批評（Ⅱ）・マシューアーノルド
第15回：テキストＰ　１～Ｐ343　本講義のまとめ、定期試験準備
第16回：定期試験

授 業 外 の 学 習 方 法

予習として、上記の「授業の計画」で指定したテキストの範囲を読み、あらかじめ疑問点等を各自のノートにまとめておくこと。また、復習としては、課題作成と定期試験準備に重点を置いて、各自のノートに講義内容をまとめておくこと。

成　績　評　価　方　法

定期試験 70％
課題（講義内容に関する任意のテーマについてのもの、計２回）　30（１課題につき15％）％
以上を総合的に評価し、60％以上の評価の場合に限り、本講義履修単位の習得とする。

成　績　評　価　基　準

文学作品における登場人物等の研究を通して、自他の個性の多様性を理解しているか。
イギリス文学に関する様々な情報の収集および選択能力の向上が図れているか。

テキスト、参考図書
秋篠　憲一（他）・『イギリス文学への招待』・朝日出版社・1999年
その他（受講上の注意）
特になし
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英語コミュニケーションa (English Communication a)			担当教員	ＭＬ　スプリチャル
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Bdd−2303	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　英語コミュニケーション系

求める学習成果(教育目標)

言語としての英語について、深い知識を身につけるとともに、異文化理解能力を高め、国際感覚豊かな人材の育成を目指す。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

This course covers a detailed, step-by-step study of the process of debate. Students are systematically guided in acquiring the necessary skills for actively offering opinions and strongly defending them, as well as questioning the validity of others' opinions. Furthermore, to excel at debate students must have good listening skills. Listening exercises are emphasized throughout the course.

授業の到達目標

Debate techniques are indispensable in daily life as a tool for thinking about an issue from all sides. Also, learning to debate gives students the ability to question all sources of information. Participants will be able to firmly state an opinion, give a logical reason for the opinion, and a valid support for that opinion.

授　業　の　計　画

第1回：Agreeing or Disagreeing with an Opinion
第2回：Debate Resolutions
第3回：Reasons for Opinions
第4回：Brainstorming & Question-Making
第5回：Supporting Your Opinion
第6回：Organizing Your Opinion
第7回：Refuting Opinions
第8回：“Tennis Debates” & Critiquing
第9回：Challenging Supports
第10回：Organizing Refutations
第11回：Mini-Debates & Editorial Response
第12回：Flowing a Model Debate
第13回：Flowing a Complete Debate
第14回：Holding a Debate
第15回：Holding a Debate
第16回：Examination

授業外の学習方法

Students will be required to search newspapers, magazines, the Internet and other sources for information to support their opinions and refute those of others.

成　績　評　価　方　法

Outside-class Assignments - 25%
In-class Debates（第14回 & 第15回 Classes）- 25%
Examination（Listening & Writing）- 50%

成　績　評　価　基　準

Students will be evaluated not only on the reasons and supports for their own opinions, but also on the refutations of others' opinions, reasons, and supports.

テキスト、参考図書
Discover Debate：Basic Skills for Supporting and Refuting Opinions. Michael Lubetsky, Charles LeBeau, and David Harrington. Language Solutions Incorporated. 2000
その他（受講上の注意）
Students must be fully prepared and proactively participate in each in-class activity. This is not a lecture course.
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英語コミュニケーションb (English Communication b)			担当教員	ＭＬ　スプリチャル
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Bdd−2313	2単位	3年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　英語コミュニケーション系

求める学習成果(教育目標)

言語としての英語について、深い知識を身につけるとともに、異文化理解能力を高め、国際感覚豊かな人材の育成を目指す。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　■選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

Students will read stories concerning dilemmas in intercultural communication, analyze what happened, and brainstorm possible explanations for the misunderstandings. They must do further reading on the cultural background of the stories and determine explanations for the misunderstandings.

授業の到達目標

The goal of the course is to offer students reading practice, discussion and speaking practice, and an opportunity to employ critical-thinking as a means for improving intercultural communication problem-solving skills.

授　業　の　計　画

第1回：Introductions
第2回：American Tourists ① Reading
第3回：American Tourists ② Discussion
第4回：The Homestay ① Reading
第5回：The Homestay ② Discussion
第6回：Software and Bosses ① Reading
第7回：Software and Bosses ② Discussion
第8回：Helping Out ① Reading
第9回：Helping Out ② Discussion
第10回：Making Copies ① Reading
第11回：Making Copies ② Discussion
第12回：The New Student ① Reading
第13回：The New Student ② Discussion
第14回：The Report ① Reading
第15回：The Report ② Discussion
第16回：Examination

授業外の学習方法

After each reading section, students will be tasked with researching information via newspapers, magazines and the Internet on intercultural topics in order to participate in discussions and report on those discussions in writing and orally.

成　績　評　価　方　法

Oral Reports - 25%
Written Reports - 25%
Examination（Written）- 50%

成　績　評　価　基　準

Students will be evaluated on their analyses of the intercultural dilemmas and their creativity in approaching solutions to those dilemmas.

テキスト、参考図書

Culture Riddles：America. Joseph Shaules and Haruko Katsura.
Nan' un-do Publishing Co., Ltd. 1998. ISBN 4-523-17324-9.

その他（受講上の注意）
Much outside-class preparation is necessary in order to fully participate in this course.
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英語聴解技法 a (English Listening Comprehension Techniques a)			担当教員	矢橋　知枝
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Bcc−2302	2 単位	3 年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　英語コミュニケーション系

求める学習成果(教育目標)

英語でのプレゼンテーション力やディスカッション力を高め、メッセージをグローバルに発信できるコミュニケーション能力を育成する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

高度な英語の聴解力を養成する。

授 業 の 到 達 目 標

ＢＢＣ（英国放送協会）のニュースを題材にし、高度な英語の聴解力・表現力を養成する。

授　業　の　計　画

第 1 回：オリエンテーション
第 2 回：Poppies at the Tower of London（1）
第 3 回：Poppies at the Tower of London（2）
第 4 回：Cosplay in London（1）
第 5 回：Cosplay in London（2）
第 6 回：Shakespeare in London's East End（1）
第 7 回：Shakespeare in London's East End（2）
第 8 回：Who Owns Banksy's Street Art?（1）
第 9 回：Who Owns Banksy's Street Art?（2）
第10回：A Chip under the Skin（1）
第11回：A Chip under the Skin（2）
第12回：Houses Built from Straw（1）
第13回：Houses Built from Straw（2）
第14回：Paternity Leave
第15回：Young Voters
第16回：定期試験

授 業 外 の 学 習 方 法

予習として、教科書の各回に関連する頁を読み、あらかじめ辞書で未知語を調べておく。また復習としては授業時の板書やハンドアウトに基づいて、各自のノートに授業内容をまとめておくこと。

成　績　評　価　方　法

定期試験（50%）　授業内レポート（30%）　平常点（20%）
（平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

英語のニュースを聴いて理解できるか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

Timothy Knowles他　『BBC Seeing the World through the News 3』　金星堂　2016年
また、必要に応じて適宜ハンドアウトを配布する。

その他(受講上の注意)

遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。必ず英和辞書（電子辞書可）を持参すること。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英語聴解技法ｂ (English Listening Comprehension Techniques b)			担当教員	矢橋　知枝
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Bcc−2312	２単位	３年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　英語コミュニケーション系

求める学習成果（教育目標）

英語でのプレゼンテーション力やディスカッション力を高め、メッセージをグローバルに発信できるコミュニケーション能力を育成する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

高度な英語の聴解力を養成する。

授業の到達目標

ＢＢＣ（英国放送協会）のニュースを題材にし、高度な英語の聴解力・表現力を養成する。

授　業　の　計　画

第１回：オリエンテーション
第２回：Teaching Digital Skills（１）
第３回：Teaching Digital Skills（２）
第４回：A Home for Newspapers（１）
第５回：A Home for Newspapers（２）
第６回：Scotland's Future（１）
第７回：Scotland's Future（２）
第８回：Online Courts（１）
第９回：Online Courts（２）
第10回：The Price of the Monarchy（１）
第11回：The Price of the Monarchy（２）
第12回：Body Clocks（１）
第13回：Body Clocks（２）
第14回：Child Soldiers of South Sudan（１）
第15回：Child Soldiers of South Sudan（２）
第16回：定期試験

授業外の学習方法

予習として、教科書の各回に関連する頁を読み、あらかじめ辞書で未知語を調べておく。また復習としては授業時の板書やハンドアウトに基づいて、各自のノートに授業内容をまとめておくこと。

成　績　評　価　方　法

定期試験（50％）　授業内レポート（30％）　平常点（20％）
（平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

英語のニュースを聴いて理解できるか。

テキスト、参考図書

Timothy Knowles他　『BBC Seeing the World through the News ３』　金星堂　2016年
また、必要に応じて適宜ハンドアウトを配布する。

その他（受講上の注意）

遅刻３回で欠席１回とみなす。必ず英和辞書（電子辞書可）を持参すること。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

ビジネス英語研究 a (Studies on Business English a)			担当教員	澤崎　敏文
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Bcc−2313	2 単位	3 年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　英語コミュニケーション系

求める学習成果(教育目標)

英語でのプレゼンテーション力やディスカッション力を高め、メッセージをグローバルに発信できるコミュニケーション能力を育成する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

ペア、グループなど多様な学習形態を取り入れて、ビジネス（経営、SWOT分析、Positioning分析、Marketing Mix等のマーケティング）について英語で学ぶスタイルをとる。LMSやインターネット等を授業教材として活用し、学生主体の活動を中心に行う。

授業の到達目標

英語でビジネスケースを読み、それらを経営的な観点から分析することができる。
分析した課題に対応した解決策を考え、自分の考えを英語で表現することができる。
職務上でのやり取り・議論を英語でスムーズに行うことができる。

授　業　の　計　画

第 1 回：Introduction / Business English
第 2 回：Business Case 1 ：Analysis and discussion
第 3 回：Business Case 1 ：SWOT Analysis
第 4 回：Business Case 1 ：Short presentation
第 5 回：Business Case 2 ：Analysis and discussion
第 6 回：Business Case 2 ：Segmentation and Targeting / Positioning
第 7 回：Business Case 2 ：Short presentation
第 8 回：Review / Skills for Negotiation
第 9 回：Business Case 3 ：Analysis and discussion
第10回：Business Case 3 ：Marketing Mix / Four Ps.
第11回：Business Case 3 ：Short presentation
第12回：Review / Skills for Negotiation
第13回：Discussion for Business Presentation
第14回：Business Presentation 1
第15回：Business Presentation 2

授業外の学習方法

予習として、教科書の各回の内容を事前に読み、内容を理解したうえで、分析シート（Analysis）を提出。授業終了後は各自の意見等を提案要旨（Executive Summary）としてまとめ、提出・議論してもらいます。単語、熟語等の学習は予習、復習として実施すること。

成　績　評　価　方　法

授業への積極的参加および授業毎の発表内容20%
レポートおよび小テスト等の課題 50%　最終発表30%

成　績　評　価　基　準

英語でのビジネス事例を読み、ビジネス的な考え方に基づいた自分の意見を英語で表現できるか。

テキスト、参考図書

『Moving ahead in the 21st Century：12 Forward-looking Companies』　松柏社　2009年

その他(受講上の注意)

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英語プレゼンテーション技法 a (Presentation Skills a)			担当教員	フッド　晴美
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Bcc−2303	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　英語コミュニケーション系

求める学習成果（教育目標）

英語でのプレゼンテーション力やディスカッション力を高め、メッセージをグローバルに発信できるコミュニケーション能力を育成する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　■計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

効果的な英語でのプレゼンテーションの仕方を、Physical Message（ジェスチャー、声の調子、アイコンタクトなどで伝えるメッセージ）、Visual Message（パワーポイントなど視覚的なものを用いて伝えるメッセージ）に焦点を当て、学習する。講義と共に、講義で理解したことを様々なペア・グループでのプレゼンテーションで実践練習する。

授業の到達目標

1．効果的なPhysical Messageの伝え方について理解し、実践できる。また、自己及び他者の評価ができる。
2．効果的なVisual Messageの伝え方について理解し、実践できる。また、自己及び他者の評価ができる。

授　業　の　計　画

第1回：Introduction
第2回：The Three Messages in a Speech
第3回：Posture and Eye Contact
第4回：Informative Speech 1
第5回：Informative Speech 2
第6回：Gestures
第7回：Layout Speech 1
第8回：Layout Speech 2
第9回：Voice Inflection
第10回：Demonstration Speech 1
第11回：Demonstration Speech 2
第12回：The Visual Message 1
第13回：The Visual Message 2
第14回：The Visual Message 3
第15回：Performance of Country Comparison Speech

授業外の学習方法

1. 毎回、次回の授業のスピーチ課題が出るので、授業で学んだ技法を実践できるように準備してくる。
2. TEDtalksなど、インターネットなどで優秀なプレゼンテーションが配信されているので、毎日視聴し、スキルアップの参考とする。

成　績　評　価　方　法

授業での言語活動20%、プレゼンテーション40%、レポート40%

成　績　評　価　基　準

1. 効果的なPhysical Messageの伝え方について理解し、実践できるか。また、自己及び他者の評価ができるか。
2. 効果的なVisual Messageの伝え方について理解し、実践できるか。また、自己及び他者の評価ができるか。

テキスト、参考図書

David Harrington & Charles LeBeau著（2009）"Speaking of Speech（New Edition）" MACMILLAN.

その他（受講上の注意）

英和辞書、和英辞書、英英辞書を必ず持参する。

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英語プレゼンテーション技法ｂ (Presentation Skills b)			担当教員	フッド　晴美
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Bcc−2314	2単位	3年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　英語コミュニケーション系

求める学習成果(教育目標)

英語でのプレゼンテーション力やディスカッション力を高め、メッセージをグローバルに発信できるコミュニケーション能力を育成する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　■計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

効果的な英語でのプレゼンテーションの仕方を、前期に学習したPhysical Message(ジェスチャー、声の調子、アイコンタクトなどで伝えるメッセージ)、Visual Message(パワーポイントなど視覚的なものを用いて伝えるメッセージ)を利用しながら、さらにStory Message(言葉で伝えるメッセージ)に焦点を当て、学習する。講義と共に、講義で理解したことを様々なペア・グループでのプレゼンテーションで実践練習する。

授業の到達目標

1. 効果的なPhysical Message、Visual Messageの伝え方について更に理解を深め、実践し、自己及び他者の評価ができる。
2. 効果的なStory Messageの伝え方について理解し、実践し、自己及び他者の評価ができる。
3. 良いチーム・ワークでプレゼンテーションを計画し、組み立て、発表できる。自己及び他者の評価ができる。

授　業　の　計　画

第1回：Introduction
第2回：The Story Message
第3回：The Introduction 1
第4回：The Introduction 2
第5回：The Body 1
第6回：The Body 2
第7回：The Body 3
第8回：The Conclusion 1
第9回：The Conclusion 2
第10回：The Conclusion 3
第11回：Putting it all together
第12回：Preparing a group presentation 1
第13回：Preparing a group presentation 2
第14回：Preparing a group presentation 3
第15回：Performance of group presentations

授業外の学習方法

1. 毎回、次回の授業のスピーチ課題が出るので、授業で学んだ技法を実践できるように準備してくる。
2. TEDtalksなど、インターネットなどで優秀なプレゼンテーションが配信されているので、毎日視聴し、スキルアップの参考とする。

成　績　評　価　方　法

授業での言語活動20%、プレゼンテーション40%、レポート40%

成　績　評　価　基　準

1. 効果的なPhysical Message、Visual Messageの伝え方について更に理解を深め、実践し、自己及び他者の評価ができるか。
2. 効果的なStory Messageの伝え方について理解し、実践し、自己及び他者の評価ができるか。
3. 良いチーム・ワークでプレゼンテーションを計画し、組み立て、発表できる。自己及び他者の評価ができるか。

テキスト、参考図書
David Harrington & Charles LeBeau著（2009）"Speaking of Speech（New Edition）." MACMILLAN. Carmine Gallo 著（2010）"The Presentation Secrets of Steve jobs - How to Be Insanely Great in Front of Any Audience." McGraw Hill.
その他（受講上の注意）
英和辞書、和英辞書、英英辞書を必ず持参する。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

現代社会研究Ⅱ (Studies of Contemporary SocietyⅡ)			担当教員	安彦　智史
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Cgg−2301	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　現代社会系

求める学習成果(教育目標)

現代社会の情報の洪水のなかで、自分なりに課題を析出し、明らかにしていくための、グローバルな視点を育てる。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力■□課題解決能力

授　業　の　内　容

社会で利用されている情報サービスは、ビジネスの形態に大きく影響を与えます。たとえば、ブログやマイクロブログの登場により、個々人が情報を発信する社会が実現されました。その流れに伴い、個々人が発生した生の声を解析・操作する口コミマーケティングやモバイル端末と拡張現実の組み合わせによる広告モデルなど、最新のサービスに合わせたアプローチが数多く提案されています。本講義では、様々な情報サービスを題材として、「最新の技術やサービスを知る」、「知った技術やサービスがどのようにビジネスで活用されているかを把握する」、「モデル事例(社会における課題)を紹介し、その課題に対してどのような技術やサービスが適用できるかを考える」の3つの流れを繰り返し実施します。このことにより、社会に出た際に、最新の技術の知識を持っているだけではなく、その知識をどのように活かせばよいかを学ぶ力を身につけさせることを目的とします。

授業の到達目標

最新の技術やサービスを知り、知った技術やサービスをどのようにビジネスで活用できるかを提案する技術や知識を習得すること

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション、グループ分け
第2回：情報コミュニケーションツールの最新事例の紹介
第3回：情報コミュニケーションツールをビジネスへ活用した事例の紹介
第4回：グループワーク①(情報コミュニケーションツールのビジネスコミュニケーションへの活用：ツールの選定)
第5回：グループワーク②(情報コミュニケーションツールのビジネスコミュニケーションへの活用：ツールが利用されているサービスの収集)
第6回：グループワーク③(情報コミュニケーションツールのビジネスコミュニケーションへの活用：各サービスの強みと弱みのまとめ)
第7回：グループワーク④(情報コミュニケーションツールのビジネスコミュニケーションへの活用：発表用資料の作成)
第8回：発表(情報コミュニケーション)
第9回：グループ分け、スマートフォンの最新事例と活用事例の紹介
第10回：グループワーク①(スマートフォンを用いた学生生活支援アプリの考案：学生生活で困っていること、あったらよいと思うことの検討)
第11回：グループワーク②(スマートフォンを用いた学生生活支援アプリの考案：身の周りの困っていることへの対応方法の検討)
第12回：グループワーク③(スマートフォンを用いた学生生活支援アプリの考案：学生生活を支援するためのアプリケーションの検討)
第13回：グループワーク④(スマートフォンを用いた学生生活支援アプリの考案：発表用資料の作成)
第14回：発表(スマートフォンを用いた学生生活支援アプリ)
第15回：まとめ

授業外の学習方法

新聞を日々読み、新たな技術や社会情勢を確認し、「ビジネスにどのように役立てていくのか？」や「どのようにビジネスに利用できるのか？」を日々考えてください。

成　績　評　価　方　法
授業中のグループワークでの発言と各グループの発表（１グループ15分程度×２）の内容および日々の発言内容等を加味して総合的に評価する。 発表（50%）　　平常点（50%）（平常点はディスカッションの参加度や発言内容を加味して総合的に判断する）
成　績　評　価　基　準
最新の技術やサービスがどのようにビジネスで活用されているかを調査する力や、新しいビジネスを考案する知識を習得できているか。
テキスト、参考図書
必要に応じて、プリントの配布、参考文献・テキストの指示などを行う。
その他（受講上の注意）
日々の議論を議事録にまとめることで、成績を評価する。 グループワーク主体であるため、授業の出席は必須事項。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

臨床社会学 (Sociology of Social Problems)			担当教員	宝月　誠
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Cgg−2311	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　現代社会系

求める学習成果(教育目標)

現代社会の情報の洪水のなかで、自分なりに課題を析出し、明らかにしていくための、グローバルな視点を育てる。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　□コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

臨床社会学の実践として社会の「逸脱現象」をとりあげ、それへの「社会的対応」のあり方を考える。

授業の到達目標

「逸脱」が何かを説明できる。「逸脱」と「社会」との関係を分析できる。逸脱への対応の仕方を構想できる。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション：講義の方針と計画
第2回：デュルケームの視点：臨床社会学の原点
第3回：逸脱の研究の3つの視点：構造論・相互作用論・行為者論
第4回：現代社会と逸脱の事例：企業逸脱の世界
第5回：構造論(1)：社会解体論
第6回：構造論(2)：アノミー論
第7回：相互作用論(1)：差異的接触論
第8回：相互作用論(2)：ラベリング論
第9回：逸脱への社会的対応の事例：精神病の世界
第10回：行為者論(1)：合理的選択論
第11回：行為者論(2)：セルフ・コントロール論
第12回：社会的世界論
第13回：逸脱の事例：食品企業の逸脱
第14回：逸脱への社会的対応の事例：食の世界の安全
第15回：まとめ：逸脱への社会的対応の在り方

授業外の学習方法

配布資料を丁寧に読み、紹介する文献にできるだけ目を通すこと。授業での議論のために、疑問や論点を考えておくこと。

成　績　評　価　方　法

最終レポート(50%)　小レポート(25%)　平常点(25%)
(平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します。)

成　績　評　価　基　準

逸脱現象が何であるのかを的確に理解し、逸脱への対処方法を広い視点で構想できるのか。

テキスト、参考図書

使用しない。

その他(受講上の注意)

積極的に各自の意見を表明して、授業に主体的に参加してほしい。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

データ解析法b (Quantitative Data Analysis b)			担当教員	織田　暁子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Chh−2301	2単位	3年前期	演習	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　現代社会系

求める学習成果(教育目標)

社会調査の知識と技術の修得によって、データを自分で収集する力、データを分析する力、分析結果を効果的に伝える力を獲得する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

社会学的データ分析で用いる基礎的な多変量解析法について、その基本的な考え方と主要な計量モデルを解説する。分散分析や単回帰分析そして重回帰分析を中心に、その考え方と実際の使い方を学ぶ。

授業の到達目標

・データのタイプに応じて、適切な分析手法を選択できるようになる。
・多変量解析の考え方を理解できるようになる。
・多変量解析の基礎的な手法を、コンピューターソフトを用いて実践出来るようになる。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション
第2回：復習（1）―― 尺度水準、記述統計量
第3回：復習（2）―― 検定の考え方
第4回：多変量解析の考え方：変数をコントロールするとは、どういうことか？
第5回：分散分析の理論と演習
第6回：単回帰分析の理論と演習
第7回：重回帰分析の理論と演習（1）
第8回：重回帰分析の理論と演習（2）―― 独立変数が2つの場合
第9回：重回帰分析の理論と演習（3）―― 独立変数が3つ以上の場合
第10回：カテゴリカル・データの間の連関を探る（1）
第11回：カテゴリカル・データの間の連関を探る（2）
第12回：因子分析と主成分分析
第13回：因子分析の理論と演習（1）
第14回：因子分析の理論と演習（2）
第15回：まとめ
第16回：定期試験

授業外の学習方法

各回の授業において配付された資料を見直した上で、次の回の授業に臨むようにして下さい。講義で学んだことを実際の、社会現象の説明に応用できるか考えるようにして下さい。

成　績　評　価　方　法

定期試験(50%)　平常点(50%)
(平常点は提出物・小テストを総合的に判断します)

成　績　評　価　基　準

・データのタイプに応じて、適切な分析手法を選択できているか。
・多変量解析の考え方を理解できているか。
・多変量解析の手法を、コンピューターソフトを用いて実践出来ているか。

テキスト、参考図書

テキストは定めない。参考文献は授業中に指示を与える。

その他（受講上の注意）
この授業は、一般社団法人社会調査協会が認定する、社会調査士資格認定科目【E〕〔多変量解析の方法に関する科目〕に相当する。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

社会調査演習 a (Practice in Social Research a)			担当教員	織田　暁子、山中　千恵
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Cgh−2302	2 単位	3 年前期	演習	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　現代社会系

求める学習成果(教育目標)

現代社会の情報の洪水のなかで、自分なりに課題を析出し、明らかにしていくための、グローバルな視点を育てる。
社会調査の知識と技術の修得によって、データを自分で収集する力、データを分析する力、分析結果を効果的に伝える力を獲得する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　■計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

調査の企画から報告書の作成までにまたがる社会調査の全過程をひととおり実習を通じて体験的に学習する。調査の企画、仮説構成、調査項目の設定、質問文・調査票の作成、対象者・地域の選定、サンプリング、調査の実施(調査票の配布・回収)、エディティング、集計、分析、仮説検証、報告書の作成までを通して行っていく。

授業の到達目標

・社会調査の企画と実施ができるようになる。
・仮説を立て、それを適切な手順と方法で検証できるようになる。
・統計ソフトを使いこなせるようになる。

授　業　の　計　画

第 1 回：オリエンテーションとグループ決定
第 2 回：グループごとにテーマについての話し合い(1)
第 3 回：グループごとにテーマについての話し合い(2)
第 4 回：テーマについてのグループ発表
第 5 回：テーマについての文献レビュー
第 6 回：仮説構成(1)
第 7 回：仮説構成(2)
第 8 回：仮説の発表
第 9 回：質問作成(1)
第10回：質問作成(2)
第11回：質問案発表
第12回：質問紙の作成(1)
第13回：質問紙の作成(2)
第14回：実査準備(1)
第15回：実査

授業外の学習方法

グループでの議論などによって浮き彫りとなった課題について、文献研究などを自発的かつ積極的に行う必要があるし、他のグループに比べて進捗が遅い場合は、授業時間以外にも作業などをしてもらう。

成　績　評　価　方　法

平常点(100%)
(平常点はグループでの活動への積極性や発表の評価等を総合して判断します)

成　績　評　価　基　準

・社会調査の企画と実施ができるようになっているか。
・仮説を立て、それを適切な手順と方法で検証できているか。
・統計ソフトを使いこなせているか。

テキスト、参考図書

授業開始時に各教員から指示がある。

その他（受講上の注意）
この授業は、一般社団法人社会調査協会が認定する、「社会調査士」資格に必要な、標準カリキュラムのG科目に対応するものである。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

社会調査演習ｂ (Practice in Social Research b)			担当教員	織田　暁子、山中　千恵
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Cgh−2311	２単位	３年後期	演習	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　現代社会系

求める学習成果（教育目標）

現代社会の情報の洪水のなかで、自分なりに課題を析出し、明らかにしていくための、グローバルな視点を育てる。
社会調査の知識と技術の修得によって、データを自分で収集する力、データを分析する力、分析結果を効果的に伝える力を獲得する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

□自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　■計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

調査の企画から報告書の作成までにまたがる社会調査の全過程をひととおり実習を通じて体験的に学習する。調査の企画、仮説構成、調査項目の設定、質問文・調査票の作成、対象者・地域の選定、サンプリング、調査の実施（調査票の配布・回収）、エディティング、集計、分析、仮説検証、報告書の作成までを通して行っていく。

授業の到達目標

・社会調査の企画と実施ができるようになる。
・仮説を立て、それを適切な手順と方法で検証できるようになる。
・統計ソフトを使いこなせるようになる。
・自分の主張を論理的に報告書にまとめられるようになる。

授　業　の　計　画

第１回：実査①
第２回：実査②
第３回：コーディング・データ整理①
第４回：コーディング・データ整理②
第５回：コーディング・データ整理③
第６回：データ分析①
第７回：データ分析②
第８回：データ分析③
第９回：データ分析④
第10回：データ分析⑤
第11回：報告書作成①
第12回：報告書作成②
第13回：報告書作成③
第14回：報告書作成④
第15回：報告書作成⑤

授業外の学習方法

実査を成功させるために必要な準備について、授業時間以外にも作業などをしてもらう。データ分析においても、限られた授業時間で効率的に分析を進められるように、授業前に入念な準備を行ってもらう。

成　績　評　価　方　法

平常点（100％）
（平常点はグループでの活動への積極性や発表や報告書の評価等を総合して判断します）

成　績　評　価　基　準

・社会調査の企画と実施ができるようになっているか。
・仮説を立て、それを適切な手順と方法で検証できているか。
・統計ソフトを使いこなせているか。
・自分の主張を論理的に報告書にまとめられているか。

テキスト、参考図書
授業開始時に各教員から指示がある。
その他（受講上の注意）
この授業は、一般社団法人社会調査協会が認定する、「社会調査士」資格に必要な、標準カリキュラムのG科目に対応するものである。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

現代文化研究 (Contemporary Cultural Studies)			担当教員	山中　千恵
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Cff−2302	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　現代社会系

求める学習成果(教育目標)

思想と歴史を段階的かつ学際的に学ぶことによって、実践知・専門知のみに偏らない教養・知・文化理解を獲得する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

ポピュラー文化ミュージアムとは何かを考える。

授業の到達目標

文化社会学、観光社会学、ミュージアム研究の理論を理解し、実際に自分でも調査をおこなってみることで知識を活用できるようになる。

授　業　の　計　画

第1回：ガイダンス
第2回：ポピュラー文化とは何か
第3回：ポピュラー文化ミュージアムを研究する上での課題
第4回：フィールドワークの方法
第5回：フィールドワークの報告の仕方
第6回：ポピュラー文化ミュージアムの事例1
第7回：ポピュラー文化ミュージアムの事例2
第8回：ポピュラー文化ミュージアムの事例3
第9回：ポピュラー文化ミュージアムの事例4
第10回：ポピュラー文化ミュージアムの事例5
第11回：ポピュラー文化ミュージアムの事例6
第12回：受講生によるフィールドレポート1
第13回：受講生によるフィールドレポート2
第14回：受講生によるフィールドレポート3
第15回：まとめ

授業外の学習方法

講義後ノートを見直して復習し、講義内でしめされた専門用語を図書館等で調べ、取り上げられた文献を購読する。その上で、自分でも調査をすすめ、それを報告できるよう自主的にまとめていく。

成　績　評　価　方　法

授業内の報告(40%)、レポート(40%)、平常点(20%)で評価する。
平常点は授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します。

成　績　評　価　基　準

文化社会学、観光社会学、ミュージアム研究の理論を理解し、実際に自分でも調査をおこなってみることで知識を活用できるようになったか。

テキスト、参考図書

テキスト
石田佐恵子、村田麻里子、山中千恵2013『ポピュラー文化ミュージアム』ミネルバ書房

参考書
伊藤遊、谷川竜一、村田麻里子、山中千恵2014『マンガミュージアムに行こう』岩波書店

他は授業内で適宜指示。

その他（受講上の注意）
私語等、講義を妨害する学生には退出してもらう。単位を与えない場合もある。受講生の理解度によって授業計画には変更を加える可能性がある。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

比較文化研究 (Comparative Culture Studies)			担当教員	山中　千恵
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Cgg−2312	2単位	3年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　現代社会系

求める学習成果(教育目標)

現代社会の情報の洪水のなかで、自分なりに課題を析出し、明らかにしていくための、グローバルな視点を育てる。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

大韓民国及び東アジアにおける社会・文化的グローバル化について考える。

授業の到達目標

大韓民国の社会・文化背景について理解したうえで、東アジアにおけるグローバル化という現象を分析することができる。

授　業　の　計　画

第1回：韓国の概要
第2回：韓国の歴史を知る(1)
第3回：韓国の歴史を知る(2)
第4回：韓国の歴史を知る(3)
第5回：韓国の歴史を知る(4)
第6回：「集合的記憶」としての歴史
第7回：韓国の文化政策(1)
第8回：韓国の文化政策(2)
第9回：韓国の文化政策(3)
第10回：韓国の文化政策(4)
第11回：グローバル化とはなにか
第12回：グローバル化する日韓社会(1)
第13回：グローバル化する日韓社会(2)
第14回：グローバル化する日韓社会(3)
第15回：まとめと達成度の確認

授業外の学習方法

講義後ノートを見直して復習し、講義内でしめされた専門用語を図書館等で調べ、取り上げられた文献を購読するようにしてください。その上で、講義で説明したことを、自分の身の回りの出来事に当てはめて考え、理解を深めるようにしてください。

成　績　評　価　方　法

小レポート(80%)と平常点(20%)による。
平常点は授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します。

成　績　評　価　基　準

大韓民国の社会・文化背景について理解したうえで、東アジアにおけるグローバル化という現象を分析することができるか。

テキスト、参考図書

適宜指示

その他(受講上の注意)

私語等、講義を妨害する学生には退出してもらう。単位を与えない場合もある。受講生の理解度によって授業計画には変更を加える可能性がある。

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

言語心理学 (Psycholinguistics)			担当教員	杉島　一郎
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Cgi−2311	2単位	3年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　現代社会系

求める学習成果(教育目標)

現代社会の情報の洪水のなかで、自分なりに課題を析出し、明らかにしていくための、グローバルな視点を育てる。
日本語を母語としない人たちに日本語を教えられる能力を育成する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

人間がコミュニケーションや思考を行う際に用いる言語について心理学的観点から考察する。
われわれは、コミュニケーションや記録のためだけでなく、思考や発想などさまざまな目的で言語を用いている。この言語というものを人間はどのように用い、受け取っているのだろうか。情報伝達という観点から、言語の利用を科学的にとらえていく。そのため、計量的・数量的に言葉をとらえたり、「理解」という観点から、あるいは記憶のしやすさといった認知的側面から言語を考えていく。この授業では、過去の知見を知識として得るだけではなく、さまざまな研究例や方法論を手掛かりに、現在のわれわれをとりまく言語環境について考えていく。

授業の到達目標

・情報伝達という観点から言語について理解することができる。
・計量的・数量的に言葉をとらえる方法を身につけることができる。
・理解や記憶のしやすさといった認知的側面から言語をとらえることができる。
・さまざまな研究例や方法論をもとに、われわれをとりまく言語環境について考えることができる。

授　業　の　計　画

第1回：ことばとは何か？
第2回：「わかりやすさ」を考える
第3回：言語の有契性・恣意性
第4回：言語と記憶
第5回：言語処理とワーキングメモリ1
第6回：言語処理とワーキングメモリ2
第7回：言語と思考
第8回：言葉の習得（母語の獲得）
第9回：言葉の習得（第2言語習得）
第10回：言語理解
第11回：「意味」とは何か
第12回：意味理解のメカニズム
第13回：言外の意味
第14回：ことばが失われた場合
第15回：まとめ
第16回：定期試験

授業外の学習方法

各回の講義を受けた後、その講義のノートや配布資料を見直して復習し、自分の日常的な思考や観察される現象にあてはめ、理解を深めるようにしてください。

成　績　評　価　方　法

ブリーフレポート（20%）、定期試験（80%）

成　績　評　価　基　準
・情報伝達という観点から言語について説明することができるか。 ・計量的・数量的に言葉をとらえる方法を説明することができるか。 ・理解や記憶のしやすさといった認知的側面から言語をとらえることができるか。 ・さまざまな研究例や方法論をもとに、われわれをとりまく言語環境について考えることができるか。
テキスト、参考図書
テキストは使用しない。適宜資料を配布する。
その他（受講上の注意）
授業には積極的態度で参加し、ブリーフレポートに指示されたことや自分の考えを書くようにしてください。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

コミュニケーション特別演習Ⅰa (Special Seminar in Communication Ⅰa)			担当教員	大河　晴美、金田　明彦、紺渡　弘幸、 加藤　優子、島岡　　哉、升田　法継、 山中　千恵、安彦　智史、織田　暁子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-Zzz-2301	2単位	3年前期	演習	必修

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　特別演習・卒業研究

求める学習成果(教育目標)

各系で身につけた能力を演習のなかでより深め、卒業研究につなげる。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　■計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授業の内容

英語コミュニケーション、企画・表現、現代社会に関して、専門的な知識を深める。

授業の到達目標

英語コミュニケーション、企画・表現、現代社会に関して、卒業研究で取り組むことができるだけの専門的な知識をつける。

授業の計画

概ね以下の通りだが、各担当教員の演習テーマを考慮した指導に従って取り組む。

４～５月　演習のテーマについて基礎的知識を確認するための研究・実践
６～８月　演習のテーマについて専門的知識を深めるための研究・実践

授業外の学習方法

担当の教員から適宜指示があります。

成績評価方法

平常点(100%)
平常点は演習への取り組み状況やその態度などから総合的に判断します。

成績評価基準

英語コミュニケーション、企画・表現、現代社会に関して、卒業研究で取り組むことができるだけの専門的な知識をつけられているか。

テキスト、参考図書

必要に応じて指示する。

その他(受講上の注意)

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

コミュニケーション特別演習Ⅰb (Special Seminar in Communication Ⅰb)			担当教員	大河　晴美、金田　明彦、紺渡　弘幸、 加藤　優子、島岡　　哉、升田　法継、 山中　千恵、安彦　智史、織田　暁子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-Zzz-2311	2単位	3年後期	演習	必修

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　特別演習・卒業研究

求める学習成果(教育目標)

各系で身につけた能力を演習のなかでより深め、卒業研究につなげる。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　■計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授業の内容

英語コミュニケーション、企画・表現、現代社会に関して、専門的な知識を深めるなかで、受講生自身の研究・実践テーマの方向性を定める。

授業の到達目標

英語コミュニケーション、企画・表現、現代社会に関して、卒業研究で取り組むテーマを大まかに決定し、更に専門的に理解する。

授業の計画

概ね以下の通りだが、各担当教員の演習テーマを考慮した指導に従って取り組む。

9～11月　演習のテーマについて専門的知識を深めるための研究・実践
12～2月　受講生自身のテーマについて基礎的に理解をするための研究・実践

授業外の学習方法

担当の教員から適宜指示があります。

成績評価方法

平常点(100%)
平常点は演習への取り組み状況やその態度などから総合的に判断します。

成績評価基準

英語コミュニケーション、企画・表現、現代社会に関して、卒業研究で取り組むテーマを大まかに決定し、更に専門的に理解できているか。

テキスト、参考図書

担当教員から適宜指示されます。

その他(受講上の注意)

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

海外語学研修 (Language Study Abroad)			担当教員	ＭＬ　スプリチャル
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−1249	4単位	2年〜4年	演習	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　外国語科目

求める学習成果(教育目標)

建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　■計画実行能力　■選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

本プログラムは、カリフォルニア州立大学フラトン校における「仁愛大学海外語学研修（8週間プログラム）」の参加者を受講者として実施する。受講者への事前授業を10回程度行い、夏期休暇中に約8週間の短期留学を実施する。フラトン校見学、フラトン校語学学校American Language Program（ALP）における語学研修、現地学生との交流、観光などの企画実施を含み、以後の学修・研究のための動機付けを得ることを目指す。

授業の到達目標

集中的な英語研修と生活体験を通し、総合的な英語力（読む力・聞く力・話す力・書く力）を向上させることを目的とする。

授　業　の　計　画

第1回：全体説明会
第2回：事前授業（提出物指示、研修先申込書作成等）①
第3回：事前授業（提出物指示、研修先申込書作成等）②
第4回：事前授業（提出物指示、研修先申込書作成等）③
第5回：事前授業（ビザ申請等）①
第6回：事前授業（ビザ申請等）②
第7回：事前授業（ビザ申請等）③
第8回：事前授業（昨年度参加者との面談）
第9回：事前授業（航空券、その他書類配付等）
第10回：事前授業（出発前の最終確認）

＜語学研修参加（8月中旬〜10月上旬）＞

第11回：事後授業（研修の報告および反省）
第12回：事後授業（英語レベルチェック）
第13回：事後授業（プレゼン課題指示）
第14回：事後授業（プレゼン練習）
第15回：次年度プログラム説明会でプレゼンテーション（3月）

授業外の学習方法

準備期間においては、渡航に必要なビザの手続を教員のサポートの元学生自ら行うこと。渡航先の国の文化や基本的情報について学ぶこと。さらに、英語教育センター等で英会話の練習を積むこと。

成　績　評　価　方　法

事前授業への取り組み（30%）、現地評価（50%）、事後授業の取り組み（20%）を総合評価する。

成　績　評　価　基　準

学外における自主的な活動や体験をとおして、通常の講義や演習で得られない視点や考察点を体得できたか。
学修・研究のための動機付けを得て、優れた社会人となるための自己認識を深めることができたか。
※フラトン校から発行される成績表も評価に含まれる。

テキスト、参考図書

ALPより指示がある。

その他（受講上の注意）
本科目の履修登録については、それぞれの担当教員がガイダンスなどを実施し、各プログラムの参加者をもって受講者とするため、通常の受講登録手続きを要しない。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

フィールドワーク演習（ボランティア） （Fieldwork Practice（Volunteer））			担当教員	金田　明彦、谷　雅徳
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−1164	2単位	1年〜4年	演習	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　修学基礎・フィールドワーク科目

求める学習成果（教育目標）

建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■自他の理解能力■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　■計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

本プログラムには、学内外でのボランティア活動体験、社会的イベント・コンペティションなどへの参画体験が含まれる。教室や研究室で学習や研究をするのではなく、実際に社会での直接的体験を通して、優れた社会人となるための自己認識、自己啓発の機会とすることを目的とする。担当教員や活動支援団体による説明会への参加をもとに受講の意思を明らかにし、プログラムへの参加とする。

授業の到達目標

それぞれが今後学ぶ、または学んでいることの社会的意義を見いだすことができる。学生間はもとより地域社会で仕事や生活をしている社会人とのコミュニケーションが円滑に行える。

授　業　の　計　画

地域社会からのニーズを元にプログラムを立てるため、その解決すべき課題を元に授業計画を設定する。

４〜７月　　事前ガイダンスの実施と計画の提示
８〜９月　　現地にて研修
10〜11月　　事後報告として、レポート・プレゼンテーション等の実施

授業外の学習方法

課題に関連する情報の収集

成　績　評　価　方　法

プログラムへの取組み（50%）　レポート（20%）　プレゼンテーション（30%）

成　績　評　価　基　準

課題について、的確な視点を持ち、その解決に向けて自身の考察による提案ができるか。

テキスト、参考図書

使用しない。

その他（受講上の注意）

本科目の履修登録については、それぞれの担当教員がガイダンスなどを実施し、各プログラムの参加者をもって受講者とするため、通常の受講登録手続きを要しない。

※個人参加のボランティア活動体験、社会的イベント・コンペティションなどへの参画体験等も対象とする場合があるので、受講希望者は、事前に科目担当者へ問い合わせること。

※単位認定については、参加するボランティア活動体験、社会的イベント・コンペティションのプログラム終了後、担当教員より課される課題等を全て提出し、単位認定するにあたり適当であると認めた場合のみとする。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

フィールドワーク演習（国際交流） （Fieldwork Practice（International Exchange））			担当教員	ＭＬ　スプリチャル
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−1165	２単位	１年〜４年	演習	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　修学基礎・フィールドワーク科目

求める学習成果（教育目標）

建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　■計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

本プログラムは、原則として、カリフォルニア州立大学フラトン校における「仁愛大学海外短期研修プログラム（２週間）」の参加者を受講者として実施する。受講者への事前授業を10回程度行い、夏期休暇中に約２週間の短期留学を実施する。現地学校での英会話クラス受講、現地学生との交流、観光などの研修を実施し、以後の学修・研究のための動機付けを得ることを目指す。

授業の到達目標

学外における自主的な活動や体験をとおして、通常の講義や演習で得られない視点や考察点を体得する。
本科目では、原則として、「仁愛大学海外短期研修プログラム（２週間）」への参画体験演習を行い、以後の学修・研究のための動機付けを得ること、異文化理解を深めることを目的とする。

授　業　の　計　画

第１回：全体説明会
第２回：事前授業（提出物、課題指示等）①
第３回：事前授業（提出物、課題指示等）②
第４回：事前授業（現地活動の企画等）①
第５回：事前授業（現地活動の企画等）②
第６回：事前授業（現地活動の準備等）①
第７回：事前授業（現地活動の準備等）②
第８回：事前授業（現地活動の準備等）③
第９回：事前授業（航空券、その他書類配付等）
第10回：事前授業（出発前の最終確認）

＜研修参加（９月）＞

第11回：事後授業（研修の報告および反省）
第12回：事後授業（レポート課題指示）
第13回：事後授業（プレゼン課題指示）
第14回：事後授業（プレゼン練習）
第15回：次年度プログラム説明会でプレゼンテーション（３月）

授業外の学習方法

準備期間においては、渡航先の国の文化や基本的情報について学ぶこと。さらに、英語教育センター等で英会話の練習を積むこと。

成　績　評　価　方　法

事前授業の取り組み（30%）、現地評価（50%）、事後授業の取り組み、およびレポート課題（20%）を総合評価する。

成　績　評　価　基　準

学外における自主的な活動や体験をとおして、通常の講義や演習で得られない視点や考察点を体得できたか。
学修・研究のための動機付けを得て、優れた社会人となるための自己認識を深めることができたか。

テキスト、参考図書
特になし
その他（受講上の注意）
仁愛大学海外短期研修の最小催行人数は原則として６名とする。よって受講生が少ない場合、非開講とすることがある。本科目の履修登録については、担当教員等が行うガイダンスと、本プログラムの参加をもって履修登録とするため、通常の履修登録手続きを要しない。 ※個人参加の海外語学研修および国内における外国人との国際交流などの企画体験等も対象とする場合があるので、事前（海外語学研修は渡航の２ヶ月前）に担当教員または英語教育センターに問い合わせること。また、個人で参加する海外語学研修の期間については、夏期休暇期間または春期休暇期間とし、単位認定時期については、夏期休暇期間の場合は当該年度の後期に、春期休暇期間の場合は翌年度の前期に単位認定する。したがって、卒業年次生による個人参加の海外語学研修は、夏季休暇中での開始・実施のみ単位認定する。 ※単位認定については、参加する海外語学研修・国際交流等のプログラム終了後、担当教員より課される課題等を全て提出し、単位認定するにあたり適当であると認めた場合のみとする。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

学校臨床心理学 (Clinical Psychology in Schools)			担当教員	廣澤　愛子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS−ABO−2456	2単位	4年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　応用科目　臨床系

求める学習成果(教育目標)

教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。
人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

学校現場で生じている問題のうち、臨床心理学的支援が有効に働く課題について、その実態と支援の在り方を学ぶ。

授業の到達目標

学校現場における有効な臨床心理学的支援を、他者と議論し、情報を収集し、自ら主体的に考えることができる。

授　業　の　計　画

第1回：臨床心理学とは―理論的背景―
第2回：臨床心理学とは―グループワークを通して―
第3回：学校における臨床心理学的支援の実際その1―特別支援教育に係わる支援の在り方―
第4回：特別支援教育に係わる支援についてのグループディスカッション
第5回：グループごとのプレゼンテーション①
第6回：学校における臨床心理学的支援の実際その2―いじめに係わる支援の在り方―
第7回：いじめについてのグループディスカッション
第8回：グループごとのプレゼンテーション②
第8回：学校における臨床心理学的支援の実際その3―保護者支援について―
第9回：保護者支援についてのグループディスカッション
第10回：グループごとのプレゼンテーション③
第11回：学校現場でも活用できる心理技法の紹介―体験実習を通して―
第12回：心理技法の実際―その用い方と有効性―
第13回：心理技法についてのグループディスカッション
第14回：グループごとのプレゼンテーション④
第15回：総括

授業外の学習方法

講義を受けた後で、当該部分の配布資料を見直し、次時の授業に臨んでください。授業の積み重ねの中で、自分なりの考えや観点を生成していくことを心がけてください。

成　績　評　価　方　法

小レポート(40%)+ディスカッション(30%)+プレゼンテーション(30%)

成　績　評　価　基　準

他者と議論し、的確に情報を収集し、それらを踏まえて主体的に考え、課題解決に導くことができているか。さらに、その解決策を他者に分かりやすく提示することができているか。

テキスト、参考図書

テキストは使用せず、適宜、授業の中で紹介するか、講師がレジュメを配布する。

その他(受講上の注意)

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

障害者心理学 (Psychology of the Disabled)			担当教員	水田　敏郎
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS−ABC−2466	2単位	4年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　応用科目　行動・支援系

求める学習成果(教育目標)

教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。
人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。
組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　□コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

感覚障害や知的障害、肢体不自由など様々な障害の概念について解説する。また、特に最も発生率の高い知的障害について分類や障害メカニズムについて解説し、心理的な特徴とその支援の方法について述べる。

授業の到達目標

障害の概念、定義について理解することができる。様々な障害について特定の基準をもとに分類することができる。知的障害の心理的な諸特徴と支援の方法について理解することができる。

授　業　の　計　画

第1回：ガイダンス
第2回：障害の概要と定義
第3回：知的障害のアセスメント①
第4回：知的障害のアセスメント②
第5回：感覚の発達と障害
第6回：知覚の発達と障害①
第7回：知覚の発達と障害②
第8回：学習の発達と障害
第9回：言語の発達と障害①
第10回：言語の発達と障害②
第11回：運動の発達と障害①
第12回：運動の発達と障害②
第13回：知的障害以外の発達障害
第14回：障害と支援
第15回：まとめ
第16回：定期試験

授業外の学習方法

各回の講義を受講した後、当該部分の配布資料をよく読んで復習してください。また、予習にあたっても次の授業の内容部分をよく見て、問題意識をもって授業に臨んでください。

成　績　評　価　方　法

定期試験(70%)　平常点(30%)
(平常点は、授業への参加状況、質問用紙の提出状況などを総合して判断します。)

成　績　評　価　基　準

障害の概念、定義について説明することができるか。様々な障害について特定の基準をもとに分類することができるか。知的障害の心理的な諸特徴と支援の方法について説明することができるか。

テキスト、参考図書

講義資料は適宜配布する。

その他(受講上の注意)

障害に対する理解を得たり、疑問点を解決しようとするなど、目的意識をもって受講することを期待します。

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

社会福祉概論 (Survey of Social Welfare)			担当教員	元村　妙子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS−ABC−2476	2単位	4年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　応用科目　産業・社会系

求める学習成果(教育目標)

教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。
人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。
組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

社会保障および、社会福祉とは何かについて考える。現代社会において、福祉は、医療・教育とともに、私たちのよりよい生活に必要不可欠な分野である。その福祉の理念やあゆみ、実践と政策の連関など仕組みと方法を解説し、基礎的な理解を深める。

授業の到達目標

ソーシャルワーク実践と福祉政策の関連性を理解することができる。
社会保障の基礎的な枠組みを理解することができる。
社会福祉の専門職と対象者観について理解を深める。

授　業　の　計　画

第１回：オリエンテーション　福祉とはその語源を探る、学習の仕方の説明等
第２回：社会福祉の援助と専門職
第３回：福祉の視点　他者を援助するとは
第４回：社会福祉の援助と専門技術（１）
第５回：社会福祉の援助と専門技術（２）
第６回：事例から考える児童・家庭福祉
第７回：要保護児童の自立支援
第８回：分野ごとの相談機関と施設
第９回：障がい者の自立支援
第10回：高齢者に対する制度と施設・サービス
第11回：社会福祉のあゆみ　東洋と西洋
第12回：社会保障の形成と現代社会
第13回：日本の社会保障（１）　年金・労働保険
第14回：日本の社会保障（２）　介護保険・公的扶助・社会手当
第15回：日本における公的扶助制度とその運用

授業外の学習方法

日々変化する社会福祉の政策、社会保険の政策動向に関心を向けて、新聞メディア等に注目しておく。
講義で配布するプリントや適宜紹介する参考文献をよみ、福祉とは何かについて、自身の理解を深めること。

成　績　評　価　方　法

レポート試験（60%）　小レポート（40%）

成　績　評　価　基　準

社会福祉および社会保障の理念と政策・実践の連関を理解することができるか。
ソーシャルワーク実践と福祉政策の関連性を理解することができるか。
社会保障の基礎的な枠組みを理解することができるか。
社会福祉の専門職と対象者観について理解を深めるか。

テキスト、参考図書

その他（受講上の注意）
授業の進行順が変更になることもある。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

心理学特別演習Ⅱ (Special Psychology Seminar Ⅱ)			担当教員	大森　慈子、杉島　一郎、西村　則昭、 早川　清一、水田　敏郎、三脇　康生、 森　　俊之、片畑　真由美、久保　陽子、 竹村　明子、水上　喜美子、山本　雅代、 吉水ちひろ、森本　文人
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS−ABC−2482	4単位	4年通年	演習	必修

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　応用科目　特別演習・卒業研究

求める学習成果(教育目標)

教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。
人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。
組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　■計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

卒業研究の計画・実行段階として、心理学特別演習Ⅰで学生自らが設定した課題の解決にむけて、それらを遂行するために考えられる様々なアプローチ方法を立案します。さらに、それらの中から実行が妥当かつ可能なものを選択・吟味していきます。その際に、必要な文献や図書を精読し、発表や議論などを行います。(担当教員によって演習内容は異ります。)

授業の到達目標

自ら設けた研究課題に向けて、研究のアプローチ方法を吟味し選択する能力を身につける。研究を実施できる。研究課題に関連する文献などを適切に講読できる。

授　業　の　計　画

第1回～30回：各担当教員の進め方に沿って取り組んでいく

授業外の学習方法

特別演習Ⅰ同様、各受講生の課題解決に向けて必要と思われる本演習以外の授業を履修し、または以前に受講した授業で関連のある内容について全般的に復習する。

成　績　評　価　方　法

レポートや発表(50%)　平常点(50%)
(レポートや発表の形式は担当教員により異なります。平常点は、授業への参加状況・受講態度などを総合して判断します。)

成　績　評　価　基　準

自ら設けた研究課題に向けて、研究のアプローチ方法を立案し選択する能力を身につけることができたか。研究を実施できたか。研究課題に関連する文献などを適切に講読できたか。

テキスト、参考図書

担当教員から指示されます。

その他(受講上の注意)

担当教員から指示されます。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

卒業研究 (Graduation Research)			担当教員	大森　慈子、杉島　一郎、西村　則昭、 早川　清一、水田　敏郎、三脇　康生、 森　　俊之、片畑　真由美、久保　陽子、 竹村　明子、水上　喜美子、山本　雅代、 吉水ちひろ、森本　文人
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS-ABC-2483	6単位	4年通年	演習	必修

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　応用科目　特別演習・卒業研究

求める学習成果(教育目標)

教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。
人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。
組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　■計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

心理学特別演習Ⅰ・Ⅱを通して学生自らが設定した研究テーマや計画をもとに、研究を進めて卒業論文に仕上げます。

授業の到達目標

心理学研究として適切な課題の設定を行う。妥当な研究の方法を選択する能力を身につける。結果の分析能力とそれらに対して考察する力を身につけ、レポート(論文)としてまとめ発表することができる。

授　業　の　計　画

担当教員の指導に従って取り組んでいきますが、おおむね以下のようなスケジュールになります。

４～５月　課題・研究計画の立案と決定
６～８月　研究の実行
９～10月　結果の分析
11～12月　考察や論文のまとめ
１月下旬～２月上旬　卒業研究発表会
※卒業研究発表会に関しては全学生が同じスケジュールで行われますが、それまでのスケジュールは配属先のゼミにより異なることがあります。

授業外の学習方法

担当の教員から適宜指示されます。

成　績　評　価　方　法

論文(50%)　平常点(40%)　発表(10%)
(平常点は卒業研究と発表への参加・取り組み状況や、取り組む態度などを総合して判断します。)

成　績　評　価　基　準

心理学研究として適切な課題が設定されているか。妥当な研究の方法を選択する能力が身についているか。結果の分析能力とそれらに対して考察する力を身につけ、レポート(論文)としてまとめ発表することができているか。

テキスト、参考図書

担当教員から指示されます。

その他(受講上の注意)

心理学の様々な専門分野から自らがテーマや方法を決めて研究を進めます。４年間の集大成ともいえる研究となります。全力で取り組んでください。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

デザイン運用論 (Design Production and Management)			担当教員	金田　明彦
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Aab−2401	2単位	4年前期	演習	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　企画･表現系

求める学習成果(教育目標)

柔軟な発想力と企画力を身につけるとともに、企画した内容を実行するための、有効かつ実際的なプランを構築する能力を育成する。
テキスト、画像、映像、図、音響、などの素材の特性を活かし、マルチメディアを媒介としたコンテンツ作成能力や表現力を育成する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　■計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

デザインマネジメントの解釈・研究、およびその実践。
前半は「デザイン思考」「デザイン行為」「デザインマネジメント」に関する文献をもとに、レポート発表やテーマに即した討論を実施。後半においては、実践研究を行う。本講座では4年生を対象に、卒業後あらゆる職場でプロとして活躍するために必要な課題解決思考の整理方法やアイデア具現化などを身近なテーマに基づき実践し検証します。

授業の到達目標

本学コミュニケーション学科企画・表現系での学習の総括として位置付け、ビジネスの現場での有効活用が可能な能力を取得する。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーションとデザインマネジメント序論
第2回：デザインマネジメントとは何か
第3回：デザインとは何か
第4回：デザインマネジメントの進化と深化
第5回：コンセプトデザイン
第6回：プロダクトデザイン
第7回：コミュニケーションデザイン
第8回：権利のプロテクト
第9回：デザインマネジメントの導入
第10回：デザインマネジメント導入の実践（1）
第11回：デザインマネジメント導入の実践（2）
第12回：デザインマネジメント導入の実践（3）
第13回：デザインマネジメント導入の実践（4）
第14回：デザインマネジメント導入の実践（5）
第15回：デザインマネジメントの総括
（進行状況により変更の場合あり）

授業外の学習方法

課題に関連する情報や素材の収集など

成　績　評　価　方　法

課題への取組み（50%）　課題成果（30%）　平常点（20%）

成　績　評　価　基　準

【小レポート＆プレゼン評価】
・テーマに関する独自の視点や意見を反映させているか否か（独自思考力）
・プレゼン資料として客観的なデータや資料にもとづく課題分析できているか（情報分析力）
・独自の考えやアイデア構想力が反映できているか（アイデア・発想力）
・自らの考えや意見を情報機器を使って分かり易く伝えることが出来ているか（表現力・デザイン力）
【平常点評価】
・社会人として自立できる意欲を持ち、熱意を持って講義に参加しているか（発言数とその内容）

テキスト、参考図書
必要に応じてレジュメを配布する。
その他（受講上の注意）
「企画・表現系」応用科目において習得してきたスキルや知識の集大成をする姿勢で臨むこと。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英語学研究Ⅰ（語用論） （English Linguistics Ⅰ）			担当教員	矢橋　知枝
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Bdd−2301	2単位	3年前期･4年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　英語コミュニケーション系

求める学習成果（教育目標）

言語としての英語について、深い知識を身につけるとともに、異文化理解能力を高め、国際感覚豊かな人材の育成を目指す。

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

英語における語用論を学ぶ。

授業の到達目標

英語の発話を語用論的手法を用いて理解する。

授　業　の　計　画

第１回：オリエンテーション
第２回：直示と距離①
第３回：直示と距離②
第４回：指示と推論①
第５回：指示と推論②
第６回：前提と含意①
第７回：前提と含意②
第８回：協調と推意①
第９回：協調と推意②
第10回：言語行為と言語事象①
第11回：言語行為と言語事象②
第12回：ポライトネスと相互行為①
第13回：ポライトネスと相互行為②
第14回：会話と優先構造
第15回：まとめ

授業外の学習方法

予習として、各回に関連する資料を読み、あらかじめ疑問点を考えておくこと。また復習としては授業時の板書やハンドアウトに基づいて、各自のノートに授業内容をまとめておくこと。

成　績　評　価　方　法

期末レポート（50％）　授業内レポート（30％）　平常点（20％）
（平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

英語の発話を、語用論的手法で分析することができるか。

テキスト、参考図書

テキストは使用せず、適宜ハンドアウトを配布する。

その他（受講上の注意）

遅刻３回で欠席１回とみなす。必ず英和辞書（電子辞書可）を持参すること。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英米文学研究ｂ (English and American Literature b)			担当教員	原口　治
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Bdd−2401	２単位	４年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　英語コミュニケーション系

求める学習成果（教育目標）

言語としての英語について、深い知識を身につけるとともに、異文化理解能力を高め、国際感覚豊かな人材の育成を目指す。

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

イギリス文学史上最も著名な作家と言っても過言ではない、ウィリアム・シェイクスピアの作品の原典（抜粋）を味読することで、英語文学の鑑賞を行なう。また、作品の政治、文化的背景等の知識を深めることで,イギリス文学および文化研究の基礎的能力を育成する．なお、DVDやVTR等の視聴覚、音声教材等も出来る限り利用する。

授 業 の 到 達 目 標

文学作品における登場人物等の研究を通して、自他の個性の多様性を理解する。また、この理解力をもとに、多様な集団・組織の中でのコミュニケーション能力の育成を目指す。さらに、課題作成や定期試験により、様々な情報の収集および選択能力の養成を図る。以上のプロセスにより、一定の自己成長を果たしていくことを本講義の到達目標とする。

授　業　の　計　画

第１回：テキストＰ　３～Ｐ174　本講義のガイダンス、図書館ガイダンス
第２回：テキストＰ 22～Ｐ 23・Ｐ 24～Ｐ 25・Ｐ 74～Ｐ　75 『ロミオとジュリエット』
第３回：テキストＰ 14～Ｐ 16　『お気に召すまま』
第４回：テキストＰ 40～Ｐ 41　『マクベス』
第５回：テキストＰ 54～Ｐ 61　『ジュリアス・シーザー』
第６回：テキストＰ 78～Ｐ 82・Ｐ 62～Ｐ 65 『ハムレット』
第７回：テキストＰ102～Ｐ103　『オセロ』
第８回：テキストＰ 32～Ｐ 33・Ｐ 72～Ｐ 73 『ヴェニスの商人』
第９回：テキストＰ 22～Ｐ 23・Ｐ 34～Ｐ 37 『恋の骨折り損』、『ヘンリー４世第１部』
第10回：テキストＰ 44～Ｐ 47　『ヘンリー５世』
第11回：テキストＰ 92～Ｐ 93　『十二夜』
第12回：テキストＰ 66～Ｐ 69・Ｐ 82～Ｐ 83 『リヤ王』
第13回：テキストＰ114～Ｐ115・Ｐ118～Ｐ119 『ソネット集』
第14回：テキストＰ168～Ｐ171　『あらし』、『夏の夜の夢』
第15回：テキストＰ　３～Ｐ174　本講義のまとめ、定期試験準備
第16回：定期試験

授 業 外 の 学 習 方 法

予習として、上記の「授業の計画」で指定したテキストの範囲を読み、あらかじめ疑問点等を各自のノートにまとめておくこと。また、復習としては、課題作成と定期試験準備に重点を置いて、各自のノートに講義内容をまとめておくこと。

成　績　評　価　方　法

定期試験 70％
課題（講義内容に関する任意のテーマについてのもの、計２回）　30（１課題につき15％）％
以上を総合的に評価し、60％以上の評価の場合に限り、本講義履修単位の習得とする。

成　績　評　価　基　準

文学作品における登場人物等の研究を通して、自他の個性の多様性を理解しているか。
イギリス文学に関する様々な情報の収集および選択能力の向上が図れているか。

テキスト、参考図書
荒井　良雄（他）・『シェイクスピア名セリフ集』・朝日出版社・2013年
その他（受講上の注意）
特になし
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

ビジネス英語研究ｂ (Studies on Business English b)			担当教員	澤崎　敏文
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Bcc−2401	2単位	4年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　英語コミュニケーション系

求める学習成果(教育目標)

英語でのプレゼンテーション力やディスカッション力を高め、メッセージをグローバルに発信できるコミュニケーション能力を育成する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

ペア、グループなど多様な学習形態を取り入れて、ビジネス（経営、SWOT分析、Positioning分析、Marketing Mix等のマーケティング）について英語で学ぶスタイルをとる。LMSやインターネット等を授業教材として活用し、学生主体の活動を中心に行う。

授業の到達目標

英語でビジネスケースを読み、それらを経営的な観点から分析することができる。
分析した課題に対応した解決策を考え、自分の考えを英語で表現することができる。
職務上でのやり取り・議論を英語でスムーズに行うことができる。

授　業　の　計　画

第１回：Introduction / Business English
第２回：Business Case １：Analysis and discussion
第３回：Business Case １：Value Chain / Basic of Accounting
第４回：Business Case １：Short presentation
第５回：Business Case ２：Analysis and discussion
第６回：Business Case ２：Marketing Mix and Product Portfolio Management
第７回：Business Case ２：Short presentation
第８回：Review / Skills for Negotiation
第９回：Business Case ３：Analysis and discussion
第10回：Business Case ３：Strategy for a new emerging market
第11回：Business Case ３：Short presentation
第12回：Review / Skills for Negotiation
第13回：Discussion for Business Presentation
第14回：Business Presentation 1
第15回：Business Presentation 2

授業外の学習方法

予習として、教科書の各回の内容を事前に読み、内容を理解したうえで、分析シート（Analysis）を提出。授業終了後は各自の意見等を提案要旨（Executive Summary）としてまとめ、提出・議論してもらいます。単語、熟語等の学習は予習、復習として実施すること。

成　績　評　価　方　法

授業への積極的参加および授業毎の発表内容20%
レポートおよび小テスト等の課題 50%　最終発表30%

成　績　評　価　基　準

英語でのビジネス事例を読み、ビジネス的な考え方に基づいた自分の意見を英語で表現できるか。

テキスト、参考図書

『Moving ahead in the 21st Century：12 Forward-looking Companies』　松柏社　2009年

その他(受講上の注意)

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

現代社会特論Ⅰ (Advanced Lectures in Sociology Ⅰ)			担当教員	安彦　智史
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Cgg−2401	2単位	4年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　現代社会系

求める学習成果(教育目標)

現代社会の情報の洪水のなかで、自分なりに課題を析出し、明らかにしていくための、グローバルな視点を育てる。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

本講義では、現代社会での「教育」、「経済」、「政治」、「メディア」を題材とし、その成り立ちや仕組みについて理解を深める．また、その中で多角的な視点から物事を把握できる力の養成と論理的な思考トレーニングを行う.

授業の到達目標

グローバルな視点から現代社会の諸問題を把握し、捉えなおす力を身につける。

授　業　の　計　画

第１回：現代社会と教育の歴史～プロイセン教育から今日へ至るまで～
第２回：現代社会とメディア①～グローバル化するメディア～
第３回：現代社会とメディア②～ソーシャルメディアは新しい？～
第４回：複雑化する通信サービス①（グループワーク・フィールド調査）
第５回：複雑化する通信サービス②（グループワーク・フィールド調査）
第６回：複雑化する通信サービス③（発表）
第７回：現代社会の安心安全～インターネットの観点から～
第８回：現代社会と政治①～各政党は今どこを目指しているのか～（グループワーク・フィールド調査）
第９回：現代社会と政治②～各政党は今どこを目指しているのか～（グループワーク・フィールド調査）
第10回：現代社会と政治③～各政党は今どこを目指しているのか～（発表）
第11回：現代社会とこれからの社会（ディスカッション）
第12回：現代社会の諸問題①
第13回：現代社会の諸問題②
第14回：現代社会の諸問題③
第15回：まとめ
第16回：定期試験

授業外の学習方法

新聞を日々読み、現代に起きている様々な問題（イスラム紛争、移民問題、少子化問題、メディアリテラシー、国内政治）について目を向け、その背景や主張について日々考えてください。

成　績　評　価　方　法

授業中のグループワークでの発言と各グループの発表（１グループ15分程度×２）の内容および日々の発言内容等を平常点とし、定期試験と併せて総合的に評価する。
定期試験（50%）　小レポート（30%）　平常点（20%）（平常点はグループでの発表、ディスカッションの参加度を加味して総合的に判断する）

成　績　評　価　基　準

現代社会の成り立ちについて理解し、現代日本が抱えている問題を自分の言葉で説明することができるか。

テキスト、参考図書

必要に応じて、プリントの配布、参考文献・テキストの指示などを行う。

その他(受講上の注意)

グループワーク主体であるため、授業の出席は必須事項.

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

現代社会特論Ⅱ (Advanced Lectures in Sociology Ⅱ)			担当教員	安彦　智史
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Cfg−2401	2単位	4年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　現代社会系

求める学習成果(教育目標)

思想と歴史を段階的かつ学際的に学ぶことによって、実践知・専門知のみに偏らない教養・知・文化理解を獲得する。現代社会の情報の洪水のなかで、自分なりに課題を析出し、明らかにしていくための、グローバルな視点を育てる。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

本学科の卒業論文執筆をにらみ、近代・現代社会を分析、考察、記述するための論理的思考力および論理的表現力を、さまざまな事例をもとに考察する実践的な論理学講義である。論文を書くとは、事例や着想は面白いがそれをどのように論証し、表現し、検証するのかについて、学生１人１人が悩みながら執筆する行為である。そこで、論理学の基礎トレーニングをくり返し、実際の論文でその論理がどのように用いられ、表現されているのか、論文の構成はどうなっているのかを学び、卒業論文に活かすことを目的とする。

授業の到達目標

論理学の基礎を習得し、論文を執筆できること。その論文が反証可能性を備えた内容になっていること。

授　業　の　計　画

第１回：主体、客体、対象化
第２回：目的と手段、因果関係
第３回：上位—下位概念、価値判断排除
第４回：意識と無意識、部分と全体
第５回：接続関係と構造
第６回：議論の組み立て
第７回：論証の構造と評価
第８回：演繹と推測、価値評価
第９回：否定、条件構造
第10回：推論の技術、包含関係
第11回：論証構造及び表現のチェック
第12回：先行研究の論理と自説の展開の整合性のチェック
第13回：批判的に読む①—卒業論文口頭試問に向けて
第14回：批判的に読む②—卒業論文口頭試問に向けて
第15回：論理学的思考を日常生活に生かすには—社会人としての第１歩を踏み出すにあたって

授業外の学習方法

受講生の卒業論文のテーマを鑑みつつ、講義内で取り扱う先行研究（論文）を選ぶこともあるので、論文の巻末に示された参考文献リストに示された論考を、積極的かつ批判的に読んでいくこと。次に、講義内容を論文にどのように応用するのかを考えること。講義内容の復習→論文への応用可能性の検討→講義→さらに論文の応用可能性の検討、この繰り返しにより、卒業論文のクオリティを高める結果を生むことを期待する。

成　績　評　価　方　法

講義中に行う論理学実践演習（リアクションペーパー、出欠を兼ねる）60％、学期末レポート40％

成　績　評　価　基　準

論理学の基礎に基づき、論文執筆を遂行すること。毎回の論理学実践演習時の記載内容とその理解・定着度。

テキスト、参考図書

なし。参考図書等は授業中に指示する。

その他(受講上の注意)

真摯に学ぶ学生に対して、悪影響を与える学生には、単位を与えない。

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

コミュニケーション特別演習Ⅱａ (Special Seminar in Communication Ⅱa)			担当教員	大河　晴美、金田　明彦、紺渡　弘幸、 ＭＬ　スプリチャル、矢橋　知枝、 加藤　優子、島岡　　哉、升田　法継、 山中　千恵、安彦　智史、織田　暁子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-Zzz-2401	2単位	4年前期	演習	必修

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　特別演習・卒業研究

求める学習成果(教育目標)

各系で身につけた能力を演習のなかでより深め、卒業研究につなげる。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　■計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

英語コミュニケーション、企画・表現、現代社会に関して、適切な研究・実践課題設定を行う。

授業の到達目標

英語コミュニケーション、企画・表現、現代社会に関して、卒業研究で取り組むための適切な研究・実践課題設定を行えるようになる。

授　業　の　計　画

概ね以下の通りだが、各担当教員の演習テーマを考慮した指導に従って取り組む。

４～５月　受講生自身のテーマについて理解を深めるための研究・実践
６～８月　受講生自身のテーマについて適切な分析を進めるための研究・実践

授業外の学習方法

担当の教員から適宜指示があります。

成　績　評　価　方　法

平常点（100％）
平常点は演習への取り組み状況やその態度などから総合的に判断します。

成　績　評　価　基　準

英語コミュニケーション、企画・表現、現代社会に関して、卒業研究で取り組むための適切な研究・実践課題設定を行えるようになっているか。

テキスト、参考図書

担当教員から適宜指示されます。

その他(受講上の注意)

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

コミュニケーション特別演習Ⅱｂ (Special Seminar in Communication Ⅱb)			担当教員	大河　晴美、金田　明彦、紺渡　弘幸、 ＭＬ　スプリチャル、矢橋　知枝、 加藤　優子、島岡　　哉、升田　法継、 山中　千恵、安彦　智史、織田　暁子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-Zzz-2411	２単位	４年後期	演習	必修

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　特別演習・卒業研究

求める学習成果（教育目標）

各系で身につけた能力を演習のなかでより深め、卒業研究につなげる。

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　■計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

英語コミュニケーション、企画・表現、現代社会に関して、分析や実践の結果を考察しまとめる。

授業の到達目標

英語コミュニケーション、企画・表現、現代社会に関して、卒業研究で取り組むための分析や実践の結果を考察し、まとめられるようになる。

授　業　の　計　画

概ね以下の通りだが、各担当教員の演習テーマを考慮した指導に従って取り組む。

９～11月　受講生自身のテーマについて分析結果の考察を行う。
12～２月　受講生自身のテーマについて説得的に伝えられるようにまとめる。

授業外の学習方法

担当の教員から適宜指示があります。

成　績　評　価　方　法

平常点（100％）
平常点は演習への取り組み状況やその態度などから総合的に判断します。

成　績　評　価　基　準

英語コミュニケーション、企画・表現、現代社会に関して、卒業研究で取り組むための分析や実践の結果を考察し、まとめられるようになっているか。

テキスト、参考図書

担当教員から適宜指示されます。

その他（受講上の注意）

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

卒業研究 (Graduation Research)			担当教員	大河　晴美、金田　明彦、紺渡　弘幸、 ＭＬ　スプリチャル、矢橋　知枝、 加藤　優子、島岡　　哉、升田　法継、 山中　千恵、安彦　智史、織田　暁子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Zzz−2402	6単位	4年通年	演習	必修

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　特別演習・卒業研究

求める学習成果(教育目標)

各系で身につけた能力を演習のなかでより深め、卒業研究につなげる。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　■計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

コミュニケーション学特別演習Ⅰ・Ⅱを通して学生が自ら設定した研究テーマや計画をもとに、研究を進めこれまでの研究や実践の集大成とします。

授業の到達目標

英語コミュニケーション、企画・表現、現代社会に関して、適切な課題設定を行えるようになる。設定した課題について分析研究や実践を行うための方法を適切に選択できるようになる。分析や実践の結果を考察し、まとめることが出来るようになる。

授　業　の　計　画

概ね以下の通りだが、担当教員による学生個人の進み具合を考慮した指導に従って取り組む。

４～５月　研究・実践のテーマと研究計画の決定
６～８月　研究・実践の実行
９～10月　結果の分析考察
11～12月　卒業研究の仕上げ
１～２月　口頭試問

授業外の学習方法

担当の教員から適宜指示があります。

成　績　評　価　方　法

卒業研究成果物(60%)　口頭試問(20%)　平常点(20%)
平常点は卒業研究への取り組み状況やその態度などを総合的に判断します。

成　績　評　価　基　準

英語コミュニケーション、企画・表現、現代社会に関して、適切な課題設定を行ええているか。設定した課題について分析研究や実践を行うための方法を適切に選択されているか。分析や実践の結果を考察し、まとめることが出来ているか。

テキスト、参考図書

担当教員から適宜紹介されます。

その他(受講上の注意)

4年間の研究・実践の集大成となるものなので、しっかりとした計画をもとに研究を進めることが重要になります。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

教職論 (Theory of Teacher Education)			担当教員	高野　秀晴
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Bee−2201	2単位	2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部特設科目　教職に関する専門科目

求める学習成果(教育目標)

次世代の英語コミュニケーション能力育成に携わるすぐれた知識と技能を持つ人間性豊かな中学校・高等学校の英語教員を育成する。

授　業　の　内　容

教員とは、どのような役割を期待され、どのような環境で、どのような仕事をしているのか。本授業では、この問題に主に社会的・法的見地から考察する。また、様々な教師像を事例研究を通して考察することにより、受講生各自がよりよい教職像を展望するとともに、よりよい教職像に近づくために何をすべきかを模索する機会としたい。

授業の到達目標

教職の意義と役割を法的、社会的な見地から説明できる。
教員の職務内容を法的な見地から説明できる。
よりよい教職像を自分なりに展望することができる。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション
第2回：教師はどのような仕事をしているのか
第3回：よい教師とはどのような教師なのか
第4回：教師像の諸相―聖職者、労働者、専門家―
第5回：教師の権力と権威
第6回：教師の愛と暴力
第7回：どうすればよい教師になれるのか
第8回：教員養成制度について
第9回：教員養成の歴史
第10回：教員に求められる専門性とは何か
第11回：教員を取り巻く法律、制度（1）―身分について―
第12回：教員を取り巻く法律、制度（2）―服務について―
第13回：教員を取り巻く法律、制度（3）―任用について―
第14回：教員を取り巻く法律、制度（4）―研修について―
第15回：まとめ
第16回：定期試験

授業外の学習方法

「よい教師とはどのような教師か？」「教職課程とは何のためにあるのか？」という問いを常に抱きながら学習することが求められる。具体的には、図書館にある教職に関する書物（教職経験者が書いた本や教職の使命について書いた本など）を最低3冊は読破する必要がある。

成　績　評　価　方　法

定期試験（70%）
平常点（30%）
（平常点は、授業への参加状況と、授業時の課題の内容をもとに判断する。）

成　績　評　価　基　準

教職の意義と役割を法的、社会的な見地から説明できるか。
教員の職務内容を法的な見地から説明できるか。
よりよい教職像を自分なりに展望することができるか。

テキスト、参考図書

プリントを配布する。

その他(受講上の注意)

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

教育原理 (Principles of Education)			担当教員	高野　秀晴
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Bee−2111	2単位	1年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部特設科目　教職に関する専門科目

求める学習成果(教育目標)

次世代の英語コミュニケーション能力育成に携わるすぐれた知識と技能を持つ人間性豊かな中学校・高等学校の英語教員を育成する。

授　業　の　内　容

私たちは、誰もが教育を受けた経験があるがゆえに、教育について考える際に、自らの経験のみに依拠してしまうことになりがちである。本授業では、西洋、日本それぞれの教育の歴史、とりわけ学校の歴史を概観することを通じて、教育の理念について考察を深める機会とする。今日の学校教育とはまったく異なる教育のあり方に目を向けることにより、自らの経験のみに依拠することなく教育について考察する力量の形成を目指す。そのうえで、学校教育の役割や意義を体系的に理解することが本授業の目標となる。

授業の到達目標

西洋および日本における学校の歴史を体系的に概説することができる。
教育に関する諸問題を経験のみに依拠することなく、理論的に考察できる。
学校教育の役割や意義を体系的に説明することができる。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション
第2回：ヨーロッパにおける学校の歴史
第3回：すべての者に教育を　コメニウスについて
第4回：子どもの発見　ルソーについて
第5回：自律という問題　ペスタロッチ、カント、ヘルバルトについて
第6回：一斉教授成立史　モニトリアル・システムについて
第7回：教育における自由とは何か　デューイについて
第8回：日本における塾と学校の歴史
第9回：日本における義務教育制度成立史
第10回：「教育を受ける権利」について
第11回：教育における平等とは何か
第12回：個性とは何か
第13回：人権と教育
第14回：教育行政のしくみ
第15回：まとめ
第16回：定期試験

授業外の学習方法

教育について自ら考察してみようとしない限り、この授業の意味はほとんど感じ取れないのではないかと思う。教育に関することなら何でもいいので、自ら調べ、考えをまとめ、記述してみる作業が必要である。参考文献をこまめに提示するので、最低2冊は読破するつもりで臨んでもらいたい。

成　績　評　価　方　法

定期試験(論述問題含む)(70%)
平常点(30%)
(平常点は、授業への参加状況、および授業時の課題の内容をもとに判断する。)

成　績　評　価　基　準

西洋および日本における学校の歴史を体系的に概説することができるか。
教育に関する諸問題を経験のみに依拠することなく、理論的に考察できているか。
学校教育の役割や意義を体系的に説明することができるか。

テキスト、参考図書

プリントを配布する。

その他（受講上の注意）
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

教育心理学 (Educational Psychology)			担当教員	杉島　一郎
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Bee−2202	2単位	2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部特設科目　教職に関する専門科目

求める学習成果(教育目標)

次世代の英語コミュニケーション能力育成に携わるすぐれた知識と技能を持つ人間性豊かな中学校・高等学校の英語教員を育成する。

授　業　の　内　容

教育心理学は、幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程(障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。)を学ぶが、このうち主として中高を中心としながらも広く児童生徒の発達と学習の過程を論じる。

授業の到達目標

・学校教育の場において、子どもの教育と学習に関する教育方法や関わり方、子どもの心理面について教育心理学の基礎理論を学び、方法を適用できるようにする。
・子どもの記憶について理解し、記憶を定着させる教授法を学ぶ。
・乳幼児期から青年期にかけての発達段階を理解し、児童及び生徒の心理を理解し、指導法を考える力を身につける。
・児童、生徒の学級内の集団力学について知る方法を身につける。
・障害を持った幼児、児童及び生徒を理解する。

授　業　の　計　画

第1回：教育心理学とは
第2回：教育心理学の歴史
第3回：生涯発達の基礎的過程
第4回：自己と社会性の発達
第5回：発達における障害
第6回：コミュニケーションの障害と学習障害
第7回：児童期および青年期における適応と障害
第8回：学習の基礎的過程
第9回：記憶と思考
第10回：知能
第11回：教授・学習過程
第12回：発達と学習の支援
第13回：教育評価と測定、指導要録
第14回：学級という社会
第15回：生徒理解と特別支援教育
第16回：定期試験

授業外の学習方法

入手しやすい関連図書や論文を紹介し、いくつかは解説を加えるので、自学自習して理解を深めること。

成　績　評　価　方　法

毎回行うブリーフレポート(20%)、定期試験(80%)

成　績　評　価　基　準

・子どもの記憶について理解し、記憶を定着させる教授法を学べているか。
・乳幼児期から青年期にかけての発達段階を理解し、幼児、児童及び生徒の心理を理解し、指導法を考える力を身につけているか。
・児童生徒の学級内の集団力学について知る方法を身につけているか。
・障害を持った幼児、児童及び生徒を理解しているか。

テキスト、参考図書

テキスト：『よくわかる学校教育心理学』 ミネルヴァ書房　2010年
参考図書：適宜関連図書や論文を紹介する。

その他（受講上の注意）
教職科目であるため、受け身的に受講するのではなく、常に自らが教壇に立った場合を想像して授業に臨むこと。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

教育経営論 (Educational Administration)			担当教員	奥谷　崇
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Bee−2301	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部特設科目　教職に関する専門科目

求める学習成果(教育目標)

次世代の英語コミュニケーション能力育成に携わるすぐれた知識と技能を持つ人間性豊かな中学校・高等学校の英語教員を育成する。

授　業　の　内　容

我が国では、地域や家庭の教育力が低下し、教育を巡る困難な教育課題が混迷の度を深めている。1日も早い教育課題の解決が望まれている今日、我が国の様々な教育課題や時事問題を取り上げ、問題の本質を理解し、解決について集団討議をもとに課題解決策を探る。今日の教育課題の解決に果敢に挑む教育観と教師としての力量を養う。授業をとおして人間関係力、自己表現力、集団討論力を体得する。

授業の到達目標

教育課題の原因と解決法について自分の意見を出し合い、意欲的に議論し合うことができる。
教育課題について自分の考えをわかり易くは発表することができる。
時事問題に関心をもち、特に教育的課題について自分の考えをもち議論し合うことができる。

授　業　の　計　画

第1回：自他の追究課題を把握する
第2回：わが国の教育課題について
第3回：いじめと非行
第4回：不適応と不登校
第5回：学級崩壊と校内暴力
第6回：モンスターペアレントと親
第7回：学級担任と学校組織
第8回：授業と学校行事
第9回：問題解決への挑戦
第10回；子どもの成長
第11回：現職教育と研究授業
第12回：開かれた学校と学校評価
第13回：学校教育と家庭教育と社会教育
第14回：自己課題の解明と共通理解
第15回：まとめ

授業外の学習方法

予習として新聞記事の中から関心のある教育記事を探し、自分の考えや疑問点をまとめる。また、復習として話し合った新聞記事での意見交換のポイントを整理し、課題についての自分の考えの深まりや新たな疑問をまとめる。

成　績　評　価　方　法

レポート(70%)
平常点(30%)
平常点は、出席状況、受講態度、受講ノート等を総合して判断する

成　績　評　価　基　準

時事問題について自分の意見をまとめ発表することができる。
仲間の発表を聞き、意欲的に話し合いをすることができる。
話し合い、講義を通して自分の考えの深まりをまとめることができる。

テキスト、参考図書

「小学校学習指導要領解説(総則編)」文部科学省、東洋館出版社、2008年

その他(受講上の注意)

私語・無気力厳禁。

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

教育課程・特別活動論 (Theory of Education Curriculum)			担当教員	高野　秀晴
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Bee−2211	2単位	2年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部特設科目　教職に関する専門科目

求める学習成果(教育目標)

次世代の英語コミュニケーション能力育成に携わるすぐれた知識と技能を持つ人間性豊かな中学校・高等学校の英語教員を育成する。

授　業　の　内　容

教育課程とは、学習指導要領によって示される基準にもとづいて、各学校が編成する教育計画のことである。その計画には、各教科の授業計画だけではなく、教科外の活動(特別活動、総合的な学習の時間、など)の計画も含まれる。また近年では、この計画をよりよいものにするべく、評価、改善していくプロセスも教育課程編成の一環とみなされるようになっている。以上をふまえて、この授業では、①学習指導要領について、②特別活動、総合的な学習の時間について、③様々な教育評価について、の三つのテーマを取り上げる。

授業の到達目標

現行学習指導要領の内容を説明できる。
特別活動および総合的な学習の時間の意義と役割について説明できる。
教育評価にはどのような種類、方法があるのかについて説明できる。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション　教育課程とは何か
第2回：学習指導要領とは何か
第3回：学習指導要領を読む(1)　第一章「総則」前半
第4回：学習指導要領を読む(2)　第一章「総則」後半
第5回：学習指導要領の歴史的変遷(1)　1940年代後半
第6回：学習指導要領の歴史的変遷(2)　1950〜60年代
第7回：学習指導要領の歴史的変遷(3)　1970〜80年代
第8回：学習指導要領の歴史的変遷(4)　1990年代以降
第9回：学力とは何か
第10回：教育評価について　何のための評価なのか
第11回：学習指導要領を読む(3)　総合的な学習の時間、特別活動
第12回：特別活動、総合的な学習の時間の意義と課題
第13回：特別活動、総合的な学習の時間の実践例
第14回：特別活動、総合的な学習の時間の評価について
第15回：まとめ
第16回：定期試験

授業外の学習方法

学習指導要領第一章「総則」を繰り返し読み直すことが求められる。
情報量が多い授業なので、毎時後の見直し、復習が必要となる。

成　績　評　価　方　法

定期試験(80%)
平常点(20%)
(平常点は、授業への参加状況と授業時の課題の提出状況により判断する)

成　績　評　価　基　準

現行学習指導要領の内容を逐語的に理解しているか。
特別活動および総合的な学習の時間の意義と役割について説明できるか。
教育評価にはどのような種類、方法があるのかについて説明できるか。

テキスト、参考図書

プリントを配布する。

その他(受講上の注意)

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英語科教育法Ⅰ (English Language Teaching Methodology Ⅰ)			担当教員	フッド　晴美
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Bee−2203	2単位	2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部特設科目　教職に関する専門科目

求める学習成果(教育目標)

次世代の英語コミュニケーション能力育成に携わるすぐれた知識と技能を持つ人間性豊かな中学校・高等学校の英語教員を育成する。

授　業　の　内　容

1. 英語教育の目的について考え、英語でディスカッションする。
2. 言語習得について様々な先行研究についての知識および理解を深め、英語でディスカッションする。
3. 様々な外国語教授法について知識及び理解を深め、英語でディスカッションする。

授業の到達目標

1. 学校教育における英語教育の目的について明確に理解でき、英語で自分の考えを述べることができる。
2. 様々な言語習得理論について知識を得、理解ができ、英語で自分の考えを述べることができる。
3. 様々な外国語教授法について知識を得、理解ができ、英語で自分の考えを述べることができる。

授　業　の　計　画

第1回：Introduction
第2回：Purposes of English Language Education
第3回：The Course of Study
第4回：The Components of Communication Abilities 1
第5回：The Components of Communication Abilities 2
第6回：Theories of Language Acquisition 1
第7回：Theories of Language Acquisition 2
第8回：Foreign Language Teaching Methodologies & Approaches 1
第9回：Foreign Language Teaching Methodologies & Approaches 2
第10回：Foreign Language Teaching Methodologies & Approaches 3
第11回：Autonomous learning
第12回：Psychological Aspects of Foreign Language Learning
第13回：Teaching Procedures 1
第14回：Teaching Procedures 2
第15回：Review

授業外の学習方法

1. 予習として、テキストをよく読み、授業のテーマについて考えてくること。英語で自分の考えを発言する練習をしてくると良い。
2. 授業のテーマについて理解を深めるためのエッセイ課題が出るので、授業の内容をよく復習して取り組むこと。

成　績　評　価　方　法

授業での活動およびエッセイ課題40%、小テスト30%、レポート30%

成　績　評　価　基　準

1. 学校教育における英語教育の目的について明確に理解でき、英語で自分の考えを述べることができるか。
2. 様々な言語習得理論について知識を得、理解ができ、英語で自分の考えを述べることができるか。
3. 様々な外国語教授法について知識を得、理解ができ、英語で自分の考えを述べることができるか。

テキスト、参考図書

(1)『統合的英語科教育法』　村野井仁他共著　成美堂　2012年
(2)『現場で使える教室英語』　吉田研作他著　三修社　2012年

その他(受講上の注意)

英和辞書、英英辞書を必ず持参する。

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英語科教育法Ⅱ (English Language Teaching Methodology Ⅱ)			担当教員	フッド　晴美
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Bee−2212	2単位	2年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部特設科目　教職に関する専門科目

求める学習成果(教育目標)

次世代の英語コミュニケーション能力育成に携わるすぐれた知識と技能を持つ人間性豊かな中学校・高等学校の英語教員を育成する。

授　業　の　内　容

1. 学習指導過程および評価について考え、英語でディスカッションする。
2. 小学校での『外国語活動』、小・中・高・大の英語教育の連携、異文化理解教育について考え、英語でディスカッションする。
3. 英語教員として成長し続けるために何をすべきか、何ができるか考え、英語でディスカッションする。

授業の到達目標

1. 学習指導過程および評価について考え、英語でディスカッションできる。
2. 小学校での『外国語活動』、小・中・高・大の英語教育の連携、異文化理解教育について考え、英語でディスカッションできる。
3. 英語教員として成長し続けるために何をすべきか、何ができるか考え、英語でディスカッションできる。

授　業　の　計　画

第1回：Introduction
第2回：Teaching Plan 1
第3回：Teaching Plan 2
第4回：Teaching Plan 3
第5回：Teaching Plan 4
第6回：Assessment 1
第7回：Assessment 2
第8回：Assessment 3
第9回：Assessment 4
第10回：Foreign Language Activities in Elementary Schools 1
第11回：Foreign Language Activities in Elementary Schools 2
第12回：Cross-Cultural Education in English Classes
第13回：Teacher Training
第14回：Review 1
第15回：Review 2

授業外の学習方法

1. 予習として、テキストをよく読み、授業のテーマについて考えてくること。英語で自分の考えを発言する練習をしてくる。
2. 授業のテーマについて理解を深めるためのエッセイ課題が出るので、授業の内容をよく復習して取り組むこと。

成　績　評　価　方　法

授業での活動およびエッセイ課題40%、小テスト30%、レポート30%

成　績　評　価　基　準

1. 学習指導過程および評価について考え、英語でディスカッションできるか。
2. 小学校での『外国語活動』、小・中・高・大の英語教育の連携、異文化理解教育について考え、英語でディスカッションできるか。
3. 英語教員として成長し続けるために何をすべきか、何ができるか考え、英語でディスカッションできるか。

テキスト、参考図書

（1）『統合的英語科教育法』　村野井仁　他　成美堂　2012年
（2）『改訂版英語教育用語辞典』　白畑知彦　他　大修館書店　2011年
（3）『現場で使える教室英語』　吉田研作他著　三修社　2012年

その他（受講上の注意）
英和辞書、英英辞書を必ず持参する。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英語科教育法Ⅲ (English Language Teaching Methodology Ⅲ)			担当教員	紺渡　弘幸
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Bee−2302	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部特設科目　教職に関する専門科目

求める学習成果(教育目標)

次世代の英語コミュニケーション能力育成に携わるすぐれた知識と技能を持つ人間性豊かな中学校・高等学校の英語教員を育成する。

授　業　の　内　容

英語の授業を行う際によりどころとなる教授理論について理解を深めるとともに、具体的な指導事例の検討を通して効果的な指導法を学ぶ。さらに、個別に学習指導案を作成し、模擬授業を実施する機会を持つ。模擬授業の検討・評価を通して、実践的な指導力を身につけ、教育実習への準備とする。

授業の到達目標

1. 授業準備に必要な事柄について理解する。
2. 学習指導案の書き方を理解し、作成できる。
3. 授業の組み立ての基本を理解する。
4. 基本的な指導法や指導技術を理解し、活用できるようにする。
5. 授業評価の観点を知り、客観的に授業を評価できる。
6. 模擬授業を通して、実際に指導できるようにする。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション、教育実習に臨んで、模擬授業の準備(1)
第2回：授業準備、観察参加、模擬授業の準備(2)
第3回：指導案の作成、模擬授業の準備(3)
第4回：授業案(1)―中学校編、模擬授業の準備(4)①
第5回：授業案(1)―中学校編、模擬授業の準備(4)②
第6回：授業案(2)―高等学校編、模擬授業の準備(5)①
第7回：授業案(2)―高等学校編、模擬授業の準備(5)②
第8回：授業の工夫(1)―Warm-up とReview、模擬授業、検討と評価(1)
第9回：授業の工夫(2)―文法・文型の導入、模擬授業、検討と評価(2)
第10回：授業の工夫(3)―文法・文型の練習と発展活動、模擬授業、検討と評価(3)
第11回：授業の工夫(4)―語彙の導入と指導、模擬授業のまとめ(1)
第12回：授業の工夫(5)―本文の読解指導、模擬授業、検討と評価(4)
第13回：教育機器等の活用、模擬授業、検討と評価(5)
第14回：教室管理、Team Teaching、模擬授業、検討と評価(6)
第15回：授業の評価と実習のまとめ、模擬授業のまとめ(2)
第16回：定期試験

授業外の学習方法

テキストの予習・復習を行うとともに、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能を高めるよう自主的な学習を行う。

成　績　評　価　方　法

定期試験(50%)、課題・小テスト・模擬授業(35%)、平常点(15%)
(平常点は、授業への参加状況から判断します。)

成　績　評　価　基　準

1. 授業準備に必要な事柄について理解できているか。
2. 学習指導案の書き方を理解し、作成できるか。
3. 授業の組み立ての基本を理解できているか。
4. 基本的な指導法や指導技術を理解し、活用できるか。
5. 授業評価の観点を知り、客観的に授業を評価できるか。
6. 模擬授業を通して、実際に指導できるようになったか。

テキスト、参考図書
（１）『英語科教育実習ハンドブック（改訂版）』　米山朝二、杉山敏、多田茂著　大修館書店　2013年 （２）『英語教育用語事典』　白畑知彦他著　大修館書店　2012年
その他（受講上の注意）
主体的な学習を通して、教師に必要な指導力を身につけることを期待する。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英語科教育法Ⅳ (English Language Teaching Methodology Ⅳ)			担当教員	紺渡　弘幸
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Bee−2311	2単位	3年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部特設科目　教職に関する専門科目

求める学習成果(教育目標)

次世代の英語コミュニケーション能力育成に携わるすぐれた知識と技能を持つ人間性豊かな中学校・高等学校の英語教員を育成する。

授　業　の　内　容

コミュニケーション能力を高める英語の授業を行うために必要な理論について理解を深めるとともに、具体的な指導事例の検討を通して効果的な指導法を学ぶ。さらに、個別に学習指導案を作成し、模擬授業を実施する機会を持つ。模擬授業の検討・評価を通して、実践的な指導力を身につけ、教育実習への準備とする。

授業の到達目標

1. コミュニケーション能力とその養成における問題点について理解する。
2. コミュニケーション能力を養成する効果的な指導法について理解する。
3. 模擬授業を通して、指導法や指導技術を活用できるようにする。

授　業　の　計　画

第1回：日本の英語教育とコミュニケーション能力の養成、模擬授業の準備（1）
第2回：コミュニケーション能力の養成と問題点、模擬授業の準備（2）①
第3回：コミュニケーション能力の養成と問題点、模擬授業の準備（2）②
第4回：コミュニカティブクラスの提案、模擬授業の準備（3）①
第5回：コミュニカティブクラスの提案、模擬授業の準備（3）②
第6回：コミュニカティブクラスとメッセージ重視のアプローチ、模擬授業の準備（4）①
第7回：コミュニカティブクラスとメッセージ重視のアプローチ、模擬授業の準備（4）②
第8回：コミュニカティブクラスと生徒の主体性、模擬授業の準備（5）
第9回：小学校・中学校・高等学校におけるコミュニカティブクラス、中間のまとめ
第10回：コミュニケーション能力を高める指導技術（1）　模擬授業、検討と評価（1）
第11回：コミュニケーション能力を高める指導技術（2）　模擬授業、検討と評価（2）
第12回：コミュニケーション能力を高める指導技術（3）　模擬授業、検討と評価（3）
第13回：コミュニケーション能力を高める指導技術（4）　模擬授業、検討と評価（4）
第14回：コミュニケーション能力を高める指導技術（5）　模擬授業、検討と評価（5）
第15回：模擬授業、検討と評価（6）、まとめ
第16回：定期試験

授業外の学習方法

テキストの予習・復習を行うとともに、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能を高めるよう自主的な学習を行う。

成　績　評　価　方　法

定期試験（50%）、課題・小テスト・模擬授業（35%）、平常点（15%）
（平常点は、授業への参加状況から判断します。）

成　績　評　価　基　準

1. コミュニケーション能力とその養成における問題点について理解できているか。
2. コミュニケーション能力を養成する効果的な指導法について理解できているか。
3. 模擬授業を通して、指導法や指導技術を活用できるようになったか。

テキスト、参考図書

（1）『コミュニカティブ・クラスのすすめ』　大下邦幸編著　東京書籍　2009年
（2）『英語教育用語事典』　白畑知彦他著　大修館書店　2012年

その他(受講上の注意)

主体的な学習を通して、教師に必要な指導力を身につけることを期待する。

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

道徳教育の理論と方法 (Theory and Methods of Moral Education)			担当教員	高野　秀晴
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Bee−2312	2単位	3年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部特設科目　教職に関する専門科目

求める学習成果(教育目標)

次世代の英語コミュニケーション能力育成に携わるすぐれた知識と技能を持つ人間性豊かな中学校・高等学校の英語教員を育成する。

授　業　の　内　容

学校で道徳教育をいかに行うかが大きな問題となっている。この古くて新しい問題について理解を深めたうえで、学習指導要領における道徳教育の内容について詳細に考察していく。これと並行して、グループごとに指導案を作成してもらい、完成したグループから順次模擬授業を実施してもらう。これらの作業を通じて、道徳教育の指導法について検討していく。

授業の到達目標

学習指導要領における道徳教育の内容を確実に説明することができる。
学習指導要領の内容を踏まえて、指導案を作成することができる。

授　業　の　計　画

以下は、現時点での計画であるが、模擬授業の実施状況に応じて、変更が生じる場合がある。

第1回：オリエンテーション
第2回：学習指導要領第1章「総則」を読む
第3回：学習指導要領第3章「特別の教科　道徳」を読む
第4回：教材研究（1）　『心のノート』を読む
第5回：教材研究（2）　読み物教材をどう取り上げるか
第6回：日本における道徳教育の歴史的変遷（1）　江戸時代～戦前
第7回：日本における道徳教育の歴史的変遷（2）　戦後
第8回：道徳教育の難しさ（1）　道徳は知識か行為か
第9回：道徳教育の難しさ（2）　宗教と道徳
第10回：指導法の検討（1）　インカルケーション
第11回：指導法の検討（2）　ディベート
第12回：指導法の検討（3）　モラルジレンマ
第13回：指導法の検討（4）　ロールプレイ
第14回：指導法の検討（5）　構成的グループエンカウンター
第15回：まとめ
第16回：定期試験

授業外の学習方法

指導案の作成は、授業外の時間にグループごとに行ってもらう。また、指導案の添削、修正等も授業外の時間にグループごとに行っていく。具体的な作業はその都度指示するが、授業外においてかなりの学習時間が必要となることを覚悟されたい。

成　績　評　価　方　法

定期試験（50%）
指導案の内容（25%）
平常点（25%）
（平常点は、授業への参加状況、授業時の課題の内容をもとに判断する。）

成　績　評　価　基　準

学習指導要領における道徳教育の内容を確実に説明することができるか。
学習指導要領の内容を踏まえて、指導案を作成することができるか。

テキスト、参考図書

必要に応じてプリントを配布する。

その他（受講上の注意）
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

教育の方法と技術 (Teaching Methods and Skills)			担当教員	宮川　祐一
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Bee−2213	2単位	2年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部特設科目　教職に関する専門科目

求める学習成果(教育目標)

次世代の英語コミュニケーション能力育成に携わるすぐれた知識と技能を持つ人間性豊かな中学校・高等学校の英語教員を育成する。

授　業　の　内　容

教育方法の改善のための基礎的な視点の習得と分析力の習得を目指す。
教育実践の現場においては、教育方法の改善に関する工夫が必要である。すなわち、メディアの教育利用、学習教材の開発など、教育工学の知識の活用が望まれる。この授業では、授業の設計・実施・評価等に関する知識、教材や教育メディアの選択・構成・活用等に関する力量を育成する内容としている。

授業の到達目標

教育メディアの効用について説明することができる。
教育史におけるメディアの関わりについて説明することができる。
授業において、教育メディアを活用するための教材準備(選択・構成)から展開、さらに事後分析までできる。

授　業　の　計　画

第1回:「教育の方法と技術」と「教育工学」
第2回:視聴覚メディアの発達と視聴覚教育の意義
第3回:教育史からみた教育方法とメディア利用
第4回:視聴覚メディアの教育への活用・方法、放送教育
第5回:教育メディアの選択と活用、メディアリテラシー、事例紹介
第6回:教育におけるコンピュータ活用、事例紹介
第7回:テストの方法と学習評価
第8回:成績処理の例
第9回:S-P表分析
第10回:模擬授業の実施・分析と相互評価(1)
第11回:模擬授業の実施・分析と相互評価(2)
第12回:模擬授業の実施・分析と相互評価(3)
第13回:授業評価と授業改善(学習目標とメディア活用の視点から)
第14回:教育メディアを活用した模擬授業の実施と改善、相互評価(1)
第15回:教育メディアを活用した模擬授業の実施と改善、相互評価(2)
第16回:定期試験

授業外の学習方法

参考図書については、5冊以上に目を通すこと。
模擬授業の事前準備には、5時間以上。事後の分析処理には、5時間以上を充てること。

成　績　評　価　方　法

定期試験(50%)　レポート課題(30%)　授業への取り組み態度等(20%)

成　績　評　価　基　準

教育メディアの効用について説明することができるか。
教育史におけるメディアの関わりについて説明することができるか。
教育メディアを活用した授業を展開できるか。

テキスト、参考図書

必要に応じて、資料を配付する。
※参考図書
（1）『教職必修 教育の方法と技術』 山下省蔵　実教出版　2003年
（2）『新しい時代の教育方法』 田中耕治・鶴田清司ほか　有斐閣　2012年
（3）『新しい教育の方法と技術』 篠原正典・宮寺晃夫　ミネルヴァ書房　2012年
（4）『教育の方法と技術 改訂版』 平沢 茂　図書文化社 2014年
（5）『教育の方法と技術 第2版』柴田義松・山崎準二　学文社 2014年
（6）『教育方法技術論』深澤広明 協同出版 2014年
（7）『教育の方法と技術』 平田啓一・町田隆哉編　教育出版　1997年
（8）『視聴覚教育の新しい展開』 野津良夫　東信堂　1995年
（9）『教育情報工学入門（教育情報工学シリーズ1）』佐藤隆博 コロナ社 1989年

その他（受講上の注意）

正当な理由のない連続欠席は、受講を放棄したものとみなす。
模擬授業は、受講者一人当たり30分間を割り当てて実施の予定。十分な事前準備が必要であり、事後の評価分析については指定課題の位置づけとし、多角的詳細なレポートの提出を期待する。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

生徒・進路指導論 (Educational Guidance and Consultation)			担当教員	杉田　和一
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Bee−2303	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部特設科目　教職に関する専門科目

求める学習成果(教育目標)

次世代の英語コミュニケーション能力育成に携わる、すぐれた知識と技能を持つ人間性豊かな中学校・高等学校の英語教員を育成する。

授　業　の　内　容

生徒ひとり一人の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めていく指導・援助の在り方を理解する。特に、規範意識・倫理観の低下やいじめ・不登校等時代の変化に応じた今日的な課題に対して、組織的・体系的な取り組み方や指導原理について理解を深める。また、キャリア教育を推進するため、人間関係能力や将来設計能力等の意義について理解を深める。

授業の到達目標

生徒の社会的な資質を高め、自己を生かす、統合的な活動を企画するための基礎理論と実践的な視点を理解する。
生徒の今日的な発達課題について理解し、多様な指導・援助のしかたを身につける。
主体的な進路の選択・決定(キャリア発達)を促す基本原理を理解する。

授　業　の　計　画

第1回：生徒指導の意義と課題
第2回：生徒指導の原理と方法
第3回：生徒指導と教育課程
第4回：生徒指導における児童生徒理解
第5回：学校における生徒指導体制
第6回：生徒指導と教育相談
第7回：生徒指導の進め方1～全体に対する指導
第8回：生徒指導の進め方2～個別の課題を抱える生徒への指導①(少年非行・暴力、家出等)
第9回：生徒指導の進め方3～個別の課題を抱える生徒への指導②(不登校、インターネット、いじめ等)
第10回：生徒指導の進め方4～個別の課題を抱える生徒への指導③(性、自殺、児童虐待等)
第11回：生徒指導と法教育～校則、体罰と懲戒等
第12回：生徒指導における連携活動～学校と家庭・地域・関係機関との連携
第13回：進路指導の意義と課題
第14回：キャリア教育の推進
第15回：進路指導の実際

授業外の学習方法

テキストの関係個所をあらかじめ熟読して授業に臨む。復習は、参考図書の関連ページを読み理解の幅を広げる。

成　績　評　価　方　法

課題レポート(70%)　　平常点(30%)　　平常点：①講義の中で課す「生徒指導上の今日的な課題」に対する各自のコメントによる評価(20%)　②授業への参加状況、受講態度による評価(10%)

成　績　評　価　基　準

生徒の社会的な資質を高め、自己を生かし、統合的な活動を促進するための基本的な条件等を説明することができるか。
生徒の発達段階に応じた今日的な課題を分析し、適切な指導・援助の方法を選択し、その根拠を説明することができるか。
主体的な進路の選択・決定(キャリア発達)を促す基本原理を説明することができるか。

テキスト、参考図書

テキスト：「生徒指導提要」　文部科学省参考図書：授業時に随時示す

その他(受講上の注意)

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

教育相談 (Educational Counseling)			担当教員	佐々木　雅代
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Bee−2401	2単位	4年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部特設科目　教職に関する専門科目

求める学習成果(教育目標)

次世代の英語コミュニケーション能力育成に携わるすぐれた知識と技能を持つ人間性豊かな中学校・高等学校の英語教員を育成する。

授　業　の　内　容

いじめ、不登校、非行への対応および発達障害を抱える児童生徒への支援について学ぶ。現場で活用されている技法について体験的に学ぶ。グループディスカッションを通して、視野を広げ、自分で考える経験を積む。

授業の到達目標

いじめ、不登校、非行への対応および発達障害について基礎知識を習得。支援プランをたてる。

授　業　の　計　画

第１回：教育相談が生きる場
第２回：教育相談に生かす心理学的理解:見立て
第３回：教育相談に生かす心理学的理解:介入
第４回：不登校の理解と対応１
第５回：不登校の理解と対応２
第６回：いじめ・非行の理解と対応１
第７回：特別支援教育（発達障害の理解と対応）１
第８回：予防開発的アプローチＳＳＴ１
第９回：予防開発的アプローチＳＳＴ２
第10回：予防開発的アプローチ：アサーティブトレーニング１
第11回：予防開発的アプローチ：アサーティブトレーニング２
第12回：事件・事故・災害対応
第13回：学齢期の精神科疾患について
第14回：リラクゼーション
第15回：ふりかえり

授業外の学習方法

各回の講義やワーク体験で気が付いたことを、各自ノートに自分の言葉で書き残してください。配布した資料や予習復習はその都度指示します。

成　績　評　価　方　法

小レポート（50％）　平常点（50％）
平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断します。

成　績　評　価　基　準

いじめ、不登校、発達障害について基礎知識を習得している。支援プランを提案できる。

テキスト、参考図書

テキストは指定しません。各回にレジュメを用意します。
参考図書「教師のための初等教育相談」西本絹子著　萌文書林

その他(受講上の注意)

予習復習については、授業時に指示します。授業で行う体験学習に積極的に取り組んでください。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

事前・事後指導 (Guidance for Teaching Practice)			担当教員	紺渡　弘幸、フッド　晴美
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Bee−2304	1単位	3年～4年	実習	選択

<科目区分>　人間学部特設科目　教職に関する専門科目

求める学習成果(教育目標)

次世代の英語コミュニケーション能力育成に携わるすぐれた知識と技能を持つ人間性豊かな中学校・高等学校の英語教員を育成する。

授　業　の　内　容

教育実習Ⅰ・教育実習Ⅱのための事前指導及び事後指導を行う。中学校・高等学校の生徒を指導する教師としての心構えを持つとともに、教育実習の目的・内容・方法及び留意事項を理解し、充実した実習が行えるよう準備する。実習終了後は評価・反省をし、課題を明確にする。

授業の到達目標

1. 教育実習の意義・目的を理解する。
2. 中学校・高等学校の教育現場の状況や教育環境を理解する。
3. 教育実習に臨むしっかりとした心構えを持つ。
4. 授業実習に必要な知識・指導法や技術を確認する。
5. 教育実習を振り返り、評価・反省して、自身の課題を明確にする。

授　業　の　計　画

3年次
第1回：教職課程ガイダンス：全体指導、教育実習の予定、受講資格等の説明
第2回：教育実習特別講義：教育現場の状況や現場を取り巻く環境・生徒理解・教育実習の心構え等に関する講義
第3回：学校見学（高等学校）：教育実習における注意事項、朝読書・朝礼参観
第4回：学校見学（高等学校）：授業参観、高等学校施設見学
第5回：教育実習Ⅱ反省会：上級生が教育実習について発表、質疑応答・意見交換、実習に向けてのアドバイス
第6回：教育実習Ⅰの準備：「教育実習の手引き」、「教育実習ノート」に基づく実習直前の具体的な指導
第7回：教育実習Ⅰのための直前指導（高等学校）：高等学校の教育現場の状況や現場を取り巻く環境、生徒理解・指導の心構え等に関する講義
第8回：教育実習Ⅰのための直前指導（高等学校）：教科指導（授業実習）に関する講義
第9回：教育実習Ⅰのための事前指導：実習直前の模擬授業に基づく指導
第10回：研究授業についての指導：指導教員による研究授業についての指導助言
第11回：教育実習Ⅰ反省会：実習生による実習報告・反省、意見交換、実習レポートの作成、自己点検

4年次
第12回：教育実習Ⅱのための事前指導：教育実習Ⅱ、事前事後指導の予定確認・指導等
第13回：教育実習Ⅱのための事前指導：教育実習カードの作成、教育実習Ⅱへの心構え、教材研究等についての指導、特別講義に関する準備
第14回：教育実習特別講義：教育現場の状況や現場を取り巻く環境・生徒理解・教育実習の心構え等に関する講義
第15回：教育実習Ⅱのための事前指導：実習直前の模擬授業に基づく指導
第16回：教育実習Ⅱ反省会：実習生による実習についての発表、意見交換。実習レポートの作成、自己点検、教育実習履修のまとめ

授業外の学習方法

『実習のてびき』をよく読んで、実習について理解を深めておくとともに、課題に取り組み、教育実習に備える。実習後は、評価・反省をしっかりして実習レポートをまとめ自分自身の課題を明確にする。

成　績　評　価　方　法

課題・模擬授業（50%）、平常点（50%）
（平常点は、授業への参加状況と受講態度から判断します。）

成　績　評　価　基　準
1. 教育実習の意義・目的を説明できるか。 2. 中学校・高等学校の教育現場の状況や教育環境を理解について理解できているか。 3. しっかりとした心構えを持って、教育実習に臨むことができたか。 4. 授業実習に必要な知識・指導法や技術を身につけていたか。 5. 教育実習を振り返り、評価・反省して、自身の課題を明確にできたか。
テキスト、参考図書
仁愛大学教職課程委員会編「仁愛大学教育実習の手引」、「仁愛大学教育実習ノート（平成28度版）」
その他（受講上の注意）
充実した教育実習ができるように日頃から、教師としての知識や技能を自主的に身につけるよう努力することを期待する。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

教育実習Ⅰ (Teaching Practice Ⅰ)			担当教員	紺渡　弘幸
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Bee−2305	2単位	3年(9月)	実習	選択

<科目区分>　人間学部特設科目　教職に関する専門科目

求める学習成果(教育目標)

次世代の英語コミュニケーション能力育成に携わるすぐれた知識と技能を持つ人間性豊かな中学校・高等学校の英語教員を育成する。

授　業　の　内　容

高等学校における2週間の教育実習(観察実習・参加実習・授業実習)

授業の到達目標

1. 確かな心構えを持って実習に臨む。
2. 授業の教材研究がしっかりできる。
3. 指導態度が真剣で、意欲的である。
4. 生徒をよく理解しようと努める。
5. 教科外指導にも熱心に取り組む。
6. 実習ノートを欠かさず提出する。
10. 実習レポートはよくまとめられている。
11. 実習ノートは内容のある記録ができる。

授　業　の　計　画

教育実習校(高等学校)における実習
1. オリエンテーション(実習校の概要や特色、指導方針等の確認、指導教員との打ち合せ等)
2. 教育実習(観察・参加・授業実習の諸活動。教材研究・学習指導案の作成、授業・生徒指導等の実習体験等)
3. 研究授業(実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践)
4. 研究授業の反省会(研究授業後、実習校の教員等から指導を受けるなど)

授業外の学習方法

教育実習先の高等学校について、あらかじめ資料等を読んで理解を深めておく。
日頃から教育実習に必要な知識・技能をしっかり身につけておく。

成　績　評　価　方　法

平常点100%(教育実習校からの評価、レポート、実習ノートなどを総合して評価する。)

成　績　評　価　基　準

1. 指導に必要な基礎学力・知識が十分にあるか。
2. よく教材研究・工夫がなされていたか。
3. 指導態度は真剣で、意欲が感じられたか。
4. 生徒をよく理解しようと努めていたか。
5. 指導能力はあるか、指導態度は良かったか。
6. 教科外指導にも熱心に取り組んだか。
7. 勤務態度はまじめで、実習への熱意が感じられたか。
8. 事務・実務能力はあるか。
9. 実習ノートの提出はきちんとしていたか。
10. 実習レポートはよくまとめられていたか。
11. 実習ノートは内容のある記録ができていたか。

テキスト、参考図書

仁愛大学教職課程委員会編「仁愛大学教育実習の手引」、「仁愛大学教育実習ノート(平成28年度版)」、指定教科書

その他(受講上の注意)

実習校での注意事項を遵守し、充実した実習になるよう努力することを期待する。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

教育実習Ⅱ （Teaching Practice Ⅱ）			担当教員	紺渡　弘幸
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Bee−2402	2単位	4年（6月）	実習	選択

<科目区分>　人間学部特設科目　教職に関する専門科目

求める学習成果（教育目標）

次世代の英語コミュニケーション能力育成に携わるすぐれた知識と技能を持つ人間性豊かな中学校・高等学校の英語教員を育成する。

授　業　の　内　容

中学校における2週間の教育実習（観察実習・参加実習・授業実習）

授業の到達目標

1. 確かな心構えを持って実習に臨む。
2. 授業の教材研究がしっかりできる。
3. 指導態度が真剣で、意欲的である。
4. 生徒をよく理解しようと努める。
5. 教科外指導にも熱心に取り組む。
6. 実習ノートを欠かさず提出する。
10. 実習レポートはよくまとめられている。
11. 実習ノートは内容のある記録ができる。

授　業　の　計　画

教育実習校（中学校）における実習
1. オリエンテーション（実習校の概要や特色、指導方針等の確認、指導教員との打ち合せ等）
2. 教育実習（観察・参加・授業実習の諸活動。教材研究・学習指導案の作成、授業・生徒指導等の実習体験等）
3. 研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践）
4. 研究授業の反省会（研究授業後、実習校の教員等から指導を受けるなど）

授業外の学習方法

教育実習先の中学校について、あらかじめ資料等を読んで理解を深めておく。
日頃から教育実習に必要な知識・技能をしっかり身につけておく。

成　績　評　価　方　法

平常点100%（教育実習校からの評価、レポート、実習ノートなどを総合して評価する。）

成　績　評　価　基　準

1. 指導に必要な基礎学力・知識が十分にあるか。
2. よく教材研究・工夫がなされていたか。
3. 指導態度は真剣で、意欲が感じられたか。
4. 生徒をよく理解しようと努めていたか。
5. 指導能力はあるか、指導態度は良かったか。
6. 教科外指導にも熱心に取り組んだか。
7. 勤務態度はまじめで、実習への熱意が感じられたか。
8. 事務・実務能力はあるか。
9. 実習ノートの提出はきちんとしていたか。
10. 実習レポートはよくまとめられていたか。
11. 実習ノートは内容のある記録ができていたか。

テキスト、参考図書

仁愛大学教職課程委員会編「仁愛大学教育実習の手引」、「仁愛大学教育実習ノート（平成28年度版）」、指定教科書

その他（受講上の注意）

実習校での注意事項を遵守し、充実した実習になるよう努力することを期待する。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

教職実践演習 (Teaching Profession Practical Exercises)			担当教員	紺渡　弘幸、フッド　晴美、奥谷　崇
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Bee−2411	2単位	4年後期	演習	選択

<科目区分>　人間学部特設科目　教職に関する専門科目

求める学習成果(教育目標)

次世代の英語コミュニケーション能力育成に携わるすぐれた知識と技能を持つ人間性豊かな中学校・高等学校の英語教員を育成する。

授　業　の　内　容

基礎的指導技術修得の確認・強化及び実践的指導力の育成

授業の到達目標

1. 教職の意義・教員の職務と役割について理解する。
2. 生徒理解や学級経営について理解する。
3. 教科指導・生徒指導について理解する。
4. 英語指導の基本的指導技術を身につける。
5. 英語指導に有用なマクロストラテジーを理解し、使用できる。
6. ティーム・ティーチングの意義・目的を理解する。
7. ティーム・ティーチングの方法を理解し、実施することができる。

授　業　の　計　画

奥谷崇担当分(5回)
第1回：教職の意義、教職員の職務と役割、生徒に対する使命と責任の重さについて事例研究・ロールプレーイング・グループ討論
第2回：生徒理解と学級経営について事例研究・グループ討論
第3回：教科や生徒指導の方法についての事例研究・グループ討論
第4回：学校現場の調査研究とグループ討論
第5回：社会性や対人関係能力についての確認とまとめ
紺渡弘幸担当分(5回)
第6回：基本的指導技術―Warm-up とReviewとマクロストラテジー(1)
第7回：基本的指導技術―文法・文型の導入とマクロストラテジー(2)
第8回：基本的指導技術―文法・文型を用いた活動とマクロストラテジー(3)
第9回：基本的指導技術―語彙の導入と指導とマクロストラテジー(4)
第10回：基本的指導技術―教科書本文の読解指導とマクロストラテジー(5)
山田晴美担当分(5回)
第11回：ティーム・ティーチング―意義と目的-
第12回：ティーム・ティーチング―現状と課題-
第13回：ティーム・ティーチング―目標設定・指導計画・ALTとの話し合いの持ち方-
第14回：ティーム・ティーチング―授業実践①
第15回：ティーム・ティーチング―授業実践②・評価の仕方-

授業外の学習方法

与えられた課題について必ず準備をして授業に臨むこと。また、授業後、必ず復習し理解を深めるとともに実践できるようにすること。

成　績　評　価　方　法

課題(30%)、平常点(70%)
(平常点は授業への参加状況、グループ討論、模擬授業などの取り組みを総合的に判断します。)

成　績　評　価　基　準

1. 教職の意義・教員の職務と役割について理解できているか。
2. 生徒理解や学級経営について理解できているか。
3. 教科指導・生徒指導について理解できているか。
4. 基本的指導技術を授業に活用できるか。
5. 英語指導に有用なマクロストラテジーを理解し、授業で使用できるか。
6. ティーム・ティーチングの意義・目的を理解できているか。
7. ティーム・ティーチングの方法を理解し、実施することができるか。

テキスト、参考図書
なし。
その他（受講上の注意）
自ら積極的に教員になる上で必要な知識・技能を再確認し、実際に活用できるようにするとともに、教師としての資質を向上させることができるよう努力を期待する。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

日本語教授法a (Japanese Language Teaching Skills a)			担当教員	大河　晴美
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-Dii-2301	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部特設科目　日本語教員養成に関する科目

求める学習成果(教育目標)

日本語を母語としない人たちに日本語を教えられる能力を育成する。

授　業　の　内　容

日本語を母語としない学習者に対する日本語教育の方法について広く学習し、基本的な知識・技法を身につける。また、日本語教育の授業を扱ったビデオを視聴し、実際の教室活動について理解を深める。日本語教授法aでは、いろいろな教授法の特徴、日本語の音声、初級の発音/会話の教え方を中心に学ぶ。

授業の到達目標

・日本語教師の役割を理解する。
・日本語教育を行う際に必要な知識・技法の基本を理解し、実際の教室活動を想定できる。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション
第2回：日本語教師の役割
第3回：日本語を教えるということ（1）
第4回：日本語を教えるということ（2）
第5回：いろいろな外国語教授法（1）
第6回：いろいろな外国語教授法（2）
第7回：いろいろな外国語教授法（3）
第8回：いろいろな外国語教授法（4）
第9回：言語としての日本語
第10回：日本語の音声（1）
第11回：日本語の音声（2）
第12回：初級の教え方　発音／会話（1）
第13回：初級の教え方　発音／会話（2）
第14回：初級の教え方　発音／会話（3）
第15回：まとめ

授業外の学習方法

予習：テキストの該当部分を読み、あらかじめ疑問点等を考えておくこと。
復習：授業で理解したことを確認し、課題を行うこと。

成　績　評　価　方　法

期末レポート（50%）、課題（30%）、平常点（20%）
（平常点は授業への参加状況、受講態度等を総合して判断する。）

成　績　評　価　基　準

課題：対象となる回のテーマ・内容を理解できているか。
期末レポート：日本語教師の役割と必要な知識・技法を理解したうえで、教室活動を想定できているか。

テキスト、参考図書

高見澤孟監修『新・はじめての日本語教育　1　日本語教育の基礎知識』・アスク・2004年
高見澤孟著『新・はじめての日本語教育2　日本語教授法入門』・アスク・2004年

その他(受講上の注意)

自らの日本語力についても常に見直しをはかること。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

日本語教授法ｂ (Japanese Language Teaching Skills b)			担当教員	大河　晴美
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Dii−2311	２単位	３年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部特設科目　日本語教員養成に関する科目

求める学習成果（教育目標）

日本語を母語としない人たちに日本語を教えられる能力を育成する。

授　業　の　内　容

日本語を母語としない学習者に対する日本語教育の方法について広く学習し、基本的な知識・技法を身につける。また、日本語教育の授業を扱ったビデオを視聴し、実際の教室活動について理解を深める。日本語教授法bでは、日本語の文法、初級の文字/表記の教え方、中上級への発展を中心に学ぶ。

授 業 の 到 達 目 標

・日本語教師の役割を理解する。
・日本語教育を行う際に必要な知識・技法の基本を理解し、実際の教室活動を想定できる。

授　業　の　計　画

第１回：オリエンテーション
第２回：日本語の文法（１）
第３回：日本語の文法（２）
第４回：日本語の文法（３）
第５回：文字・表記（１）
第６回：文字・表記（２）
第７回：文字・表記（３）
第８回：語彙
第９回：初級の教え方　文字／読解（１）
第10回：初級の教え方　文字／読解（２）
第11回：初級の教え方　文字／読解（３）
第12回：中上級の教え方　会話／聴解（１）
第13回：中上級の教え方　会話／聴解（２）
第14回：中上級の教え方　読解／情報収集）
第15回：まとめ

授 業 外 の 学 習 方 法

予習：テキストの該当部分を読み、あらかじめ疑問点等を考えておくこと。
復習：授業で理解したことを確認し、課題を行うこと。

成　績　評　価　方　法

期末レポート（50％）、課題（30％）、平常点（20％）
（平常点は授業への参加状況、受講態度等を総合して判断する。）

成　績　評　価　基　準

課題：対象となる回のテーマ・内容を理解できているか。
期末レポート：日本語教師の役割と必要な知識・技法を理解したうえで、教室活動を想定できているか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

高見澤孟監修『新・はじめての日本語教育　１　日本語教育の基礎知識』・アスク・2004年
高見澤孟著『新・はじめての日本語教育２　日本語教授法入門』・アスク・2004年

その他（受講上の注意）

自らの日本語力についても常に見直しをはかること。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

日本語教育課程論 (Theory of Japanese Language Education Curriculum)			担当教員	笹原　幸子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Dii−2312	2単位	3年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部特設科目　日本語教員養成に関する科目

求める学習成果(教育目標)

日本語を母語としない人たちに日本語を教えられる能力を育成する。

授　業　の　内　容

多様化する日本語学習者の現状を把握し、様々な学習者のニーズに応じてどのような日本語教育のコースを作り上げるかを学ぶ。ニーズ分析やレベルの把握、また、シラバスや教授法の選択、コミュニケーションを重視した教室活動の展開の仕方や評価の方法など、一つの日本語指導のためのコースをデザインするのに必要な事柄を具体的に学習する。

授業の到達目標

・多様化する日本語学習者の現状と問題点が理解できるようになる。
・学習者のニーズを把握し、日本語指導ためのコースデザインの流れが理解できるようになる。
・初級レベルの日本語指導の方法がわかるようになる。
・中級レベルの日本語指導の方法がわかるようになる。
・評価の種類と方法がわかるようになる。

授　業　の　計　画

第1回：日本語教育における学習者の多様性／コース・デザイン概要
第2回：ニーズ分析と目標言語調査
第3回：レディネス分析
第4回：シラバスデザイン―1
第5回：シラバスデザイン―2
第6回：カリキュラムデザイン、教材の選択
第7回：外国語教授法―1
第8回：外国語教授法―2
第9回：初級の教室活動―1導入とドリルの方法
第10回：初級の教室活動―2コミュニケーションを重視した活動
第11回：中級の教室活動―1
第12回：中級の教室活動―2
第13回：テストの作成と評価の方法―1
第14回：テストの作成と評価の方法―2、コンサルティング
第15回：まとめ
第16回：定期試験

授業外の学習方法

予習としては、テキストの該当課をよく読んで授業に臨むこと。授業では外国語教授法や日本語教育の文法の知識がある程度必要になるので、参考文献を読んでおくこと。復習としては、配布プリントを読んで、知識を確かなものにし、さらに教室活動などのイメージを掴んでおくことが求められる。

成　績　評　価　方　法

定期試験(50%)、小テスト(20%)、課題(20%)、平常点(10%)の割合で評価する。
(平常点は授業への参加状況と受講態度を総合して判断する)

成　績　評　価　基　準

・日本語学習者の現状と問題点を理解することができたか。
・学習者のニーズを把握し、日本語指導ためのコースデザインの流れが理解できるようになったか。
・初級レベルの日本語指導の方法がわかるようになったか。
・中級レベルの日本語指導の方法がわかるようになったか。
・評価の種類と方法がわかるようになったか。

テキスト、参考図書
田中　望『日本語教育の方法―コース・デザインの実際―』　大修館書店　1988年 石田敏子『日本語教授法』(大修館書店　1995) 野田尚史『はじめての人の日本語文法』(くろしお出版　1991)
その他(受講上の注意)
講義内容などに関する質問は授業中およびe-mailで受け付ける。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

日本語指導技法 a (Japanese Language Teaching Skill a)			担当教員	笹原　幸子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Dii−2401	2 単位	4 年前期	演習	選択

<科目区分>　人間学部特設科目　日本語教員養成に関する科目

求める学習成果（教育目標）

日本語を母語としない人たちに日本語を教えられる能力を育成する。

授　業　の　内　容

日本語初級教科書を使って、初級レベルの日本語学習者に対する日本語指導の方法を学ぶ。ここでは特に話す技能の養成の方法を模擬授業を通して学ぶ。

授業の到達目標

・初級レベルの日本語教材についての知識を身につける。
・初級レベルの指導に必要な日本語の言語的知識を身につける。
・初級レベルの指導の流れを理解し、授業計画が立てられるようになる。
・初級前半レベルの日本語指導ができるようになる。

授　業　の　計　画

第１回：「みんなの日本語」の構成とシラバス、初級レベルと教材
第２回：「みんなの日本語」と初級の文型― 1
第３回：「みんなの日本語」と初級の文型― 2
第４回：「みんなの日本語」を使った初級の授業の流れと教案作成の手順
第５回：モデル授業／模擬授業及び「みんなの日本語」の指導と教材・教具（導入の方法）
第６回：モデル授業／模擬授業及び「みんなの日本語」の指導と教材・教具（導入の方法）
第７回：「みんなの日本語」と初級の文型― 3
第８回：モデル授業／模擬授業及び「みんなの日本語」の指導と教材・教具（ドリルの方法）
第９回：モデル授業／模擬授業及び「みんなの日本語」の指導と教材・教具（ドリルの方法）
第10回：「みんなの日本語」と初級の文型― 4
第11回：モデル授業／模擬授業及び「みんなの日本語」の指導と教材・教具（会話の指導）
第12回：モデル授業／模擬授業及び「みんなの日本語」の指導と教材・教具（会話の指導）
第13回：「みんなの日本語」と初級の文型― 5
第14回：モデル授業／模擬授業及び「みんなの日本語」の指導と教材・教具（聴解の指導）
第15回：まとめ
第16回：定期試験

授業外の学習方法

・予習としては日本語テキストの該当課の学習項目を把握しておくこと。
・模擬授業担当の際は、予め授業計画を立て、教材の準備をしておく。
・指導法の参考書を読んで、該当学習項目の指導の方法について予め知識を入れておく。

成　績　評　価　方　法

定期試験（60％）、模擬授業（30％）、平常点（10％）の割合で評価する。
（平常点は授業への参加状況と受講態度を総合して判断する）

成　績　評　価　基　準

・初級レベルの指導に必要な日本語の言語的知識が身についたか。
・初級の指導の流れを理解し、授業計画が立てられるようになったか。
・初級の前半レベルの日本語指導ができるようになったか。

テキスト、参考図書

『みんなの日本語初級Ⅰ第２版』スリーエーネットワーク　2014年
寺田和子、三上京子、山形美保子、和栗雅子　共著『日本語の教え方ABC』（アルク2005）
『みんなの日本語初級Ⅰ　教え方の手引き』（スリーエーネットワーク2000）
『みんなの日本語初級Ⅰ　翻訳文法解説　英語版』（スリーエーネットワーク1998）
庵功雄、高梨信乃、中西久実子、山田敏弘『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』（スリーエーネットワーク2000）

その他（受講上の注意）
講義内容などに関する質問は授業中およびe-mailで受け付ける。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

日本語指導技法b (Japanese Language Teaching Skill b)			担当教員	笹原　幸子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Dii−2411	2単位	4年後期	演習	選択

<科目区分>　人間学部特設科目　日本語教員養成に関する科目

求める学習成果(教育目標)

日本語を母語としない人たちに日本語を教えられる能力を育成する。

授　業　の　内　容

日本語初級後半から中級レベルの日本語指導の技法を学ぶ。

授業の到達目標

・初級後半レベルの学習者に対して日本語指導ができるようになる。
・中級レベルの学習者に対する日本語指導の方法を知る。
・日本語指導に必要な音声、文字・表記に関する知識を得て、日本語指導に役立てられるようにする。

授　業　の　計　画

第1回：初級後半の指導法1
第2回：初級後半の指導法2
第3回：初級後半の指導法3
第4回：初級後半の指導法4
第5回：中級の指導法1
第6回：中級の指導法2
第7回：中級の指導法3
第8回：日本語の音声1（音声のレベルと音韻）
第9回：日本語の音声2（単音レベル：母音と子音）
第10回：日本語の音声3（音律レベル：リズム、アクセント、イントネーション、プロミネンス）
第11回：音声教育の実際
第12回：日本語の文字・表記1（文字と文字体系、文字体系の種類）
第13回：日本語の文字・表記2（日本語の文字種と音節：平仮名と片仮名）
第14回：日本語の文字・表記3（漢字の造字法と用字法）、日本語の正書法
第15回：まとめ
第16回：定期試験

授業外の学習方法

予習としては授業で扱う項目について予め教科書や参考書を読んで概要を掴んでおくこと。また、講義を受けた後は配布プリントを見直して復習をしておくことが求められる。

成　績　評　価　方　法

定期試験（70%）、小テストの結果（10%）、平常点（20%）の割合で評価する。
（平常点は授業への参加状況と受講態度を総合して判断する）

成　績　評　価　基　準

・初級後半レベルの日本語指導ができるようになったか。
・中級レベルの学習者に対して日本語指導ができるようになったか。
・日本語指導に必要な音声、文字・表記に関する知識を得て、日本語指導に役立てられるようになったか。

テキスト、参考図書

『みんなの日本語初級Ⅱ第2版』　スリーエーネットワーク　1998年
監修 佐治圭三・真田信治『改訂版日本語教師養成シリーズ第3巻　音声、文字、表記』　凡人社 2004年
『みんなの日本語中級Ⅰ』　スリーエーネットワーク　2008年

その他(受講上の注意)

講義内容などに関する質問は授業中およびe-mailで受け付ける。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。